2022年度
スポーツ健康学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

総合教育科目_外国語科目【M0070】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］春学期授業/Spring 1
総合教育科目_外国語科目【M0080】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］秋学期授業/Fall . . 2
総合教育科目_外国語科目【M0010】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［衣川　清子］年間授業/Yearly 2
総合教育科目_外国語科目【M0071】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］春学期授業/Spring 3
総合教育科目_外国語科目【M0081】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］秋学期授業/Fall 4
総合教育科目_外国語科目【M0011】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［村井　三千男］年間授業/Yearly . . . 5
総合教育科目_外国語科目【M0072】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］春学期授業/Spring 7
総合教育科目_外国語科目【M0082】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］秋学期授業/Fall . . 8
総合教育科目_外国語科目【M0012】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［鈴木　美穂］年間授業/Yearly 9
総合教育科目_外国語科目【M0073】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［岸山　健］春学期授業/Spring . . 10
総合教育科目_外国語科目【M0083】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［岸山　健］秋学期授業/Fall 11
総合教育科目_外国語科目【M0013】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［岸山　健］年間授業/Yearly 12
総合教育科目_外国語科目【M0074】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］春学期授業/Spring 13
総合教育科目_外国語科目【M0084】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］秋学期授業/Fall . . 14
総合教育科目_外国語科目【M0014】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［大塚　孝一］年間授業/Yearly 15
総合教育科目_外国語科目【M0075】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］春学期授業/Spring 16
総合教育科目_外国語科目【M0085】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］秋学期授業/Fall 17
総合教育科目_外国語科目【M0015】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］年間授業/Yearly 19
総合教育科目_外国語科目【M0076】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］春学期授業/Spring 21
総合教育科目_外国語科目【M0086】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］秋学期授業/Fall . . 22
総合教育科目_外国語科目【M0016】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［松下　晴彦］年間授業/Yearly 23
総合教育科目_外国語科目【M0090】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］春学期授業/Spring . . 24
総合教育科目_外国語科目【M0100】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］秋学期授業/Fall 25
総合教育科目_外国語科目【M0020】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［石井　創］年間授業/Yearly 27
総合教育科目_外国語科目【M0091】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］春学期授業/Spring 28
総合教育科目_外国語科目【M0101】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］秋学期授業/Fall . . 29
総合教育科目_外国語科目【M0021】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［相馬　美明］年間授業/Yearly . . . 30
総合教育科目_外国語科目【M0092】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］春学期授業/Spring 31
総合教育科目_外国語科目【M0102】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］秋学期授業/Fall . . 32
総合教育科目_外国語科目【M0022】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［蒔田　裕美］年間授業/Yearly . . . 33
総合教育科目_外国語科目【M0093】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］春学期授業/Spring 34
総合教育科目_外国語科目【M0103】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］秋学期授業/Fall . . 35
総合教育科目_外国語科目【M0023】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［浦川　智子］年間授業/Yearly . . . 36
総合教育科目_外国語科目【M0094】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］春学期授業/Spring 37
総合教育科目_外国語科目【M0104】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］秋学期授業/Fall 38
総合教育科目_外国語科目【M0024】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［川田　アマンディーン］年間授業/Yearly 39
総合教育科目_外国語科目【M0095】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］春学期授業/Spring 40
総合教育科目_外国語科目【M0105】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］秋学期授業/Fall 41
総合教育科目_外国語科目【M0025】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［式町　眞紀子］年間授業/Yearly . . 42
総合教育科目_外国語科目【M0096】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA　Jana］春学期授業/Spring 43
総合教育科目_外国語科目【M0106】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA　Jana］秋学期授業/Fall 44
総合教育科目_外国語科目【M0026】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［URBANOVA　Jana］年間授業/Yearly 45
総合教育科目_外国語科目【M0110】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［岸山　健］春学期授業/Spring . . 47
総合教育科目_外国語科目【M0120】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［岸山　健］秋学期授業/Fall 48

総合教育科目_外国語科目【M0030】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［岸山　健］年間授業/Yearly 49
総合教育科目_外国語科目【M0111】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］春学期授業/Spring 50
総合教育科目_外国語科目【M0121】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］秋学期授業/Fall .. 51
総合教育科目_外国語科目【M0031】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［鈴木　美穂］年間授業/Yearly ... 52
総合教育科目_外国語科目【M0112】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］春学期授業/Spring 53
総合教育科目_外国語科目【M0122】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］秋学期授業/Fall .. 54
総合教育科目_外国語科目【M0032】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［松下　晴彦］年間授業/Yearly ... 55
総合教育科目_外国語科目【M0113】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］春学期授業/Spring 56
総合教育科目_外国語科目【M0123】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］秋学期授業/Fall .. 57
総合教育科目_外国語科目【M0033】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［大塚　孝一］年間授業/Yearly ... 58
総合教育科目_外国語科目【M0114】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］春学期授業/Spring 59
総合教育科目_外国語科目【M0124】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］秋学期授業/Fall 60
総合教育科目_外国語科目【M0034】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［ABUDUREHEMAN ADILAN］年間授業/Yearly 61
総合教育科目_外国語科目【M0115】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］春学期授業/Spring 62
総合教育科目_外国語科目【M0125】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］秋学期授業/Fall 63
総合教育科目_外国語科目【M0035】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［村井　三千男］年間授業/Yearly.. 64
総合教育科目_外国語科目【M0116】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］春学期授業/Spring 65
総合教育科目_外国語科目【M0126】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］秋学期授業/Fall .. 66
総合教育科目_外国語科目【M0036】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［衣川　清子］年間授業/Yearly ... 67
総合教育科目_外国語科目【M0130】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］春学期授業/Spring 68
総合教育科目_外国語科目【M0140】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］秋学期授業/Fall .. 69
総合教育科目_外国語科目【M0040】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［浦川　智子］年間授業/Yearly ... 70
総合教育科目_外国語科目【M0131】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］春学期授業/Spring 71
総合教育科目_外国語科目【M0141】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］秋学期授業/Fall .. 72
総合教育科目_外国語科目【M0041】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［蒔田　裕美］年間授業/Yearly ... 73
総合教育科目_外国語科目【M0132】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］春学期授業/Spring.. 74
総合教育科目_外国語科目【M0142】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］秋学期授業/Fall 76
総合教育科目_外国語科目【M0042】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［石井　創］年間授業/Yearly 77
総合教育科目_外国語科目【M0133】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］春学期授業/Spring 79
総合教育科目_外国語科目【M0143】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］秋学期授業/Fall 80
総合教育科目_外国語科目【M0043】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［式町　眞紀子］年間授業/Yearly.. 81
総合教育科目_外国語科目【M0134】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA　Jana］春学期授業/Spring 82
総合教育科目_外国語科目【M0144】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA　Jana］秋学期授業/Fall 83
総合教育科目_外国語科目【M0044】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［URBANOVA　Jana］年間授業/Yearly 84
総合教育科目_外国語科目【M0135】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］春学期授業/Spring 86
総合教育科目_外国語科目【M0145】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］秋学期授業/Fall 87
総合教育科目_外国語科目【M0045】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［川田　アマンディーン］年間授業/Yearly 88
総合教育科目_外国語科目【M0136】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］春学期授業/Spring 89
総合教育科目_外国語科目【M0146】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］秋学期授業/Fall .. 90
総合教育科目_外国語科目【M0046】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［相馬　美明］年間授業/Yearly ... 91
総合教育科目_外国語科目【M0150】英語コミュニケーションⅠ（a）［URBANOVA　Jana］春学期授業/Spring.. 92
総合教育科目_外国語科目【M0160】英語コミュニケーションⅠ（b）［URBANOVA　Jana］秋学期授業/Fall 93
総合教育科目_外国語科目【M0050】英語コミュニケーションⅠ［URBANOVA　Jana］年間授業/Yearly 94
総合教育科目_外国語科目【M0170】英語コミュニケーションⅡ（a）［NEMES ROLAND JANOS］春学期授業/Spring 95
総合教育科目_外国語科目【M0180】英語コミュニケーションⅡ（b）［NEMES ROLAND JANOS］秋学期授業/Fall 96
総合教育科目_外国語科目【M0060】英語コミュニケーションⅡ［NEMES ROLAND JANOS］年間授業/Yearly .. 97
総合教育科目_外国語科目【M0190】日本語 1-Ⅰ 春学期授業/Spring 98
総合教育科目_外国語科目【M0200】日本語 1-Ⅱ 秋学期授業/Fall 99

総合教育科目_外国語科目【M0191】日本語 1-Ⅰ 春学期授業/Spring 100
総合教育科目_外国語科目【M0201】日本語 1-Ⅱ 秋学期授業/Fall 101
総合教育科目_外国語科目【M0192】日本語 1-Ⅰ 春学期授業/Spring 102
総合教育科目_外国語科目【M0202】日本語 1-Ⅱ 秋学期授業/Fall 103
総合教育科目_外国語科目【M0193】日本語 1-Ⅰ 春学期授業/Spring 103
総合教育科目_外国語科目【M0203】日本語 1-Ⅱ 秋学期授業/Fall 104
総合教育科目_外国語科目【M0210】日本語 2-Ⅰ 春学期授業/Spring 105
総合教育科目_外国語科目【M0220】日本語 2-Ⅱ 秋学期授業/Fall 106
総合教育科目_外国語科目【M0211】日本語 2-Ⅰ 春学期授業/Spring 107
総合教育科目_外国語科目【M0221】日本語 2-Ⅱ 秋学期授業/Fall 108
総合教育科目_外国語科目【M0212】日本語 2-Ⅰ 春学期授業/Spring 109
総合教育科目_外国語科目【M0222】日本語 2-Ⅱ 秋学期授業/Fall 110
総合教育科目_外国語科目【M0213】日本語 2-Ⅰ 春学期授業/Spring 111
総合教育科目_外国語科目【M0223】日本語 2-Ⅱ 秋学期授業/Fall 112
総合教育科目_外国語科目【M0230】日本語 3-Ⅰ 春学期授業/Spring 113
総合教育科目_外国語科目【M0240】日本語 3-Ⅱ 秋学期授業/Fall 114
総合教育科目_外国語科目【M0231】日本語 3-Ⅰ 春学期授業/Spring 115
総合教育科目_外国語科目【M0241】日本語 3-Ⅱ 秋学期授業/Fall 116
総合教育科目_外国語科目【M0233】日本語 3-Ⅰ 春学期授業/Spring 117
総合教育科目_外国語科目【M0243】日本語 3-Ⅱ 秋学期授業/Fall 118
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0810】ドイツ語（a）［新田　誠吾］春学期授業/Spring 119
総合教育科目_外国語科目【M0232】日本語 3-Ⅰ 春学期授業/Spring 120
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0811】ドイツ語（b）［北岡　幸代］春学期授業/Spring 121
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0812】ドイツ語（c）［新田　誠吾］秋学期授業/Fall 122
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0813】ドイツ語（d）［北岡　幸代］秋学期授業/Fall 122
総合教育科目_外国語科目【M0242】日本語 3-Ⅱ 秋学期授業/Fall 123
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0330】スポーツ健康学入門［安藤　正志］春学期授業/Spring 125
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0331】スポーツ健康学入門［泉　重樹］春学期授業/Spring 126
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0332】スポーツ健康学入門［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 127
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0333】スポーツ健康学入門［井上　尊寛］春学期授業/Spring 128
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0334】スポーツ健康学入門［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 129
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0828】フランス語コミュニケーション中級 A ［小室　廉太］春学期授業/Spring 130
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0335】スポーツ健康学入門［高見　京太］春学期授業/Spring 131
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0829】フランス語コミュニケーション中級 B ［小室　廉太］秋学期授業/Fall 132
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0336】スポーツ健康学入門［山本　浩］春学期授業/Spring 133
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0830】ドイツ語コミュニケーション中級 A ［北岡　幸代］春学期授業/Spring 134
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0337】スポーツ健康学入門［吉田　政幸］春学期授業/Spring 135
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0831】ドイツ語コミュニケーション中級 B ［北岡　幸代］秋学期授業/Fall 136
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0320】スポーツとキャリア形成［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 137
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0832】ドイツ語セミナーA［布川　恭子］春学期授業/Spring 138
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0520】数学［坂本　寛］春学期授業/Spring 139
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0833】ドイツ語セミナーB［布川　恭子］秋学期授業/Fall 140
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0530】経営学［新海　貴弘］春学期授業/Spring 141
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0834】フランス語セミナーA［橋本　到］春学期授業/Spring 142
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0540】法学（日本国憲法）［森　浩寿］春学期授業/Spring 144
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0835】フランス語セミナーB［橋本　到］秋学期授業/Fall 145
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0550】コミュニケーション論［山本　浩］春学期授業/Spring 146
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0560】人間とスポーツ［成田　道彦］秋学期授業/Fall 148
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0570】女性とスポーツ［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall 149
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0600】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 150
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0610】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 152
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0601】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 154
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0611】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 156
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0602】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 158
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0612】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 160
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0630】スポーツレクリエーション論［谷本　都栄］秋学期授業/Fall 162

総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0680】統計学Ⅰ［笹井　浩行］春学期授業/Spring 163
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0690】統計学Ⅱ［笹井　浩行］秋学期授業/Fall 164
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0660】哲学［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 165
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0670】生命倫理［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 166
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0710】障害者福祉論［山岸　倫子］春学期授業/Spring 167
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0720】音楽文化論［関野　直樹］春学期授業/Spring 168
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0730】基礎科学［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 169
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0740】多摩地域形成論秋学期授業/Fall 170
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0750】キャリアデザイン論春学期授業/Spring 171
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0760】キャリアデザイン論春学期授業/Spring 172
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0770】スポーツ健康学海外演習［泉　重樹、伊藤　真紀］秋学期授業/Fall173
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0802】スポーツ健康学特講春学期授業/Spring 174
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0803】スポーツ健康学特講秋学期授業/Fall 175
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0790】アスリートキャリア論［成田　道彦］春学期授業/Spring 176
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1150】生理学［高見　京太］春学期授業/Spring 177
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1010】生理学 A［高見　京太］春学期授業/Spring 178
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1160】機能解剖学A［泉　重樹］春学期授業/Spring 180
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1020】機能解剖学［泉　重樹］春学期授業/Spring 181
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1040】スポーツ哲学［小田　佳子］春学期授業/Spring 182
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1630】スポーツ社会学［海老島　均］春学期授業/Spring 183
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1050】スポーツ運動学Ⅰ［工藤　裕仁］春学期授業/Spring 184
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1170】ヘルスデザイン論［安藤　正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall 185
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1130】健康科学［安藤　正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall 186
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1070】スポーツ心理学A［島本　好平］秋学期授業/Fall 187
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1140】スポーツ史［山本　浩］秋学期授業/Fall 188
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1080】運動生理学概論［高見　京太］春学期授業/Spring 190
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］春学期授業/Spring . 191
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1120】スポーツマネジメント論［井上　尊寛、伊藤　真紀、吉田　政幸、
山本　浩］秋学期授業/Fall 193
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 194
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】スポーツコーチング論 A　［平野　裕一］秋学期授業/Fall 195
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1461】スポーツ実習入門［島本　好平］春学期授業/Spring 197
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1465】スポーツ実習入門［島本　好平］春学期授業/Spring 198
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1460】スポーツ実習入門［苅部　俊二］春学期授業/Spring 199
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1464】スポーツ実習入門［苅部　俊二］春学期授業/Spring 200
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1462】スポーツ実習入門［成田　道彦］春学期授業/Spring 201
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1466】スポーツ実習入門［成田　道彦］春学期授業/Spring 202
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1463】スポーツ実習入門［NEMES ROLAND JANOS］春学期授業/Spring203
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1467】スポーツ実習入門［NEMES ROLAND JANOS］春学期授業/Spring204
専門教育科目_専門基幹科目【M1610】スポーツコーチング論Ⅰ　［平野　裕一］秋学期授業/Fall 205
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】スポーツトレーニング論Ⅰ［平野　裕一］春学期授業/Spring 206
専門教育科目_専門基幹科目【M1760】スポーツ法学Ⅰ［森　浩寿］秋学期授業/Fall 207
専門教育科目_専門基幹科目【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ　［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 208
専門教育科目_専門基幹科目【M1780】予防医学概論［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 209
専門教育科目_専門基幹科目【M1030】衛生学［鬼頭　英明］春学期授業/Spring 210
専門教育科目_専門基幹科目【M1100】スポーツ栄養学［長谷川　祐子］春学期授業/Spring 211
専門教育科目_専門基幹科目【M1110】スポーツバイオメカニクス［工藤　裕仁］春学期授業/Spring 212
専門教育科目_専門基幹科目【M1700】公衆衛生学［鬼頭　英明］秋学期授業/Fall 214
専門教育科目_専門基幹科目【M1770】体力測定・評価論［高見　京太、泉　重樹］春学期授業/Spring 215
専門教育科目_専門基幹科目【M1740】学校保健［北垣　邦彦］春学期授業/Spring 216
専門教育科目_専門基幹科目【M1800】機能解剖学Ｂ［加藤　基］秋学期授業/Fall 217
専門教育科目_専門基幹科目【M3070】スポーツ産業論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 218
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 219
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2010】運動療法総論［安藤　正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall220
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2020】リハビリテーション概論［昇　寛］春学期授業/Spring 221
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2230】健康と疾患［安藤　正志］春学期授業/Spring 222
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2040】アスレティックトレーナー概論［泉　重樹］秋学期授業/Fall223

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1680】スポーツコンディショニング論Ⅰ［春日井　有輝］春学期授業/Spring 224
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2050】スポーツコンディショニング論Ⅱ［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 225
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2350】テーピング・コンディショニング指導論Ⅰ　［春日井　有輝］春学期授業/Spring 226
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2360】テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ　［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 227
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2240】テーピング・コンディショニング指導論　［春日井　有輝］年間授業/Yearly 228
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2060】運動処方・負荷テスト［木下　訓光］春学期授業/Spring . . 229
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2370】スポーツ医学A［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 230
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2250】スポーツ医学（内科系）［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring . 231
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2080】生活習慣病と身体活動［木下　訓光］春学期授業/Spring . . 233
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2090】運動生理学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 235
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2380】アスレティックリハビリテーションⅠ［泉　重樹］春学期授業/Spring 236
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2390】アスレティックリハビリテーションⅡ［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 237
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2110】アスレティックリハビリテーション［泉　重樹］春学期授業/Spring 238
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2400】スポーツ医学B［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 239
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2260】スポーツ医学（外科系）［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 240
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］春学期授業/Spring241
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2130】ジョギング・ウォーキング実習［成田　道彦］春学期授業/Spring243
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2131】ジョギング・ウォーキング実習［成田　道彦］秋学期授業/Fall244
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2140】フィットネス・トレーニング実習［伊藤　良彦、高見　京太］春学期授業/Spring 245
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2141】フィットネス・トレーニング実習［伊藤　良彦、高見　京太］春学期授業/Spring 246
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2150】エアロビック運動実習［林田　はるみ］秋学期授業/Fall . . . 247
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2280】健康増進施設実習　［高見　京太］年間授業/Yearly 248
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2291】スポーツ現場実習 A［泉　重樹］年間授業/Yearly 250
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2292】スポーツ現場実習 B　［春日井　有輝］年間授業/Yearly . . 251
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2170】スポーツリハビリテーション実習［安藤　正志］春学期授業/Spring 252
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2270】体力測定・評価実習［高見　京太、泉　重樹］秋学期授業/Fall253
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2271】体力測定・評価実習［高見　京太、泉　重樹］秋学期授業/Fall254
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2190】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 255
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2191】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 257
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2191】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 258
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2310】運動学実習　［安藤　正志］秋学期授業/Fall 260
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2320】スポーツ医科学実習　［木下　訓光、瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 261
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2321】スポーツ医科学実習　［木下　訓光、瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 263
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2330】Health and Exercise Sciences［笹井　浩行］秋学期授業/Fall265
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2340】Strength training［伊藤　良彦］春学期授業/Spring 266
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3010】レジャー論［谷本　都栄］春学期授業/Spring 267
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3020】スポーツ経済論［宮下　量久］秋学期授業/Fall 268
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3160】地域スポーツ経営論［岩村　聡］春学期授業/Spring 269
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3210】スポーツ組織論［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall 270
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M0620】スポーツとまちづくり［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall . . . 271
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M1650】スポーツ文化論［山本　浩］春学期授業/Spring 272
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3040】スポーツ取材論［増島　みどり］秋学期授業/Fall 274
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3050】スポーツと政治［赤堀　宏幸］春学期授業/Spring 276
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3060】スポーツマーケティング論［井上　尊寛］春学期授業/Spring277

専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3070】スポーツ産業論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 278
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論［山本　浩］秋学期授業/Fall 279
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3090】スポーツ行政論［川崎　登志喜］秋学期授業/Fall 281
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3220】スポーツ消費者行動論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 282
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3100】スポーツイベント論［吉田　政幸］春学期授業/Spring . . 283
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 284
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3180】スポーツ法学Ⅱ［飯田　研吾］秋学期授業/Fall 285
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3120】スポーツジャーナリズム論（新聞）［名取　裕樹］春学期授業/Spring 286
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3130】スポーツジャーナリズム論（放送）［加茂　明］秋学期授業/Fall 287
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3140】スポーツ政策論［森岡　裕策］秋学期授業/Fall 289
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3190】スポーツビジネス論Ⅲ［吉田　政幸］秋学期授業/Fall . . 290
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】マーケティングリサーチ実習［伊藤　真紀］春学期授業/Spring291
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3150】マーケティングリサーチ実習［伊藤　真紀］年間授業/Yearly292
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall293
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3200】Sport Consumer Behavior［佐藤　晋太郎］秋学期授業/Fall 294
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3250】スポーツビジネス海外演習［吉田　政幸、伊藤　真紀］スプリングセッション/Spring Session 295
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4010】トップアスリート論［増島　みどり］春学期授業/Spring296
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4020】スポーツトレーニング論Ⅱ［平野　裕一］秋学期授業/Fall297
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4490】スポーツ運動学［工藤　裕仁］春学期授業/Spring 298
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4500】スポーツコーチング論B［NEMES ROLAND JANOS］秋学期授業/Fall 299
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4040】スポーツコーチング論Ⅱ［NEMES ROLAND JANOS］秋学期授業/Fall 300
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4050】スポーツ戦略・戦術論［NEMES ROLAND JANOS］秋学期授業/Fall 301
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M1690】スポーツ心理学B［島本　好平］秋学期授業/Fall 302
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】スポーツ戦術論（サッカー）［小井土　正亮］秋学期授業/Fall 303
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4520】スポーツ戦術論（ハンドボール）［NEMES ROLAND JANOS］春学期授業/Spring 304
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4530】ダンス実習［河鰭　真世］春学期授業/Spring. 305
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4250】ダンス指導論演習［小川　洋子］秋学期授業/Fall 306
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4251】ダンス指導論演習［小川　洋子］秋学期授業/Fall 307
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4540】剣道実習［小田　佳子］春学期授業/Spring 308
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4280】剣道指導論実習［小田　佳子］春学期授業/Spring 309
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4550】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 310
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4551】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 311
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4560】器械運動実習［島本　好平］春学期授業/Spring 312
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4290】器械運動指導論実習［島本　好平］春学期授業/Spring 313
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4570】器械運動指導論演習［島本　好平］秋学期授業/Fall . . . 314
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4571】器械運動指導論演習［島本　好平］秋学期授業/Fall . . . 315
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4580】体つくり運動実習［濵谷　萌子］春学期授業/Spring . . 316
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4300】体つくり運動指導論実習［濵谷　萌子］春学期授業/Spring317
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4590】体つくり運動指導論演習［小野田　桂子］春学期授業/Spring318
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4600】サッカー実習［三浦　佑介］春学期授業/Spring 320
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4601】サッカー実習［三浦　佑介］春学期授業/Spring 321
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4310】サッカー指導論実習［三浦　佑介］春学期授業/Spring 322
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4311】サッカー指導論実習［三浦　佑介］春学期授業/Spring 323
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4320】サッカー指導論演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall . . . 324
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4321】サッカー指導論演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall . . . 325
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4610】バレーボール実習［山田　稔］春学期授業/Spring 326
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4430】バレーボール指導論実習［山田　稔］春学期授業/Spring328
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4440】バレーボール指導論演習［山田　稔］秋学期授業/Fall . 330

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4620】バスケットボール実習［清水　貴司］春学期授業/Spring 332
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4621】バスケットボール実習［岩見　雅人］春学期授業/Spring 333
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4460】バスケットボール指導論演習［清水　貴司］秋学期授業/Fall 334
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4461】バスケットボール指導論演習［岩見　雅人］秋学期授業/Fall 335
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4450】バスケットボール指導論実習［清水　貴司］春学期授業/Spring 336
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4451】バスケットボール指導論実習春学期授業/Spring 337
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4630】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring 338
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4631】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring 339
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4330】テニス指導論実習［植村　直己］春学期授業/Spring . . 340
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4331】テニス指導論実習［植村　直己］春学期授業/Spring . . 341
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4340】テニス指導論演習［植村　直己］秋学期授業/Fall 342
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4640】バドミントン実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring . . 343
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4370】バドミントン指導論実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring 344
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4380】バドミントン指導論演習［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 345
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4650】ソフトボール実習［大田　穂］春学期授業/Spring 346
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4390】ソフトボール指導論実習［大田　穂］春学期授業/Spring 347
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4400】ソフトボール指導論演習［大田　穂］秋学期授業/Fall . 348
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4760】陸上競技実習［苅部　俊二］春学期授業/Spring 349
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4350】陸上競技指導論実習［苅部　俊二］春学期授業/Spring 350
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4360】陸上競技指導論演習［苅部　俊二］秋学期授業/Fall . . . 351
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4660】野外教育実習（スノー）［高見　京太］秋学期授業/Fall 352
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4470】野外教育指導論演習（スノー) ［高見　京太］秋学期授業/Fall 353
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4670】柔道実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring 354
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4671】柔道実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring 355
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4260】柔道指導論実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring . . 356
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4261】柔道指導論実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring . . 357
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4270】武道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 358
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4271】武道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 359
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4680】柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 360
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4681】柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 361
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4771】スイミング実習［金田　和也］春学期授業/Spring 362
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4770】スイミング実習［金田　和也］春学期授業/Spring 363
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4421】スイミング指導論演習［金田　和也］秋学期授業/Fall . 364
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4410】スイミング指導論実習［金田　和也］春学期授業/Spring 365
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4411】スイミング指導論実習［金田　和也］春学期授業/Spring 366
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4420】スイミング指導論演習［金田　和也］秋学期授業/Fall . 367
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4690】ハンドボール実習［NEMES ROLAND JANOS］春学期授業/Spring 368
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4700】ハンドボール指導論演習［NEMES ROLAND JANOS］秋学期授業/Fall 369
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】青少年指導実習（サッカー）［小井土　正亮］秋学期授業/Fall 370
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4720】青少年指導実習（陸上）［苅部　俊二］春学期授業/Spring 371
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4730】野外教育実習（マリン）［井上　尊寛、木下　訓光］秋学期授業/Fall 372
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4480】野外教育指導論演習（マリン）［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 373
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4740】野外教育実習（キャンプ）［島本　好平、井上　尊寛、鬼頭　英明］秋学期授業/Fall 374
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4750】スポーツコーチング海外演習［NEMES ROLAND JANOS、井上　尊寛］スプリングセッション/Spring Session 375
専門教育科目_専門演習【M5010】専門演習Ⅰ［安藤　正志］年間授業/Yearly 376
専門教育科目_専門演習【M5020】専門演習Ⅰ［中澤　史］年間授業/Yearly 377

専門教育科目_専門演習【M5011】専門演習Ⅰ［泉　重樹］年間授業/Yearly 379
専門教育科目_専門演習【M5030】専門演習Ⅰ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 380
専門教育科目_専門演習【M5012】専門演習Ⅰ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 382
専門教育科目_専門演習【M5031】専門演習Ⅰ［越智　英輔］年間授業/Yearly 383
専門教育科目_専門演習【M5013】専門演習Ⅰ［小田　佳子］年間授業/Yearly 384
専門教育科目_専門演習【M5014】専門演習Ⅰ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 385
専門教育科目_専門演習【M5015】専門演習Ⅰ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 386
専門教育科目_専門演習【M5016】専門演習Ⅰ［木下　訓光］年間授業/Yearly 387
専門教育科目_専門演習【M5028】専門演習Ⅰ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 388
専門教育科目_専門演習【M5018】専門演習Ⅰ［高見　京太］年間授業/Yearly 389
専門教育科目_専門演習【M5032】専門演習Ⅰ［島本　好平］年間授業/Yearly 391
専門教育科目_専門演習【M5021】専門演習Ⅰ［成田　道彦］年間授業/Yearly 392
専門教育科目_専門演習【M5029】専門演習Ⅰ［NEMES ROLAND JANOS］年間授業/Yearly 393
専門教育科目_専門演習【M5024】専門演習Ⅰ［平野　裕一］年間授業/Yearly 394
専門教育科目_専門演習【M5022】専門演習Ⅰ［林　容市］年間授業/Yearly 395
専門教育科目_専門演習【M5026】専門演習Ⅰ［山本　浩］年間授業/Yearly 397
専門教育科目_専門演習【M5027】専門演習Ⅰ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 399
専門教育科目_専門演習【M5110】専門演習Ⅱ［安藤　正志］年間授業/Yearly 401
専門教育科目_専門演習【M5120】専門演習Ⅱ［中澤　史］年間授業/Yearly 402
専門教育科目_専門演習【M5111】専門演習Ⅱ［泉　重樹］年間授業/Yearly 404
専門教育科目_専門演習【M5130】専門演習Ⅱ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 405
専門教育科目_専門演習【M5112】専門演習Ⅱ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 406
専門教育科目_専門演習【M5113】専門演習Ⅱ［小田　佳子］年間授業/Yearly 408
専門教育科目_専門演習【M5114】専門演習Ⅱ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 409
専門教育科目_専門演習【M5115】専門演習Ⅱ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 410
専門教育科目_専門演習【M5116】専門演習Ⅱ［木下　訓光］年間授業/Yearly 411
専門教育科目_専門演習【M5128】専門演習Ⅱ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 412
専門教育科目_専門演習【M5118】専門演習Ⅱ［高見　京太］年間授業/Yearly 413
専門教育科目_専門演習【M5132】専門演習Ⅱ［島本　好平］年間授業/Yearly 415
専門教育科目_専門演習【M5121】専門演習Ⅱ［成田　道彦］年間授業/Yearly 416
専門教育科目_専門演習【M5129】専門演習Ⅱ［NEMES ROLAND JANOS］年間授業/Yearly 417
専門教育科目_専門演習【M5124】専門演習Ⅱ［平野　裕一］年間授業/Yearly 418
専門教育科目_専門演習【M5122】専門演習Ⅱ［林　容市］年間授業/Yearly 419
専門教育科目_専門演習【M5126】専門演習Ⅱ［山本　浩］年間授業/Yearly 421
専門教育科目_専門演習【M5127】専門演習Ⅱ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 423
専門教育科目_専門演習【M5131】専門演習Ⅱ［越智　英輔］年間授業/Yearly 425
専門教育科目_専門演習【M5210】専門演習Ⅲ［安藤　正志］年間授業/Yearly 426
専門教育科目_専門演習【M5211】専門演習Ⅲ［泉　重樹］年間授業/Yearly 427
専門教育科目_専門演習【M5230】専門演習Ⅲ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 428
専門教育科目_専門演習【M5212】専門演習Ⅲ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 429
専門教育科目_専門演習【M5213】専門演習Ⅲ［小田　佳子］年間授業/Yearly 430
専門教育科目_専門演習【M5231】専門演習Ⅲ［越智　英輔］年間授業/Yearly 431
専門教育科目_専門演習【M5214】専門演習Ⅲ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 433
専門教育科目_専門演習【M5215】専門演習Ⅲ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 434
専門教育科目_専門演習【M5216】専門演習Ⅲ［木下　訓光］年間授業/Yearly 435
専門教育科目_専門演習【M5232】専門演習Ⅲ［島本　好平］年間授業/Yearly 436
専門教育科目_専門演習【M5228】専門演習Ⅲ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 437
専門教育科目_専門演習【M5218】専門演習Ⅲ［高見　京太］年間授業/Yearly 438
専門教育科目_専門演習【M5220】専門演習Ⅲ［中澤　史］年間授業/Yearly 440
専門教育科目_専門演習【M5221】専門演習Ⅲ［成田　道彦］年間授業/Yearly 442
専門教育科目_専門演習【M5229】専門演習Ⅲ［NEMES ROLAND JANOS］年間授業/Yearly 443
専門教育科目_専門演習【M5224】専門演習Ⅲ［平野　裕一］年間授業/Yearly 444
専門教育科目_専門演習【M5222】専門演習Ⅲ［林　容市］年間授業/Yearly 445
専門教育科目_専門演習【M5226】専門演習Ⅲ［山本　浩］年間授業/Yearly 447
専門教育科目_専門演習【M5227】専門演習Ⅲ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 448
【M9010】保健体育科教育法Ⅰ［小田　佳子］春学期授業/Spring 449
【M9020】保健体育科教育法Ⅱ［鬼頭　英明］春学期授業/Spring 451

【M9030】保健体育科教育法Ⅲ ［小林　稔］春学期授業/Spring 452
【M9040】保健体育科教育法Ⅳ ［小田　佳子］秋学期授業/Fall 453
【M9210】教育実習（事前指導）［小田　佳子］秋学期授業/Fall 454
【M9310】教育実習（高）［小田　佳子］年間授業/Yearly 455
【M9320】教育実習（中・高）［小田　佳子］年間授業/Yearly 456
【M9120】教職実践演習（中・高）［熊野　真司］秋学期授業/Fall 457

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々の辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事③前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事③後半
11	時制（進行形）	記事④前半
12	時制（完了形）	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。
準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行います。
なお、学生の興味関心や授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
Students will be trained to read relatively easy sports articles in English and understand what they are about. They will also learn how to make use of dictionaries, typical expressions and rules of news media English.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
比較的最近のスポーツ記事（Japan News, VOA News, Breaking News English 等）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
2	英語らしい表現とは	記事①
3	無生物主語	記事①のつづき
4	言い換え表現	記事①のつづき・読了
5	仮定法過去	記事②前半
6	仮定法過去完了	記事②後半
7	句と節	記事①・②のまとめ
8	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
9	中間テスト返却、講評	記事③前半
10	直接話法と間接話法	記事③後半
11	分詞構文	記事④前半
12	付帯状況	記事④後半
13	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。
準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい記事を読むため、教員が配布するプリントを使用する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC やタブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行います。
学生の興味関心、理解度、授業の進展状況等によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
Based on the knowledge and skills learned in the spring semester, students will be encouraged to read more sports articles on the Internet. They will become used to reading a variety of English articles.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期
スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々の辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。
秋学期
インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】
春学期
①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる
秋学期
①比較的平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期
最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。
秋学期
比較的最近のスポーツ記事（Japan News, VOA News, Breaking News English 等）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評：前置詞	記事③前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事③後半
11	時制（進行形）	記事④前半
12	時制（完了形）	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ
15	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
16	英語らしい表現とは	記事①
17	無生物主語	記事①のつづき
18	言い換え表現	記事①のつづき・読了
19	仮定法過去	記事②前半
20	仮定法過去完了	記事②後半
21	句と節	記事①・②のまとめ
22	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
23	中間テスト返却、講評	記事③前半

24	直接話法と間接話法	記事③後半
25	分詞構文	記事④前半
26	付帯状況	記事④後半
27	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。
秋学期
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。
＊準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行います。
なお、学生の興味関心、理解度、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
Spring Semester
Students will be trained to read relatively easy sports articles in English and understand what they are about. They will also learn how to make use of dictionaries, typical expressions and rules of news media English.
Fall Semester
Based on the knowledge and skills learned in the spring semester, students will be encouraged to read more sports articles on the Internet. They will become used to reading a variety of English articles.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
4 つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、特に reading 力を高めていく。（listening 力も高める。）written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline 授業の進め方・評価方法等についての説明等
2	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
3	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
4	Unit 2 Forbidden City(China)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
5	Unit 2 Forbidden City(China)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
6	Unit 3 Bath(England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)

7	Unit 3 Bath(England)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
8	Unit 4 Canadian Rockies(Canada)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
9	Unit 4 Canadian Rockies(Canada)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
10	Unit 5 The Pyramids(Egypt)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
11	Unit 5 The Pyramids(Egypt)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
12	Unit 6 Ayutthaya(Thailand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
13	Unit 6 Ayutthaya(Thailand)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 1-Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。学生の本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Masakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UN-DO （2,500 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等）25%
(諸事情により、リモート授業に変更する場合には次のようになる。
定期試験（リモート試験）25%, 授業内課題（授業での課題 →Hoppii「課題」欄に期日までに提出）50%, 授業外課題 (Hoppii「課題」欄に期日までに提出）25%）

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）
【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。（その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。）

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the reading skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月 3/Mon.3**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、主に reading 力を高めていく。(listening 力も高める。) written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Special Activities	Course guideline 授業の進め方・評価方法等についての説明等 （Presentation with Audience Listening)
2	Unit 7 Edinburgh Castle(Scotland)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
3	Unit 7 Edinburgh Castle(Scotland)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
4	Unit 8 Machu Picchu(Peru)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
5	Unit 8 Machu Picchu(Peru)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
6	Unit 9 Taj Mahal (India)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)

7	Unit 9 Taj Mahal (India)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
8	Unit 10 Te Wahipounamu(New Zealand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
9	Unit 10 Te Wahipounamu(New Zealand)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
10	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
11	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
12	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
13	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。学生の本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Masakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UN-DO （2,500 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等）25%
(諸事情により、リモート授業に変更する場合には次のようになる。
定期試験（リモート試験）25%, 授業内課題（授業での課題 →Hoppii「課題」欄に期日までに提出）50%, 授業外課題 (Hoppii「課題」欄に期日までに提出）25%）

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）
【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。（その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。）

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the reading skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 3/Mon.3**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
重要な情報を正確に聴き取る（その上に読み取る）訓練をするとともに、重要な listening strategy を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各課の Introduction, Guess the Word, What Did You See?,What Did You Hear?, Dictation-Cloze, Dialog などの作業を通じて４技能特に listening と presentation の力を向上を図る。（時間的理由等で省略する作業もありうる。）DVD,CD も随時使用し、written　English のみならず、oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	Orientation, Special Activities
2	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
3	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
4	Unit 2 Forbidden City(China)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
5	Unit 2 Forbidden City(China)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
6	Unit 3 Bath(England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
7	Unit 3 Bath(England)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
8	Unit 4 Canadian Rockies (Canada)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
9	Unit 4 Canadian Rockies (Canada)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
10	Unit 5 The Pyramids (Egypt)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)

11	Unit 5 The Pyramids (Egypt)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
12	Unit 6 Ayutthaya (Thailand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
13	Unit 6 Ayutthaya (Thailand)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 1-6
15	Orientation Special Activities	Orientation, Special Activities
16	Unit 7 Edinburgh Castle (England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
17	Unit 7 Edinburgh Castle (England)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
18	Unit 8 Machu Picchu (Peru)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
19	Unit 8 Machu Picchu (Peru)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
20	Unit 9 Taj Mahal (India)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
21	Unit 9 Taj Mahal (India)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
22	Unit 10 Te Wahipounamu (New Zealand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
23	Unit 10 Te Wahipounamu (New Zealand)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
24	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
25	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
26	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
27	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
28	総合復習・定期考査	Unit 7- Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。）
復習（前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。）
課題（課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。）学生の本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Mosakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UNDO(2,500 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料は随時プリントにて配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25%（「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。）60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
メディア、いろいろな情報源を活用して、受け身だけにはならない授業、積極的に参加できる授業をめざす。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし（必要な場合には事前に連絡する。）辞書・電子辞書の持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。（授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
できる限り出席して積極的に授業に取り組むことが望ましい。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えることができるよう、常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。（その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。）

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the listening skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR A2~B1 程度の長文を正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Unit 1: Mysteries	Reading: A Mysterious Visitor
3	Unit 1: Mysteries	Reading: The Lost City of Atlantis
4	Unit 2: Eating Extremes	Reading: The World of Speed Eating
5	Unit 2: Eating Extremes	Reading : The Hottest Chilies
6	Unit 3: Cool Jobs	Reading : Digging for the Past
7	Unit 3: Cool Jobs	Reading : Getting the Shot
8	中間テスト	Unit 1～3のまとめ・テストと解説
9	Unit 4: Shipwrecks	Reading : I've Found the Titanic!
10	Unit 4: Shipwrecks	Reading : My Descent to the Titanic
11	Unit 5: Science Investigators	Reading : The Disease Detective
12	Unit 5: Science Investigators	Reading : At the Scene of a Crime
13	Unit 5: Science Investigators	科学的なトピックについてのライティングに取り組む
14	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer Foundations, Third edition (National Geographic Learning)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。辞書の種類などについては教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
ライティング課題などを含む平常点 40 %、テスト 60 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Google classroom を利用するため、可能な学生には授業へパソコンの持参を求めることがある。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles.　Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR A2~B1 程度の長文を正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての確認 夏休みの出来事について英語でクラスメイトに説明する
2	Unit6 : Plants and Trees	Reading : Planting for the Planet
3	Unit6 : Plants and Trees	Reading : Fatal Attraction
4	Unit 7: Mind's Eye	Reading : Understanding Dreams
5	Unit 7: Mind's Eye	Reading : Seeing the Impossible
6	中間テスト	Unit6 ～ 7 のまとめ・テストと解説
7	Unit 8: Animal Wonders	Reading : A Penguin's Year
8	Unit 8: Animal Wonders	Reading : Do Animals Laugh?
9	Unit 9: Building Beauty	Reading : A Love Poem in Stone
10	Unit 9: Building Beauty	Reading : The Great Dome in Florence
11	Unit 10: Forces of Nature	Reading : Wild Weather
12	Unit 10: Forces of Nature	Reading : When Weird Weather Strikes
13	Unit 10: Forces of Nature	Climate change についてのライティングに取り組む
14	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer Foundations, Third edition (National Geographic Learning)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。辞書の種類などについては教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
ライティング課題などを含む平常点 40 %、テスト 60 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Google classroom を利用するため、可能な学生には授業へパソコンの持参を求めることがある。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will also have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR A2~B1 程度の長文を正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Unit 1: Mysteries	Reading: A Mysterious Visitor
3	Unit 1: Mysteries	Reading: The Lost City of Atlantis
4	Unit 2: Eating Extremes	Reading: The World of Speed Eating
5	Unit 2: Eating Extremes	Reading: The Hottest Chilies
6	Unit3: Cool Jobs	Reading: Digging for the past
7	Unit3: Cool Jobs	Reading: Getting the Shot
8	中間テスト	Unit 1～3のまとめ・テストと解説
9	Unit 4: Shipwrecks	Reading: I've found the Titanic!
10	Unit 4: Shipwrecks	Reading: My Descent to the Titanic
11	Unit 5: Science Investigators	Reading : The Disease Detective
12	Unit 5: Science InvestigatorsUnit	Reading: At the Scene of a Crime
13	Unit 5: Science Investigators	科学的なトピックについてのライティングに取り組む
14	期末テスト	試験・まとめと解説
15	ガイダンス	授業の進め方についての確認 夏休みの出来事について英語でクラスメイトに説明する
16	Unit 6: Plants and Trees	Reading : Planting for the Planet
17	Unit 6: Plants and Trees	Reading: Fatal Attraction
18	Unit 7: Mind's Eye	Reading : Understanding Dreams
19	Unit 7: Mind's Eye	Reading : Seeing Impossible
20	中間テスト	Unit6 ～ 7 のまとめ・テストと解説
21	Unit 8 : Animal Wonders	Reading : A Penguin's Year
22	Unit 8: Animal Wonders	Reading : Do Animals laugh?
23	Unit 9: Building Beauty	Reading : A Love Poem in Stone
24	Unit 9: Building Beauty	Reading: The Great Dome of Florence
25	Unit 10 : Forces of Nature	Reading : Wild Weather
26	Unit 10 : Forces of Nature	Reading : When Weird Weather Strikes
27	Unit 10 : Forces of Nature	Climate change についてのライティングに取り組む
28	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer Foundations, Third edition (National Geographic Learning)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。辞書の種類などについては教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
ライティング課題などを含む平常点 40 %、テスト 60 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Google classroom を利用するため、可能な学生には授業へパソコンの持参を求めることがある。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles.　Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は科学雑誌 Science のオンライン版ニュース、Science Now の記事を題材にし様々なトピックの英文（「ダイエットの難しさと脳の働き」や「猫がいかに効率よく下を動かして水を飲むか」など）に触れていきます。語彙力と読解能力、論理的思考力 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
論理的思考力：抽象度を考慮して議論を構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、記事にまつわるライティングをグループワークとして行う。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験の説明
2	Unit 1 Why Diets Fail（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 1 Why Diets Fail（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
4	Unit 2 Dance Moves Are Irresistible（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 2 Dance Moves Are Irresistible（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
6	Unit 3 The Origin of Tidiness（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 3 The Origin of Tidiness（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
8	Unit 4 Malagasy Spiders Spin …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 4 Malagasy Spiders Spin …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
10	Unit 5 Say Goodbye to Sunspots?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 5 Say Goodbye to Sunspots?（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
12	Unit 6 Folklore Confirmed …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 6 Folklore Confirmed …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
14	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書名: 『Science』で読む科学の世界 - Science Fair
著者: 野崎 嘉信, 松本 和子, Kevin Cleary
出版社: 南雲堂
定価 (税込): ￥ 2,090
ISBN: 978-4-523-17698-5 C0082

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
In this class, we will use articles from Science Now, the online news of the science magazine Science, to introduce you to English sentences on a variety of topics, such as “Why Diets Fail" and "Cats’ Tongues Employ Tricky Physics.” The goal is to improve your vocabulary, reading comprehension, and logical thinking skills.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は科学雑誌 Science のオンライン版ニュース、Science Now の記事を題材にし様々なトピックの英文（「ダイエットの難しさと脳の働き」や「猫がいかに効率よく下を動かして水を飲むか」など）に触れていきます。語彙力と読解能力、論理的思考力 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
論理的思考力：抽象度を考慮して議論を構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、記事にまつわるライティングをグループワークとして行う。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の復習、試験などに関する説明。
2	Unit 7 Safe Passage for Salmon?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 7 Safe Passage for Salmon?（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
4	Unit 8 Face to Face with Human …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 8 Face to Face with Human …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
6	Unit 9 Alien Gases in Our Atmosphere（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 9 Alien Gases in Our Atmosphere（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
8	Unit 10 'Altitude Doping' Has its limits（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 10 'Altitude Doping' Has its limits（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
10	Unit 11 When Pigeons Flock …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 11 When Pigeons Flock …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
12	Unit 12 Japanese Guts Are Made for Sushi（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 12 Japanese Guts Are Made for Sushi（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
14	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書名: 『Science』で読む科学の世界 - Science Fair
著者: 野崎 嘉信, 松本 和子, Kevin Cleary
出版社: 南雲堂
定価 (税込): ￥ 2,090
ISBN: 978-4-523-17698-5 C0082

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
In this class, we will use articles from Science Now, the online news of the science magazine Science, to introduce you to English sentences on a variety of topics, such as “Why Diets Fail" and "Cats' Tongues Employ Tricky Physics.” The goal is to improve your vocabulary, reading comprehension, and logical thinking skills.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は科学雑誌 Science のオンライン版ニュース、Science Now の記事を題材にし様々なトピックの英文（「ダイエットの難しさと脳の働き」や「猫がいかに効率よく下を動かして水を飲むか」など）に触れていきます。語彙力と読解能力、論理的思考力 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
論理的思考力：抽象度を考慮して議論を構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、記事にまつわるライティングをグループワークとして行う。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験の説明
2	Unit 1 Why Diets Fail（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 1 Why Diets Fail（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
4	Unit 2 Dance Moves Are Irresistible（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 2 Dance Moves Are Irresistible（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
6	Unit 3 The Origin of Tidiness（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 3 The Origin of Tidiness（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
8	Unit 4 Malagasy Spiders Spin …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 4 Malagasy Spiders Spin …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
10	Unit 5 Say Goodbye to Sunspots?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 5 Say Goodbye to Sunspots?（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
12	Unit 6 Folklore Confirmed …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 6 Folklore Confirmed …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
14	まとめ	習熟度試験と解説
15	オリエンテーション	前期の復習、試験などに関する説明
16	Unit 7 Safe Passage for Salmon?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
17	Unit 7 Safe Passage for Salmon?（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
18	Unit 8 Face to Face with Human …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
19	Unit 8 Face to Face with Human …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
20	Unit 9 Alien Gases in Our Atmosphere（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
21	Unit 9 Alien Gases in Our Atmosphere（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
22	Unit 10 'Altitude Doping' Has its limits（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
23	Unit 10 'Altitude Doping' Has its limits（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
24	Unit 11 When Pigeons Flock …（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
25	Unit 11 When Pigeons Flock …（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
26	Unit 12 Japanese Guts Are Made for Sushi（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
27	Unit 12 Japanese Guts Are Made for Sushi（ライティング）	Exercises、ライティングとグループでの共有
28	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書名: 『Science』で読む科学の世界 - Science Fair
著者: 野崎 嘉信, 松本 和子, Kevin Cleary
出版社: 南雲堂
定価 (税込): ￥ 2,090
ISBN: 978-4-523-17698-5 C0082

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
In this class, we will use articles from Science Now, the online news of the science magazine Science, to introduce you to English sentences on a variety of topics, such as “Why Diets Fail" and "Cats' Tongues Employ Tricky Physics.” The goal is to improve your vocabulary, reading comprehension, and logical thinking skills.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
○毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
○主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 1, Future Office 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 1, Future Office 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 2, Solar Belch 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 2, Solar Belch 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 3, Tug-of-War 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 3, Tug-of-War 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 4, Spotting Misinformation 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 4, Spotting Misinformation 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 6, Mission to the Moon 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 6, Mission to the Moon 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
○ 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
○ パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
○毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
○主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 9, Autumn Leaves 1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 9, Autumn Leaves 2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 10, Magellan Telescope 1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 10, Magellan Telescope 2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 13, Kelp Farming 1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 13, Kelp Farming 2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 14, Town in Two Countries 1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 14, Town in Two Countries 2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest1	＜ Input ＞ Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest2	＜ Output ＞ Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
○ 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
○ パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
〇一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
〇毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
〇主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 1, Future Office 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 1, Future Office 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 2, Solar Belch 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 2, Solar Belch 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 3, Tug-of-War 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 3, Tug-of-War 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 4, Spotting Misinformation 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 4, Spotting Misinformation 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 6, Mission to the Moon 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 6, Mission to the Moon 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination
第 15 回	Introduction	春学期の復習
第 16 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 17 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 18 回	Unit 9, Autumn Leaves 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 19 回	Unit 9, Autumn Leaves 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 20 回	Unit 10,Magellan Telescope 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 21 回	Unit 10,Magellan Telescope 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 22 回	Unit 13, Kelp Farming 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 23 回	Unit 13, Kelp Farming 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 24 回	Unit 14, Town in Two Countries 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 25 回	Unit 14, Town in Two Countries 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 26 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 27 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 28 回	学期末のまとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
〇 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
〇 パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework, tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.
積極的に英語でコミュニケーションができるように一緒に頑張りましょう。
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅰ (b)【2018 年度以降入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（ ）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect

Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework, tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.
積極的に英語でコミュニケーションができるように一緒に頑張りましょう。

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect

Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework, tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.
積極的に英語でコミュニケーションができるように一緒に頑張りましょう。
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	国内政治	感染爆発下の五輪開催に不安
第 5 回	国内政治	Exercise and Vocabulary
第 6 回	経済	IMF 世界経済の見通しを上方修正
第 7 回	経済	Exercise and Vocabulary
第 8 回	ビジネス	インフレ
第 9 回	ビジネス	Exercise and Vocabulary
第 10 回	外交・国際会議	G7 中国の人権問題などで非難
第 11 回	外交・国際会議	Exercise and Vocabulary
第 12 回	軍事	日本の潜水艦
第 13 回	軍事	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2022 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2022) ￥ 1,700+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（ ）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	海外政治情勢	中国共産党 100 周年
第 3 回	海外政治情勢	Exercise and Vocabulary
第 4 回	文化・社会	ヤングケアラー
第 5 回	文化・社会	Exercise and Vocabulary
第 6 回	犯罪・事件	人種差別被害
第 7 回	犯罪・事件	Exercise and Vocabulary
第 8 回	裁判・法令	同性婚
第 9 回	裁判・法令	Exercise and Vocabulary
第 10 回	地球環境	溶解する世界
第 11 回	地球環境	Exercise and Vocabulary
第 12 回	資源・エネルギー	再生可能エネルギー
第 13 回	資源・エネルギー	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2022 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2022) ￥ 1,700+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	国内政治	感染爆発下の五輪開催に不安
第 5 回	国内政治	Exercise and Vocabulary
第 6 回	経済	IMF 世界経済の見通しを上方修正
第 7 回	経済	Exercise and Vocabulary
第 8 回	ビジネス	インフレ
第 9 回	ビジネス	Exercise and Vocabulary
第 10 回	外交・国際会議	G7 中国の人権問題などで非難
第 11 回	外交・国際会議	Exercise and Vocabulary
第 12 回	軍事	日本の潜水艦
第 13 回	軍事	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	海外政治情勢	中国共産党 100 周年
第 17 回	海外政治情勢	Exercise and Vocabulary
第 18 回	文化・社会	ヤングケアラー
第 19 回	文化・社会	Exercise and Vocabulary
第 20 回	犯罪・事件	人種差別被害
第 21 回	犯罪・事件	Exercise and Vocabulary
第 22 回	裁判・法令	同性婚
第 23 回	裁判・法令	Exercise and Vocabulary
第 24 回	地球環境	溶解する世界
第 25 回	地球環境	Exercise and Vocabulary
第 26 回	資源・エネルギー	再生可能エネルギー
第 27 回	資源・エネルギー	Exercise and Vocabulary
第 28 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2022 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2022) ￥ 1,700+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 1, Grammar
第 3 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 2, Writing
第 4 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 1, Grammar
第 5 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 2, Writing
第 6 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 1, Grammar
第 7 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 2, Writing
第 8 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 1, Grammar
第 9 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 2, Writing
第 10 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 1, Grammar
第 11 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 2, Writing
第 12 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 1, Grammar
第 13 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 2, Writing
第 14 回	学期末まとめ	習った文法や writing のルールの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純. (2021).『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) １つ１つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline

The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.

4.Grading Criteria /Policy

Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・提出課題の講評
第 2 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 1, Grammar
第 3 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 2, Writing
第 4 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 1, Grammar

第 5 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 2, Writing
第 6 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 1, Grammar
第 7 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 2, Writing
第 8 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 1, Grammar
第 9 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 2, Writing
第 10 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 1, Grammar
第 11 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 2, Writing
第 12 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 1, Grammar
第 13 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 2, Writing
第 14 回	学期末まとめ	paragraph writing の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
Robert Hickling・八島純. (2021).『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) １つ１つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 1, Grammar
第 3 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 2, Writing
第 4 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 1, Grammar
第 5 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 2, Writing
第 6 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 1, Grammar
第 7 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 2, Writing
第 8 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 1, Grammar
第 9 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 2, Writing
第 10 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 1, Grammar
第 11 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 2, Writing
第 12 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 1, Grammar
第 13 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 2, Writing
第 14 回	学期末まとめ	習った文法や writing のルールの復習
第 15 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・提出課題の講評
第 16 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 1, Grammar
第 17 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 2, Writing
第 18 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 1, Grammar
第 19 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 2, Writing
第 20 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 1, Grammar
第 21 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 2, Writing
第 22 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 1, Grammar
第 23 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 2, Writing
第 24 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 1, Grammar
第 25 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 2, Writing
第 26 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 1, Grammar
第 27 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 2, Writing
第 28 回	学期末まとめ	paragraph writing の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純.（2021）.『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) 1つ1つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
1．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
2．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings	Film ①～②,Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③～④
6	Requesting Information	Film ④～⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤～⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧～⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1～4 まとめ	Film ⑨～⑩
13	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
オンラインでの開講となり成績評価の方法・基準も変更となった場合、
具体的な方法と基準に関しては、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（ ）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①
3	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film ①
4	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ①〜②
5	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
6	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
7	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②〜③
8	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
9	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
10	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③〜④
11	思いを表現する　プレゼン　第 1 グループ	プレゼンテーション 発表者の思いを聞く
12	思いを表現する　プレゼン　第２グループ	プレゼンテーション 要点を意識してリスニングする
13	思いを表現する　プレゼン第３グループ	プレゼンテーション 自分の意見を言葉に変える
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester.
Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.
Learning activities outside of classroom: 1 hour

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings, Film	Film ①〜②,Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③〜④
6	Requesting Information, Film	Film ④〜⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤〜⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧〜⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1〜4　確認	Film ⑨〜⑩
13	Film 確認、リスニング最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング　既習事項確認	試験、まとめと解説
15	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①
17	Getting Invited to a party, Film	Exercise 16, Coin changer, Film ①
18	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ①〜②
19	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
20	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
21	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②〜③
22	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
23	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
24	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③〜④

25	思いを表現する　プレゼン　第１グループ	プレゼンテーション 発表者の思いを聞く
26	思いを表現する　プレゼン第２グループ	プレゼンテーション 要点を意識してリスニングする
27	思いを表現する　プレゼン第３グループ	プレゼンテーション 自分の意見を言葉に変える
28	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに１時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
オンラインでの開講となり成績評価の方法と基準も変更となった場合、
具体的な方法と基準に関しては、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments（10%）, presentation（10%） will be totally evaluated.
Learning activities outside of classroom: 1 hour

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
1　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
2　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
3　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
4　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方などを確認する。
2	Unit1: Introducing Yourself (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
3	Unit1: Introducing Yourself (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
4	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
5	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
6	Unit3: Talking about Friends and Family (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
7	Unit3: Talking about Friends and Family (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
8	Unit4: Talking about Movies and TV (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
9	Unit4: Talking about Movies and TV (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
10	Unit5: Talking about Music (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
11	Unit5: Talking about Music (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
12	Unit6: Talking about Books (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
13	Unit6: Talking about Books (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
14	まとめと試験	発音記号を理解し、正しい英語の発音が身に付いたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。

授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０％、試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
１　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
２　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
３　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
４　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7: Talking about Food (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
2	Unit7: Talking about Food (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
3	Unit8: Talking about Health (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
4	Unit8: Talking about Health (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
5	Unit9: Talking about Illness (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
6	Unit9: Talking about Illness (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
7	Unit10: Talking about Culture (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
8	Unit10: Talking about Culture (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
9	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
10	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
11	プレゼンテーション原稿作成	アカデミックライティングの書き方を学ぶ。
12	プレゼンテーションの練習	英語における効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。
13	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
14	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験５０％、プレゼンテーション５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
1　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
2　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
3　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
4　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方などを確認する。
2	Unit1: Introducing Yourself (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
3	Unit1: Introducing Yourself (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
4	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
5	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
6	Unit3: Talking about Friends and Family (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
7	Unit3: Talking about Friends and Family (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
8	Unit4: Talking about Movies and TV (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
9	Unit4: Talking about Movies and TV (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
10	Unit5: Talking about Music (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
11	Unit5: Talking about Music (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
12	Unit6: Talking about Books (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
13	Unit6: Talking about Books (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
14	まとめと試験	発音記号を理解し、正しい英語の発音が身に付いたかを確認する。
15	Unit7: Talking about Food (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
16	Unit7: Talking about Food (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes

17	Unit8: Talking about Health (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
18	Unit8: Talking about Health (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
19	Unit9: Talking about Illness (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
20	Unit9: Talking about Illness (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
21	Unit10: Talking about Culture (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
22	Unit10: Talking about Culture (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
23	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
24	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
25	プレゼンテーション原稿作成	アカデミックライティングの書き方を学ぶ。
26	プレゼンテーションの練習	英語における効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。
27	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
28	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期
課題５０％、試験５０％
秋学期
課題５０％、プレゼンテーション５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業 2 回でユニット 1 つ扱う。まずテキストの和訳や文法の解説をおこないつつ、テーマごとの構成を確認する。その後リスニングやアクティビティをおこなったり、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、Unit 1
2	Unit 1: Goals in College Life	長文読解
3	Unit 2: Totoro Travels to Nepal	長文読解
4	Unit 2	演習問題と文法 (文型)
5	Unit 3: Sightseeing in London	長文読解
6	Unit 3	演習問題と文法 (現在完了)
7	Unit 4: Sushi	長文読解
8	Unit 4	演習問題と文法 (-ing の用法)
9	Unit 5: Fashion Trends	長文読解
10	Unit 5	演習問題と文法 (-ed の用法)
11	Unit 6: Shodo	長文読解
12	Unit 6	演習問題と文法 (that の用法)
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：30 %、課題：20 %、期末試験：50 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業 2 回でユニット 1 つ扱う。まずテキストの和訳や文法の解説をおこないつつ、テーマごとの構成を確認する。その後リスニングやアクティビティをおこなったり、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 7: The Mississippi River	長文読解
3	Unit 7	演習問題と春学期の復習
4	Unit 8: Ocean Blue	長文読解
5	Unit 8	演習問題と文法 (関係代名詞)
6	Unit 9: Studying Abroad	長文読解
7	Unit 9	演習問題と文法 (不定詞・名詞)
8	Unit 10: The Northern Lights	長文読解
9	Unit 10	演習問題と文法 (不定詞・形容詞)
10	Unit 11: The Sound of the Saxophone	長文読解
11	Unit 11	演習問題と文法 (不定詞・副詞)
12	Unit 12: Communication Tips	長文読解
13	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：30 %、課題：20 %、期末試験：50 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業 2 回でユニット 1 つ扱う。まずテキストの和訳や文法の解説をおこないつつ、テーマごとの構成を確認する。その後リスニングやアクティビティをおこなったり、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、Unit 1
2	Unit 1: Goals in College Life	長文読解
3	Unit 2: Totoro Travels to Nepal	長文読解
4	Unit 2	演習問題と文法 (文型)
5	Unit 3: Sightseeing in London	長文読解
6	Unit 3	演習問題と文法 (現在完了)
7	Unit 4: Sushi	長文読解
8	Unit 4	演習問題と文法 (-ing の用法)
9	Unit 5: Fashion Trends	長文読解
10	Unit 5	演習問題と文法 (-ed の用法)
11	Unit 6: Shodo	長文読解
12	Unit 6	演習問題と文法 (that の用法)
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	秋学期の授業計画のガイダンス
16	Unit 7: Ocean Blue	長文読解
17	Unit 7	演習問題と春学期の復習
18	Unit 8: Ocean Blue	長文読解
19	Unit 8	演習問題と文法 (関係代名詞)
20	Unit 9: Studying Abroad	長文読解
21	Unit 9	演習問題と文法 (不定詞・名詞)
22	Unit 10: The Northern Lights	長文読解
23	Unit 10	演習問題と文法 (不定詞・形容詞)
24	Unit 11: The Sound of the Saxophone	長文読解
25	Unit 11	演習問題と文法 (不定詞・副詞)
26	Unit 12: Communication Tips	長文読解
27	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
28	試験とまとめ	秋学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。

本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 30 %、課題 (春学期+秋学期) ： 20 %、期末試験 (春学期＋秋学期) ： 50 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Unit 1, Describe Daily activities	Narrative writing
3	Unit 1, Describe Daily activities	speaking & listening activities
4	Unit 2, Describe a friend	Descriptive writing
5	Unit 2, Describe a friend	speaking & listening activities
6	Practice Units 1 & 2	Review Units 1 & 2
7	Unit 3, Write a friendly message	Writing a friendly letter or e-mail
8	Unit 3, Write a friendly message	speaking & listening activities
9	Unit 4, Explain directions	Technical writing
10	Unit 4, Explain directions	speaking & listening activities
11	Practice Units 3 & 4	Review Units 3 & 4
12	Unit 5, Write a story	Personal narrative
13	Unit 5, Write a story	speaking & listening activities
14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %

小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
第 2 回	Unit 6, Make a written request	Writing a formal letter
第 3 回	Unit 6, Make a written request	speaking & listening activities
第 4 回	Practice Units 5 & 6	Review Units 5 & 6
第 5 回	Unit 7, Compare and contrast	Compare and contrast writing
第 6 回	Unit 7, Compare and contrast	speaking & listening activities
第 7 回	Unit 8, Explain a topic	Write a research report
第 8 回	Unit 8, Explain a topic	speaking & listening activities
第 9 回	Practice Units 7 & 8	Review Units 7 & 8
第 10 回	Unit 9, Write a biography	Biographical narrative
第 11 回	Unit 10, Response to Literature	Write a review of literature
第 12 回	Unit 10, Response to Literature	speaking & listening activities
第 13 回	Practice Units 9 & 10	Review Units 9 & 10
第 14 回	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Unit 1, Describe Daily activities	Narrative writing
3	Unit 1, Describe Daily activities	speaking & listening activities
4	Unit 2, Describe a friend	Descriptive writing
5	Unit 2, Describe a friend	speaking & listening activities
6	Practice Units 1 & 2	Review Units 1 & 2
7	Unit 3, Write a friendly message	Writing a friendly letter or e-mail
8	Unit 3, Write a friendly message	speaking & listening activities
9	Unit 4, Explain directions	Technical writing
10	Unit 4, Explain directions	speaking & listening activities
11	Practice Units 3 & 4	Review Units 3 & 4
12	Unit 5, Write a story	Personal narrative
13	Unit 5, Write a story	speaking & listening activities
14	Review	学期末まとめ
15	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
16	Unit 6, Make a written request	Writing a formal letter
17	Unit 6, Make a written request	speaking & listening activities
18	Practice Units 5 & 6	Review Units 5 & 6
19	Unit 7, Compare and contrast	Compare and contrast writing
20	Unit 7, Compare and contrast	speaking & listening activities
21	Unit 8, Explain a topic	Write a research report
22	Unit 8, Explain a topic	speaking & listening activities
23	Practice Units 7 & 8	Review Units 7 & 8
24	Unit 9, Write a biography	Biographical narrative

25	Unit 10, Response to Literature	Write a review of literature
26	Unit 10, Response to Literature	speaking & listening activities
27	Practice Units 9 & 10	Review Units 9 & 10
28	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：**（6）**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際のニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることにより、リスニング・リーディング・ライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 ユニットを前半・後半に分け Warm Up でユニットの学習テーマの掘り起こしをし、文脈に即した語彙の用法を確認する。続いて、ニュース本文をディクテーション形式で完成させ、英文として自然な形を音声とライティングの両面から学習する。さらに本文に関する正誤問題によって内容を把握したうえでサマリーを作成することを基本パターンとして行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価などについて説明する。
第 2 回	UNIT 1: Future Office（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 3 回	UNIT 1: Future Office（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 4 回	UNIT 2: Solar Belch（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 5 回	UNIT 2: Solar Belch（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 6 回	UNIT 3: Tug-of-War（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 7 回	UNIT 3: Tug-of-War（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 8 回	UNIT 4: Spotting Misinformation（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening

第 9 回	UNIT 4: Spotting Misinformation（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 10 回	UNIT 5: Mr. Trash Wheel（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 11 回	UNIT 5: Mr. Trash Wheel（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 12 回	UNIT 6: Mission to the Moon（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 13 回	UNIT 6: Mission to the Moon（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 14 回	Term-end Exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために 1 時間。合計 2 時間。さらに、メディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN10 Students News*, Asahi Press (2022). ￥1,800(+税)

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変に授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。授業連絡、課題指示などは本システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度、授業形態の変更によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：**（6）**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、実際のニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることで、先学期よりもスピーディーにリスニング・リーディングライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期同様に、Warm Up にはじまり、リスニングやリーディングなどの練習問題を解いていく中で、トピックに関連する問題を考え、意見をまとめることで仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期の進め方の説明などを行う。
第 2 回	UNIT 7: Desert Control（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 3 回	UNIT 7: Desert Control（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 4 回	UNIT 8: Ice Cream Delivery（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 5 回	UNIT 8: Ice Cream Delivery（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 6 回	UNIT 9: Autumn Leaves（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 7 回	UNIT 9: Autumn Leaves（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 8 回	UNIT 10: Magellan Telescope（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 9 回	UNIT 10: Magellan Telescope（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 10 回	UNIT 11: Robodog（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening

第 11 回	UNIT 11: Robodog（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 12 回	UNIT 12: Better Solar Panels（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 13 回	UNIT 12: Better Solar Panels（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 14 回	Term-end Exam	学習内容の理解度を確認する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために 1 時間。合計 2 時間。さらにメディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN10 Students News* Asahi Press (2022)

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「今まで強弱を意識して読んだことがなかったので、リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「品詞によってその強弱が決定されることも学習できたので、どんな品詞が強く読まれるのか、反対にどんな品詞が弱く読まれるのかをしっかり覚えて、リズムのある読み方を心掛けたい。」など、学生が学習成果を実感できる授業運営を引き続き心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to further develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading by utilizing the skills and vocabulary gained in English II(a). Students deal with more complex and sophisticated content presented in English that is relevant to their university life and subsequent academic work including lectures and academic texts.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際のニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることにより、リスニング・リーディング・ライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 ユニットを前半・後半に分け Warm Up でユニットの学習テーマの掘り起こしをし、文脈に即した語彙の用法を確認する。続いて、ニュース本文をディクテーション形式で完成させ、英文として自然な形を音声とライティングの両面から学習する。さらに本文に関する正誤問題によって内容を把握したうえでサマリーを作成することを基本パターンとして行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価などを説明する。
第 2 回	UNIT 1: Future Office（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 3 回	UNIT 1: Future Office（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 4 回	UNIT 2: Solar Belch（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 5 回	UNIT 2: Solar Belch（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 6 回	UNIT 3: Tug-of-War（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 7 回	UNIT 3: Tug-of-War（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 8 回	UNIT 4: Spotting Misinformation（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 9 回	UNIT 4: Spotting Misinformation（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 10 回	UNIT 5: Mr. Trash Wheel（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 11 回	UNIT 5: Mr. Trash Wheel（前半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 12 回	UNIT 6: Mission to the Moon（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 13 回	UNIT 6: Mission to the Moon（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 14 回	Term-end exam	理解度の確認を目的とした試験
第 15 回	ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期の進め方の説明などを行う。

第 16 回	UNIT 7: Desert Control（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 17 回	UNIT 7: Desert Control（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 18 回	UNIT 8: Ice Cream Delivery（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 19 回	UNIT 8: Ice Cream Delivery（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 20 回	UNIT 9: Autumn Leaves（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 21 回	UNIT 9: Autumn Leaves（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 22 回	UNIT 10: Magellan Telescope（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 23 回	UNIT 10: Magellan Telescope（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 24 回	UNIT 11: Robodog（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 25 回	UNIT 11: Robodog（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 26 回	UNIT 12: Better Solar Panels（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening
第 27 回	UNIT 12: Better Solar Panels（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing
第 28 回	Term-end Exam	学習内容の理解度を確認する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために１時間。合計２時間。さらに、メディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson CNN10 Students News Asahi Press (2022) ￥1,800(+税)

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上３点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変に授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。授業連絡、課題指示などは本システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度、授業形態の変更によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：**（7）**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Conservation	Listening and speaking exercise: talking about endangered animals; Grammar explanation and practice: present simple and present continuous
Week 3	Unit 1 Conservation	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Homework: reading with comprehension
Week 4	Unit 2 Family connections	Listening and speaking exercise: talking about family; Grammar used when talking about future plans
Week 5	Unit 2 Family connections	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading exercise: A passion for genealogy
Week 6	Unit 3 Global stories	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Speaking exercise: talking about books; Grammar: defining relative clauses
Week 7	Unit 3 Global stories	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Writing exercise: writing a book review
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Music	Listening and speaking: talking about music; Grammar explanation and practice: countable and uncountable nouns

Week 10	Unit 4 Music	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading exercise: Music and the brain
Week 11	Unit 5 Good design	Listening and speaking: talking about design; Grammar explanation and practice: prepositions and adverbs of place
Week 12	Unit 5 Good design	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading with comprehension: Chicago's much loved flag
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：**（7）**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be re ﬂ ected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語 のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: will for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity

Week 11	Unit 10 Mind and machine	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading and writing skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be re ﬂ ected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Conservation	Listening and speaking exercise: talking about endangered animals; Grammar explanation and practice: present simple and present continuous
Week 3	Unit 1 Conservation	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Homework: reading with comprehension
Week 4	Unit 2 Family connections	Listening and speaking exercise: talking about family; Grammar used when talking about future plans
Week 5	Unit 2 Family connections	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading exercise: A passion for genealogy
Week 6	Unit 3 Global stories	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Speaking exercise: talking about books; Grammar: defining relative clauses
Week 7	Unit 3 Global stories	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Writing exercise: writing a book review
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Music	Listening and speaking: talking about music; Grammar explanation and practice: countable and uncountable nouns

Week 10	Unit 4 Music	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading exercise: Music and the brain
Week 11	Unit 5 Good design	Listening and speaking: talking about design; Grammar explanation and practice: prepositions and adverbs of place
Week 12	Unit 5 Good design	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading with comprehension: Chicago's much loved flag
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students'presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: *will* for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity
Week 11	Unit 10 Mind and machine	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and con fi dent communicators in the global society.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はスポーツにまつわるトピックの英文に触れながら、語彙力と読解能力、文産出技能 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
文産出技能：学習した表現を話せる・書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、Warm-up Question の調査をグループでまとめて報告する。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明
2	Unit 1 The Long Wait（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 1 The Long Wait（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
4	Unit 2 Olympic Volunteers（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 2 Olympic Volunteers（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
6	Unit 3 Male Sports? Female Sports?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 3 Male Sports? Female Sports?（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
8	Unit 4 Competition（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 4 Competition（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
10	Unit 5 A Glamourous Life?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 5 A Glamourous Life?（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
12	Unit 6 Energy Drinks（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 6 Energy Drinks（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
14	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
タイトル: Spotlight on Sports
15 Sports Topics for Learning Basic English
ISBN: 978-4-7647-4026-6
著者: Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
This class aims to improve vocabulary, reading comprehension, and sentence production skills through exposure to English texts on sports-related topics.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：（ ）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はスポーツにまつわるトピックの英文に触れながら、語彙力と読解能力、文産出技能 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
文産出技能：学習した表現を話せる・書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、Warm-up Question の調査をグループでまとめて報告する。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の復習、試験などに関する説明
2	Unit 7 Helping Your Opponent（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 7 Helping Your Opponent（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
4	Unit 8 Ghost Goals（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 8 Ghost Goals（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
6	Unit 9 Rituals and Superstitions（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 9 Rituals and Superstitions（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
8	Unit 10 The Cutting Edge（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 10 The Cutting Edge（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
10	Unit 11 Match-Fixing（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 11 Match-Fixing（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
12	Unit 12 Heroes Inspire Heroes（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 12 Heroes Inspire Heroes（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
14	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
タイトル: Spotlight on Sports
15 Sports Topics for Learning Basic English
ISBN: 978-4-7647-4026-6
著者: Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
This class aims to improve vocabulary, reading comprehension, and sentence production skills through exposure to English texts on sports-related topics.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

岸山　健

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はスポーツにまつわるトピックの英文に触れながら、語彙力と読解能力、文産出技能 の向上を目指す。

【到達目標】
語彙力：教科書が扱う重要語句の 8 割を日英訳できる。
読解能力：「抽象の梯子」の概念を理解し、主張と根拠を特定できる。
文産出技能：学習した表現を話せる・書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマで 1 ユニットを進め、前半では語彙テストや映像教材、グループワークを用いた読解で記事の理解に努める。後半では前半の内容を理解しているかの確認や、Warm-up Question の調査をグループでまとめて報告する。ライティングは提出物として扱い、各回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明
2	Unit 1 The Long Wait（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
3	Unit 1 The Long Wait（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
4	Unit 2 Olympic Volunteers（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
5	Unit 2 Olympic Volunteers（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
6	Unit 3 Male Sports? Female Sports?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
7	Unit 3 Male Sports? Female Sports?（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
8	Unit 4 Competition（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
9	Unit 4 Competition（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
10	Unit 5 A Glamourous Life?（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
11	Unit 5 A Glamourous Life?（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
12	Unit 6 Energy Drinks（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
13	Unit 6 Energy Drinks（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
14	まとめ	習熟度試験と解説
15	オリエンテーション	前期の復習、試験などに関する説明
16	Unit 7 Helping Your Opponent（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
17	Unit 7 Helping Your Opponent（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
18	Unit 8 Ghost Goals（読解、リスニング）	授業の進め方と方法を参照のこと。a 英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
19	Unit 8 Ghost Goals（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
20	Unit 9 Rituals and Superstitions（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
21	Unit 9 Rituals and Superstitions（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
22	Unit 10 The Cutting Edge（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
23	Unit 10 The Cutting Edge（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
24	Unit 11 Match-Fixing（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
25	Unit 11 Match-Fixing（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
26	Unit 12 Heroes Inspire Heroes（読解、リスニング）	英訳テスト、グループワークによる読解（和訳、要約）、Exercises
27	Unit 12 Heroes Inspire Heroes（産出練習、調査と共有）	グループで産出練習・Warm-up Question の調査
28	まとめ	習熟度試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とする。
1. 毎回の授業開始時に語句の英訳をテストするので備える。
2. 授業内で学習した表現の反復練習をする。
3. ニュースや映画など、普段の生活で英語に触れ関心を深める。

【テキスト（教科書）】
タイトル: Spotlight on Sports
15 Sports Topics for Learning Basic English
ISBN: 978-4-7647-4026-6
著者: Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）：基本的に全出席を原則とし、授業への参加度を評価する。
授業内試験（50 %）：各授業内のテストと提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
初回での調査をもとにパソコンを利用の有無を決定する。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
This class aims to improve vocabulary, reading comprehension, and sentence production skills through exposure to English texts on sports-related topics.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR A2 から B1 程度の長文を正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。1 回目の授業で文章の内容を理解し、2 回目の授業ではライティングやディスカッションなどで文章の内容理解を深め、Unit テストを行い理解度を確認します。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Chapter 1: What are the most popular sports in the world?（前半）	Reading: The Most Popular Sports in the World
3	Chapter 1: What are the most popular sports in the world?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
4	Chapter 2: Are you a Healthy　Eater ?	Reading : Are you a Healthy Eater?
5	Chapter 2: Are you a Healthy　Eater ?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
6	Chapter 3:　Three special dream homes（前半）	Reading : Dream Homes
7	Chapter 3:　Three special dream homes（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
8	Chapter 4: How do you greet people?（前半）	Reading : Kiss, Bow, or Shake Hands?
9	Chapter 4: How do you greet people?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
10	Chapter 5: How can people live in a city without oil?（前半）	Reading : A City without Oil
11	Chapter 5: How can people live in a city without oil?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
12	Chapter 6: You can't please everyone（前半）	Reading : A Nasreddin Story
13	Chapter 6: You can't please everyone（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
14	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Select Readings Elementary (Second Edition, Oxford University Press)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、Unit テスト 30 %、テスト 50 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR A2 から B1 程度の長文を正確に読めるようになること。英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。１回目の授業で文章の内容を理解し、２回目の授業ではライティングやディスカッションなどで文章の内容理解を深め、Unit テストを行い理解度を確認します。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方やスケジュールの確認 夏休みの出来事について英語で紹介する
2	Chapter 7: Across the Desert（前半）	Reading: Is it possible to run across the Sahara Desert?
3	Chapter 7: Across the Desert　（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
4	Chapter 8: Denmark Lives Bicycles（前半）	Reading: Why are bicycles so popular in Denmark?
5	Chapter 8: Denmark Lives Bicycles（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
6	Chapter 9: A Passion for Cooking（前半）	Reading: How did Ching-He Huang become a famous chef?
7	Chapter 9: A Passion for Cooking（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
8	Chapter 10: Travel More, Spend Less（前半）	Reading: What is the best way to travel
9	Chapter 10: Travel More, Spend Less（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
10	Chapter 11: A Very Able Man（前半）	Reading : A successful man with no arms or legs
11	Chapter 11: A Very Able Man（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
12	Chapter 12: Protecting Cultural Traditions（前半）	Reading : Which cultural traditions should we protect?
13	Chapter 12: Protecting Cultural Traditions（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
14	期末テスト	これまでのまとめと試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Select Readings Elementary (Second Edition, Oxford University Press)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％、Unit テスト 30 %、テスト 50 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く方法を学ぶ。

【到達目標】
CEFR　A2 から B1 程度の長文を正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2 回分をかけて学習します。１回目の授業で文章の内容を理解し、２回目の授業ではライティングやディスカッションなどで文章の内容理解を深め、Unit テストを行い理解度を確認します。
対面授業を基本としますが、授業内容によってオンライン授業、オンデマンド授業も取り入れていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
2	Chapter 1: What are the most popular sports in the world?（前半）	Reading: The Most Popular Sports in the World
3	Chapter 1: What are the most popular sports in the world? (後半)	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
4	Chapter 2: Are you a Healthy Eater ? (前半)	Reading : Are you a Healthy Eater ?
5	Chapter 2: Are you a Healthy Eater ? (後半)	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
6	Chapter 3:　Three special dream homes（前半）	Reading: Dream Homes
7	Chapter 3:　Three special dream homes（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
8	Chapter 4: How do you greet people?（前半）	Reading: Kiss, Bow, or Shake Hands?
9	Chapter 4: How do you greet people?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
10	Chapter 5:　How can people live in a city without oil?（前半）	Reading : A City without Oil
11	Chapter 5:　How can people live in a city without oil?（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
12	Chapter 6: You can't Please Everyone (前半)	Reading: A Nasreddin Story
13	Chapter 6: You can't Please Everyone　（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
14	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
15	ガイダンス	授業の進め方やスケジュールの確認 夏休みの出来事について英語で紹介する
16	Chapter 7: Across the Desert (前半)	Reading: Is it possible to run across the Sahara Desert?
17	Chapter 7: Across the Desert（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
18	Chapter 8: Denmark Loves Bicycles (前半)	Reading: Why are bicycles so popular in Denmark?
19	Chapter 8: Denmark Loves Bicycles（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
20	Chapter 9: A Passion for Cooking (前半)	Reading: How did Ching-He Huang become a famous chef?
21	Chapter 9: A Passion for Cooking（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
22	Chapter 10: Travel More, Spend Less (前半)	Reading: What is the best way to travel?
23	Chapter 10: Travel More, Spend Less（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
24	Chapter 11: A Very Able Man (前半)	Reading : A successful man with no arms or legs
25	Chapter 11: A Very Able Man（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
26	Chapter 12: Protecting Cultural Traditions (前半)	Reading : Which cultural traditions should we protect?
27	Chapter 12: Protecting Cultural Traditions（後半）	英文の内容確認 と Discussion & Writing Unit テスト
28	期末テスト	これまでのまとめと試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。テキスト音声をダウンロードし、事前にテキストを見ながら聞いておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Select Readings Elementary (Second Edition, Oxford University Press)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％、Unit テスト 30 %、テスト 50 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
すべて英語で書かれたテキストを用いるため、理解が難しかったとの意見があった。英語が苦手な学生のことも考慮し、できるだけわかりやすい説明を心がけていきたい。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
2 回の授業で 1 つのユニットを進め、前半では主にニュースを読み、後半では主に問題演習・語彙力増強を行う。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	Estonia	コロナ禍でのデジタル学習
第 5 回	Estonia	Exercise and Vocabulary
第 6 回	Tokyo Olympics	多種多様な課題の山
第 7 回	Tokyo Olympics	Exercise and Vocabulary
第 8 回	Israel	ユダヤ教超正統派社会からの脱出
第 9 回	Israel	Exercise and Vocabulary
第 10 回	Japan	再生可能エネルギーへの道
第 11 回	Japan	Exercise and Vocabulary
第 12 回	America	「大きなブレンド」家族
第 13 回	America	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語 演習と解説 2022 年度版』高橋優身 (朝日出版:2022)￥ 1,200+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
2 回の授業で 1 つのユニットを進め、前半では主にニュースを読み、後半では主問題演習・語彙力増強を行う。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	China	大手ハイテク企業で社員死亡
第 3 回	China	Exercise and Vocabulary
第 4 回	Myanmar	軍事クーデターに芸術家たちが抗議
第 5 回	Myanmar	Exercise and Vocabulary
第 6 回	Russia	反政権活動家が英雄的シンボルに
第 7 回	Russia	Exercise and Vocabulary
第 8 回	Afghanistan	貧しい人たちの腎臓で大儲け
第 9 回	Afghanistan	Exercise and Vocabulary
第 10 回	Greenland	レアアースをの争奪戦
第 11 回	Greenland	Exercise and Vocabulary
第 12 回	Australia	外国人旅行者頼みの農業
第 13 回	Australia	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語 演習と解説 2022 年度版』高橋優身 (朝日出版:2022)￥ 1,200+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
2 回の授業で 1 つのユニットを進め、前半では主にニュースを読み、後半では主に問題演習・語彙力増強を行う。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	Estonia	コロナ禍でのデジタル学習
第 5 回	Estonia	Exercise and Vocabulary
第 6 回	Tokyo Olympics	多種多様な課題の山
第 7 回	Tokyo Olympics	Exercise and Vocabulary
第 8 回	Israel	ユダヤ教超正統派社会からの脱出
第 9 回	Israel	Exercise and Vocabulary
第 10 回	Japan	再生可能エネルギーへの道
第 11 回	Japan	Exercise and Vocabulary
第 12 回	America	「大きなブレンド」家族
第 13 回	America	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	China	大手ハイテク企業で社員死亡
第 17 回	China	Exercise and Vocabulary
第 18 回	Myanmar	軍事クーデターに芸術家たちが抗議
第 19 回	Myanmar	Exercise and Vocabulary
第 20 回	Russia	反政権活動家が英雄的シンボルに
第 21 回	Russia	Exercise and Vocabulary
第 22 回	Afghanistan	貧しい人たちの腎臓で大儲け
第 23 回	Afghanistan	Exercise and Vocabulary
第 24 回	Greenland	レアアースをの争奪戦
第 25 回	Greenland	Exercise and Vocabulary
第 26 回	Australia	外国人旅行者頼みの農業
第 27 回	Australia	Exercise and Vocabulary
第 28 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語 演習と解説 2022 年度版』高橋優身 (朝日出版:2022)￥ 1,200+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
○毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
○主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 1, Future Office 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 1, Future Office 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 2, Solar Belch 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 2, Solar Belch 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 3, Tug-of-War 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 3, Tug-of-War 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 4, Spotting Misinformation 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 4, Spotting Misinformation 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 6, Mission to the Moon 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 6, Mission to the Moon 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
○ 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
○ パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
○毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
○主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 9, Autumn Leaves 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 9, Autumn Leaves 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 10, Magellan Telescope 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 10, Magellan Telescope 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 13, Kelp Farming 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 13, Kelp Farming 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 14, Town in Two Countries 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 14, Town in Two Countries 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
○ 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
○ パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
1. アメリカの学生向けニュース番組 CNN 10 のニュース内容を理解すること。
2. ニュースの内容や関連情報、および自分の意見を英語で発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
〇一つの Unit を二週に渡り扱う。偶数週は Input Week とし、Vocabulary, Listening, Reading が主となる。奇数週は Output Week とし、Summary, Writing, Speaking が主たるアクティビティとなる。
〇毎週伝える予習指示に従い、予習をしてくること。教科書内容は予習前提で行う。
〇主にグループでアクティビティをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の内容・進め方・成績評価の説明
第 2 回	Unit 1, Future Office 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 3 回	Unit 1, Future Office 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 4 回	Unit 2, Solar Belch 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 5 回	Unit 2, Solar Belch 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 6 回	Unit 3, Tug-of-War 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 7 回	Unit 3, Tug-of-War 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 8 回	Unit 4, Spotting Misinformation 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 9 回	Unit 4, Spotting Misinformation 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 10 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 11 回	Unit 5, Mr. Trash Wheel 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 12 回	Unit 6, Mission to the Moon 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 13 回	Unit 6, Mission to the Moon 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 14 回	学期末まとめ	Final Examination
第 15 回	Introduction	春学期の復習
第 16 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 17 回	Unit 8, Ice Cream Delivery 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 18 回	Unit 9, Autumn Leaves 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 19 回	Unit 9, Autumn Leaves 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 20 回	Unit 10,Magellan Telescope 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 21 回	Unit 10,Magellan Telescope 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 22 回	Unit 13, Kelp Farming 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 23 回	Unit 13, Kelp Farming 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 24 回	Unit 14, Town in Two Countries 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 25 回	Unit 14, Town in Two Countries 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 26 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest 1	< Input > Vocabulary, Listening, Reading
第 27 回	Unit 15, Drones Protecting the Forest 2	< Output > Summary, Writing, Speaking
第 28 回	学期末のまとめ	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各 1 時間以上を標準とする。週に一回 100 分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習：《偶数週》教科書の Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph に取り組む
《奇数週》Comprehension Questions, Summary に取り組む
復習：授業内で伝えた内容を確認し、Listening, Reading, Writing, Speaking に取り組む

【テキスト（教科書）】
書名： CNN 10 Student News Vol. 10
著者：関戸冬彦 / 小暮正人 / Arnold Jake / Mattson Christopher
出版社：朝日出版社
価格： 1,980 円（本体 1,800 円+税）
ISBN ： 978-4-255-15678-1

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：授業中のアクティビティ《20%》
課題：上述の予習課題《20%》
小テスト：単語や表現などを扱う復習のテスト《20%》
試験：筆記試験（リスニングとリーディング）《40%》

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、春学期がオンライン授業が主になり、秋学期は対面授業が主となった。授業形態を問わず、フィードバックの重要性を再認識することができた。フィードバックを提供する適切な瞬間とフィードバックの質を向上することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
〇 英和辞典・和英辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）
〇 パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
【クラスルール】教員が定めたクラスルールに反する行為をした学生は退出を命じる。
【学習姿勢】講義を理解し、必要があればメモを取る。教員が伝えた情報を自分で考え、時には質問したり、自分で調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by themselves if they comprehend English texts by treating them analytically and considering cultural aspects which will be given in the lectures.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To comprehend the each content of the news topics through CNN 10
2. To express the news content and one's opinions about it in English
【Learning activities outside of classroom】
Input Week: Complete the followings in the textbook: Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph
Output Week: Complete Comprehension Questions in the textbook
Review the content in each class and improve the four skills
【Grading Criteria】
In-class contribution《20%》
Assignments《20%》
Quizzes《20%》
Final Examination《40%》

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながらテキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1 (1) Arriving in London	Arriving in London (1), Dialogue
3	Unit 1 (2) Arriving in London	Arriving in London (2), Passage
4	Unit 2 (1) London's museums and art galleries	London's museums and art galleries (1), Dialogue
5	Unit 2 (2) London's museums and art galleries	London's museums and art galleries (2), Passage
6	Unit 3 (1) Royal palaces and castles	Royal palaces and castles (1), Dialogue
7	Unit 3 (2) Royal palaces and castles	Royal palaces and castles (2), Passage
8	Unit 4 (1) Sports venues	Sports venues (1), Dialogue
9	Unit 4 (2) Sports venues	Sports venues (2), Passage
10	Unit 5 (1) Shopping in London	Shopping in London (1), Dialogue
11	Unit 5 (1) Shopping in London	Shopping in London (2), Passage
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
相澤一美、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版社、2012 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション： 20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 % 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞などの資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve presentation skills.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながらテキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 6 (1) Canterbury	Canterbury (1), Dialogue
3	Unit 6 (2) Canterbury	Canterbury (2), Passage
4	Unit 7 (1) Cheddar, Wells and Glastonbury	Cheddar, Wells and Glastonbury (1), Dialogue
5	Unit 7 (2) Cheddar, Wells and Glastonbury	Cheddar, Wells and Glastonbury (2), Passage
6	Unit 8 (1) Cheltenham and Broadway	Cheltenham and Broadway (1), Dialogue
7	Unit 8 (2) Cheltenham and Broadway	Cheltenham and Broadway (2), Passage
8	Unit 9 (1) Chester	Chester (1), Dialogue
9	Unit 9 (2) Chester	Chester (2), Passage
10	Unit 10 (1) The Yorkshire Dales	The Yorkshire Dales (1), Dialogue
11	Unit 10 (2) The Yorkshire Dales	The Yorkshire Dales (2), Passage
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
相澤一美、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版社、2012 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション： 20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 % 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve presentation skills.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

ABUDUREHEMAN ADILAN

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながらテキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1 (1) Arriving in London	Arriving in London (1), Dialogue
3	Unit 1 (2) Arriving in London	Arriving in London (2), Passage
4	Unit 2 (1) London's museums and art galleries	London's museums and art galleries (1), Dialogue
5	Unit 2 (2) London's museums and art galleries	London's museums and art galleries (2), Passage
6	Unit 3 (1) Royal palaces and castles	Royal palaces and castles (1), Dialogue
7	Unit 3 (2) Royal palaces and castles	Royal palaces and castles (2), Passage
8	Unit 4 (1) Sports venues	Sports venues (1), Dialogue
9	Unit 4 (2) Sports venues	Sports venues (2), Passage
10	Unit 5 (1) Shopping in London	Shopping in London (1), Dialogue
11	Unit 5 (2) Shopping in London	Shopping in London (2), Passage
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	春学期の学習到達度をはかる
15	イントロダクション	秋学期の授業の目標と計画のガイダンス
16	Unit 6 (1) Canterbury	Canterbury (1), Dialogue
17	Unit 6 (2) Canterbury	Canterbury (2), Passage
18	Unit 7 (1) Cheddar, Wells and Glastonbury	Cheddar, Wells and Glastonbury (1), Dialogue
19	Unit 7 (2) Cheddar, Wells and Glastonbury	Cheddar, Wells and Glastonbury (2), Passage
20	Unit 8 (1) Cheltenham and Broadway	Cheltenham and Broadway (1), Dialogue
21	Unit 8 (2) Cheltenham and Broadway	Cheltenham and Broadway (2), Passage
22	Unit 9 (1) Chester	Chester (1), Dialogue
23	Unit 9 (2) Chester	Chester (2), Passage
24	Unit 10 (1) The Yorkshire Dales	The Yorkshire Dales (1), Dialogue
25	Unit 10 (2) The Yorkshire Dales	The Yorkshire Dales (2), Passage
26	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
27	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
28	試験とまとめ	秋学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
相澤一美、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版社、2012 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション： 20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞などの資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve presentation skills.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、特に reading 力を高めていく。（listening 力も高める。）written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline 授業の進め方・評価方法等についての説明等
2	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
3	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
4	Unit 2 Forbidden City(China)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
5	Unit 2 Forbidden City(China)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
6	Unit 3 Bath(England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
7	Unit 3 Bath(England)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
8	Unit 4 Canadian Rockies(Canada)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
9	Unit 4 Canadian Rockies(Canada)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
10	Unit 5 The Pyramids(Egypt)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
11	Unit 5 The Pyramids(Egypt)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
12	Unit 6 Ayutthaya(Thailand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
13	Unit 6 Ayutthaya(Thailand)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 1-Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。学生の本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Masakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UN-DO （2,500 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%
(諸事情により、リモート授業に変更する場合には次のようになる。
定期試験（リモート試験）25%, 授業内課題（授業での課題 →Hoppii「課題」欄に期日までに提出）50%, 授業外課題 (Hoppii「課題」欄に期日までに提出) 25%）

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）
【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。（その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。）

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the reading skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、主に reading 力を高めていく。(listening 力も高める。) written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Special Activities	Course guideline 授業の進め方・評価方法等についての説明等 (Presentation with Audience Listening)
2	Unit 7 Edinburgh Castle(Scotland)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
3	Unit 7 Edinburgh Castle(Scotland)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
4	Unit 8 Machu Picchu(Peru)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
5	Unit 8 Machu Picchu(Peru)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
6	Unit 9 Taj Mahal (India)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
7	Unit 9 Taj Mahal (India)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
8	Unit 10 Te Wahipounamu(New Zealand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
9	Unit 10 Te Wahipounamu(New Zealand)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
10	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
11	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
12	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear? (Presentation with Audience Listening)
13	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Dictation-Cloze (Listening+Reading) Dialogue, etc. (Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。学生の本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Masakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UN-DO （2,500 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%
(諸事情により、リモート授業に変更する場合には次のようになる。
定期試験（リモート試験）25%, 授業内課題（授業での課題 →Hoppii「課題」欄に期日までに提出）50%, 授業外課題 (Hoppii「課題」欄に期日までに提出) 25%)

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。)

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。)
【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。(その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。)

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the reading skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。)

【到達目標】
重要な情報を正確に聴き取る（その上に読み取る）訓練をするとともに、重要な listening strategy を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各課の Introduction, Guess the Word, What Did You See?,What Did You Hear?, Dictation-Cloze, Dialog などの作業を通じて 4 技能特に listening と presentation の力を向上を図る。(時間的理由等で省略する作業もありうる。) DVD,CD も随時使用し、written　English のみならず、oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。(原則的には授業形態としては教室における講義形式が主であるが、新型コロナウィルス感染状況等によってはリモート形式になる可能性もある。もちろんそのような場合には事前に連絡する。学生は提出したリアクション・ペーパーや課題の全体的傾向・注意すべき点等の説明・フィードバックを授業中に口頭で、あるいは hoppii において受ける。学生からの質問で全体にも関係があるものについては授業にてあるいは hoppii で応答する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	Orientation, Special Activities
2	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
3	Unit 1 Statue of Liberty(U.S.A.)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
4	Unit 2 Forbidden City(China)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
5	Unit 2 Forbidden City(China)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
6	Unit 3 Bath(England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
7	Unit 3 Bath(England)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
8	Unit 4 Canadian Rockies (Canada)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
9	Unit 4 Canadian Rockies (Canada)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
10	Unit 5 The Pyramids (Egypt)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
11	Unit 5 The Pyramids (Egypt)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
12	Unit 6 Ayutthaya (Thailand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
13	Unit 6 Ayutthaya (Thailand)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
14	総合復習・定期考査	Unit 1-6
15	Orientation Special Activities	Orientation, Special Activities
16	Unit 7 Edinburgh Castle (England)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
17	Unit 7 Edinburgh Castle (England)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
18	Unit 8 Machu Picchu (Peru)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
19	Unit 8 Machu Picchu (Peru)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
20	Unit 9 Taj Mahal (India)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
21	Unit 9 Taj Mahal (India)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
22	Unit 10 Te Wahipounamu (New Zealand)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
23	Unit 10 Te Wahipounamu (New Zealand)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
24	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
25	Unit 11 Shirakawa-go (Japan)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
26	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Introduction, Guess the Word, What Did You See? What Did You Hear?(Presentation with Audience Listening)
27	Unit 12 Cappadocia (Turkey)	Dictation-Cloze, Dialog(Presentation with Audience Listening)
28	総合復習・定期考査	Unit 7- Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。）
復習（前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。）
課題（課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。）学生の本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Mosakazu Someya, Fred Ferrasci『World Heritage on DVD（DVD で学ぶ世界遺産）』NAN'UNDO(2,500 円（税別）)

【参考書】
授業で必要となる資料は随時プリントにて配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25%（「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。）60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
メディア、いろいろな情報源を活用して、受け身だけにはならない授業、積極的に参加できる授業をめざす。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし（必要な場合には事前に連絡する。）辞書・電子辞書の持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。(授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。)

【その他の重要事項】
できる限り出席して積極的に授業に取り組むことが望ましい。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えることができるよう、常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。)

【注意点】
新型コロナウィルス感染が収束することが十分考えられ通常授業形態を基本にシラバスを作成しているが、万が一感染状況が不安視される場合には授業形態・授業進度・日程・評価方法（その比率）等においての微調整がなされる可能性もあることを付記しておきます。（その場合には大学側もしくは担当教員側から事前に連絡します。）

【Outline (in English)】
This class aims to get the students to gain the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with the listening skill mainly stressed. Also it aims to improve their presentation skills based upon information and thoughts acquired through their listening and reading skills.
(Presentation can be given either in the oral or written form.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評 文法復習①五文型	答案返却、記事③前半
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。
準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
できるだけ新しい教材を使うため、教員が用意するプリントを使用する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行う。
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline (in English)】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target. They will also learn how to read headlines, leads, and captions.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月 2/Mon.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康と生活の質をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	文法復習①仮定法	記事①
3	文法復習②分詞構文	記事①続き
4	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
5	文法復習④不定詞	記事②前半
6	文法復習⑤付帯状況	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
9	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
10	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
11	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
12	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。
準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
できるだけ新しい教材を使うため、教員が用意するプリントを使用する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち運び可能な PC、タブレット、電子辞書等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行う。
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline (in English)】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English (more advanced level than English III (a)) as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
春学期
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。
秋学期
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評　改行文法復習①五文型	答案返却、記事③前半
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ
15	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
16	文法復習①仮定法	記事①
17	文法復習②分詞構文	記事①続き
18	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
19	文法復習④不定詞	記事②前半
20	文法復習⑤付帯状況	記事②後半
21	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
22	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
23	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
24	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
25	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
26	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
27	文法復習のまとめ	記事⑤後半
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
　授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。
準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を用いるため、教員が用意するプリントを使用する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等は Hoppii で行う。
学生の興味関心、理解度に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline (in English)】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target.　They will also learn how to read headlines, leads, and captions.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための基礎的な力を身につける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などを復習する。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを活かしてライティングをおこなう。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、長めの文章を作ることができる。また、パラグラフ・ライティングの基本を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したり、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書いたりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語 2 つの文・1 つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題は各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：30 %、課題：20 %、期末試験：50 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the basic paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための基礎的な力を身につける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などを復習する。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを活かしてライティングをおこなう。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、長めの文章を作ることができる。また、パラグラフ・ライティングの基本を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したり、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書いたりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
2	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
3	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
4	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
5	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
6	Lesson 17. Super White	比較
7	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾
8	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
9	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
10	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
11	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
12	Lesson 23. A Letter to the Editor	it を使った構文
13	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題は各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 30 %、課題： 20 %、期末試験： 50 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the basic paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための基礎的な力を身につける。そのために授業では次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などを復習する。英文の内容・要点を正確に把握できる。それらを活かしてライティングをおこなう。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、長めの文章を作ることができる。また、パラグラフ・ライティングの基本を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後、授業の進度状況に応じて文法の小テストを実施したり、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書いたりして理解度をはかる。課題や小テストなどのフィードバックに関しては授業内や Hoppii 等を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語 2 つの文・1 つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
16	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
17	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
18	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
19	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
20	Lesson 17. Super White	比較

21	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾
22	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
23	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
24	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
25	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
26	Lesson 23. A Letter to the Editor	it を使った構文
27	ディスカッション	ディスカッションと課題提出
28	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。課題は各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：30 %、課題 (春学期+秋学期)：20 %、期末試験 (春学期+秋学期)：60 %、合計 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
The purpose of the course is to learn how to explain students' concern and the news, and how to express their opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills. The goal of this course is to understand the basic paragraph writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), essay (20%), and Term-end examination (50%).

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
1　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
2　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
3　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
4　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方などを確認する。
2	Unit1: Introducing Yourself (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
3	Unit1: Introducing Yourself (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
4	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
5	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
6	Unit3: Talking about Friends and Family (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
7	Unit3: Talking about Friends and Family (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
8	Unit4: Talking about Movies and TV (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
9	Unit4: Talking about Movies and TV (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
10	Unit5: Talking about Music (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
11	Unit5: Talking about Music (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
12	Unit6: Talking about Books (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
13	Unit6: Talking about Books (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
14	まとめと試験	発音記号を理解し、正しい英語の発音が身に付いたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。

授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０％、試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
１　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
２　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
３　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
４　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7: Talking about Food (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
2	Unit7: Talking about Food (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
3	Unit8: Talking about Health (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
4	Unit8: Talking about Health (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
5	Unit9: Talking about Illness (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
6	Unit9: Talking about Illness (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
7	Unit10: Talking about Culture (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
8	Unit10: Talking about Culture (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
9	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
10	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
11	プレゼンテーション原稿作成	アカデミックライティングの書き方を学ぶ。
12	プレゼンテーションの練習	英語における効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。
13	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
14	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０％、プレゼンテーション５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとることができるように、主にリスニングとスピーキングスキルを向上させることである。

【到達目標】
１　発音記号を理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。
２　英語の音声変化やリズム、イントネーションを身につけることができる。
３　日常生活で役立つフレーズを学び、ペアワークでアウトプットすることにより、実践的なコミュニケーション能力を向上することができる。
４　効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行い、ペアワークを通して実際に役立つ英語表現を身につけていく。使用するテキストはオンライン学習システムが完備され、コンピューターが発音の判定をするので、苦手な発音を把握することができ、トレーニングに最適である。自宅での学習でも大いに活用してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方などを確認する。
2	Unit1: Introducing Yourself (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
3	Unit1: Introducing Yourself (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
4	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
5	Unit2: Talking about Hobbies and Interests (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
6	Unit3: Talking about Friends and Family (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
7	Unit3: Talking about Friends and Family (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
8	Unit4: Talking about Movies and TV (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
9	Unit4: Talking about Movies and TV (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
10	Unit5: Talking about Music (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
11	Unit5: Talking about Music (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
12	Unit6: Talking about Books (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
13	Unit6: Talking about Books (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
14	まとめと試験	発音記号を理解し、正しい英語の発音が身に付いたかを確認する。
15	Unit7: Talking about Food (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
16	Unit7: Talking about Food (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes

17	Unit8: Talking about Health (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
18	Unit8: Talking about Health (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
19	Unit9: Talking about Illness (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
20	Unit9: Talking about Illness (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
21	Unit10: Talking about Culture (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
22	Unit10: Talking about Culture (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
23	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (1)	Vocabulary, Warm-up for Listening and Speaking, Conversation
24	Unit11: Talking about Holidays and Festivals (2)	Pronunciation Check, Focus on Function, Communication Outcomes
25	プレゼンテーション原稿作成	アカデミックライティングの書き方を学ぶ。
26	プレゼンテーションの練習	英語における効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。
27	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
28	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組むこと。授業後は、授業で学んだ発音と表現を実際に声に出して繰り返し練習することが求められる。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
James Bury 他『Complete Communication Book2 コミュニケーションのための実践演習 Book2』成美堂、2022 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期
課題５０％、試験５０％
秋学期
課題５０％、プレゼンテーション５０％

【学生の意見等からの気づき】
一方通行の授業にならないよう、ペアワークやディスカッションを取り入れながら学習者が積極的に授業に参加できるよう進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にもノート PC や iPad があると課題に取り組みやすい。

【その他の重要事項】
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to improve students' listening and speaking skills in English so that they can feel more confident when communicating with others.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり（例えば、授業１回で Unit １つを消化する）、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 3 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 4 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 5 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 1, Grammar

第 6 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 2, Writing
第 7 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 1, Grammar
第 8 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 2, Writing
第 9 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 1, Grammar
第 10 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 2, Writing
第 11 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 1, Grammar
第 12 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 2, Writing
第 13 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 1, Grammar
第 14 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 2, Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純．(2021).『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング．(2,150 円＋税)
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) １つ１つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり（例えば、授業１回で Unit １つを消化する）、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・提出課題の講評
第 2 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 3 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 1, Grammar
第 4 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 2, Writing
第 5 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 1, Grammar
第 6 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 2, Writing
第 7 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 1, Grammar
第 8 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 2, Writing
第 9 回	Unit 13 Weighing Strengths and Weaknesses	Reading 1, Grammar
第 10 回	Unit 13 Weighing Strengths and Weaknesses	Reading 2, Writing
第 11 回	Unit 14 One Step at a Time	Reading 1, Grammar
第 12 回	Unit 14 One Step at a Time	Reading 2, Writing
第 13 回	Unit 15 Data Presentation the Simple Way	Reading 1, Grammar
第 14 回	Unit 15 Data Presentation the Simple Way	Reading 2, Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
Robert Hickling・八島純.（2021）.『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) １つ１つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語の writing のルールに則り、短めかつ論理的な paragraph を複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれた passage の読解練習やそのルールに基づいた writing の演習問題・課題を通じて、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習によりきちんと定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書の passage 等に用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプの paragraph をそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
２．授業の進め方
基本的には、授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、教科書の１つの Unit の消化にかける時間を調節したり（例えば、授業１回で Unit １つを消化する）、別のプリント教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下に記載の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading 1 の passage を読解しながら、その passage 内でポイントとなる文法の解説を行い、その後に文法の演習問題を解いて学んだ文法知識の定着を図ります。
２回目の授業では、Reading 1 よりも多少長めの Reading 2 の passage を同じく読解しつつ、その passage で用いられている paragraph のパターンや writing のルールを学んでいきます。その後、それらのパターン・ルールをきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
授業中に行う読解・演習問題は、基本的には履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきますので、授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、履修者はその日の授業範囲の予習を必ず行ったうえで授業に臨んでください。また、教科書の各 Unit の最後には短めの paragraph を作成する問題が掲載されており、この問題は各 Unit の仕上げの writing 提出課題として、毎 Unit 分を必ず提出してもらいます。さらに１つの Unit が終わったら、次の授業回でその Unit の内容の理解度を確認するための小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1 These Are the Facts	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 3 回	Unit 2 Separating into Groups	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 4 回	Unit 3 If I Were You...	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 5 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 1, Grammar

第 6 回	Unit 4 Sizing Things Up	Reading 2, Writing
第 7 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 1, Grammar
第 8 回	Unit 5 Mission Accomplished	Reading 2, Writing
第 9 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 1, Grammar
第 10 回	Unit 6 This Really Happened	Reading 2, Writing
第 11 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 1, Grammar
第 12 回	Unit 7 Every Problem Has a Solution	Reading 2, Writing
第 13 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 1, Grammar
第 14 回	Unit 8 Let Me Make It Clear	Reading 2, Writing
第 15 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・提出課題の講評
第 16 回	Unit 9 Don't You See It My Way?	Reading 1, Grammar, Reading 2, Writing
第 17 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 1, Grammar
第 18 回	Unit 10 One Thing Leads to Another	Reading 2, Writing
第 19 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 1, Grammar
第 20 回	Unit 11 This Is the Same, but That's Not	Reading 2, Writing
第 21 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 1, Grammar
第 22 回	Unit 12 What Do You Think?	Reading 2, Writing
第 23 回	Unit 13 Weighing Strengths and Weaknesses	Reading 1, Grammar
第 24 回	Unit 13 Weighing Strengths and Weaknesses	Reading 2, Writing
第 25 回	Unit 14 One Step at a Time	Reading 1, Grammar
第 26 回	Unit 14 One Step at a Time	Reading 2, Writing
第 27 回	Unit 15 Data Presentation the Simple Way	Reading 1, Grammar
第 28 回	Unit 15 Data Presentation the Simple Way	Reading 2, Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading 1, 2 の passage を読んで内容を把握してくる、文法や writing ルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
passage における複雑な構造の文の意味解釈や文法、writing のルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理・記憶し、各 Unit の終わりごとに行われる小テストに備えてください。また、教科書の各 Unit の最後に掲載されている paragraph の作成問題は授業外での課題としますので、必ず作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純. (2021).『Jigsaw INTRO - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力＜初級編＞』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 50%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）40%、小テスト 10%
２．特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度担当時には、(1) １つ１つの学習項目の説明に時間を掛けすぎた、(2) 不慣れな「オンライン授業」のため、授業のスピードが全体的に遅くなってしまった、(3) 教員の体調不良、等の理由により、シラバスの「授業計画」に記載した内容をすべて消化することができませんでした。これらの点を反省し、本年度は「オンライン授業」にシフトした場合の授業方法もあらかじめしっかりと準備したうえで、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を調整することで、シラバスの「授業計画」の内容をきちんと網羅した授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、辞書は授業中に新たに出された課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な履修者は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students write several patterns of short and logical paragraphs based on English writing rules. Therefore, this course will place emphasis on learning rules needed to write paragraphs in English and reviewing grammar which students have studied so far through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Absorbing grammatical knowledge which students have studied until high school by reviewing and becoming able to write each sentence with clarity utilizing the knowledge.
(b) Acquiring vocabulary words in various fields which are included in the textbook.
(c) After understanding basic rules of writing an essay such as Paragraph Writing, becoming able to compose a variety of paragraph styles based on the rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the passages of Reading 1 and 2 in each unit of the textbook looking up words and idioms that they do not know in the dictionary and figure out the contents of the passages. In addition, they need to solve practice problems in the textbook reading through the explanation of grammar and rules of writing which is included in each unit.
(b) Review and Submitting writing assignments
Students are required to review the contents of that day's class; for example, comprehending the meaning of a sentence which is structurally complicated, grammar, and rules of writing as preparatory study for a quiz in each unit. Furthermore, an assignment of writing a paragraph will be given to students in each unit, so they must complete and submit it.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 50%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes, other homework): 40%
Quizzes: 10%

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語は目的ではなくコミュニケーションを成立させる手段として捉え、必要な知識や理論を体系的に学ぶことで実践力を磨く。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けによって、リスニング・リーディングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。取り上げる英文や会話文について、文法的な正しさに加えて、発音やイントネーションに着目し学習し、音声面からも英語として自然な表現を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Unit ごとに、"A Crucial Points of English Grammar"　で学習テーマである文法項目を確認、学習する。次に実践応用編として、TOEIC の出題形式に即した問題を演習形式でを行う。学習を進めていく中で、英語として自然な発話につながる発音記号やアクセントの位置を適宜確認する。また問題文で用いられている語句について、類義語や置き換え可能な表現についても学習し、応用練習をする。1 ユニットを前半・後半と 2 回に分けて仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、成績評価に関する説明等
2	Unit 1 "Noun and Pronoun" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 名詞　可算・不可算" Mock Test: Reading「名詞・代名詞」
3	Unit 1 "Noun and Pronoun" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(1) Listening Practice: Contraction「音の短縮」(1)
4	Unit 2 "Verb and Sentence Patterns/ Auxiliary Verb" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:動詞・五文型/助動詞" Mock Test: Reading「動詞・助動詞」
5	Unit 2 "Verb and Sentence Patterns" 後半	Mock Test: Listening「Talk and Graphic」(1) Listening Practice: Contraction「音の短縮」(2)
6	Unit 3 "Adjective and Adverb" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 形容詞・副詞、品詞の区別" Mock Test: Reading「形容詞・副詞」
7	Unit 3 "Adjective and Adverb" 後半	Listening Practice: Contraction「音の連結」 Mock Test: Reading「Text Completion」(1)
8	Unit 4 "Comparison / Negation"前半	"A Crucial Points of English Grammar: 比較と否定の表現" Mock Test: Reading「比較表現/部分否定・完全否定」
9	Unit 4 "Comparison / Negation"後半	Listening Practice: Reduction「音の弱化」(1) Mock Test: Listening「Conversation」(2)
10	Unit 5 "Preposition / conjunction" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:前置詞・接続詞" Mock Test: Reading「前置詞 / 接続詞」
11	Unit 5 "Preposition / conjunction" 後半	Listening Practice: Reduction「音の弱化」(2) Mock Test: Listening「Talk and Graphic」(2)
12	Unit 6 "Infinitive and Gerund" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 不定詞・動名詞" Mock Test: Reading「不定詞 / 動名詞」
13	Unit 6 "Infinitive and Gerund" 後半	Listening Practice: Elision「音の消失」 Mock Test: Reading「Text Completion」(2)
14	Term-end Exam	春学期学習した内容に関する理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために 1 時間。合計 2 時間。さらに、メディアを通して時事問題を始め、さまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。なお、テキストの音声はオンライン（無料）で利用可能なので、学習用として随時利用することを奨励する。

【テキスト（教科書）】
URABE, Takashi [浦部尚志] *Success Course for the TOEIC Listening and Reading Test*. Eiko-sha, 2016

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変に授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。授業連絡、課題指示などは本システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度、授業形態の変更によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
This course will focus on developing "oral" and "aural" communication. However, attention will be given to reading and writing as well. Listening, speaking, reading and writing will be combined throughout the course. In addition, we will study grammar in the unit so as to learn the expressions more accurately and effectively.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語は目的ではなくコミュニケーションを成立させる手段として捉え、必要な知識や理論を体系的に学び、深めることで実践力を磨く。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けによって、リスニング・リーディングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。取り上げる英文や会話文について、文法的な正しさに加えて、発音やイントネーションに着目し学習し、音声面からも英語として自然な表現を身に着け、実際の場面で使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期同様に、Unit ごとに、"A Crucial Points of English Grammar" で学習テーマである文法項目を確認、学習する。次に実践応用編として、TOEIC の出題形式に即した問題を演習形式でを行う。学習を進めていく中で、英語として自然な発話につながる発音記号やアクセントの位置を適宜確認する。また問題文で用いられている語句について、類義語や置き換え可能な表現についても学習し、応用練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation（ガイダンス）	春学期の振り返りと秋学期の進め方などについて説明する。
第 2 回	Unit 7 "Participle: Present & Past" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:現在分詞・過去分詞" Mock Test: Reading「現在分詞・過去分詞」
第 3 回	Unit 7 "Participle: Present & Past" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(3) Listening Practice: Deletion「音の脱落」(1)
第 4 回	Unit 8 "Participle Construction" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 分詞構文" Mock Test: Reading「分詞構文」
第 5 回	Unit 8 "Participle Construction" 後半	Mock Test: Listening (Talk and Graphic)（3）Listening Practice: ontraction「音の脱落」(2)
第 6 回	Unit 9 "Subjective Mood" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 仮定法" Mock Test: Reading「仮定法」
第 7 回	Unit 9"Subjective Mood" 後半	Mock Test: Reading (Text Completion)(3) Listening Practice: Assimilation「音の同化－融合同化」(1)
第 8 回	Unit 10 "Sequence of Tenses" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:時制と関連用法" Mock Test: Reading「時制と関連用法」
第 9 回	Unit 10 "Sequence of Tenses" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(4) Listening Practice: Assimilation「音の同化－進行同化」(2)
第 10 回	Unit 11 "Relatives" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 関係詞" Mock Test: Reading「関係詞」
第 11 回	Unit 11 "Relatives" 後半	Mock Test: Listening (Talk and Graphic)(4) Listening Practice: Assimilation「音の同化－逆行同化」(3)
第 12 回	Unit 12 "Article, others" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 冠詞" Mock Test: Reading「冠詞」
第 13 回	Unit 12 "Article, others" 後半	Mock Test: Listening (Conversation) Listening Practice: Assimilation「音の同化－鼻音化」(4)
第 14 回	Term-end Exam	学習内容の理解度を確認するテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために 1 時間。合計 2 時間。さらにメディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。なお、テキストの音声はオンライン（無料）で利用可能なので、学習用として随時利用することを奨励する。

【テキスト（教科書）】
URABE, Takashi [浦部尚志] *Success Course for the TOEIC Listening and Reading Test*. Eiko-sha, 2016

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変に授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。授業連絡、課題指示などは本システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度、授業形態の変更によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
This course will follow on from the first, English IV(a); this means that we will focus on the same skills covered and obtained. We will study grammar as well in order to learn the expressions more effectively.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語は目的ではなくコミュニケーションを成立させる手段として捉え、必要な知識や理論を体系的に学ぶことで実践力を磨く。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けによって、リスニング・リーディングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。取り上げる英文や会話文について、文法的な正しさに加えて、発音やイントネーションに着目し学習し、音声面からも英語として自然な表現を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Unit ごとに、"A Crucial Points of English Grammar"　で学習テーマである文法項目を確認、学習する。次に実践応用編として、TOEIC の出題形式に即した問題を演習形式でを行う。学習を進めていく中で、英語として自然な発話につながる発音記号やアクセントの位置を適宜確認する。また問題文で用いられている語句について、類義語や置き換え可能な表現についても学習し、応用練習をする。1 ユニットを前半・後半と 2 回に分けて仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、成績評価に関する説明等
2	Unit 1 "Noun and Pronoun" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 名詞　可算・不可算" Mock Test: Reading「名詞・代名詞」
3	Unit 1 "Noun and Pronoun" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(1) Listening Practice: Contraction「音の短縮」(1)
4	Unit 2 "Verb and Sentence Patterns/ Auxiliary Verb" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:動詞・五文型/助動詞" Mock Test: Reading「動詞・助動詞」
5	Unit 2 "Verb and Sentence Patterns/ Auxiliary Verb" 後半	Mock Test: Listening「Talk and Graphic」(1) Listening Practice: Contraction「音の短縮」(2)
6	Unit 3 "Adjective and Adverb" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 形容詞・副詞、品詞の区別" Mock Test: Reading「形容詞・副詞」
7	Unit 3 "Adjective and Adverb" 後半	Listening Practice: Contraction「音の連結」 Mock Test: Reading「Text Completion」(1)
8	Unit 4 "Comparison / Negation" 前半	A Crucial Points of English Grammar: 比較と否定の表現" Mock Test: Reading「比較表現/部分否定・完全否定」
9	Unit 4 "Comparison / Negation" 後半	Listening Practice: Reduction「音の弱化」(1) Mock Test: Listening「Conversation」(2)
10	Unit 5 "Preposition / conjunction" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:前置詞・接続詞" Mock Test: Reading「前置詞 / 接続詞」
11	Unit 5 "Preposition / conjunction" 後半	Listening Practice: Reduction「音の弱化」(2) Mock Test: Listening「Talk and Graphic」(2)
12	Unit 6 "Infinitive and Gerund" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 不定詞・動名詞" Mock Test: Reading「不定詞 / 動名詞」
13	Unit 6 "Infinitive and Gerund" 後半	Listening Practice: Elision「音の消失」 Mock Test: Reading「Text Completion」(2)
14	Term-end Exam	春学期学習した内容に関する理解度の確認テスト
15	Orientation（ガイダンス）	春学期の振り返りと秋学期の進め方などについて説明する。
16	Unit 7 "Participle: Present & Past" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:現在分詞・過去分詞" Mock Test: Reading「現在分詞・過去分詞」
17	Unit 7 "Participle: Present & Past" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(3) Listening Practice: Deletion「音の脱落」(1)
18	Unit 8 "Participle Construction" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 分詞構文" Mock Test: Reading「分詞構文」
19	Unit 8 "Participle Construction" 後半	Mock Test: Listening (Talk and Graphic)（3）Listening Practice: ontraction「音の脱落」(2)
20	Unit 9 "Subjective Mood" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 仮定法" Mock Test: Reading「仮定法」
21	Unit 9 "Subjective Mood" 後半	Mock Test: Reading (Text Completion)(3) Listening Practice: Assimilation「音の同化－融合同化」(1)
22	Unit 10 "Sequence of Tenses" 前半	"A Crucial Points of English Grammar:時制と関連用法" Mock Test: Reading「時制と関連用法」
23	Unit 10 "Sequence of Tenses" 後半	Mock Test: Listening (Conversation)(4) Listening Practice: Assimilation「音の同化－進行同化」(2)
24	Unit 11 "Relatives" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 関係詞" Mock Test: Reading「関係詞」
25	Unit 11 "Relatives" 後半	Mock Test: Listening (Talk and Graphic)(4) Listening Practice: Assimilation「音の同化－逆行同化」(3)
26	Unit 12 "Article, others" 前半	"A Crucial Points of English Grammar: 冠詞" Mock Test: Reading「冠詞」
27	Unit 12 "Article, others" 後半	Mock Test: Listening (Conversation) Listening Practice: Assimilation「音の同化－鼻音化」(4)
28	Term-end Exam	学習内容の理解度を確認するテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために１時間。合計２時間。さらにメディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。なお、テキストの音声はオンライン（無料）で利用可能なので、学習用として随時利用することを奨励する。

【テキスト（教科書）】
URABE, Takashi [浦部尚志] *Success Course for the TOEIC Listening and Reading Test.* Eiko-sha, 2016

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度 40 %　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験 40 %　③課題や提出物 20 %　以上３点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変に授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。授業連絡、課題指示などは本システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度、授業形態の変更によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and speaking. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English.　First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics.　Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting.　There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)

Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete homework assignments and pass the final test. Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and con fi dent communicators in the global society.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（ ）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文 化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete homework assignments and pass the final test. Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and con fi dent communicators in the global society.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

URBANOVA　Jana

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
（2022 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be re fl ected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)

Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete homework assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Week 2	Unit 1, Describe Daily activities	Narrative writing
Week 3	Unit 1, Describe Daily activities	speaking & listening activities
Week 4	Unit 2, Describe a friend	Descriptive writing
Week 5	Unit 2, Describe a friend	speaking & listening activities
Week 6	Practice Units 1 & 2	Review Units 1 & 2
Week 7	Unit 3, Write a friendly message	Writing a friendly letter or e-mail
Week 8	Unit 3, Write a friendly message	speaking & listening activities
Week 9	Unit 4, Explain directions	Technical writing
Week 10	Unit 4, Explain directions	speaking & listening activities
Week 11	Practice Units 3 & 4	Review Units 3 & 4
Week 12	Unit 5, Write a story	Personal narrative
Week 13	Unit 5, Write a story	speaking & listening activities
Week 14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Week 2	Unit 6, Make a written request	Writing a formal letter
Week 3	Unit 6, Make a written request	speaking & listening activities
Week 4	Practice Units 5 & 6	Review Units 5 & 6
Week 5	Unit 7, Compare and contrast	Compare and contrast writing
Week 6	Unit 7, Compare and contrast	speaking & listening activities
Week 7	Unit 8, Explain a topic	Write a research report
Week 8	Unit 8, Explain a topic	speaking & listening activities
Week 9	Practice Units 7 & 8	Review Units 7 & 8
Week 10	Unit 9, Write a biography	Biographical narrative
Week 11	Unit 10, Response to Literature	Write a review of literature
Week 12	Unit 10, Response to Literature	speaking & listening activities
Week 13	Practice Units 9 & 10	Review Units 9 & 10
Week 14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる総合的な英語力を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。プレゼンテーションを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。
その上、英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Week 2	Unit 1, Describe Daily activities	Narrative writing
Week 3	Unit 1, Describe Daily activities	speaking & listening activities
Week 4	Unit 2, Describe a friend	Descriptive writing
Week 5	Unit 2, Describe a friend	speaking & listening activities
Week 6	Practice Units 1 & 2	Review Units 1 & 2
Week 7	Unit 3, Write a friendly message	Writing a friendly letter or e-mail
Week 8	Unit 3, Write a friendly message	speaking & listening activities
Week 9	Explain directions	Technical writing
Week 10	Explain directions	speaking & listening activities
Week 11	Practice Units 3 & 4	Review Units 3 & 4
Week 12	Unit 5, Write a story	Personal narrative
Week 13	Unit 5, Write a story	speaking & listening activities
Week 14	Review	学期末まとめ
Week 1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Week 2	Unit 6, Make a written request	Writing a formal letter
Week 3	Unit 6, Make a written request	speaking & listening activities
Week 4	Practice Units 5 & 6	Review Units 5 & 6
Week 5	Unit 7, Compare and contrast	Compare and contrast writing
Week 6	Unit 7, Compare and contrast	speaking & listening activities
Week 7	Unit 8, Explain a topic	Write a research report
Week 8	Unit 8, Explain a topic	speaking & listening activities
Week 9	Practice Units 7 & 8	Review Units 7 & 8
Week 10	Unit 9, Write a biography	Biographical narrative
Week 11	Unit 10, Response to Literature	Write a review of literature
Week 12	Unit 10, Response to Literature	speaking & listening activities
Week 13	Practice Units 9 & 10	Review Units 9 & 10
Week 14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で行う作業の必要時間。1 時間/週
必要な作業：授業の予習、語彙の復習、宿題、プレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】
Linda Lonon Blanton: Step-by-Step writing, book 2, a standards-based approach
Cengage Learning, Student's book ISBN 978-1-4240-0401-0

【参考書】
Step-by-Step writing, book 2
Linda Lonon Blanton

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline (in English)】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ①〜②, Your Song , Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③〜④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤〜⑥
9	Power Exercises ＋ α , レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥〜⑦
11	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧〜⑨
13	Power Exercises ＋ α , まとめ	Power Exercises, Film ⑨〜⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。
オンラインでの開講となり成績評価の方法と基準も変更となった場合、
具体的な方法と基準に関しては、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）**カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
3	Power Exercises + α	Exercise 10, Coin changer, Film ①
4	Human Creativity	Lesson 8, The Diplomacy, Film ①〜②
5	Power Exercises + α , プレゼンテイションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテイションについて指示、説明
6	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
7	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ②〜③
8	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
9	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ③〜④
10	プレゼンテイション準備	Exercise まとめ, 力だめし
11	思いを表現する　プレゼン　第 1 グループ	プレゼンテーション 発表者の思いを聞く
12	思いを表現する　プレゼン　第２グループ	プレゼンテーション 要点を意識してリスニングする
13	思いを表現する　プレゼン第３グループ	プレゼンテーション 自分の意見を言葉に変える
14	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments（10%）, presentation（10%） will be totally evaluated.
Learning activities outside of classroom: 1 hour

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**
※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
罹患者数の増、あるいは大学の方針にもとづくオンライン授業への変更の際には、各回の授業計画の変更なども含め、学習支援システムでその都度、提示いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ①〜②, Your Song , Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③〜④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤〜⑥
9	Power Exercises + α , レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥〜⑦
11	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧〜⑨
13	Power Exercises + α , まとめ	Power Exercises, Film ⑨〜⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
17	Power Exercises + α	Exercise 10, Coin changer, Film ①
18	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①〜②
19	Power Exercises + α , プレゼンテイションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテイションについて指示、説明
20	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
21	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ②〜③
22	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
23	Power Exercises + α	Power Exercises, Film ③〜④
24	プレゼンテイション準備	Exercise まとめ, 力だめし
25	思いを表現する　プレゼン　第 1 グループ	プレゼンテーション　発表者の思いを聞く
26	思いを表現する　プレゼン　第 2 グループ	プレゼンテーション　要点を意識してリスニングする
27	思いを表現する　プレゼン第 3 グループ	プレゼンテーション　自分の意見を言葉に変える
28	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。
オンラインでの開講となり成績評価の方法と基準も変更となった場合、
具体的な方法と基準に関しては、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Attendance & active participation（20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.
Learning activities outside of classroom: 1 hour

LANe100IA

英語コミュニケーションⅠ（a）

URBANOVA　Jana

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parroting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に英語で会話できるように一緒に頑張りましょう。
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーションⅠ（b）

URBANOVA　Jana

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parroting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading exercise: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に英語で会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline (in English)】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーションⅠ

URBANOVA　Jana

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parroting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading exercise: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に英語で会話できるように一緒に頑張りましょう。
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ（a）

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in
which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions ①	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions ②	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things ②	Group practice, class presentation
8	Places, directions ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
9	Places, directions ②	Group practice, class presentation
10	Recalling Past Experiences ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
11	Recalling Past Experiences ②	Group practice, class presentation
12	Making Plans ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
13	Making Plans ②	Group practice, class presentation
14	Speeches	Second class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese- English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【その他の重要事項】
この授業は英語のレベル的に低い方の受講生向けで、最大 20 名で行う予定である。条件を満たす人数は 20 名を上回る場合が抽選を行う。

【Outline (in English)】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ（b）

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and gram- mar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Sports Topics	About sports in general Vocabulary and discussion
2	Sports Topics	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
3	Sports Topics	Nutrition, health, fitness and injuries.Vocabulary and discussion
4	Sports Topics	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
5	Speeches, presentations	Third class speech
6	Sports Topics	Sports training Vocabulary and discussion
7	Sports Topics	Individual sports Vocabulary and discussion
8	Sports Topics	Ball sports Vocabulary and discussion
9	Sports Topics	Water sports Vocabulary and discussion
10	Sports Topics	Winter sports Vocabulary and discussion
11	Speeches, presentations	Fourth class speech
12	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
13	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
14	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【その他の重要事項】
Basic (N3 or higher) English knowledge is required.
この授業は英語のレベル的に高い方の受講生向けで、最大 20 名で行う予定である。条件を満たす人数は 20 名を上回る場合が抽選を行う。

【Outline (in English)】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches and on site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions ①	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions ②	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches ①	First class speech
6	Describing people, places, and things ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things ②	Group practice, class presentation
8	Places, directions ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
9	Places, directions ②	Group practice, class presentation
10	Recalling Past Experiences ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
11	Recalling Past Experiences ②	Group practice, class presentation
12	Making Plans ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
13	Making Plans ②	Group practice, class presentation
14	Speeches ②	Second class speech
15	Sports Topics ①	About sports in general Vocabulary and discussion
16	Sports Topics ②	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion

17	Sports Topics ③	Nutrition, health, fitness and injuries Vocabulary and discussion
18	Sports Topics ④	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
19	Speeches, presentations ③	Third class speech
20	Sports Topics ⑤	Sports training Vocabulary and discussion
21	Sports Topics ⑥	Individual sports Vocabulary and discussion
22	Sports Topics ⑦	Ball sports Vocabulary and discussion
23	Sports Topics ⑧	Water sports Vocabulary and discussion
24	Sports Topics ⑨	Winter sports Vocabulary and discussion
25	Speeches, presentations ④	Fourth class speech
26	Student Interest Topic ①	Group presentations followed by class discussion
27	Student Interest Topic ②	Group presentations followed by class discussion
28	Student Interest Topic ③	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline (in English)】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANj100IA

日本語 1- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物１）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物２）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物１）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物２）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物１）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物２）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物１）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物２）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物１）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物２）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物１）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物２）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 5/Fri.5**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物１）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物２）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物１）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物２）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物１）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物２）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
Through taking this course you will learn the academic Japanese writing skills which you need to acquire when you study effectively in an academic environment. In order to achieve this goal, you will aloso learn vocaburary and expressions needed for academic reading and writing. Furthermore, you will practice writing essays and reports, if necessary.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
Through taking this course you will learn the academic Japanese writing skills which you need to acquire when you study effectively in an academic environment. In order to achieve this goal, you will aloso learn vocaburary and expressions needed for academic reading and writing. Furthermore, you will practice writing essays and reports, if necessary.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物１）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物２）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物１）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物２）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物１）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物２）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 5/Fri.5**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続きし合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100IA

日本語 2- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 1/Wed.1**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3．発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 2/Wed.2**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3．発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3．発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100IA

日本語 2- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通して学ぶ。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	発表①故郷の紹介	受講生による発表。
第 3 回	発表②故郷の紹介	受講生による発表。
第 4 回	スライドと発表原稿の作り方／質疑応答の表現	スライドと発表原稿の作成方法を学ぶ。
第 5 回	発表③ 9 課人口減少の先にあるもの	受講生による発表。
第 6 回	発表④ 10 課社会保障の今とこれから	受講生による発表。
第 7 回	ディスカッション①少子化と社会保障	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 8 回	発表⑤ 8 課これからのエネルギー	受講生による発表。
第 9 回	発表⑥ 17 課地球環境を守るために	受講生による発表。
第 10 回	ディスカッション②環境保護と原発	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 11 回	発表⑦ 11 課働くこと、消費すること	受講生による発表。
第 12 回	発表⑧ 14 情報社会に生きる	受講生による発表。
第 13 回	ディスカッション③消費行動	ディスカッションをする。
第 14 回	発表⑨消費行動についての考え	受講生による発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編 (3・4 級対応)』日本ニュース時事能力検定協会　1,320 円（税込み）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2022 年度版です。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，発表 30 %，課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発表の方法、表現の学習、発音練習等、様々なことが学べてよかったという声がありました。受講生の要素を見ながら、必要な学習を取り入れていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
③発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学ぶ。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	読解① 7 課変わる日本産業	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第 3 回	発表①産業	受講生による発表。
第 4 回	ディスカッション① 10 年後の産業	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 5 回	読解②経済回復問われるかじ取り	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第 6 回	発表②経済対策	受講生による発表。
第 7 回	ディスカッション②経済対策	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 8 回	読解③ 12 課共生社会への道のり	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第 9 回	発表③共生社会	受講生による発表。
第 10 回	ディスカッション③共生社会	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 11 回	読解④ 15 課命の現場から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第 12 回	発表④命と医療	受講生による発表。
第 13 回	発表⑤命と医療	受講生による発表。
第 14 回	ディスカッション④命と医療	ディスカッションをして報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 「時事力」基礎編 (3・4 級対応)』日本ニュース時事能力検定協会　1,320 円（税込み）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2022 年度版です。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発表の方法、表現の学習、発音練習等、様々なことが学べてよかったという声がありました。受講生の様子を見ながら、必要な学習を取り入れていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200IA

日本語 3- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表①　プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテキストを使用したが、学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進度・課題の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見があったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに秋学期の学習目標もイメージできるよう配慮した。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える　課題 1 についてグループでミニプレゼンを行う。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末プレゼンテーション 40 %

【学生の意見等からの気づき】
「授業内容、課題の量は概ね良かった、プレゼンの良い例・悪い例や、他の学生の多様な発表に接したことはとても役に立った」、また今年度初めて実施した「学生による MC」についても「緊張したが良い経験になった」等との意見から、22 年度も期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200IA

日本語 3- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表①　プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、￥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテキストを使用したが、学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進度・課題の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見があったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに秋学期の学習目標もイメージできるよう配慮した。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表①　プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテキストを使用したが、学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進度・課題の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見があったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに秋学期の学習目標もイメージできるよう配慮した。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える　課題 1 についてグループでミニプレゼンを行う。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末プレゼンテーション 40 %

【学生の意見等からの気づき】
「授業内容、課題の量は概ね良かった、プレゼンの良い例・悪い例や、他の学生の多様な発表に接したことはとても役に立った」、また今年度初めて実施した「学生による MC」についても「緊張したが良い経験になった」等との意見から、22 年度も期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANd100IA

ドイツ語（a)

新田　誠吾

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、ドイツ語の基礎知識の習得を目指す授業です。ドイツ語 (b) の授業も同時に履修することを推奨します。

【到達目標】
1. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
2. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
3. 簡単な用件をドイツ語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、原則対面で行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・自己紹介 (1)	ドイツ語の発音と自己紹介
2	自己紹介 (2)・数詞	現在人称変化、疑問文、名詞の性
3	外国語を話しますか？	不規則変化動詞
4	人を紹介する	動詞の位置
5	好きな食べ物・好きな飲み物 (1)	好き嫌いの表現
6	好きな食べ物・好きな飲み物 (2)	食生活・食文化の比較
7	余暇と趣味 (1)	余暇や趣味に関する表現
8	余暇と趣味 (2)	話法の助動詞
9	家族と職業 (1)	叔父、叔母、いとこ等の表現
10	家族と職業 (2)	名詞の複数形
11	買い物 (1)	目的語の言い方
12	買い物 (2)	感想を言う
13	まとめ	総復習
14	授業内試験と解説	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回準備をして授業に参加すると、理解が深まります。復習も必要です。本授業の学習時間は週あたり 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子ほか (2022). 新・スツェーネン 1. 場面で学ぶドイツ語. 三修社.

【参考書】
アクセス独和辞典. 第 4 版. 2021. 三修社（推奨）
電子辞書（どの辞書でもかまわない）または辞書アプリも可。辞書は必要です。別途、参考書を購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 20%、学期末試験（口頭・筆記）が 80%で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、正当な理由なく欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
「面白かった」「ためになった」と高い評価を得ました。さらに楽しい授業を目ざします。

【Outline (in English)】
This course is designed for those who are learning German for the first time and aims to acquire a basic knowledge of the German language. It is recommended that students take German (b) at the same time.

LANj200IA

日本語 3- Ⅰ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講生は、事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では講義を聞いたり受講生同士で話し合ったりし、事後課題として文書作成に取り組む。課題については、教員が授業で解説を行うとともに個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 文章の種類	授業の進め方を知る。目的別の文章の種類について学ぶ。
第 2 回	文章の構成	パラグラフ・ライテイングで文章を書く。
第 3 回	レポートの作成①テーマ探し	レポートのテーマを決める。
第 4 回	文章の書き方①ナラティブ	活動を報告する文を書く。
第 5 回	文章の書き方②描写	事物を描写する文章を書く。
第 6 回	文章の書き方③説明	読み手が知らない事柄を説明する文章を書く。
第 7 回	文章の書き方④比較・対照	事物を比較・対照する文章を書く。
第 8 回	文章の書き方⑤図表の説明	図表の説明を書く。
第 9 回	レポート作成②アウトラインの検討	アウトラインを検討する。
第 10 回	レポートの作成③論証	自分の主張を論証する。
第 11 回	レポートの作成④背景説明と引用	問題の背景を丁寧に説明する。適切に引用を入れる。
第 12 回	文章の書き方⑥メール・手紙の書き方	メール文を作成する。
第 13 回	レポート作成⑤レポートの執筆	レポートを執筆する。
第 14 回	レポートの作成⑥レポートを読み合う	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】
田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート』くろしお出版（2,000 円税抜き）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
役に立ったが課題が多くて大変だったとのコメントがありました。課題の量に関しては、受講生の声を聞きながら調整していきたいです。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANd100IA

ドイツ語（b）

北岡　幸代

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。そして何よりも、新しい言葉を学び、使うことの楽しさをを体感します。

【到達目標】
初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
※ 2022 年度は対面授業が基本方針ですが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業は対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。
授業の進め方と方法は以下の通りです。
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) ペアワーク、グループワークによる練習を行います。
(4) 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方について。 みんなでドイツ語を話してみよう。
02	人と知り合う（1）	挨拶をしよう。 名前・出身をたずねよう。
03	人と知り合う（2）	友達を別の友達に紹介しよう。
04	人と知り合う（3）	調子・気分をきこう。
05	職業について（1）	職業に関する語彙。 名刺を読んでみよう。
06	職業について（2）	自分の仕事を語ろう。
07	職業について（3）	１００までの数字。 年齢を伝える。
08	家族について（1）	家族をめぐる語彙。 これは誰ですか？
09	家族について（2）	家族構成を語ろう。
10	家族について（3）	世界の国々と言葉。
11	買い物をしよう（1）	家具製品の語彙。 家具店での買い物。
12	買い物をしよう（2）	値段に関する表現。
13	買い物をしよう（3）	アドヴァイスを求める。 品物の感想を述べる。
14	口頭試験	口頭試験 春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習にはオンラインの学習アプリを使います。授業の復習としての提出課題を出します。本授業の準備・復習時間は、各 1〜2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』（Hueber）

【参考書】
辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒヤリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、口頭試験（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語圏の映画やドイツ語圏の動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】
・初回のガイダンスには必ず出席して下さい。
・ドイツ語（a）を同時に履修されることを推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a beginner's German class for students who are new to the language.
Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.
【Learning activities outside of classroom】
Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANd100IA

ドイツ語（c)

新田　誠吾

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、ドイツ語の基礎知識の習得を目指す授業です。ドイツ語 (d) の授業も同時に履修することを推奨します。

【到達目標】
1. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
2. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
3. 簡単な用件をドイツ語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、原則対面で行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・過去の出来事について話す (1)	現在完了形
2	過去の出来事について話す (2)	現在完了形
3	住宅 (1)	部屋の表現
4	住宅 (2)	前置詞
5	時間と日付 (1)	時間の表現
6	時間と日付 (2)	日付の表現
7	街 (1)	道案内をする
8	街 (2)	交通手段を言う
9	休暇 (1)	休暇の予定を話す
10	休暇 (2)	話法の助動詞
11	過去の体験を話す (1)	規則動詞の過去形
12	過去の体験を話す (2)	不規則動詞の過去形、過去形の使い方
13	まとめ	総復習
14	授業内試験と解説	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回準備をして授業に参加すると、理解が深まります。復習も必要です。本授業の学習時間は週あたり 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子ほか (2022). 新・スツェーネン 1. 場面で学ぶドイツ語. 三修社.

【参考書】
アクセス独和辞典. 第 4 版. 2021. 三修社（推奨）
電子辞書（どの辞書でもかまわない）または辞書アプリも可。辞書は必要です。別途、参考書を購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 20%、学期末試験（口頭・筆記）が 80%で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、正当な理由なく欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
「面白かった」「ためになった」と高い評価を得ました。さらに楽しい授業を目ざします。

【Outline (in English)】
This course is designed for those who are learning German for the first time and aims to acquire a basic knowledge of the German language. It is recommended that students take German (d) at the same time.

LANd100IA

ドイツ語（d)

北岡　幸代

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。そして何よりも、新しい言葉を学び、使うことの楽しさをを体感します。

【到達目標】
初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
※ 2022 年度は対面授業が基本方針ですが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業は対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。
授業の進め方と方法は以下の通りです。
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) ペアワーク、グループワークによる練習を行います。
(4) 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	秋学期の内容確認。 ドイツ語圏の最新トピックの紹介。
02	予定を伺う（1）	一日の時間の流れと所在場所。
03	予定を伺う（2）	時刻の表現。
04	予定を伺う（3）	予定の確認や取り消し。
05	食事について（1）	好きな食べ物について。 話法の助動詞 mögen と möchte
06	食事について（2）	食事に招待する。
07	食事について（3）	食事中の会話。 ドイツ語圏の料理。
08	交通機関（1）	構内放送を聴く。 交通に関する語彙。
09	交通機関（2）	分離動詞を使う。
10	交通機関（3）	旅や乗り換えに関する表現。
11	季節の行事（1）	季節・時期・行事に関する語彙。 ドイツ語圏のお祭り。
12	季節の行事（2）	季節の行事を調べてみよう。
13	口頭試験	口頭試験 復習
14	期末筆記試験 秋学期の振り返り	筆記試験 秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習にはオンラインの学習アプリを使います。授業の復習としての提出課題を出します。本授業の準備・復習時間は、各 1〜2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
参考書等は、授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各テーマを終えるごとに、簡単な小テストを実施します。
筆記試験のほかに簡単な口頭試験も行います。
成績評価は、日頃の課題達成度（30 %）、小テスト・期末の筆記テスト（35 %）、期末口頭試験（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語圏の映画やドイツ語圏に関する動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】
・ドイツ語（c）を同時に履修されることを推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a beginner's German class for students who are new to the language.
Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.
【Learning activities outside of classroom】
Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 2/Fri.2**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象※留学生のみ履修可能**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生の発表を中心に進める。各自、テーマを設定し情報を収集し発表する。課題については教員が授業で解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／分かりやすい発表とは	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える。
第 2 回	図表の説明の仕方	発表の際の図表の説明の方法を学ぶ。
第 3 回	主張と根拠の述べ方	発表の際の主張と根拠の述べ方を学ぶ。
第 4 回	発表のテーマの検討	発表のテーマを検討する。
第 5 回	発表①図表の説明	受講生による発表。
第 6 回	発表②図表の説明	受講生による発表。
第 7 回	発表の構成と質疑応答の表現	発表の構成と質疑応答の表現を学ぶ。
第 8 回	発表③受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 9 回	発表④受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 10 回	発表⑤受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 11 回	発表⑥受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 12 回	発表⑦受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 13 回	発表⑧受講生の設定したテーマ	受講生による発表。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料をオンラインで配布する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』(2020) くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，発表 40 %，課題等提出物（期末レポートを含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
「発表に対してもっとフィードバックが欲しい」という声に応え、授業後に個別に発表に対するコメントを書いて送り、フィードバックの時間の不足を補いました。効果的なフィードバックの方法を模索していきたいです。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

安藤　正志

サブタイトル：（A)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA

スポーツ健康学入門

泉　重樹

サブタイトル：（B)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA

スポーツ健康学入門

伊藤　真紀

サブタイトル：（C)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA

スポーツ健康学入門

井上　尊寛

サブタイトル：（D)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA

スポーツ健康学入門

瀬戸　宏明

サブタイトル：（E)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

フランス語コミュニケーション中級 A

小室　廉太

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。
資格を取得することは、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。

【到達目標】
フランス語の初級文法が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。
仏検４級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。
もしコロナ禍でオンライン授業を行うことになった場合は、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検４級解説	仏検４級の出題解説
	発音規則	発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞	前置詞の用法
	数字の聞きとり	数字（1〜100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（２時間）。
授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（１時間）。
毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各 30 分）。

【テキスト（教科書）】
初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はコロナ禍のため履修者は少なかったのですが、初めてフランス語を学ぶ１年生が春学期で３級合格しました。
昨年度履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline (in English)】
We aim to improve our French skills while relying on the questions of the Practical French test（仏検).
By acquiring a diploma, you can not only record your study of French at university, but also have an advantage in studying abroad and finding employment.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

高見　京太

サブタイトル：（F)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

フランス語コミュニケーション中級 B

小室　廉太

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。
資格を取得することは、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。

【到達目標】
フランス語の初級文法が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。
仏検４級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。
もしコロナ禍でオンライン授業を行うことになった場合は、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検４級解説	仏検４級の出題解説
	発音規則	発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞	前置詞の用法
	数字の聞きとり	数字（1〜100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（２時間）。
授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（１時間）。
毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各 30 分）。

【テキスト（教科書）】
初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はコロナ禍のため履修者は少なかったのですが、初めてフランス語を学ぶ１年生が春学期で３級合格しました。
昨年度履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline (in English)】
We aim to improve our French skills while relying on the questions of the Practical French test（仏検).
By acquiring a diploma, you can not only record your study of French at university, but also have an advantage in studying abroad and finding employment.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

山本　浩

サブタイトル：（G)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

ドイツ語コミュニケーション中級 A

北岡　幸代

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーションⅠを履修していなくても本科目の履修に問題はありません。

【到達目標】
・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
・ドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※ 2022 年度は語学の授業は対面授業の実施となりますが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業も対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。
授業の進め方と方法は以下の通りです。
1．特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学ぶ。
2．映像教材・音声教材を使い、視聴による理解を深める練習をする。
3．対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4．必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
5．課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業の進め方と準備作業。 ・授業中に使用するドイツ語表現。
02	家族・活動・出来事（1）	・家族メンバーの職業 復習：所有冠詞
03	家族・活動・出来事（2）	・家族の歴史 口頭練習：所有冠詞
04	家族・活動・出来事（3）	・親戚の話 復習：現在完了形
05	家族・活動・出来事（4）	・子供の頃の記憶 口頭練習：現在完了形
06	自然と景観（1）	・ドイツ語圏の街 復習：動詞 gefallen
07	自然と景観（2）	・観光ツアーの広告を読む。 習得：自然・風景に関する語彙
08	自然と景観（3）	・観光ツアーの広告を読む。 文法：名詞の形成について
09	自然と景観（4）	・風景を叙述する。 表現：自分の好みを述べる。
10	食品の買い出し（1）	・買い物メモ 語彙：食品、包装形態、頻度、量
11	食品の買い出し（2）	・食料品を買う 文法：形容詞の語尾変化（不定冠詞のとき）
12	食品の買い出し（3）	・今週の買い物 練習：接続法Ⅱ式、現在完了形
13	食品の買い出し（4）	・カフェのモーニングメニュー 練習：注文時の会話
14	春学期の振り返り	・口頭試験と春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ１～２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A2.1 Kursbuch』（Hueber)
（注）昨年度まで使用していた教科書『Menschen A1.2』と版が異なりますので、注意して下さい。今年度は『Menschen A2.1』を使用します。

【参考書】
・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
文法については、必要に応じて適宜説明を行いますが、すでに学習した文法の教科書を、本授業の進度に合わせて復習として大いに利用しましょう。

【その他の重要事項】
・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。
・学期中に、受講者の興味関心・理解度に応じて、シラバス内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will develop their communication skills in German in anticipation of a short stay in a German-speaking country and friendships with people from German-speaking countries. Students will also learn about the cultural and historical elements of Germany.
【Learning Objectives】
To learn the basic grammar, vocabulary, features of expressions, and correct pronunciation used in each theme, while acquiring the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a well-balanced manner, and to be able to use them as one's own expressions.
To be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds through the study of German.
【Learning activities outside of classroom】
As preparation for the class, students will study the meaning and pronunciation of important vocabulary used in the theme using the application, and will be given practice print assignments to review the class content. The standard preparation and review time for this class is approximately one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A quiz (hearing and written) will be given at the end of each topic. There will be an oral exam at the end of the term.
Grades will be based on a comprehensive evaluation of homework and class assignments (30%), in-class written tests (35%), and in-class oral exams and presentations (35%).
If the number of absences without a valid reason exceeds 30% of the total number of classes, the student will not be graded.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

吉田　政幸

サブタイトル：（H)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) レジュメの作成方法
(4) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養 スポーツ選手の栄養サポート
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
7	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
8	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	まとめ（クラス毎講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)。

【参考書】
個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは 1 年生の皆さんが大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が毎回異なりますので、毎週連絡事項を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn basic knowledge and skills as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

ドイツ語コミュニケーション中級 B

北岡　幸代

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーションⅠを履修していなくても本科目の履修に問題はありません。

【到達目標】
・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
・ドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※ 2022 年度は語学の授業は対面授業の実施となりますが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業も対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。
授業の進め方と方法は以下の通りです。
1．特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学ぶ。
2．映像教材・音声教材を使い、視聴による理解を深める練習をする。
3．対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4．必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
5．課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業内容、進め方の再確認。 ・ウォームアップとしての会話練習。
02	ドイツ語圏での観光計画（1）	・旅先で観光したいこと。 練習：興味関心を述べる。
03	ドイツ語圏での観光計画（2）	・旅先からのはがきを読む。 習得：観光に関する語彙。
04	ドイツ語圏での観光計画（3）	・Köln のお薦めの観光スポット。 文法：形容詞の語尾変化（定冠詞を使う場合）。
05	ドイツ語圏での観光計画（4）	・友人を観光案内する。 発話練習：観光計画を発表しよう。
06	私の好きなイヴェントは（1）	・ドイツ語圏のさまざまなイヴェント・お祭り。 習得：イヴェント・お祭りに関する語彙。
07	私の好きなイヴェントは（2）	・ドイツ語圏の夏のイヴェントに関するコラムを読む。
08	私の好きなイヴェントは（3）	・いつからその行事を楽しみにしていたの？ 文法：期間を示す前置詞の表現。
09	私の好きなイヴェントは（4）	・イヴェントへのお誘いとその返事。 会話練習：提案の仕方と、同意や断る表現。
10	レストランで（1）	・レストランでの行動。 習得：レストランをめぐるさまざまな語彙。
11	レストランで（2）	・食べたい料理がないときは？ 文法：接続詞 dass を使う副文の表現。
12	レストランで（3）	・レストランでのさまざまな会話。 復習：接続法Ⅱ式を使う丁寧な表現。
13	レストランで（4）	・美味しかったですか？ 会話練習：苦情を言う場合。
14	秋学期のまとめ	・口頭試験と秋学期のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 1 〜2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A2.1 Kursbuch』（Hueber)
（注）昨年度まで使用していた教科書『Menschen A1.2』と版が異なりますので、注意して下さい。今年度は『Menschen A2.1』を使用します。

【参考書】
・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
・文法については、必要に応じて適宜説明を行いますが、すでに学習した文法の教科書を、本授業の進度に合わせて復習として大いに利用しましょう。

【その他の重要事項】
・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。
・学期中に、受講者の興味関心・理解度に応じて、シラバス内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will develop their communication skills in German in anticipation of a short stay in a German-speaking country and friendships with people from German-speaking countries. Students will also learn about the cultural and historical elements of Germany.
【Learning Objectives】
To learn the basic grammar, vocabulary, features of expressions, and correct pronunciation used in each theme, while acquiring the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a well-balanced manner, and to be able to use them as one's own expressions.
To be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds through the study of German.
【Learning activities outside of classroom】
As preparation for the class, students will study the meaning and pronunciation of important vocabulary used in the theme using the application, and will be given practice print assignments to review the class content. The standard preparation and review time for this class is approximately one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A quiz (hearing and written) will be given at the end of each topic. There will be an oral exam at the end of the term.
Grades will be based on a comprehensive evaluation of homework and class assignments (30%), in-class written tests (35%), and in-class oral exams and presentations (35%).
If the number of absences without a valid reason exceeds 30% of the total number of classes, the student will not be graded.

CAR100IA

スポーツとキャリア形成

伊藤　真紀

カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21 世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式の授業（ワークシート、グループワーク、ペアワーク、発表）を通して、実践的に学ぶ。

【到達目標】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。ワークシート、グループワーク、ペアワークを通じてを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
１４回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（ワークシート、グループワーク、ペアワーク、発表）で学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。「なりたい職業」について学習する。
2	キャリア形成に必要なスキルとは	21 世紀型スキルに代表される基本的能力（ジェネリックスキル）について学習する。
3	日本のスポーツ界の現状を理解する	日本のスポーツ界の歴史を振り返る。国際的メガイベント、ワールドカップ、オリンピックを中心としてスポーツの発展をスポーツビジネス的観点からみていく。
4	キャリアプランニング 自分を知ろう 1【ライフライン】	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。これまでの自分の歩みをふりかえり、人生の岐路となった経験について考える。
5	キャリアプランニング 自分を知ろう 2【Identity について】	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。
6	キャリアプランニング 自分を知ろう 3【仕事観と人生観】	キャリア形成プランをたてるために、自分の仕事観と人生観について考え、言語化する。
7	キャリアプランニング: 自分を知ろう 4【キャリアアンカー】	キャリア形成プランをたてる、キャリアアンカーについて学び、自分のキャリアアンカーについて考えてみる。
8	キャリアスキル 1	「Work Shift」、「 Life shift」を参考に人生 100 年時代の働き方について考える。
9	キャリアスキル 2	構成力、PDCA サイクルの説明、広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える。
10	キャリアスキル 3	コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルついて学ぶ。
11	スポーツのキャリアについて	スポーツに関わる職業とは 各自、興味のある職業について調べる。
12	スポーツのキャリア形成：グループプレゼンテーション準備	スポーツに関わる職業について調べプレゼンテーションの準備をする。
13	スポーツのキャリア形成 グループプレゼンテーション	スポーツに関わる職業について調べ、グループで発表する。
まとめ	総括	各グループプレゼンテーションへのコメント・フィードバックをもとにグループごとに各自の発表についてよかった点、改善点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次回の授業に生かすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
ワーク・シフト　―孤独と貧困から自由になる働き方の未来図< 2025 >　リンダ グラットン著　プレジデント社
LIFE SHIFT(ライフ・シフト)　リンダ グラットン著　東洋経済新報社
資料はその都度授業内に配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価項目は以下の 3 項目からなる。
①ワークシート 40%
②レポート 40%
③グループ・プレゼンテーション 20%
合計： 100%

【学生の意見等からの気づき】
ワークシートを作成し、これからの自己分析や今後のキャリアについて考える機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業を通して、個人・ペア・グループでの作業に積極的に取り組むことで、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【Outline (in English)】
Understanding the current state of sports environment and system in Japan, deepening your understanding of occupations involved in sports, and making a career plan that will serve as a clue to connect what students learn under the theme of their own career development. Practically learn the basic skills (generic skills) which is important in career formation and is required for everyone in order to survive through the modern global society through classes based on active learning form.
The lectures will let you imagine your career through group work and pair work, and will help acquire basic skills.

ドイツ語セミナーA

布川　恭子

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。
提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	旅行 (1)	「〜へ」にあたる前置詞の使い分け
第 3 回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第 4 回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第 5 回	都市 (1)	現在完了で表現する
第 6 回	都市 (2)	道を尋ねる 交通手段
第 7 回	中間口頭試験	オンラインにより 1 対 1 で口頭テストを行う
第 8 回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第 9 回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第 10 回	余暇	ドイツと日本の働き方と休暇の違い
第 11 回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第 12 回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第 13 回	授業内試験と解説	筆記試験
第 14 回	環境 試験答え合わせ	エコロジー問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2 − コミュニケーション活動で学ぶドイツ語 −. 三修社

【参考書】
参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】
ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。
ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】
In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

MAT100IA

数学

坂本　寛

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】
統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。
微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講師からの一方的な講義にならぬよう、授業内にも実習時間を設けます。
数学の問題を解決するために、Maxima 等のソフトウェアを活用します。
毎回、学習支援システムを通して課題の出題・提出していきます。
オンライン教材の中で演習課題が出題されます。
演習課題には筆記によるものと PC を利用するものがあります。
毎回、学習支援システムを通して課題の出題・提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima 入門	数学学習を支援するソフトウェアとして Maxima の基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることが出来ます。そのベクトルの基本を学びます。
10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答できることが求められます。
コンピュータ実習を伴う課題があります。概ね授業時間内での演習課題が出題されますが、授業時間内で課題が完成しない場合は次週授業時間前までに学習支援システムを利用して提出してもらいます。
教科書から出題される宿題。次回授業開始時にレポート形式で提出を求めます。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
統計学のための数学教室 / 永野裕之著
　ISBN:9784478028247

【参考書】
統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著
　ISBN:9784563010041
統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著
　ISBN:9784563010058
統計学のための数学入門 30 講 / 永田靖著
　ISBN:9784254116335
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題提出 (50%)
　毎回、学習支援システムにて課題を提出してもらいます。
期末試験 (50%)
　この科目で学習した基本事項を問う筆記試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】
各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続可能なコンピュータが必要。(コンピュータの性能は高くなくて十分です。)
カメラ付きスマートフォン (またはそれに代わる物)。
A4 サイズのレポート用紙。
筆記用具。

【その他の重要事項】
統計学 I・II の履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】
Mathematics is used in various aspects in daily life.　Especially in contemporary society, statistical knowledge is widely demanded .　It is no exception to the sports health department without distinguishing between science and liberal arts.　The purpose of this lecture is to develop logical problem solving skills assuming scenes where mathematics is actually needed in statistical analysis and so on.　Students trying to study mathematics from scratch will be subject to lecture.

ドイツ語セミナーB

布川　恭子

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ 1 **単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。
提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決 学生のバイト事情
第 7 回	中間口頭試験	オンラインで 1 対 1 で行う
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	試験と解説	筆記試験
第 14 回	総復習 テスト答え合わせ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2 − コミュニケーション活動で学ぶドイツ語 −. 三修社

【参考書】
参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】
ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。
ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】
In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

MAN100IA

経営学

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。
本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。
また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。
「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。
講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】
経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。
今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。
学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。
各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。
各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略 (1) ：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略 (2) ：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略 (3) ：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略 (4) ：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論 (1) ：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論 (2) ：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論 (3) ：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。
講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
講義外の自主学習のために以下の著書をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。
・加護野忠雄・吉村典久編『１からの経営学 第３版』碩学舎、2021 年 3 月。
・伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門　第３版』日本経済新聞社、2003 年 2 月。
その他参考書については講義において紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 5 点に基づいて評価します。
1. 講義への参加（10 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
2. リアクション・ペーパーの提出（10%）
講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
3. 基礎用語・時事用語回答の提出（10%）

講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。
4. 課題レポートの提出（30 %）
講義の進行にあわせて 3 回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。
5. 期末レポート（40 %）
講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】
経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。
講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。
毎年講義中に提出してもらっているリアクションペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用して独自テキストや配布資料の確認、課題提出を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
・企業において株主総会を中心とした IR 業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。
・現在、自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline (in English)】
This class is designed for students who study business science for the first time to understand the basic knowledge of business administration.
This business management class will be focused on management strategy and organization theory with variety of case studies. It will help students to build a skill to observe how the management strategy affects corporate activity.

フランス語セミナー A

橋本　到

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。
各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウィルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく､ツールとしては Google クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第 2 回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第 3 回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第 4 回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第 5 回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第 6 回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第 7 回	体と健康-1	語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第 8 回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第 9 回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）

第 10 回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第 11 回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第 12 回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。
第 13 回	全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。
テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。
そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）100 %

【学生の意見等からの気づき】
Google クラスルームの使用で、課題の受け渡しが非常にスムーズに行えた。

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】
Course outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.
Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.
Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.
Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%、Usual performance score: 33%

LAW100IA

法学（日本国憲法）

森　浩寿

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、教職課程の必修科目である。
日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、教育現場で必要な法知識の習得を目指し、加えて、日常生活に関係する法律問題として、人の生死、契約、罪と罰などについても対象とする。

【到達目標】
まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに教育現場で必要な法化意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に発生している身近な事例を題材に、どういう法律が整備されているのか、なぜその規定が必要なのか、何が問題なのかなどについて学習する。なお、積極的に議論を行い、自分の考えを言語化することおよび他者との考えを知ることを取り入れていく（ディスカッション・小レポート）。
提出された小レポート等については、適宜、次回の授業で紹介し、学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 法令の基礎知識	授業の進め方、テキスト、評価について 憲法、法律、条例、規則、条理について
2	近代憲法の誕生と発展	憲法とは、立憲的意味の憲法の特質
3	日本国憲法について	日本憲法史と立憲主義、明治憲法、日本国憲法、憲法改正
4	基本的人権・1	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下の平等
5	基本的人権・2	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
7	教育と法・1	教育関連法規、学校教育法、教科書裁判、教師の権利
8	教育と法・2	子どもの権利、校則問題、体罰問題
9	教育と法・3	子どもの権利、いじめ問題、不登校問題
10	ライフステージと法	出生、結婚、認知、離婚、死
11	労働問題	就職、退職、転職、労働災害補償
12	罪と罰・1	犯罪の種類、成立
13	罪と罰・2	罰則の種類、適用
14	紛争解決手段	裁判と裁判外紛争解決、裁判制度、仲裁と調停

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：シラバスの理解
第 2〜3 回：日頃から新聞を読む
第 4 〜 9 回：社会の出来事から、人権問題をさがす
第 10〜14 回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点としての小レポート（30 %）及び試験（70 %）で評価し、合計 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline (in English)】
Course outline
It is one of the required course for the teacher training project.
The goals of this course are to
(1) raise the interest about the Law
(2) obtain some basic knowledge (human rights) about the Constitution
(3) be able to　take the action based on the respect for human rights
Learning Objectives
The goals of this course are to raise awareness about the law, acquire general knowledge of the law, and enable the practice of legalization awareness-based behavior necessary in educational settings.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to be in touch with the news on a regular basis and take an interest in social events. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria
Final grade will be calculated according to the following process Short reports for each meeting (30%) and term-end examination (70%).

フランス語セミナーB

橋本　到

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。
各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウィルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく､ツールとしては Google クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、〜に立ち寄る、ロケーション。
第 2 回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第 3 回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第 4 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	ゴミの種類に関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第 5 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第 6 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第 7 回	家族の形-1	家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第 8 回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第 9 回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第 10 回	週末の過ごし方-1	関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 où, dont）、靴の買い方
第 11 回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談
第 12 回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）
第 13 回	全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。
テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。
そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）100 %

【学生の意見等からの気づき】
オンラインの導入により受講が効率化できた。弱点の補強などにも役にたった。

【学生が準備すべき機器他】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。オンラインで行う回があるので、各自､パソコン､タブレットなど対応できるようにすること。

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】
TCourse outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.
Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.
Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.
Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%、Usual performance score: 33%

SOC100IA

コミュニケーション論

山本　浩

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コミュニケーション」。その重要性はことある毎に指摘されているが、日々の行動に取り込まれていることもあって、特別なものでも何でもないように感じられているのではないか。人と人とをつなぐツールとして、自分を主張するために、未知の情報を取得する目的で、コミュニケーションはさまざまな様相を見せながら私たちの前に現れる。時代とともにコミュニケーションには、質も量も充実したものが求められるようになっている。一人一人の能力を推し量る材料であり、そこに関わる者の要求が高くなったからでもある。社会の構成員に期待されるコミュニケーションとはいったい何か。「マス」「ミニ」「ソーシャル」「コーポレート」さまざまな語とともに語られるコミュニケーションを、文字やことばのやりとりを超えた普段意識の及ばない切り口で捉え、ときには実践を経由しながら、その現在的ありどころを把握する。

【到達目標】
「なぜ重視されるのか」「どこが重要なのか」「どんな手段を用いるべきか」。多様な形でやりとりされるコミュニケーションの実態を把握するには第一に「場」と「構成要員」、それに「時間軸」の考慮が欠かせない。フォーマットを覚えて技法としてのコミュニケーション力を身につけることはむしろ二の次である。影響を及ぼすのはさらに「ツール」「環境」「資金」そして「世界観」。認識の度合い、伝えるべき相手の周囲を複雑な要件が取り巻いていることを理解した上で「読む」「聞く」「見る」力の醸成と、「書く」「話す」「伝える」力の開発、そして全体から部分に至るまで、情報のやりとりの基本原則を身につけ、“受け取り”“発信する” 力量の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式をとる。授業中、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。授業後、提示したスライドは教員が学習支援システムにアップロードする。授業内には、その日の講義に関連付けた課題を用意する。
※ウィルスの影響でオンライン授業になった場合：授業内課題の代わりに学習支援システムの「課題」欄に挙げたファイル　PDF　を読み込み、そこに示された課題を教員に宛てて期限内に送信する。教員への連絡なくして講義をライブで受講しない受講生は、欠席扱いとなる。
受講生には、理論を確かめたあと実際にコミュニケーション能力を発揮してもらう機会を用意する。自ら聞き、話すアクティブなコミュニケーション行動の実践を試みる一方で、多様なコミュニケーション形態に意識的に関わってもらう時間も準備したい。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	さまざまな意図~ガイダンスに代えて~	コミュニケーションの考え方を社会学的な見地から考えるだけでなく、身の回りにあるコミュニケーションアクションに意を配ることによって、現代的コミュニケーションがどのように広がっているかを確認する。
2	手段から見たコミュニケーション史	個人から個人へ、個人から特定多数へ、やがて不特定多数へ。知りたい、知らせたい。その意志あって始まったコミュニケーションは、歴史とともに限りない広がりを見せる。手段も媒体も変化を遂げてきた。活字の時代を経て電波に行き着くところまでをまでを考える。
3	人から見たコミュニケーション史	人が集まったところに社会が生まれる。社会が成熟するには、構成要員間の意思疎通が欠かせない。人は何を求めてコミュニケーションにどんな変化を及ぼしたのか。人間に視点を定めて、コミュニケーション史を追う。
4	文字のコミュニケーション	特定の言語を表記する文字が考案されたのは、今から 5000 年ほど前のことだとされる（ジャン、1989）。極めてシンプルなものから、汎用性の高くなったアルファベットまで、文字を介在させない文明はこれまで存在しなかった。コミュニケーションの基本要素たる文字と人間社会との関わりを考察する。
5	放送のコミュニケーション〜ラジオ〜	文字のコミュニケーション全盛の時代に電気信号が分け入ってくる。速報性を武器としたラジオは初め、戦争の道具としてその存在感を高めていった。ひとときの休戦の時代にこのツールは社会に別の影響力を発揮し始める。
6	放送のコミュニケーション〜テレビ〜	情報の密度、その現実との近さにおいてテレビはラジオを凌駕することになった。具体的で、現実に近い。同時性と映像の力をてこに、コミュニケーションを分析する。
7	写真のコミュニケーション	切り取った画角の中に時間を詰め込んだコミュニケーションツール。光、角度、サイズ、明暗、キレと様々な要素が写真の情報を規定する。その構造を考える。
8	動画のコミュニケーション~CMに見るメッセージ性~	画面から出てくるCMは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態である。専門的な視点からその在り方を解析する。
9	公的な場のコミュニケーション	官公庁の用語に始まって、公的な場を対象としたコミュニケーションは独自の型を持っている。それは、社会の扉をたたこうとする学生たちのエントリーシートや文章の起こし方にも影響を与えている。ソーシャルメディアのやりとりとは全く異なる、公的なコミュニケーションの考え方を検討する。
10	わかりやすく伝える	毎日の友人との会話とサークルの送別会でのあいさつとの間には大きな違いがある。ことの核心は、どう伝えるかよりもむしろ何を伝えるかにかかっている。コミュニケーション行き交いの特質を知った上で、伝えの基本を習得する。
11	人前で話す~実施編~	前週で確認した伝えの構造を実際に転用し、人前に立って話しをしてみる。※オンラインの場合はインターネットを通じて試みる。
12	プレゼンテーション	学会発表、計画の提示、新たな提案など社会では、プレゼンテーションが当たり前に求められる様になった。“パワーポイント” や “キーノート” を使ったプレゼンテーションを考える。
13	情報選択とソーシャルコミュニケーション	SNS 中心に動くやりとりが増える一方で、伝統的な情報伝達の世界は、それに促されるように様相を変え始めている。スピードの違いだけでない今日的なコミュニケーション環境について考える。
14	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では「伝える」ことに視点を当てて進めていく。ただし伝えの前提としての情報収集（相手の意図や狙いを読み解く）には、それ以上のエネルギーと時間が必要なことを知っておかなければならない。①情報や知識を十分に集め②それを検証し③取捨選択をした上で④合理的に並べ、それを発信することで初めてあるべき「伝え」は完成する。書く、話す，読む力にだけ力点を置いていたのでは、コミュニケーションの重心を探し出すことはできない。研究者がいくつもの先行研究をあたるのも、ジャーナリストが大勢の意見を聴こうとするのも、それがあるべき「伝え」につながっているという確信があるからである。取り上げたテーマの周辺に現れるさまざまなトピックに、批判的な目を失うことなく積極的に踏み込んでいこう。
※ウェブでの授業が排除できないこともあって、電子的な手段に頼った情報のやり取りに終始する可能性がある。狭い世界での情報交換だけでなく、広い視点に立った情報収集に努めてもらいたい。とりわけ、海外の論調などを現地のサイトに入って、翻訳アプリなどを使いながらでも情報を集めることも勧めたい。本授業の準備学習・復習時 は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
・『マン・ウォッチング』デズモンド・モリス　1980 年　　小学館
・『メディア社会　—現代を読み解く視点』佐藤卓巳　　2006 年　岩波書店
・『マス・コミュニケーションの世界』仲川秀樹　2019 年　ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
対面形式：「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
※オンライン時：指定期限内に学習支援システムの「課題」欄を経由して提出する。
※ハイブリッド時：集中力の差を考慮して、対面で参加する学生とオンラインの学生との間に異なる課題を設定する。
オンラインで受講しているにもかかわらずライブ参加がなく、課題だけを提出する登録受講生の評価は、原評価の半分とする（最高点 1．5）。ライブ参加の場合も、短時間で切り上げて講義から退出した場合には得点が下がる可能性がある。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.5 点刻み ×13）。
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 50 点） には必ず取り組むこと。
すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき３回まで。自分の都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題より負荷の高いものになる。期末時の追加レポートを選択せず、オンライン参加のないままでの講義内課題に学習支援システムからの回答提出も選択できる。その場合、相当な理由があった場合には最高点 2 点とする。全講義終了後、レポートを選択するか、その都度講義内課題を選択するかは受講者の判断で行うことができる。両方を同時に選択することはできない。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援アシスタントへのアップロードを軽快に進めたい。学習支援システム状で設定する課題の提出期限と受付を閉じる時間の間に時差を設ける。

【その他の重要事項】
回数を限定して外部講師を招聘する可能性がある。そのため、ここに記載の講義順が前後することも考慮しておきたい。

【Outline (in English)】
In the several past decades it was said of the consequence of communication. As an indispensable tool for connecting one to others, respecting for individuality and individualism were widely encouraged. But now the situation is changed. It was a precondition for people's lives to choose the right things and express their own opinions in the midst of the flood of information. We've been using our own means of communication since before our history. This is because the environment surrounding each individual has changed, and the quality and quantity has been demanded over time. What is the expected communication for the members of society? Sometimes, through practice, you could grasp the actual state of communications.

HSS100IA

人間とスポーツ

成田　道彦

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツに関わる諸問題について幅広く講義する。スポーツに関する幅広い知識を身につけ問題の背景と現状を把握し、現代社会が求めるスポーツの役割、指導者の資質について考える。

【到達目標】
現代スポーツの現状と問題点を理解したうえで、これからのスポーツの役割と指導者に求められる資質と役割について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツの諸問題について最新のニュースや新聞記事などを教材として使用する。実際にトレーニング現場を体験した経験から、指導者の資質と役割について講義する。また、スポーツの進歩の歴史からスポーツの将来も考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・テーマ・概要・授業方法について説明する。
2	スポーツの起源と発展	スポーツの起源と日本の近代スポーツの歴史を学ぶ。
3	部活	現在の部活の現状を理解し、現場での様々な問題点と解決策について各自の経験から学ぶ。
4	大学スポーツ	日米大学スポーツの現状を様々な視点から分析・比較し、これからの大学スポーツの方向性について学ぶ。
5	スポーツと体罰	スポーツ現場における体罰とその背景を理解し、体罰根絶のための予防策を学ぶ。
6	ゲスト講師／ｅスポーツ１	ｅスポーツの歴史と現状と問題点を学ぶ。
7	ゲスト講師／ｅスポーツ２	ワークショップ（e スポーツの現状から未来の運動会について考える）
8	オリンピックとアスリートの国籍移動	オリンピックの歴史とアスリートの国籍移動など近代オリンピックが抱える問題点と解決策を学ぶ。
9	ドーピング	ドーピングの歴史・背景・現状の問題点について学ぶ。
10	アニマルセラピー	アニマルセラピーが心理面・生理面に及ぼす影響を理解し、方法と期待される効果を学ぶ。
11	指導者とトレーニング	指導者の資質と役割とは何か、指導者がアスリートに与える影響について学ぶ。
12	生涯スポーツ	現代スポーツの役割や現代スポーツが置かれている環境等を理解し、これからの生涯スポーツの在り方を学ぶ。
13	法政大学と箱根駅伝	法政大学の箱根駅伝への取り組みから、箱根駅伝の歴史・現状と学生スポーツとしての問題点を学ぶ。
14	スポーツとは	全体を総括する。スポーツの未来を考える。課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツに関するニュースや新聞記事を教材として使用するため、各回に関する情報収集に心がける。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配布します。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
課題レポート（30 %）
授業内レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
資料等をもう少し工夫し、講義内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※講義の進行状況により、内容を適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This is a lecture course on a variety of matters associated with sports. Students acquire a wide knowledge of sports, and explore and understand various issues about sports, the role sports play in society and the essential qualities for athletic trainers.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn about nature and a role demanded from a role and the leader of sports in the future after having understood the present conditions and the problems of modern sports.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students keep it in mind for the intelligence about each time to use news and the newspaper article about sports as the teaching materials.
Students assume for each four hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A normal point (20%), a problem report (30%), the report (50%) in the class

GDR100IA

女性とスポーツ

伊藤　真紀

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的、社会的背景を紐解きながら、女性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー (社会・文化的側面)、「セクシャリティー」(生理学的・解剖学的側面)、メディア、プロモーション、様々な角度から女性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の女性とスポーツに関連した事例を通して、今後の女性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】
様々な角度から女性とスポーツについて学び、今後の女性とスポーツの可能性について
自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間を設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史 I・日本における女性スポーツ諸外国の事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史 II・アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトル IX」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状 I	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。
6	女性スポーツの現状 II	諸外国並びに日本のスポーツ界における女性指導者の現状について学ぶ。
7	女性の体とスポーツ	女性アスリートのからだについて・女性アスリートの３主徴 “Female Athlete Triad” について学ぶ。
8	スポーツ界における多様性について I	ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
9	スポーツ界における多様性について II・アメリカにおけるジェンダー関連事項	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関するアメリカのスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
10	女性スポーツの現状・Sport England“This girl can”	女性のスポーツ実施率について学ぶ。スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」について紹介する。
11	女性スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでの女性アスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
12	スポーツビジネスにおける女性戦略	女性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける女性戦略の意味を考える。
13	期末レポートについて	レポート課題として、女性スポーツに関するテーマを各自選び、まとめる
14	期末レポートの発表	授業の振り返り、レポートの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、リアクションペーパーの内容（30 %）、小テスト（20%)、レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義で扱うテーマについて学生同士の意見交換を行う場（グループディスカッションなど）を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
We will learn about women and sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women’s participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of women and sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of women and sports in the future through the actual cases related to sports and women in both Japan and in foreign countries.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。
講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an introductory computer literacy class and students will learn the basic knowledge of information processing technology.
This class is aimed at learning information processing such as computer,networks and its operation. Students will acquire the knowledge and skills to use diverse media which would benefit them in various occasions.
In class students will learn information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming.
Based on what's learned in Information literacy I, students will learn how to process data which is necessary for publications, reports and statistical analysis on computer and how to utilize the data. Students will learn the skill which would help them in various occasions.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。
講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an introductory computer literacy class and students will learn the basic knowledge of information processing technology.
This class is aimed at learning information processing such as computer,networks and its operation. Students will acquire the knowledge and skills to use diverse media which would benefit them in various occasions.
In class students will learn information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming.
Based on what's learned in Information literacy I, students will learn how to process data which is necessary for publications, reports and statistical analysis on computer and how to utilize the data. Students will learn the skill which would help them in various occasions.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。

プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an introductory computer literacy class and students will learn the basic knowledge of information processing technology.
This class is aimed at learning information processing such as computer,networks and its operation. Students will acquire the knowledge and skills to use diverse media which would benefit them in various occasions.
In class students will learn information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming.
Based on what's learned in Information literacy I, students will learn how to process data which is necessary for publications, reports and statistical analysis on computer and how to utilize the data. Students will learn the skill which would help them in various occasions.

SOC100IA

スポーツレクリエーション論

谷本　都栄

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】
・現代の日本における様々な地域の課題を認識し、スポーツ・レクリエーションがどのように貢献できるかを考える。
・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・各種資料、ケーススタディから具体的に内容を把握できるようにする。
・レクリエーション事業計画では、地域の調査及び企画書の作成を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レクリエーションの意義と役割	レクリエーションに関わる諸理論、レクリエーションの意義と役割について学ぶ。
第 3 回	レクリエーション運動の歴史	欧米から始まるレクリエーション運動について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 4 回	戦後日本のレクリエーション運動	戦後の日本におけるレクリエーション運動について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 5 回	発達・人生課題とレクリエーション	各ライフステージにおける発達課題と人生課題について学ぶ。
第 6 回	ライフスタイルとレクリエーション	障害者、女性、ジェンダー・マイノリティに関わる課題について学ぶ。
第 7 回	家族とレクリエーション	子育て・子育ち支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 8 回	高齢者とレクリエーション	高齢者の介護予防支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 9 回	障害者とレクリエーション	障害者の自立支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 10 回	レクリエーション・プログラムの組み立て方	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について学ぶ。
第 11 回	レクリエーション事業計画①	個人及び集団を対象としたプログラム計画の実際について学ぶ。
第 12 回	レクリエーション事業計画②	グループ運営の方法、アイスブレーキングやコミュニケーションワークについて学ぶ。
第 13 回	レクリエーション事業計画③	多様なスポーツ・レクリエーションの実践事例から学ぶ。
第 14 回	安全管理とリスクマネジメント	事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・各課題は、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。
・本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・課題 1　家族とレクリエーション　25 %
・課題 2　高齢者・障害者とレクリエーション 25 %
・課題 3　レクリエーション事業計画①　25 %
・課題 4　レクリエーション事業計画②　25 %
全ての課題提出を前提条件とし、各課題の評価を合わせて総合的に成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】
Recreation, leisure and sports activities play an important role in communities. Participation in recreation and sports activities can have many benefits for both the individual and community, that include improving health and well-being, contributing to the empowerment of people by bringing together, and promoting social integration and the development of inclusive communities.
The program has the following objectives.
1. Provide students the foundational knowledge and skills required for recreation and sport play
2. Encourage students to organize recreation or sport programs in their life

ECN100IA

統計学 I

笹井　浩行

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
旧科目名：**統計学 [2012 年度以前入学生]**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学、スポーツビジネス等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。スポーツ健康学以外においてもビッグデータの活用が急速に進む中、統計学はその中核をなす学問である。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、統計的分析手法の初歩的な実践的技術の修得を目指す。
※ 2019 年度までは統計解析ソフトとして SPSS を用いて来たが、2020 年度からは、卒業後も自由に使用できるようフリーソフトの R（および R Studio）を用いている。2019 度までの本授業の受講生も、R に基づいて統計学を学ぶことになることに留意すること。

【到達目標】
図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握する方法を習得し、初級レベルの統計的分析手法を身に着けることを目標とする。統計学の数学的理解よりも、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト R および R Studio を用いる。
基本的には情報実習室での対面型の授業となる。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生じた場合は、大学の方針に従い、オンラインと対面を組み合わせながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要・R のインストールと使い方	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。R および R Studio のインストールと基本的な使い方について概説する。
2	記述統計（1）	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	推測統計・仮説検定	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、推測統計の基礎について学ぶ。尺度水準、仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準，第 1 種の過誤と第 2 種の過誤等について学ぶ。
5	対応のない t 検定	対応がない独立した 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
6	対応のある t 検定	対応がある 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
7	t 検定の実践	対応がない t 検定および対応がある t 検定について、例題を用いて実践する。
8	中間テスト	1〜7 回目までの内容に関して中間テストをおこなう。
9	中間テストの解答・解説	中間テストの解答と解説をおこなう。（進捗状況によっては、オンデマンド形式の解答・解説動画に代えることがある）
10	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2 つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。
11	単回帰分析（理論）	一方の変数から他方の変数を予測する分析手法の理論を学ぶ。
12	単回帰分析（実践）	一方の変数から他方の変数を予測する分析手法のを実践する。
13	カイ二乗検定	分割表による比率の差の検討について学ぶ。
14	総括・期末テスト	1〜13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・情報実習室の PC にインストールされている R および R Studio を使い、しっかり復習すること。
・個人 PC にも R および R Studio をインストールし、自学自習を心掛けること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・R によるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格： 2970 円）
※本書が手元にあることを前提に授業を進める。

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/~kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve 社 統計 WEB ｜統計学の時間（無料ウェブ教材）
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・R による統計処理（無料ウェブ教材）
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・R Tips（無料ウェブ教材）
http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）と期末テスト（60%）の成績により評価する（出来栄えにより、多くの受講生が単位を取得できるよう配点を変更することもある）。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。2021 年度の実績では、受講生の 8 割以上がテストの難易度を高いと評価している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。なお、単位取得率は毎年度 8 割程度である（2 割程度が単位を落としている）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や難易度、順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
・自宅等で R および R Studio が利用可能なコンピュータを準備できることが望ましい。

【その他の重要事項】
・ノートやメモを適宜取ること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。エクセルやワードの使い方、メールソフトの使い方などは本授業の範囲外であり、原則としてそれらを指導する機会を設けない（進捗の妨げになるため）。
・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

【Outline (in English)】
Statistics is a fundamental and practical discipline used to summarize massive amounts of data and interpret its output appropriately. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields, including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. Our society now enters into the "Big Data" era, and statistics is regarded as the most important discipline to survive in this rapidly developing society. This course provides students with beginner-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.
Until the 2019 academic year, SPSS had been used as statistical analysis software. From the 2020 academic year, the open-source statistical software R (and R Studio) has been adopted in this course to use the software for free even after college graduation.
Please note that students who had taken this course until 2019 will also learn statistics by using R (and R Studio).

ECN100IA

統計学Ⅱ

笹井　浩行

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。スポーツ健康学以外においてもビッグデータの活用が急速に進む中、統計学はその中核をなす学問である。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、中級レベルの統計的分析手法の実践的技術の修得を目指す。
※ 2019 年度までは統計解析ソフトとして SPSS を用いて来たが、2020 年度からは、卒業後も自由に使用できるようフリーソフトの R を用いている。2019 年度までの本授業の受講生も、新たに R に基づいて統計学を学ぶことになることに留意すること。

【到達目標】
多変量解析を含む中級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。本授業では、統計学の数学的理解よりも、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 2 割、演習 8 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト R および R Studio を用いる。
基本的には情報実習室での対面型の授業となる。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生じた場合は、大学の方針に従い、オンラインと対面を組み合わせながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学 I の復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学 I の期末テストの解答・解説を通じて、分析手法のおさらいをする。
2	統計学 I の復習	統計学 I の期末テストの解答・解説を通じて、分析手法のおさらいをする。
3	一元配置分散分析（理論）	間隔・比率尺度を用いて、1 つの要因により、3 つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法および多重比較検定を学ぶ。
4	一元配置分散分析（実践）	練習問題を用いて、一元配置分散分析の解析を実践する。また、その結果の解釈について学ぶ。
5	二元配置分散分析（理論）	間隔・比率尺度を用いて、2 つの要因により、3 つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
6	二元配置分散分析（実践）	練習問題を用いて、二元配置分散分析の解析を実践する。また、その結果の解釈について学ぶ。
7	中間テスト	1〜6 回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。ただし、授業の進捗によっては中間テストを第 8 回目にずらす可能性がある。
8	中間テストの解答・解説	中間テストに出題された問題の解答と解説をおこなう。（進捗状況によっては、オンデマンド形式の解答・解説動画に代えることがある）
9	重回帰分析（理論）	間隔・比率尺度である 1 つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法の理論について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。ダミー変数の作成法について学ぶ。
10	重回帰分析（実践）	練習問題を用いて、重回帰分析の解析を実践する。また、その結果の解釈について学ぶ。
11	ロジスティック回帰分析（理論）	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法の理論について学ぶ。
12	ロジスティック回帰分析（実践）	練習問題を用いて、ロジスティック回帰分析の解析を実践する。また、その結果の解釈について学ぶ。
13	練習問題	期末テストに向けて、サンプルデータセットを用いて練習問題に取り組む。ただし、授業の進捗によっては割愛することもある。
14	総括・期末テスト	1〜13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学 I での学習内容もテストに含まれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・情報実習室の PC にインストールされている R および R Studio を使い、しっかり復習すること。
・個人 PC にも R および R Studio をインストールし、自学自習を心掛けること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・R によるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格： 2970 円）
※本書が手元にあることを前提に授業を進める。

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/~kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve 社 統計 WEB ｜統計学の時間（無料ウェブ教材）
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・R による統計処理（無料ウェブ教材）
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・R Tips（無料ウェブ教材）
http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）と期末テスト（60%）の成績により評価する（出来栄えにより、多くの受講生が単位を取得できるよう配点を変更することもある）。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。2021 年度の実績では、受講生の 8 割以上がテストの難易度を高いと評価している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。なお、単位取得率は毎年度 8 割程度である（2 割程度が単位を落としている）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
・自宅等で R および R Studio が利用可能なコンピュータを準備できることが望ましい。

【その他の重要事項】
・統計学 I を未履修であっても受講可であるが、統計学 I を履修済みであることを前提として授業を進める。中間テストや期末テストで、統計学 I の内容が含まれることに留意すること。
・2019 年度以前に統計学 I を履修済みで、本年度に統計学 II を受講する者は、使用ソフトが SPSS から R へと変更となっていることに留意すること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。それらの基本操作を指導する時間はない（進捗の妨げになるため）。
・統計学 I および II の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

【Outline (in English)】
Statistics is a fundamental and practical discipline used to summarize massive amounts of data and interpret its output correctly. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields, including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. Our society now enters into the "Big Data" era, and statistics is regarded as the most important discipline to survive in this rapidly developing society. This course provides students with medium-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.
Until the 2019 academic year, SPSS had been used as statistical analysis software. From the 2020 academic year, the open-source statistical software R (and R Studio) has been adopted in this course to use the software for free even after college graduation.
Please note that students who had taken this course until 2019 will also learn statistics by using R (and R Studio).

PHL100IA

哲学

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は考えることなしに生きることができない。したがって、私たちにとって哲学は本質的なものである。本講義では、いくつかのテーマを設定し、それらのテーマに対する複数の考え方とその枠組みを学んでいく。本講義での目的は、多角的な視野を獲得すると同時に、自らじっくり考える力を養うことである。
本講義では、哲学とは何かについて説明することができ、諸問題に対して哲学的に考えることを学ぶことができる。

【到達目標】
（1）哲学とは何かを説明することができる。
（2）哲学における諸説について述べることができる。
（3）基本的な概念や語句について述べることができる。
（4）諸問題について自分の考えを述べることができる。
（5）物事を多角的な視点で捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する予定である。基本的には講義形式で行っていくが、なるべく対話を重視し、一部グループワークも導入しながら、参加型の講義を志向してしていく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoom による配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは何か	①イントロダクション ②哲学の定義 ③哲学の成立ち
2	古代ギリシアの哲学（1）：根源の探求	①哲学の誕生 ②自然学派 ③アルケー
3	古代ギリシアの哲学（2）：ソフィストの登場	①アルケーからアレテーへ ②人間尺度説
4	古代ギリシアの哲学（3）：徳の探求①	①ソクラテスの徳論 ②無知の知
5	古代ギリシアの哲学（4）：徳の探求②	①プラトンの徳論 ②アリストテレスの徳論
6	認識論（1）：大陸合理論	①デカルトの認識論 ②コギト・エルゴ・スム
7	認識論（2）：イギリス経験論	①ロックの認識論 ②タブラ・ラサ
8	認識論（3）：批判論	①カントの認識論 ②コペルニクス的転回
9	共生論（1）：障がいとの共生	①ノーマライゼーション ②障がいとは何か ③自律生活運動
10	共生論（2）：共生の思想	①ヘーゲル ②弁証法
11	死生論（1）：生の哲学	①生とは何か ②生への意志 ③始まりの思想
12	死生論（2）：死の思想	①死とは何か ②死の人称
13	自由論（1）：人間の尊厳と自由	①カントとミルの自由論 ②自由とは何か ③人間の尊厳
14	自由論（2）：自由の本質	①フロムの自由論 ②自由の本質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の授業内容を再確認する。事前課題がある場合には、その課題に取組む。
復習：配布されたプリントを再度見直し、授業内容の振り返りを行う。課題がある場合は、その課題に取組む。
できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。授業内にプリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20%）、学期末レポート（20 %）、課題（50 %）、平常点（10 %）による総合評価。
学期末レポートや課題などは、Hoppii を活用する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生へのフィードバックの機会を十分に確保できなかったので、この点を改善していきたい。
・対面講義では対話型の講義を行うことができたが、遠隔講義の学生には十分にやり取りが対応できなかったのが大きな反省点である。
・哲学とは何かということや、物事の多角的な視点については伝えることができたように思う。これに関しては、さらに充実させていきたい。
・哲学という難しい内容をもう少し分かりやすく説明できるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
課題などは Hoppii を活用予定なので、これを使用できるように PC 環境を整えておくこと。
遠隔授業による講義となった場合には、配付資料や教材を閲覧できるような情報機器を準備し、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
哲学は自分が行う行為に他ならない。授業で扱う各テーマに対して、他人事ではなく自分のこととして積極的に参加し、脳に汗をかくほど考えてもらいたい。
担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、死とその周辺の問題について、現実に基づいた意見を伝えていく。

【Outline (in English)】
It is an essential for us in living to study philosophy. Because man cannot live without thinking. In this lecture, students can learn some theories and some key concepts to resolve problems in some themes. The aim of this lecture is that students can gain a multilateral perspective and deepen own thought. And students can explain what is philosophy and learn what kind of thinking philosophically.

PHL100IA

生命倫理

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 3/Thu.3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理とは、文字通り生命についての倫理のことである。生命も倫理も一部の専門家だけの問題ではなく、今を生きているすべての人間の問題である。なぜなら、私たち誰もが生命を有しており、他者との関わりの中で倫理的に生活しているからである。
授業を通して、生命にまつわる諸問題について自分の意見を述べることができ、自分で答えを出せる力を養うことが、本講義の最大の目的である。具体的に本講義では、生命倫理の成立ちや諸原則などを学ぶことができ、私たちが実際に直面しうるであろう生命の始まりや終わりに関する具体的な問題について理解することができる。加えて、いのちについて考え、向き合うことができる。

【到達目標】
（1）「いのち」の尊厳を理解し、尊重することできる。
（2）倫理とは何かを説明することができる。
（3）医の倫理と生命倫理の特徴を理解し、両者の違いを述べることができる。
（4）生命倫理の四原則について説明することができる。
（5）インフォームド・コンセントについて説明することができる。
（6）生命の始まりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。
（7）生命の終わりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する予定である。基本的には講義形式で行っていくが、具体的問題に関しては、一部グループワークも導入していく。
授業内において、現場での具体的状況を把握し、当事者の思いを理解できるように、実際の映像資料なども多く取入れていく。
理解を深めるために、教科書も有効に活用していく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容の確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoom による配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「いのち」について	①イントロダクション ②いのちとは何か ③いのちの尊厳
2	倫理とは何か	①倫理の定義 ②倫理と道徳の違い ③倫理学
3	医の倫理	①『ヒポクラテスの誓い』 ②パターナリズム ③医の倫理の三原則
4	生命倫理の成立	①医の倫理の限界 ②人体実験 ③権利の確立
5	生命倫理の四原則（1）	①自律尊重の原則 ②インフォームド・コンセントとは何か ③セカンド・オピニオン ④リビング・ウィル
6	生命倫理の四原則（2）	①善行の原則 ②無危害の原則 ③公正の原則
7	現代における具体的諸問題（1）	①人間と病 ②健康と病気 ③病との共生
8	現代における具体的諸問題（2）	①認知症 ②認知症者へのケア
9	生命の終わりをめぐる諸問題（1）	①安楽死とは何か ②安楽死の分類 ③安楽死許容の原則
10	生命の終わりをめぐる諸問題（2）	①尊厳死とは何か ②尊厳死許容の原則
11	生命の終わりをめぐる諸問題（3）	①ターミナルケア ②人生の最終段階における意思決定 ③看取り
12	生命の始まりをめぐる諸問題（1）	①赤ちゃんポスト ②子どもの権利
13	生命の始まりをめぐる諸問題（2）	①いつから人になるのか ②線引き問題
14	生命の始まりをめぐる諸問題（3）	①人工妊娠中絶 ②中絶をめぐる法的問題 ③プロチョイスとプロライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理しておく。事前課題がある場合には、それに取組む。
復習：テキスト及び授業配布資料に基づいて前回授業の内容を復習する。興味があるテーマに関しては自分で調べる。また、課題がある場合には課題に取組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』、勁草書房、2008 年。2700 円＋税。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）、課題等（25 %）、中間レポート（15 %）、による総合評価。遠隔講義となった場合には、Hoppii を活用して成績評価ができるように変更する場合もありうる。その際には、受講生に事前に連絡する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生へのフィードバックは対面講義内で全体に対して行ったが、遠隔講義のみを受講していた学生に対しては十分にできなかった。この点は以後改善していきたい。
・提出物に対してのフィードバックを丁寧に行っていきたい。
・講義での学びを受講生の人生に実際に活かせるような授業を今後も引き続き行っていこうと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔授業による講義となった場合には、配布資料や教材を閲覧できるような情報機器の準備や、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
中間レポートは、テキストから出題する。必ずテキストの該当箇所を準備すること。
担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。
在宅現場での経験を踏まえて、終末期ケアの現状や当事者や家族の生の声を多く紹介していく。

【Outline (in English)】
Bioethics means ethics of life. This is the problem that not only some experts but also we should work on. Because we have life, we live in the relation with others ethically.
The aim of this lecture is to cultivate an ability to work out a solution for those problems by oneself. In this lecture, students can learn basic matters of bioethics including four principles and the history of bioethics. And they can understand some problems of the beginning of life and the end of life that we will face on. In addition, students can think about a life

SOC100IA

障害者福祉論

山岸　倫子

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての一般的なイメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

【到達目標】
・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
・障害者の生活実態について知ることができる。
・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1〜3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク他	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関係する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加　30 %：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が 3 分の 2 以下のものは不可とする。
課題の提出　30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを 3 回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。
期末試験　40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】
事前学習、自宅学習を積極的に課してきてはいないため自宅学習をほとんど行っていないという学生が多いため、2022 年度については、課題を増やす予定でいる。

【学生が準備すべき機器他】
コロナウイルスの感染状況によって、オンライン（オンデマンド方式）に変更予定。音声等ファイル等の使用や動画は検討していないため、基本的なインターネット環境があれば対応可能。

【その他の重要事項】
社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to heip acquire an understanding of the "disability"and"disability people".This course deals with definition of disability,legal system and history from the viewpoint of sociology.

ART100IA

音楽文化論

関野　直樹

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会において” 音楽” が形成した文化をあらゆる角度から考察するとともに、スポーツにおける音楽、さらにはリズムとはいかに機能してゆくのかを体験する。現役ピアニストであるからこそ体感してきた音楽を表現すること、そしてそれらを実現する際の具体的な身体的な訓練、音楽、演奏を様々な視点から考える。

【到達目標】
音楽がもたらした社会における役割や時代背景を理解した上で、いろいろな分野に応用可能とされる、演奏家の身体の使い方、リズム感の訓練、さらにはセルフマネージメントまでの幅広い領域の専門的知識を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本年度は、オンラインを活用しながら、音楽という分野であるからこそ、映像録音資料などを多用しながら講義を進める。
また、対面授業ではリズム演習、さらには実際の演奏なども取り入れながら、ライヴでの音を体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	現代社会における西洋（クラシック）音楽とは何かを各々意識した上で、今後の展望を確認する。
2	音楽の歴史	音楽の起源、そして映像資料とともに時代の流れの中で大きく変化した音楽の足跡を追う。
3	西洋音楽	主に 19 世紀の音楽が” 文化” として確立された背景と、当時の音楽がもたらした影響を考える。
4	スポーツと音楽	スポーツ界においても音楽、更には表現ということはかかせない要素の一つである。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	演奏家の超絶技巧	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
6	リズム論	音楽的なリズムとは何か、スポーツにおけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
7	リズム演習	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
8	リズムアンサンブル①	アンサンブルを通して個人のリズムだけでなく、周囲とのリスムの調和を感じ取る。
9	様々なジャンルの音楽	クラシックだけではなく、古代音楽からポップスまで、それぞれの音楽の魅力を考察する。
10	コンサートとライヴ	音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを理解し、実際のクラシックコンサートを体感する。
11	ミュージカル①	現代における音楽を主とした総合芸術であるミュージカルから現代の音楽のあり方を考える。
12	ミュージカル②	実際に映像資料とともに、ミュージカルの持つ力、演奏家と音楽の持つ力を体感する。
13	リズムアンサンブル②	今までより高度なリズムで、周囲との調和を感じ取りながら、アンサンブルを楽しむことを目標とする。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のために準備が必要な際はその都度指示する。
実際にライヴで演奏を聴く機会を紹介するので、積極的に参加していただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
学年末レポート:５０％
授業内での小レポート:５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide students with an understanding the culture formed by "music". Also we will experiment how music will play in sports.Particularly, we will play rhythm ensemble as a exercise.

HSS100IA

基礎科学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】
科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目 (実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
生理学、生化学、解剖学等の理解に必要となる、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数理処理について解説する。
運動生理学を学ぶ前段階と位置付けている。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	生体に関する糖質の構造について学習する
3	生体を構成する物質（2）	生体に関する脂質の構造について学習する。
4	生体を構成する物質と生物の誕生（3）	生体に関するタンパク質・核酸の構造と生物の誕生について学習する。
5	生体内での酵素について	生体内での酵素の働きについて学習する。
6	ビタミンとミネラル	生体内でのビタミンとミネラルの働きについて学習する。
7	生体膜と消化管	生物に必須である生体膜と消化管について学習する。
8	無機質について	水に代表される無機質について学習する。
9	代謝（1）	糖質の代謝について
10	代謝（2）	脂質の代謝について
11	器官	生体内の器官についてその役割を学習する。
12	ホルモン・免疫	生体名におけるホルモン・免疫の定義や役割について学習する。
13	ビタミン	生体内でのビタミンの働きについて学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
イラスト 基礎からわかる生化学: 構造・酵素・代謝　（裳華房）

【参考書】
シンプル生化学　（南江堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（100%）
理解度を確認するために適時小テストを行う予定
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
可能な限り運動生理学を履修する前に本単位を修得することを強く推奨する。教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識・思考方法を講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports medicine and science.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about the base of sports medicine and science included in the curriculum of the Faculty of Sport and Health
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

IDN100EA

多摩地域形成論

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 4/Wed.4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

CAR100EA

キャリアデザイン論

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】
①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からのの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】
この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？ これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティー、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特色や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて伺う。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 %以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 %未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートホンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】
質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限ります。個人情報の保護等の観点から、個人アでレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】
原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】
レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course focuses on the following four points.
1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
2.Basic approach to career choice.
3.Understand the thinking of local business people
4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.
【Learning Objectives】 ,
1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
2.Think about your own concrete action.
3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.
【Leaning activities outside of classroom】
This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.
【Grading Criteria/Policy】
The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports.　At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100EA

キャリアデザイン論

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】
①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からのの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】
この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？ これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティー、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特色や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて伺う。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」=「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 %以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 %未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートホンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】
質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限ります。個人情報の保護等の観点から、個人アでレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】
原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】
レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course focuses on the following four points.
1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
2.Basic approach to career choice.
3.Understand the thinking of local business people
4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.
【Learning Objectives】 ,
1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
2.Think about your own concrete action.
3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.
【Leaning activities outside of classroom】
This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.
【Grading Criteria/Policy】
The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports.　At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

HSS200IA

スポーツ健康学海外演習

泉　重樹、伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、現地の人々との英語でのコミュニケーションを通して、主体的に自ら英語で学ぶ姿勢を涵養する。

【到達目標】
本演習では主に下記 3 点を到達目標とする。1．米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、英語にじかに触れ、英語で生活すること。2．米国のカレッジスポーツに直に触れることで日米のスポーツ文化及びスポーツビジネスの違いを感じるとともにスポーツ健康学の学びを深めること。3．現地の人々とのコミュニケーションを通して、自ら積極的に英語で発信すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
米国アイダホ州ボイシにある Boise State University（BSU）において 2 週間の演習を行う。主に午前中は英語のクラス、午後はスポーツ健康学領域の様々なワークショップやアクティビティである。出発前には事前の演習（1 時間）もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前準備	米国アイダホ州ボイシおよびボイシ州立大学についてディスカッションを行う。
2	アイスブレイクと英会話テスト	アイスブレイクを通して、学生同士、現地の教員・学生間のコミュニケーションを開始する（実力確認テストを含む）
3	現地のネイティブスピーカーによる英語の授業	英語でのコミュニケーションに特化した授業が展開される。
4	英語でのワークショップ（グループワーク）	小グループに分かれて、質問に対して英語でディスカッションを行う。
5	BSU 学生との英語でのコミュニケーション	各自の考えた質問を BSU の学生にインタビューし、プレゼンテーションを行う。
6	現地の日本語クラスへの参加	BSU で英語を学ぶ学生達のクラスに入り、お互いに学びあっている言語でコミュニケーションを行う。
7	英語でのワークショップ（プロジェクト発表）	小グループに分かれて、英語でのプロジェクトを実施し、発表する。
8	個々の振り返りとフィードバック	これまでの内容を英語で振り返るとともに、残りの期間の到達・実施目標を確認する。
9	BSU 学内スポーツファシリティ見学	BSU 学内施設を見学／説明および質疑を通して米国スポーツ文化の学びを深める。
10	BSU 内の REC センターにおけるワークショップ	BSU 学内運動である REC センターにおいて、アクティビティを行いながら大学スポーツ文化を学ぶ。
11	Boise 市内のスポーツ施設見学とワークショップ	ボイシ市内にあるスポーツ施設特にフィットネスクラブを見学／活動参加し市民の活動状況に触れる。
12	アスレティックトレーニングプログラムワークショップ	BSU のアスレティックトレーン―によるテーピング＆ラッピングのワークショップに参加／実践する。
13	BSU スポーツ見学（サッカー、バレーボール、アメリカンフットボールなど）	BSU の学生スポーツを肌で実感する。米国のスポーツ文化を実践から学ぶ。
14	Boise 市内のスカベンジャーハントと振り返り	最後に、Boise の街を使って、オリエンテーリングゲームを行う。英語でのコミュニケーションの総仕上げである。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習では間違いを恐れずに英語で会話する姿勢が最も重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要になる資料は現地（Boise State University）で配布される。

【参考書】
特にないが電子辞書アプリがあると望ましい。

【成績評価の方法と基準】
本演習（事前授業含む）への参加 ８０％
レポート提出　２０％

【学生の意見等からの気づき】
英語への不安よりも現地の人々と積極的にコミュニケーションをしたいという思いが強い学生が参加している印象である。参加した学生からは、英語を話すことに対する抵抗が減少した、この演習の成果と気づきを今後の学生生活に生かしていきたい、といった前向きなメッセージが多く寄せられている。
新型コロナ禍により、大変残念ながら 2020 年度、2021 年度は開講できていない。

【Outline (in English)】
The primary purpose of this practice is to live in English through a two week program at Boise State University in Boise, Idaho, USA. Secondly, learning differences in sports business between Japan and United States by directly experiencing college sports in US.

LANj300EA

スポーツ健康学特講

サブタイトル：**ビジネス日本語**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成（1）	履歴書を作成する。 自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成（2）	志望動機を書く。
第 4 回	面接（1）グループ面接	グリープ面接の練習をする。
第 5 回	面接（2）個人面接	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接（3）グループ討論	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議（1）	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第 13 回	会議（2）	SWOT 分析の結果を話す。
第 14 回	会議（3）	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布する。

【参考書】
『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018)　ココ出版　(2,400 円 税抜)『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1,500 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %, 課題等提出物 60 %, 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】
エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】
This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj300EA

スポーツ健康学特講

サブタイトル：**ビジネス日本語**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成（1）	履歴書を作成する。 自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成（2）	志望動機を書く。
第 4 回	面接（1）グループ面接	グリープ面接の練習をする。
第 5 回	面接（2）個人面接	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接（3）グループ討論	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議（1）	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第 13 回	会議（2）	SWOT 分析の結果を話す。
第 14 回	会議（3）	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布する。

【参考書】
『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018)　ココ出版　(2,400 円 税抜)『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1,500 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %, 課題等提出物 60 %, 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】
エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】
This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田　道彦

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・通常授業**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】
アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
「キャリア意識」醸成、方向、向上のために, 実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により
①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
②自分の道、職業を決定づけたものは何か
③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。第 2 回〜13 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
2	特別講師/企業が学生に求めるもの	企業で採用を経験した立場から学生へのアドバイス
3	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
4	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
5	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
6	特別講師/大学スポーツ指導者から　1	組織人としての生き方と役割について講義
7	特別講師/大学スポーツ指導者から　2	アスリートに必要な資質について講義
8	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
9	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
10	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
11	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
12	特別講師/新しい体育会活動について	環境型循環型社会構築という新しい体育会活動について講義
13	指導者とは	指導者に求められるもの、役割について講義
14	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでを振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは決めません。

【参考書】
随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）　授業参画状況・授業態度　25%
2）　各回のレポート 50%
3）　課題レポート　25%
この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
・授業における遅刻はないように。
・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline (in English)】
This is the lecture on the career consciousness of athletes and working adults.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students have the carrier formation as the athlete and "carrier awareness to become a member of society". Students think about "carrier awareness" after a university admission seriously at early time and experience workshops and hear stories of the people who experienced member of society well, and establish the carrier consciousness that there is the conviction.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students assume for each four hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A normal point (25%), a problem report (25%), the report (50%) in the class
Grading Criteria is evaluated generally,

SOM100IA

生理学

高見　京太

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることである。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。
授業で使用する配布資料は、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に掲載されるので、これをダウンロードして予習をする。「テスト/アンケート」に掲載される予習 Sheet の解答を授業の前日までに実施したうえで、配布資料を持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人体の成り立ち、生体の持つ調節のメカニズム	人体の成り立ちを確認し、人の重要な生命プロセスを分類する。そして、生体の持つ調節のメカニズムを理解する。
2	細胞膜の生理学、細胞の電気現象	細胞の主要な部分の名称とその役割を学習し、細胞の電気現象を理解する。
3	神経系、体性感覚	神経系のはたらきを理解して、神経伝達の仕組みを学習する。感覚を分類し、体性感覚の受容器の仕組みを理解して、体性感覚の伝達経路を理解する。
4	視覚、スポーツビジョン	眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習して、スポーツビジョンについて学ぶ。
5	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	自律神経系、内分泌系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。 主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
8	血液、体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
9	消化、栄養	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。 生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	代謝	筋のエネルギー供給機構を学習して分類する。そして、エネルギー代謝について理解する。
11	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
12	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
13	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 4 版」（北川薫編著，市村出版，2020 年）
本テキストは、2 年次に開講される「運動生理学概論」でも使用する。

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 11 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020 年)

【成績評価の方法と基準】
予習 Sheet の提出 (39%)
復習 Quiz への解答（42%)
期末試験の結果 (19%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire be able to classify normal body functions and theoretically explain systematic interrelationships.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Be able to specifically describe the structure and function of the human body.

- Be able to systematize physiological functions and their mechanisms.
- Be able to consider life phenomena.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end Examination: 19%, Answers to Preparation Sheet: 39%, Review Quiz Answers: 42%

SOM100IA

生理学 A

高見　京太

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることである。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。
授業で使用する配布資料は、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に掲載されるので、これをダウンロードして予習をする。「テスト/アンケート」に掲載される予習 Sheet の解答を授業の前日までに実施したうえで、配布資料を持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人体の成り立ち、生体の持つ調節のメカニズム	人体の成り立ちを確認し、人の重要な生命プロセスを分類する。そして、生体の持つ調節のメカニズムを理解する。
2	細胞膜の生理学、細胞の電気現象	細胞の主要な部分の名称とその役割を学習し、細胞の電気現象を理解する。
3	神経系、体性感覚	神経系のはたらきを理解して、神経伝達の仕組みを学習する。感覚を分類し、体性感覚の受容器の仕組みを理解して、体性感覚の伝達経路を理解する。
4	視覚、スポーツビジョン	眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習して、スポーツビジョンについて学ぶ。
5	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。

6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	自律神経系、内分泌系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。 主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
8	血液、体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
9	消化、栄養	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。 生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	代謝	筋のエネルギー供給機構を学習して分類する。そして、エネルギー代謝について理解する。
11	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
12	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
13	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 4 版」（北川薫編著，市村出版，2020 年）
本テキストは、2 年次に開講される「運動生理学概論」でも使用する。

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 11 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020 年)

【成績評価の方法と基準】
予習 Sheet の提出 (39%)
復習 Quiz への解答（42%)
期末試験の結果 (19%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire be able to classify normal body functions and theoretically explain systematic interrelationships.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Be able to specifically describe the structure and function of the human body.
- Be able to systematize physiological functions and their mechanisms.
- Be able to consider life phenomena.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end Examination: 19%, Answers to Preparation Sheet: 39%, Review Quiz Answers: 42%

SOM100IA

機能解剖学 A

泉　重樹

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立２足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件である構造を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】
人体の骨格と関節運動の構造を３次元および３面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、人の動作の運動学的評価、スポーツ外傷・障害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配１
3	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
4	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
5	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
6	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
7	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
8	下肢（膝関節）	膝関節、靭帯、半月板、筋、運動
9	下肢（足関節）	距腿関節、距骨下関節、靭帯、筋、運動
10	下肢（足部・全体の復習）	足部の骨、静的・動的下肢アライメント、二関節筋、運動、神経
11	脊柱全体・頚部	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
12	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
13	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、仙腸関節、筋、運動
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回 特になし。
第 2～14 回 前回授業の課題への取り組みと復習。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能
中村千秋 (翻訳), 竹内真希: 身体運動の機能解剖. 医道の日本社 (2002/5)
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学. 医学書院 (2012/5)
坂井建雄: プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院 (2016/12)
F.H.Netter(著), 相磯貞和 (翻訳): ネッター解剖学アトラス原書第 6 版. 南江堂 (2016/8)
松村譲児: イラスト解剖学. 中外医学社 (2014/3)
広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂 (2019/12)

【成績評価の方法と基準】
試験７０％　平常点３０％

【学生の意見等からの気づき】
ほとんどが新しい用語で、さらに漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労しているようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline (in English)】
In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

SOM100IA

機能解剖学

泉　重樹

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立２足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件である構造を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】
人体の骨格と関節運動の構造を３次元および３面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、人の動作の運動学的評価、スポーツ外傷・障害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配１
3	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
4	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
5	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
6	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
7	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
8	下肢（膝関節）	膝関節、靭帯、半月板、筋、運動
9	下肢（足関節）	距腿関節、距骨下関節、靭帯、筋、運動
10	下肢（足部・全体の復習）	足部の骨、静的・動的下肢アライメント、二関節筋、運動、神経
11	脊柱全体・頚部	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
12	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
13	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、仙腸関節、筋、運動
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回 特になし。
第 2～14 回 前回授業の課題への取り組みと復習。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能
中村千秋 (翻訳), 竹内真希: 身体運動の機能解剖. 医道の日本社 (2002/5)
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学. 医学書院 (2012/5)
坂井建雄: プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院 (2016/12)
F.H.Netter(著), 相磯貞和 (翻訳): ネッター解剖学アトラス原書第 6 版. 南江堂 (2016/8)
松村譲児: イラスト解剖学. 中外医学社 (2014/3)
広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂 (2019/12)

【成績評価の方法と基準】
試験７０％　平常点３０％

【学生の意見等からの気づき】
ほとんどが新しい用語で、さらに漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労しているようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline (in English)】
In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

PHL100IA

スポーツ哲学

小田　佳子

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「体育とは何か？」「スポーツとは何か？」を考える上で必要な原理・原則について知識を深める。スポーツそのものが持つ価値や社会で果たす役割等について、自らの言葉で語ることができることを目標とする。
「人はなぜスポーツに魅せられるのか？」スポーツの魅力とはいったい何なのか。「スポーツ文化」という言葉が使われるようになって久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているのか。今後スポーツに携わる者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られるであろう。
「自分にとってのスポーツとはどのようなものか」その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについて、より深く考えることがスポーツの専門家には重要となる。

【到達目標】
スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。「プレイとは何か」、「指導者とコーチの違い」、「フェアプレイとは何か」、「スポーツとドーピング」、「オリンピックとオリンピズム」などスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。
　テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P. を使用したスクール形式の一斉対面授業を行う。
　本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。
　スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する
5	体育における人間形成	今とこれからを生きる時代精神の中で、体育はどのような人間形成をすればよいのか考える。
6	体育教師とコーチ	教師とは何をする指導者か、コーチには何が求められているのか、コーチング回路等を参考に考える
7	スポーツと勝利至上主義	スポーツにおける「勝利至上主義」という問題性について自己の経験から考える
8	運動部活動の意義と課題	運動部活動にはどのような意義や課題があるのか、「部活動改革」のあり方を考える
9	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係	プレイとは何か、ホイジンガのプレイ論を通してスポーツの価値について考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことなのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動の必要性等、今現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要 (なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
13	オリンピックとオリンピズム②	近代オリンピックが目指したものは何か、TOKYO2020 の現状と課題を踏まえて考える
14	まとめ (半期を通しての振り返り)	まとめ (半期を通しての振り返り) 及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回：「体育」という言葉の持つイメージを考える。
第 3 回：「スポーツ哲学」という言葉から想像される内容を考える
第 4 回：「体育」と「スポーツ」それぞれの指し示す内容について考える
第 5 回：「体育」でどのような人間形成が可能となるのか考える
第 6 回：自らが出逢ってきた保健体育の教師像を思い出してくる
第 7 回：これまで一番嬉しかった勝利から、試合で勝つことの意義を考える
第 8 回：部活動で「よかったこと嫌だったこと」の両面を考える
第 9 回：遊びにより培われてきたものは何か考える
第 10 回：アンフェアに見えてもフェアなプレイ、またその逆も考えてくる
第 11 回：なぜスポーツにおけるドーピングは禁止されるのか考えてくる
第 12 回：クーベルタンについて調べ学習を行う
第 13 回：これからのオリンピックの在り方について考えてくる
第 14 回：授業内試験に向けた準備及び、半期の振り返り
　本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
「教養としての体育原理　新版　-現代の体育・スポーツを考えるために-」
友添秀則・岡出美則編　大修館書店　新版第 1 刷 (2016 年 7 月)
また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参画として評価に加味する。授業におけるレポート等 (30%) に加え、定期試験の成績 (70%) による総合評価を行う。授業出席回数が授業実施の 2/3 未満の学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外において行う学習活動 (主に予習・授業準備) に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。また、従前の授業内容に関しても授業時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

【その他の重要事項】
公立中・高の学校現場で保健体育および英語の教員として 15 年間勤務し、その内 4 年間は文部科学省派遣で海外の在外教育施設の小中一貫校で勤務した。
※新型コロナウィルス感染拡大による授業形態等の変更には、柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
Deepen knowledge about the principles and basic necessary for thinking about "what is physical education?" And "what is sports?".
The goal of this lecture is to be able to speak in one's own words about the value of sports themselves and their role in society.
"Why are people fascinated by sports?" What is the appeal of sports?
It's been a long time since the word "sports culture" has been used, but can sports really become a culture?
In the future, those involved in sports will have to speak in their own words.
"What is sport for me?" It is important for sports professionals to think more deeply about sports that can be involved in various ways according to the purpose.

SOC100IA

スポーツ社会学

海老島　均

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学は，我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって，自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して，スポーツの光と影，様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになることを，本授業は目的としている。

【到達目標】
1) スポーツに関連した具体的事例を通して，社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め，グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
3) 社会学的な視点から，スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献資料およびＤＶＤやスライド映像資料を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインターラクティヴな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは，スポーツ社会学とは
2	近代スポーツの成立と発展	近代スポーツの成立過程，近代スポーツの特徴，近代スポーツのゆくえに関して考える
3	日本のスポーツ文化	武術と武道，国技としての相撲，日本のスポーツ組織，集団主義と精神主義等に関して検討する
4	グローバル化するスポーツ	イギリス型，アメリカ型のスポーツの世界的普及，グローバル化の光と影，ローカル・スポーツとの関わり等検討する
5	メディア化するスポーツ	スポーツとメディアの密接な関係，スポーツ・ジャーナリズム，テレビと放映権，ソーシャルメディアとスポーツ等に関して検討する。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して，国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断，または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して，歴史社会学的な研究経緯を示した上で，現代的問題に関して考える。
9	スポーツをめぐる社会問題	スポーツにおける暴力，ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性，学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を，社会学的観点から考える。
12	スポーツ政策とスポーツ振興	我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を，諸外国の事例と比較して検討する。
13	スポーツとテクノロジー	スポーツ用具の進化，AI 時代とスポーツ，e スポーツ，障害者スポーツとテクノロジー等に関して検討する。
14	まとめおよびスポーツ社会学研究の国際比較	授業全体のまとめ，およびスポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論にについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う内容に関連する教科書の章および関連文献を授業前に熟読し，授業時に発言，またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
菊幸一他編著『よく分かるスポーツ文化論』（改訂版）（ミネルヴァ書房）

【参考書】
菊幸一他編著『現代スポーツのパースペクティブ』（大修館書店）他，授業時に，それぞれの単元に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（リアクションペーパー，発言等）： 40 %
定期試験（ミニレポート含む）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパーに書かれた質問，コメントをより有効に活かして授業を展開していく。

【その他の重要事項】
原則対面授業であるが，教材の性質等によりオンラインを併用する可能性もあります。

【Outline (in English)】
Sociology will give us various perspectives to reflect on our society.
These perspectives cannot be easily obtained only through our experiences in our daily life. Using this wonderful tools, this lecture focuses on positive and negative aspects of sport which influence our society. A main objective for this lecture is designed for the students to be more insightful on what sport is.

HSS100IA

スポーツ運動学Ⅰ

工藤　裕仁

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し，運動および動きの評価の基礎を学習することによって，実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ．
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する．

【到達目標】
運動の質的評価の方法について，その流れ，手続き，注意点の概要を理解し，学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し，動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する．学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身体運動を構成する要素について概説し，身体構造と発達，身体構造と機能，動きのとらえ方（主観と客観）を理解し，その評価方法とストラテジーを学ぶ．運動指導のための評価として，モルフォロギーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り，その概要を学ぶ．またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態，種類，原理，局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロギーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロギー，バイオメカニクス的評価に基づく運動指導 走運動，投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】
試験　100%

【学生の意見等からの気づき】
具体例の提示を出来るだけ多くとり，理解を助ける．
web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise. To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement. It is desirable to review the previous lecture and prepare for the next lecture.
Grading criteria are exams(100%).

HSS100IA

ヘルスデザイン論

安藤　正志、林田　はるみ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長することを学ぶ。また、健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解するとともに、様々な視点から生涯を通じた健康づくりについて留意できる知識や対処方法修得することが授業の目的である。

【到達目標】
健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。
このうちいくつかの課題についてはオンデマンド授業で学ぶ。
オンデマンド授業の受講および課題については授業開始時に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論・運動と健康【担当：林田】	ヘルスデザインの定義と各論の紹介・運動が健康に及ぼす影響について講義する
2	食事と健康【担当：林田】	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康【担当：林田】	水分補給の重要性について講義する
4	心の問題と健康【担当：林田】	主に若者に特有な心の問題を講義する
5	トレーナビリティと健康【担当：林田】	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
6	免疫機能と健康【担当：林田】	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
7	ヘルスデザイン前半のまとめ【担当：林田】	ヘルスデザイン論前半で学んだの知識の確認を行う
8	飲酒と健康【担当：安藤】	飲酒の善し悪しについて講義する
9	日焼けと健康【担当：安藤】オンデマンド授業	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康【担当：安藤】オンデマンド授業	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	風邪症候群【担当：安藤】オンデマンド授業	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
12	喫煙と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	喫煙の問題点と害について講義する
13	歯と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
14	ヘルスデザイン・まとめと試験【担当：安藤】	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
オンデマンド授業は課題の提出をもって履修したとみなします。

【テキスト（教科書）】
資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】
特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを毎回講義前日までに確認し、必要な資料を各自印刷する。

【Outline (in English)】
course outline: This courses introduces that in recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology.
and then biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases.
Learning Objectives: In this lesson, students will learn and understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on reports (20%), and the examination (80%).

HSS100IA

健康科学

安藤　正志、林田　はるみ

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
旧科目名：**健康科学概論** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長することを学ぶ。また、健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解するとともに、様々な視点から生涯を通じた健康づくりについて留意できる知識や対処方法修得することが授業の目的である。

【到達目標】
健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。
このうちいくつかの課題についてはオンデマンド授業で学ぶ。
オンデマンド授業の受講および課題については授業開始時に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論・運動と健康【担当：林田】	ヘルスデザインの定義と各論の紹介・運動が健康に及ぼす影響について講義する
2	食事と健康【担当：林田】	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康【担当：林田】	水分補給の重要性について講義する
4	心の問題と健康【担当：林田】	主に若者に特有な心の問題を講義する
5	トレーナビリティと健康【担当：林田】	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
6	免疫機能と健康【担当：林田】	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
7	ヘルスデザイン前半のまとめ【担当：林田】	ヘルスデザイン論前半で学んだの知識の確認を行う
8	飲酒と健康【担当：安藤】	飲酒の善し悪しについて講義する
9	日焼けと健康【担当：安藤】オンデマンド授業	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康【担当：安藤】オンデマンド授業	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	風邪症候群【担当：安藤】オンデマンド授業	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
12	喫煙と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	喫煙の問題点と害について講義する
13	歯と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
14	ヘルスデザイン・まとめと試験【担当：安藤】	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
オンデマンド授業は課題の提出をもって履修したとみなします。

【テキスト（教科書）】
資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】
特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを毎回講義前日までに確認し、必要な資料を各自印刷する。

【Outline (in English)】
course outline: This courses introduces that in recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology.
and then biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases.
Learning Objectives: In this lesson, students will learn and understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on reports (20%), and the examination (80%).

PSY100IA

スポーツ心理学 A

島本　好平

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学とは，スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問であり，応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では，スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は，受講生がスポーツによる心理学的な影響についての知識を深めることである。また「競技者」「指導者」「教育者」等のそれぞれの立場からスポーツにおける心理学的問題・課題について，専門的知見から基礎的説明ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で展開する。また、可能な限りメンバー数名とグループを組み、グループディスカッションを展開してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。スポーツ心理学の意義とその役割について解説する。
2	動機づけを高める目標設定	目標設定による効果、目標設定における原理・原則等について学習する。
3	競技ストレスへの対処	心理検査をもとに自らのストレスパターンを調べ、ストレスとの付き合い方について学習する。
4	アンガーマネジメント	怒りや情動等をコントロールする方法について学習する。
5	ストレスを軽減するソーシャルサポート	ソーシャルサポートの種類とそれらが競技者の心理面に及ぼす影響等を学習する。
6	緊張・あがりへの対処	大事な場面において発生する緊張への対処方法について学習する。
7	メンバーとの関係性とコミュニケーション	コミュニケーションスキルの種類、およびそれらの獲得方法について学習する。
8	チームビルディング	チームのまとまり（集団凝集性）を高めていくための方法について学習する。
9	チームのまとまりを高める個の行動（組織市民行動）	チームのまとまりを高める、構成員の組織市民行動について学習を行う。
10	目標達成へと導くコーチングスキル	コーチングスキルの本質、および望ましいコーチングのあり方について学習する。
11	心理的競技能力を高める	心理的競技能力診断検査をもとに、同能力の構成と自らの現所について学習する。
12	スポーツと人間形成	スポーツが人間形成や行動変容に及ぼす影響について、また、行動変容につながる意識変容の重要性について学習する。
13	競技引退後のセカンドキャリア	現役中から引退後を含めた、アスリートの生涯にわたるキャリアの形成について学習する。
14	講義内容の総まとめ	これまで行った授業の総復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回に授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それらを参考にしながら更に知識を深めていってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布します。

【参考書】
・「現場で活きるスポーツ心理学」（杏林書院，編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点 60 %，最終レポート： 40 %，その他にも加点要素あり。
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業後に感想や質問などを記入するリアクションペーパーを提出してもらいます。そこで記入された意見・感想等については、次回の授業序盤に前回の復習も兼ねてフィードバックを行います。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによっては、授業計画に変更が生じることがあります。また，スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時触れていく予定です。

【Outline (in English)】
Sports psychology is a study that studies psychological problems related to sports, and is regarded as a domain of applied psychology. The purpose of this class is to learn the theory of sports psychology and its practical use.

SOC100IA

スポーツ史

山本　浩

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内のメガイベントが終わって整理のつかないうちに北京冬季大会。それが終わったと思えば、カタールの FIFAW 杯が待っている。去年の五輪が、つい今し方の小林陵有の金メダルが、すでにスポーツの歴史の中に刻まれてしまった。スポーツ史は、過去を探るのが主たる狙いではない。喜びの瞬間がなぜ訪れたのか、悔し涙は何が原因でこぼれたのか。一つ一つの事象を、ミクロのレベルからマクロのサイズに引いてみることで社会の構造を知り、人間の何たるかを解析する。スポーツの持つエネルギーを知り、スポーツ史を概観することで私たち自身が社会にどう立ち向かってきたのかを知ることを目的とする。

【到達目標】
スポーツの起源を暦の中に正確に指し示すことは不可能な技である。私たちにできるのはせいぜいスポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘することぐらいだろう。そこから今に到達するまでの過程で、自然や戦争や経済や外交がいかにスポーツを取り巻いてきたか。それを解き明かすところに受講者の目標の一つは設定される。
勝負の基本原則（強い者が勝ち、速い者が栄冠を授かり、優れた戦術を身につけた集団が褒めそやされる）をわきまえた上で、何が大切にされ続け、何が変わらずにいられなかったのか。節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件をひもといたとき、その延長上に、今につながるスポーツ世界観を体得することが可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。※ウィルスの影響次第で、オンライン授業を検討する。授業後、提示したスライドは教員が学習支援システムにアップロードする。授業内には、その日の講義に関連付けたミニ論文を書く時間を用意する。※ウィルスの影響でオンライン授業になった場合には、授業内課題の代わりに学習支援システムの「課題」欄に挙げたファイル（PDF）を読み込み、そこに示された課題を教員に宛てて期限内に送信する。
「スポーツ史」は、編年体の講義ベースで進める。受動的な時間ばかりにならないよう、受講生の積極的な発言を期待している。その上で毎回の課題には自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中にぶつける習慣を身につけてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	［全体ガイダンス］	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、スポーツの定義に始まって遊びや祭りとスポーツの違い、それに文明発生後の “スポーツ的” 行動を見る。
2	［古代オリンピック］	スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。紀元前 776 年に始まる歴史的イベントは現代のスポーツを占う上でつぶさに見ておく必要がある。
3	［戦いの世界と中世のスポーツ］	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と王侯貴族の時代に突入する。その中で、支配階級に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	［近世のスポーツ］	ルネッサンスを超えて産業革命の時代へ。この流れがスポーツに与えた影響には計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達とさまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	［フットボールの歴史］	歴史的に「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で１９世紀にいち早くルールを統一した組織は今日のサッカーにつながっている。これに対して、ラグビーは新たな動きを始める。フットボールの歴史を今につなぐ。
6	［近代オリンピック（１）~戦前編~］	第一回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。
7	［近代オリンピック（２）~戦中から戦後へ~］	オリンピックは、第二次世界大戦を挟んで、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも６４年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。政治の介入を受けながらも隆盛の時代を歩んだオリンピックを振り返る。
8	［現代のオリンピック］	現代のオリンピックは、その変化の始まりを８４年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	［陸上/水泳競技の歴史］	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をおいてもまず走るところにある。水辺の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	［野球の歴史］	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、日本のスポーツ教育史とも重なっている。
11	［相撲・武道の歴史］	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	［学校体育の歴史］	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。２０世紀が近づくにつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	［障がい者スポーツの歴史］	障がい者スポーツの最大の祭典は今、４年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一歩は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会にある。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障がい者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウィルスの蔓延がスポーツ界に大きなダメージを与えた。不運を嘆く人間も少なくないだろうが、この時代もスポーツ史の中にしっかり刻まれる。現代のスポーツ史は、政治史、経済史、社会史なしには語れない。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ること。自分で打ち込むスポーツがある者は、最新の映像でもたらされるアスリート周りの瞬時のアクションと、勝負の後の振る舞いにも目をこらしてみよう。学びを進めるうちに準備学習・復習時間は 2 時間でも足りなく感じることだろう。

【テキスト（教科書）】
なし (必要があれば資料は別途用意する)。

【参考書】
「２１世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹　大修館書店　2015 年
「スポーツ史講義」稲垣正浩著　大修館書店　2002 年
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著　市村出版　2015 年
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくと理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
対面形式：「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
※オンライン時：指定期限内に学習支援システムの「課題」欄を経由して提出する。
※ハイブリッド時：集中力の差を考慮して、対面で参加する学生とオンラインの学生との間に異なる課題を設定する。

オンラインで受講しているにもかかわらずライブ参加がなく、課題だけを提出する登録受講生の評価は、原評価の半分とする（最高点 1．5）。ライブ参加の場合も、短時間で切り上げて講義から退出した場合には得点が下がる可能性がある。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.5 点刻み ×13）。
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 50 点） には必ず取り組むこと。
すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき３回まで。自分の都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題より負荷の高いものになる。期末時の追加レポートを選択せず、オンライン参加のないままでの講義内課題に学習支援システムからの回答提出も選択できる。その場合、相当な理由があった場合には最高点 2 点とする。全講義終了後、レポートを選択するか、その都度講義内課題を選択するかは受講者の判断で行うことができる。両方を同時に選択することはできない。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使うスライドを Hoppii に早めにアップする。講義の中の説明の時間を十分にとりながら、受講者の声を聞く機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
講義では、パワーポイント、ＤＶＤ､映像資料などを使う（対面式の場合）。基本的に学生が準備する機器は、オンライン授業の場合のインターネット接続が可能なアイテムの他にはない。

【その他の重要事項】
放送局でスポーツに関わる解説委員をしていた教員が、長年の取材を通じて獲得した近現代史の現実を講義する。

【Outline (in English)】
The FIFA world cup in Qatar waits for their opening ceremony in half a year, though we had etched memories on the Tokyo Olympics. However, once looking back in history, you could find that sports did not develop smoothly. It was only 80 years ago as the sports suffered a great damage from the world war. Where could you find the origin of our sports? The requirement of the class is to catch up the way we walked along, by inquiring around the history of sports and to check how our society have treated the sports in the past.

HSS200IA

運動生理学概論

高見　京太

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果がもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的変化のメカニズムを理解することである。

【到達目標】
・運動による身体の機能変化について理解する。
・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に対面の講義形式で行う。
①授業で使用する『配布資料』が、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に掲載されるので、これをダウンロードして予習をする。
②配布資料と同時に『予習 Sheet』が、「テスト/アンケート」に掲載されるので、授業の前日までに実施する。
③『配布資料』を印刷して持参するか、PC やタブレット端末で閲覧できるようにして受講する。
④授業終了時に、『復習 Quiz』が「テスト/アンケート」に掲載されるので、これを期限内に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 運動の発現および制御、ならびに運動トレーニングによる脳・神経系への効果を習得する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	循環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	栄養と運動、体の大きさ、ウエイトコントロール	栄養素の役割とグリコーゲンローディングについて理解する。体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。スポーツ選手と肥満者のウエイトコントロールについて理解する。
10	体力の測定 (形態・神経・筋・全身持久力)	体力の測定方法を分類し、体型、身体組成、筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。また、基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	運動様式別の運動条件とその効果、およびライフステージ別の運動理論について理解するために、健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知る。
12	トレーニングとその効果 (神経系、筋力と筋量)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果について理解する。
13	トレーニングとその効果 (筋パワーと筋持久力)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果について理解する。
14	トレーニングとその効果 (全身持久力)	有酸素性運動と無酸素性運動の違いを理解し、至適運動強度や時間の違いによる運動効果の違いについて説明できる。また、日常生活やスポーツなどにおける有酸素性の身体活動を分類できる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
・配布資料を参考に、予習 Sheet を実施する。
・授業内容を整理して、復習 Quiz を実施する。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 4 版」(北川薫編著, 市村出版, 2020 年)

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 11 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020 年)
「健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻)」 (財) 健康・体力づくり事業財団

【成績評価の方法と基準】
予習 Sheet への解答 (39%)
復習 Quiz への解答 (42%)
期末試験の得点 (19%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本講義は、機能解剖学と生理学を学習していることを前提として授業を進める。分かりにくいことがあれば、機能解剖学や生理学のテキスト等を見直してほしい。各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire knowledge of the during effects of exercising, after exercising, or continuing exercising, and the mechanism of temporary or adaptive changes in the body.
Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to understand the functional changes of the body due to exercise and to systematize the physiological functions and effects of exercise and training and their significance.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end Examination: 19%, Answers to Preparation Sheet: 39%, Review Quiz Answers: 42%

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**
※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。**さらに今年度は新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曽有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。

4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED（自動体外式除細動器）	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第 1 回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）**※資料室収蔵**
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）**※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可**
第 2 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第 1 章～第 6 章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018) **※多摩図書館収蔵**
第 3 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第 6 回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言” から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 7 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.)
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 8 回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf）
第 9 回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
（https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf）
『雷対応マニュアル』（J リーグ）
『落雷事故の防止について』（文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）
第 10 回：
高木 修．『人を助ける心』（1998 年、サイエンス社）.（特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）**※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED ：突然死予防への課題」,「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 11 回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－.（1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 12 回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省, 2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
（https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947）
第 13 回：
『臨床雑誌 内科：特集：感染症 2020 ：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020 年 125 巻 1 号）**（医書 jp よりアクセスすることで全文ダウンロード可）**
第 14 回：
日本アンチ・ドーピング機構 website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）**※資料室収蔵**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
・入澤 充.『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
① 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). A quiz (mini test) will be provided occasionally in the classroom. The score of the quiz might be added to that of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS200IA

スポーツマネジメント論

井上　尊寛、伊藤　真紀、吉田　政幸、山本　浩

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 1/Wed.1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例を学習することで、課題解決のために必要なマネジメント知識やスキルを養うことを目標とする。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
（1）スポーツマネジメントの定義を説明できる。
（2）スポーツマネジメントの知識をもとにスポーツ組織、企業を多角的に分析することのできる基礎知識と分析力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツマネジメントは現在、様々な領域（学校・地域・職場・民間・プロスポーツなど）や事業現場で必要とされている。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を学ぶとともに、様々な事例を通して課題を研究しながら実学としてのスポーツマネジメントを学習していく（オムニバス方式・全１４回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントとは何か、その学問領域の範囲と概念についての理解を深める（井上）
2	スポーツマネジメントの構造	スポーツマネジメントはスポーツの生産、提供、消費の 3 段階によって大きく構成される。さらに、財務構造や組織構造も他の産業と異なっており、これらの特異性の観点から理解を深める。（吉田）
3	国と地方のスポーツ行政	戦後、厚生省から文部省にスポーツ行政が移管されて以降、1964 年東京五輪、2013 年スポーツ基本法成立を柱にして、現今のスポーツ振興方策、社会体育のあり方について学習する。(山本)
4	総合型地域スポーツクラブ	1995 年の施策の起点となった社会状況から、中学校部活動を受け入れようという今日の情勢までの四半世紀あまりをたどりながら、その期待されるところと機能、また今日的問題点を整理する。(山本)
5	スポーツクラブ経営の戦略	クラブマネジメントを方向づけるミッション・ビジョンの重要性と、それらに基づく戦略の立案について学ぶ。（吉田）
6	クラブマネジャーの役割	クラブマネージャーの役割と責任を理解するため、リーダーとしてのマネジメント能力と組織デザインについて学習する。（吉田）
7	地域スポーツクラブの運営	総合型スポーツクラブの（1）設立方法（設立準備、法人格の取得）と（2）運営方法（コミュニケーション、財務・会計・マーケティング、マネジメントなど）について、具体例とともに学習する。（ゲスト講師）
8	学校体育経営	学校教育の中で体育教師が関わる事案をベースに、都道府県教育委員会、都道府県体協、それに競技団体との関係を明らかにする。(山本)
9	スポーツ組織の特性	スポーツ組織における組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、組織形態について学習する。(伊藤)
10	スポーツ組織におけるリスクマネジメント	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化、リスクマネジメントに関する現状と課題について学ぶ。（伊藤）

11	スポーツ指導者に求められるマネジメント	スポーツ指導者に求められるスポーツマンシップ・スポーツインテグリティ・ハラスメント予防について学ぶ。（伊藤）
12	スポーツマーケティング	スポーツ団体・組織におけるマーケティングについて、具体的な事例やその目的、ステークホルダーの複雑性について解説し、その理解を深める（井上）
13	プロスポーツ（日本）	プロスポーツにおけるマーケティング戦略について具体的な事例を挙げながら学んでいく。さらに、プロスポーツで扱うプロダクトの特性およびファンの心理についても学習していく。（井上）
14	試験とまとめ	これまで学習した講義を踏まえ、期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講期間中はスポーツマネジメントに関するニュースや事例を読み、積極的に情報収集すること。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布します）。

【参考書】
その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業のリアクションペーパー、並びに期末試験で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業ではスポーツマネジメント理論や事例を履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to understand the basic theory of sports management.We find management tasks from various sports management cases.We will cultivate the ability to point out what kind of management is necessary to solve this management task.

ECN100IA

スポーツビジネス論Ⅰ

井上　尊寛

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	Ｊリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 (CSR およびソーシャルマーケティング)	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

HSS100IA

スポーツコーチング論 A

平野　裕一

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。さらに理解したものを実践で使えるようにすることも学ぶ。

【到達目標】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングの現状、多様な文脈、コーチに求められるもの、コーチの学び
・セルフコントロール、コミュニケーション、リーダーシップ、多様な思考法
・様々な人に対するコーチング、コーチングにおけるリスクマネジメント
を理解する。
一方で、理解した内容をコーチング実践の中で活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者を２つのグループに分ける。
１つのグループでは、授業の前半の時間にコーチングにおける思考・判断、態度・行動を講義形式で学び、後半の時間にコーチ役と選手役をつくって屋外でコーチングを実践し、その後それぞれの役からみたコーチング実践についてコメントする。コーチ役はスポーツスキルから１つを選びそのスキルを向上させるためのドリルを３つ作る。３週にわたり１つずつドリルを実践してコーチ役を終え、選手役と交替していく。
もう１つのグループは逆順で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義と実習の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	・スポーツの意義と価値 ・１巡目コーチの１回目実践	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	・日本のコーチングの今 ・１巡目コーチの２回目実践	グッドコーチに向けた「７つの提言」
4	・多様なコーチング文脈 ・１巡目コーチの３回目実践	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	・コーチに求められるもの ・２巡目コーチの１回目実践	コーチの主な機能（職務）
6	・コーチの学び ・２巡目コーチの２回目実践	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	・コーチのセルフコントロール ・２巡目コーチの３回目実践	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	・コーチのコミュニケーション ・３巡目コーチの１回目実践	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	・コーチングとリーダーシップ ・３巡目コーチの２回目実践	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	・多様な思考法に基づくコーチング ・３巡目コーチの３回目実践	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法

11	・発育発達と女性アスリートのコーチング ・４巡目コーチの１回目実践	・成長期の子どものコーチングの特徴 ・女性アスリートのコーチングの特徴
12	・障がいのある人のコーチング ・４巡目コーチの２回目実践	・アダプテッド・スポーツ ・インクルーシブ・スポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13	・リスクマネージメント ・４巡目コーチの３回目実践	・暴力的指導のリスクマネージメント ・スポーツ事故のリスクマネージメント
14	総括	・専門的知識への移行 ・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための３回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
（授業の各回には学習支援システムの「教材」に資料をアップロードする）

【参考書】
・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（３点 × １２回＝３６点）
・講義に関する期末テスト（６４点）
で総合１００点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching in the classroom and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In the practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student players.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to use these findings in the coaching practice on the court.
【Learning activities outside of classroom】
Student coach selects one of the sport skill and creates 3 drills to improve the selected skill of student players.
【Grading Criteria/Policy】
Comments to each coaching practice (36%) and term-end exam (64%)

HSS100IA

スポーツ実習入門

島本　好平

サブタイトル：（B）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

島本　好平

サブタイトル：（F）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（A）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水 1/Wed.1**
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（E）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田　道彦

サブタイトル：（C）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田　道彦

サブタイトル：（G）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：（D）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツ実習入門

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：（H）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**（　）カッコ内数字はクラスを示しています。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This class is aiming to acquire of nature, the ability that was able to turn to
"realization of the rich sports life through the life" by learning grasp of the physical strength of the self and high, the act various sports, a way of enjoying, a model (sports person ship and a manner, safe consideration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be usually almost careful about health condition such as nourishment, the sleep for it to move a body by training at time. In addition, students prepare for tomorrow's lesson about a rule, the act various sports.
Students assume for each two hours a standard at preparations for this class learning, review time.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
A participation manner point (60 points), the understanding degree (observation, 20 points) to sports, a report (20 points)

HSS100IA

スポーツコーチング論Ⅰ

平野　裕一

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。さらに理解したものを実践で使えるようにすることも学ぶ。

【到達目標】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングの現状、多様な文脈、コーチに求められるもの、コーチの学び
・セルフコントロール、コミュニケーション、リーダーシップ、多様な思考法
・様々な人に対するコーチング、コーチングにおけるリスクマネジメント
を理解する。
一方で、理解した内容をコーチング実践の中で活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者を２つのグループに分ける。
１つのグループでは、授業の前半の時間にコーチングにおける思考・判断、態度・行動を講義形式で学び、後半の時間にコーチ役と選手役をつくって屋外でコーチングを実践し、その後それぞれの役からみたコーチング実践についてコメントする。コーチ役はスポーツスキルから１つを選びそのスキルを向上させるためのドリルを３つ作る。３週にわたり１つずつドリルを実践してコーチ役を終え、選手役と交替していく。
もう１つのグループは逆順で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義と実習の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	・スポーツの意義と価値 ・１巡目コーチの１回目実践	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	・日本のコーチングの今 ・１巡目コーチの２回目実践	グッドコーチに向けた「７つの提言」
4	・多様なコーチング文脈 ・１巡目コーチの３回目実践	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	・コーチに求められるもの ・２巡目コーチの１回目実践	コーチの主な機能（職務）
6	・コーチの学び ・２巡目コーチの２回目実践	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	・コーチのセルフコントロール ・２巡目コーチの３回目実践	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	・コーチのコミュニケーション ・３巡目コーチの１回目実践	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	・コーチングとリーダーシップ ・３巡目コーチの２回目実践	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	・多様な思考法に基づくコーチング ・３巡目コーチの３回目実践	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法
11	・発育発達と女性アスリートのコーチング ・４巡目コーチの１回目実践	・成長期の子どものコーチングの特徴 ・女性アスリートのコーチングの特徴
12	・障がいのある人のコーチング ・４巡目コーチの２回目実践	・アダプテッド・スポーツ ・インクルーシブ・スポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13	・リスクマネージメント ・４巡目コーチの３回目実践	・暴力的指導のリスクマネージメント ・スポーツ事故のリスクマネージメント
14	総括	・専門的知識への移行 ・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための３回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
（授業の各回には学習支援システムの「教材」に資料をアップロードする）

【参考書】
・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（３点 × １２回＝３６点）
・講義に関する期末テスト（６４点）
で総合１００点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching in the classroom and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In the practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student players.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to use these findings in the coaching practice on the court.
【Learning activities outside of classroom】
Student coach selects one of the sport skill and creates 3 drills to improve the selected skill of student players.
【Grading Criteria/Policy】
Comments to each coaching practice (36%) and term-end exam (64%)

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅰ

平野　裕一

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法に関するこれまでの科学的知見を学ぶ。これらを理解することでトレーニング実践あるいはトレーニング指導を効率的、効果的なものにする。

【到達目標】
・トレーニングを実施する手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づくトレーニング目標の設定、手段・方法の選択、計画の立案、実践での留意点、効果の評価および実施手順の改善についての各理論を理解する。
・体力、技術トレーニングの内容・方法として、運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数およびトレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法についての講義を進める中で、トレーニングを実施する際に必要となる具体的な変数の算出およびトレーニング効果を示す図の理解記述などをアクティブ・ラーニングで行う。理解記述の結果は次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論 ・遺伝とトレーニング	・スポーツ・運動の構造を設計する意義 ・遺伝とトレーニングの関係
2	・トレーニングの目標論 ・全身持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の目標の立て方 ・全身持久力の要因とトレーニングの内容・方法
3	・トレーニングの手段論 ・高強度インターバルトレーニング（HIIT）	・トレーニングを実施する際の手段の選び方 ・高強度インターバルトレーニングの内容・方法と効果
4	・トレーニングの方法論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の手段の配置 ・筋持久力の要因とトレーニングの内容・方法
5	・トレーニングの計画論 ・筋力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方 ・筋力の要因とトレーニングの内容・方法
6	・トレーニング実践論 ・パワートレーニング	・トレーニングを実施する際の実施における留意点 ・パワーの理解、その要因とトレーニングの内容・方法
7	・トレーニング改善論 ・暑熱順化トレーニング	・トレーニングを実施後、改善するための方法 ・暑熱順化の原理とトレーニングの内容・方法
8	・スピードトレーニング	・スピードの分類、それぞれの要因とトレーニングの内容・方法
9	・バランスのトレーニング	・バランスの要因とトレーニングの内容・方法
10	・柔軟性のトレーニング	・柔軟性の要因とトレーニングの内容・方法
11	・高地トレーニング	・高地トレーニングの変遷、理論背景とトレーニングの内容・方法
12	・ウォーミングアップとクールダウン	・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、内容・方法
13	・技術トレーニングの考え方、基本原則①	・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則
14	・技術トレーニングの基本原則②	・技術トレーニングを実施する際の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「トレーニング科学」北川　薫編、文光堂
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版
・「パワーズ運動生理学」Scott Powers、メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価の方法と基準】
・講義の中でのトレーニング効果を示す図の理解記述を３点 × １４回＝４２点
・期末テストを５８点
として評価する

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【(Course outline】
This class deals with the physical and skill training science for exercise and sport. In addition to the training PDCA cycle, training variables(intensity, volume, frequency, and period) are introduced for each physical element. On the skill training, changes in the nervous system and principles of the training are introduced.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand findings in the training science and to utilize them in the application of training.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to apply the understandings into their sport fields.
【Grading Criteria/Policy】
Comments to the figure introduced in each class (42%) and term-end exam (58%)

LAW100IA

スポーツ法学Ⅰ

森　浩寿

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1
旧科目名：**スポーツ法学** [2012 **年度以前入学生**]
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、さまざまなスポーツ・ルール（特に規約類）について考えることである。それにより、選手や指導者の活動環境が良くなることが期待される。

【到達目標】
さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。
スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。
事故に関するスポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。
スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。
スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。
適宜、意見の開陳は求めるが、理解の確認や意見表明のためにリアクション・ペーパー類の小テストの提出を求める。
提出された小レポート等については、適宜、次回の授業で紹介し、学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在（条約、規程）、違反と処分
7	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
8	プロスポーツの選手契約(1)	プロ野球の選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
9	プロスポーツの選手契約(2)	サッカーＪリーグの選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約(3)	大相撲、バスケット bj リーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか
12	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任（民事・刑事）
13	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
14	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決（仲裁・調停）、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から、各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。
第 1 回：シラバスの理解
第 2 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 3 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 4 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 5 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 6 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 7 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 8 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 9 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 10 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 11 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 12 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 13 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）
第 14 回：前回の復習及び提示された予習（４時間）

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
特に指定しない。適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（20 %）…授業実時数の 2 ／ 3 以上の出席が成績評価の対象条件です。数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます。
試験・レポート（80 %）…与えられた質問に対して、決められた時間でいかにまとめることができるかが評価の基準です（最大 80 %）。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline (in English)】
Course outline
There are many legal issues in sports. For example, it is the issue of human rights, a professional player's contract dispute, the tort liability in case of the sports accident. Doping in sports is one of the biggest issue in world sports, and dispute resolution in sports is the big subject of concern too.
The goals of this course are to
(1) obtain the knowledge about sports and law
(2) be able to understand about the dispute resolution in sports
(3) obtain the knowledge about the legal responsibility in sports coaching
We examine the relationship of sports rule and the social norm.
Learning Objectives
The goals of this course are to know the legal issues that exist at various sporting levels and be able to describe solutions, classify the means of resolving sports disputes and explain the differences, and acquire correct knowledge of the legal responsibilities of sports coaches in relation to accidents and be able to explain the duty of care that should be fulfilled.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to be in touch with the news on a regular basis and take an interest in social events. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading Criteria
Final grade will be calculated according to the following process Short reports for each meeting (20%) and term-end examination (80%).

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上　尊寛

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
旧科目名：**スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**
※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	Ｊリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 (CSR およびソーシャルマーケティング)	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

SOM200IA

予防医学概論

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**
旧科目名：**スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】
スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。また健康づくり施策や健康運動指導士についても学習する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康日本 21」「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。また介護予防についても学習する。
12	外科的障害　上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害　下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害　脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、２００４年）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100 %）
理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: study basic knowladge about preventive medicine and sports injuries
2: learn the influence that physical activity and exercise give to health
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
− definitions, epidemiology, and pathophysiology related to sports medicine.
− the significance and effect of physical activity and exercise
− basic sports injuries / disabilities and first aid
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

SOM100IA

衛生学

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすために必要な衛生に関する基礎的・基本的な知識の理解を深めることである。
衛生学の基本的な考え方、食品衛生、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質と健康影響について学ぶ。授業では、実際に起きた事例を挙げて、ディスカッションにより問題点を抽出し、改善のための手立てを考えるようにすることを目指す。この領域のアプローチは、サイエンティフィックな要素、社会学的な要素など幅広い視点が必要とることに留意してほしい。間口は広く、奥行きは広いが、実生活に活かすことができることを最終目標とする。

【到達目標】
個々人の健康の保持増進のため、身の回りの環境の整備や化学物質の管理が重要であることについて理解し、社会人として責任ある実践に結びつけられるようにするとともに、次世代に繋げられるようにすることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法は、原則として対面による授業とする。パワーポイント資料を用いて授業を進める。適宜記入欄を設けているので、書き込むこと。また、各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。なお、受講者が多数となるなど、状況によっては zoom によるオンラインとする場合があるので、授業開始に当たっては、情報に留意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の概念	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	食品の安全性	食品の安全性について、過去の危害情報をもとにその重要性について概説する。
4	食品衛生・細菌性食中毒	食中毒の概要及び細菌性食中毒について取り扱う
5	食品衛生・自然毒食中毒	自然毒食中毒について概説する
6	食品衛生・食品添加物	食品添加物について概説する
7	食品衛生活動	食品の衛生管理と安全管理について概説する
8	水の衛生	身の回りの水の衛生管理の重要性について考える
9	飲料水の安全性	水道水など飲用に供する水の安全性について詳述する。
10	水質汚濁	水質汚濁による過去の公害について映像等に触れることにより課題を考える。
11	居住環境の安全管理	室内環境などの衛生管理の必要性と課題について概説する。
12	大気汚染	大気汚染物質及び健康影響について概説する。
13	化学物質の健康影響	化学物質による健康影響及び化学物質に対する考え方について詳述する。
14	環境管理の重要性	環境管理の重要性についてミクロ及びマクロの視点から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート（50 %）及び最終レポート（50 %）により評価する。欠席が多い場合には評価の対象とはしないことに留意する。なお、やむを得ず欠席する場合は理由を書面にて提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を取り入れるようにする。

【Outline (in English)】
(Course Outline) The purpose of this course is for students to gain the essential knowledge on hygiene, especially food and environmental hygiene.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire sophisticated expertise of hygiene.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short-Reports(50%),term-end report(50%)

HSS200IA

スポーツ栄養学

長谷川　祐子

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、食事・栄養について科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、スポーツ栄養学の基礎を学び、簡単な栄養アセスメントを演習します。

【到達目標】
《栄養学基礎》主要な栄養素の特性、栄養素／食品／食事の関係性、望ましい食事の構成等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》1 年間の期分けや、1 日の練習、試合前後といったタイミングを考慮した食事法について説明できる。また、栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》水分補給、減量、増量、貧血、女性アスリートの３主徴など、栄養管理上の主要な課題とその対応策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
0. 授業資料の入手…予習時にダウンロード
1. 前回の小テストの解説
2. 講義（演習問題を含む）
3. 小テスト
※出席…小テストの提出により出席とする。
※リアクションペーパー…小テストによる。
※ Q&A …学習支援システムの授業内掲示板にて対応。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、食事の基礎 《栄養は車にたとえられる：車はどう作られているか》	・授業の進め方について理解する。 ・食生活と健康の関係、食事の基本構成、栄養素の名前・役割・含まれている食品や料理、体に入る経路（消化と吸収）について概要を知る。 【演習】栄養アセスメント（６つのお皿、食品摂取多様性スコア）
2	エネルギー　基礎（エネルギー供給機構と競技分類） 《エンジンの種類と車種、必要なガソリンの量》	・身体活動（生活活動・運動）、身体活動レベル、身体活動量（エネルギー消費量）とその内訳、エネルギー供給機構と競技分類について理解する。 ・エネルギー消費量のアセスメント法を知る。 【課題１】行動記録の記入 【課題２】栄養アセスメント（身体組成に基づく基礎代謝量推定、行動記録に基づくエネルギー消費量推定）
3	エネルギー　応用（女性アスリートの３主徴） 《ガス欠》	・身体活動、食事、相対的エネルギー不足の関係、骨代謝、女性アスリートの 3 主徴、RED-S について理解する。 ・骨密度およびエネルギー不足のアセスメント法を知る。 【演習】栄養アセスメント（FAT チェックシート、EAT-26）
4	たんぱく質　基礎 《車体の維持》	・たんぱく質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 【演習】たんぱく質目標摂取量の推定
5	たんぱく質　応用（減量） 《車体の改造》	・競技と体格の関係を知る。 ・身体組成のアセスメント法を知る。 ・減量の方法について理解する。 【演習】減量計画の作成
6	脂質　基礎 《レギュラーガソリンの利用》 エネルギー/脂質　応用（増量） 《車体の改造》	・エネルギー産生栄養素である脂質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・競技力向上と健康増進に役立つ脂質の機能性について理解する。 ・増量の方法について理解する。 【演習】脂質目標摂取量の推定
7	炭水化物　基礎 《高性能ガソリンの利用》	・エネルギー産生栄養素である炭水化物の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 【演習】炭水化物目標摂取量の推定
8	水分　基礎 《車体を冷やすラジエータ》	・体内における水分およびナトリウムの機能、吸収、効果的な補給法、脱水のアセスメント方法について理解する。 【演習】栄養アセスメント（CRT）
9	炭水化物と水分　応用（試合前後の食事・水分補給） 《レース前後の整備》	・グリコーゲンローディングを始め試合前後の食事の概要、タイムスケジュール、注意点について理解する。 ・合宿、遠征時の食事の注意点について理解する。
10	ビタミン 《エンジンオイル、ワックス、グリースの利用》	・ビタミンの定義、過剰症・欠乏症を知る。 ・エネルギー代謝、骨代謝、造血、免疫能に関与するビタミンについて知る。 【演習】栄養アセスメント（簡易ビタミン K 摂取調査表）
11	ミネラル①鉄と貧血 《車体の維持と修理》	・ミネラルの定義、過剰症・欠乏症を知る。 ・鉄の機能、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・スポーツ貧血について理解する。 ・鉄の栄養アセスメント方法を知る。
12	ミネラル②カルシウム・マグネシウムと骨代謝、その他のミネラル 《車体の維持と修理》	・カルシウム、マグネシウムの機能、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・その他のミネラルの機能を知る。 【演習】栄養アセスメント（カルシウム自己チェック表） 【課題３】アスリートの食事改善
13	サプリメント 《チューニング》	・サプリメントのメリット・デメリット、必要性の検討法について理解する。 ・スポーツ現場でよく用いられる機能性成分について知る。 【演習】栄養アセスメント（食習慣・コンディショニング質問紙）
14	ライフステージ別栄養問題と栄養ケアマネジメント 《メンテナンス長期計画》	・子どもの欠食/肥満、女性・妊婦のやせ、成人の肥満、高齢者の低栄養など、ライフステージごとの栄養問題と栄養ケアマネジメントについて知る。 ・オンライン試験・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・講義資料の読了…学習支援システムよりダウンロードし読んでおく。
【復習】
・講義資料による復習
・オンライン小テスト…学習支援システムにて次回授業までにやっておく。
・課題
※本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（講義資料を毎回配布）

【参考書】
・「リファレンスブック」（日本スポーツ協会）
・「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目 I」（日本スポーツ協会）
・「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目 III」（日本スポーツ協会）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー　専門科目テキスト第 9 巻）」（日本スポーツ協会）
・「エッセンシャル・スポーツ栄養学」（市村出版）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「改訂版『身体活動のメッツ（MET s）表』」（国立健康・栄養研究所）{http://www.nibiohn.go.jp/files/2011mets.pdf}
・「日本人の食事摂取基準　2020 年度版」（厚生労働省）{https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html}
・「食品成分データベース」（文部科学省）{http://fooddb.mext.go.jp/}
・「健康食品の安全性・有効性情報」（国立健康・栄養研究所）{https://hfnet.nibiohn.go.jp/}
・自炊のすすめ（全国大学生活協同組合連合会）{https://www.univcoop.or.jp/parents/cooking/index.html}

【成績評価の方法と基準】
評価配分：　最終回試験（50 %），課題１・２（20%），課題３（20%），授業への取り組み（10 %）
小テスト未提出が 5 回以上の場合、出席不足として評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・授業の終了時間がオーバーしないように調整します。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。
・紙の講義資料は配布しません。映写に加え、手元でも資料を見たい人は印刷するか閲覧機器（スマートフォン等）を持参のこと。

【その他の重要事項】
・関連資格：アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者
・授業の展開によって、進行に若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
< Course outline > The aim of this course is to help students acquire the basics of sports nutrition while exercising a few nutritional assessments, so that they will be able to provide evidence-based advice on diet and nutrition.
< Learning Objectives > By the end of the course, students should be able to:
− explain the nature of major nutrients, the relationship between nutrients/foods/diet, and the composition of well-balanced diet.
− explain about the nutritional strategies considering the periodization and the timing in daily training sessions or sports events.
− make suggestion for appropriate diet with the results of some nutritional assessments.
− explain about the dietary approaches for the important issues such as hydration, weight loss/weight gain, sports anemia, female athlete triad, and so on.
< Learning activities outside of classroom > Before each class meeting, students will be expected to have a read the handout downloaded from the e-learning support system. After each class meeting, they will be also expected to understand the course content with the handout, the quiz online, and the homework assignments. Their study time will be about four hours in total for a class.
< Grading Criteria /Policy >
Final grade will be calculated according to the following process: Final exam (50%); Assignment 1 & 2 (20%); Assignments 3 (20%); Active participation (10%). If students missed to take the quizzes online 5 times or more, they cannot pass this course.

HSS200IA

スポーツバイオメカニクス

工藤　裕仁

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と，重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する．そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する．

【到達目標】
スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し，簡単な関節モーメントの算出が可能になる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び，キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する．また，キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクス的手法についてもその概要と分析方法について学ぶ．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，授業の流れを概説	ガイダンス，授業の流れを概説
2	力学の基礎__力とスカラー量・ベクトル量	力とスカラー量・ベクトル量について知る
3	力学の基礎__力と運動	スポーツ領域で取り扱う力と運動の関係の基礎について学ぶ
4	力学の基礎__変位・速度・加速度	スポーツ領域で取り扱う変位・速度・加速度の基礎について学ぶ
5	力学の基礎__並進運動の力学	スポーツ動作で取り扱う並進運動の基礎的力学を学ぶ
6	力学の基礎__回転運動の力学	スポーツ動作で取り扱う回転運動の基礎力学を学ぶ
7	キネマティクス的分析__分析方法の基礎	キネマティックスにおける分析方法の基礎を学ぶ
8	キネマティクス的分析__事例検討	キネマティクス分析方法の応用を事例を通して学ぶ
9	キネティクス的分析__分析方法の基礎	キネティクスにおける析方法の基礎を学ぶ
10	キネティクス的分析__事例検討	キネティクス分析方法の応用を事例を通して学ぶ
11	筋電図__分析方法の基礎	筋電図では何を見ているのかを知り，その分析方法の基礎を学ぶ
12	筋電図__事例検討	筋電図学的分析方法の応用を事例を通して学ぶ
13	バイオメカニクス的研究例__研究デザイン	研究デザインからみた事例検討
14	バイオメカニクス的研究例__事例検討	研究の実践を事例を通して学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 1.5 時間 を標準とする

【テキスト（教科書）】
必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
力学の基礎においては，文系出身者にでもわかるよう比較的簡単な具体例も用いる．

【その他の重要事項】
ただし，授業の展開によって若干の変更があり得る

※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
To learn that sports motion is an interaction between articulation and external forces such as gravity and ground reactive force.
To learn basics of the Newton mechamics in sports

SOM200IA

公衆衛生学

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、健康問題を集団として取り扱い、科学的根拠に基づいて、その背景や課題解決の方策について理解を深めることである。
授業は、地域や国などの単位で統計的に健康問題を捉えるとともに、年齢、性や職業などの視点でも理解を深め、集団が抱える課題を追求していく。また、疾病や健康の要因について、どのように絞っていくかを、科学的な根拠に基づいて明らかにすることの重要性について理解できるようにする。様々な健康情報が飛び交う中で、適切な意思決定や行動選択がどのようになされるべきかを学ぶ。社会人として，生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを学ぶことである。

【到達目標】
疾病予防のためにどのような方策が重要であるか、行政など社会が果たす役割とは何かについて理解できるようにする。さらに、生涯を通じての健康的なライフスタイル形成のためにできることは何かについて、自分自身ばかりでなく社会に対しても働きかけることができることを目指す。また、保健体育科教員として学校現場で効果的な「保健」の授業ができる基盤となる知識が獲得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、対面による授業で進める。また、授業に際し、パワーポイント資料を配布する。授業では、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	公衆衛生学の全体を見渡す
2	保健統計／その意義	保健統計が示す国民の姿から、その意義を捉える。
3	保健統計／人口統計	人口静態統計及び人口動態統計について詳述する。
4	保健統計／死因統計	死因別死亡率や悪性新生物による死亡率について概説する。
5	生命表の意義	生命表、平均寿命及び平均余命について概説する。
6	疫学概論	疫学とはどのような学問なのかについて概説する。
7	疫学の歴史	疫学的なアプローチについて過去の事例を紹介し、その意義を詳述する。
8	コホート研究	コホート研究について詳述する。
9	症例対照研究	症例対照研究の意義について詳述する。
10	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念、および一次予防の重要性について概説する。
11	感染症と対策	感染症の今日的課題について概説する。
12	母子保健	母子保健の重要性と課題、思春期の性に関する健康課題について概説する。
13	高齢者保健	高齢者の健康課題について概説する。
14	労働衛生	労働衛生の意義、及び題について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
なし（授業時にパワーポイント資料等を配付する）

【参考書】
国民衛生の動向 2021/2022(厚生労働統計協会）

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート 50 %、最終レポート 50 %で評価する。
ただし、欠席が多い場合には評価の対象からはずれるので留意すること。欠席の理由は必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
(Course outline)The purpose of this course is for students to understand the public health based on the evidence.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire sophisticated expertise of public health.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short-Reports(50%),term-end report(50%)

HSS200IA

体力測定・評価論

高見　京太、泉　重樹

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring**　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 1/Mon.1**
旧科目名：**体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】
・各種測定の目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考察の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要となるフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようになるための知識や技術を理解する。
授業の後半は、運動指導者やアスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には外傷・障害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。
なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）【担当：高見】	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）【担当：高見】	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト【担当：高見】	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に 5 段階または 10 段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定【担当：高見】	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法につて講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価【担当：高見】	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健常高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定【担当：高見】	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量【担当：高見】	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取，姿勢・アライメントの評価【担当：泉】	HOPS、SOAP ノートの作成, 姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋萎縮・関節弛緩性の評価【担当：泉】	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定【担当：泉】	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価【担当：泉】	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査【担当：泉】	徒手筋力検査の目的と意義を理解し，具体的な方法については実技を交えながら，講義する.
13	整形外科的理学検査 1【担当：泉】	腰部・股・膝・足関節・手・肘・肩関節，頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	機能的動作の評価【担当：泉】	機能的動作の評価方法について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5　検査・測定と評価
山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
C Starkey,J Ryan 著，中里伸也 監訳，スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック，NAP
J. Gross , J. Fetto , E. Rosen 著　石川斉，嶋田智明 監訳，筋骨格系検査法［第 2 版］，医歯薬出版株式会社，2005
STANLEY HOPPENFELD ：図解 四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
他，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・泉担当分について
授業が対面になる場合には試験を 50 点満点で行う。オンライン授業の場合には、参加（各回のアンケート／小テストへの実施得点）を合算し 50 点満点で点数化する。
・高見担当分について
授業が対面になる場合には試験を 50 点満点で行う。オンライン授業の場合には、参加（1，2，4，5 回目の小テスト、3、6 回目のレポート課題）を合算し 50 点満点で点数化する。
泉、高見による得点を合計して、100 点満点で採点する。

【学生の意見等からの気づき】
実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。
履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられている。学生の主体的な取り組みを期待したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
The purpose of this lesson is to learn the significance and point of view about the physical fitness in the broad sense required in sports and health exercise leaders and athletic trainers and then to understand and acquire the examination contents and methods necessary for evaluation and the purpose and significance of observation and analysis of movements.

SOM200IA

学校保健

北垣　邦彦

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、学校における児童生徒及び学生等の健康課題について理解を深めることである。
学校保健とは何か、具体的な領域構造を学ぶ。その上で、どのように学校環境を維持すべきか、またどのような指導を行う必要があるかを理解できるようにする。学校保健の主体とは誰なのかを認識し、そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

【到達目標】
学校保健の構造について理解し、学校保健がどのような法律によって裏付けされているのかを理解できるようにする。また、学校保健を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋げられるようにする。一方の学習環境については、学習能率の向上や情操の陶冶にとっても重要であることが理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用し、双方向で理解の程度に合わせて進めることとする。必要に応じ、課題解決のためのディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	学校保健を見渡す。
2	学校保健の構造	法令、行政の枠組みを通じて学校保健について概説する。
3	学校保健関係職員	学校保健に関わる職種について概説する。
4	健康診断	健康診断、健康観察および保健指導について概説する。
5	学校における感染症	学校で対応すべき感染症について概説する。
6	子供の心の課題	子供の心の課題について概説する。
7	情報	メディアリテラシーについて概説する。
8	学校環境衛生基準１	学校環境衛生活動（教室の空気等）について詳述する。
9	学校環境衛生基準２	学校環境衛生活動（飲料水、プール水）について詳述する。
10	保健教育・健康教育	学校における保健教育の構造について概説する。
11	飲酒防止教育	飲酒防止教育の重要性について詳述する。
12	喫煙防止教育	喫煙防止教育の重要性について詳述する。
13	薬物乱用防止教育	薬物乱用防止教育の重要性について詳述する。
14	性に関する課題	性に関する課題について詳述する。
	総括	これまでの授業の振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出が求められる。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students will be required to submit reports on the issues presented in class.

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
学校保健マニュアル（南山堂）

【成績評価の方法と基準】
授業後に求める小レポート３０％、最終レポート課題５０％、平常点２０点
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 20%、Final report : 50%、in class contribution: 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen understanding of the health issues of students and pupils in schools.
Students will learn what school health is and the specific domain structure. Then, students will be able to understand how the school environment should be maintained and what kind of guidance needs to be provided. The ultimate goal is to be able to recognize who is the subject of school health and to be able to think on one's own about what initiatives are necessary to achieve this.

SOM100IA

機能解剖学 B

加藤　基

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学 B では、動脈・静脈・リンパ管といった脈管系と脳・脊髄・末梢神経といった神経系について学ぶ。これらの器官はスポーツ領域で学習する機能解剖学においては応用的な分野と考えられることがあるが、スポーツ傷害や運動制御や運動学習について正確に理解するためには、十分に学習しておくことが必要である。本授業では、スポーツ傷害の理解および運動制御、運動学習に関わる脈管系、神経系を学び、傷害評価の新たな視点と運動習得の可能性を見出すことを目標とする。

【到達目標】
・主要な血管の名称と走行を理解する
・リンパ系の構造と機能とを理解する
・脳の構造と機能局在を理解する
・末梢神経系の名称と走行、機能を理解する。
・運動制御に関わる神経系の構造と機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主要な構造について授業内で概説し、触察によって体感を持ちながら学習をする。
より詳細な部分については宿題・レポート課題などへの取り組みによって獲得することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 脈管系の全体像、神経系の全体像
2	脈管系（心臓、頚部・頭部、その他体幹）	心臓の構造と心臓を起点とする脈管の走行、頚部・頭部の脈管の走行と機能、その他体幹における脈管
3	脈管系（上肢）	肩・上腕・肘の血管系、前腕・手の血管系
4	脈管系（下肢）	股関節・大腿・膝の血管系、下腿・足の血管系
5	リンパ系	リンパ系の機能と走行
6	神経系（脳）	脳の機能と機能局在
7	神経系（末梢神経）	脳神経、自律神経、体性神経
8	神経系（自律神経）	走行と機能
9	神経系（上肢）	上肢の末梢神経の走行と機能
10	神経系（下肢）	下肢の末梢神経の走行と機能
11	神経系（反射）	腱反射、筋緊張の制御
12	神経系（運動制御）	小脳、錐体路系、錐体外路系
13	神経系（前庭）	前庭による運動の調整
14	脈管系と神経系	全体のまとめ、関連するスポーツ傷害、運動習得への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で復習用のプリントを配布する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業資料は授業支援システムを使用して提示する。

【参考書】
町田 志樹：解剖学 (PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎) . 羊土社

【成績評価の方法と基準】
小テスト (40%) ※ 10 点 ×4 回、試験 (60 %)

【学生の意見等からの気づき】
各回の復習プリント配布及び事前告知をしたうえで小テストを実施することによって、定期テストのときだけの勉強にならず勉強がしやすいという意見を得た。各回の復習プリントを工夫し、学習内容の定着に役立てたい。
基本的には講義形式であるものの、触診実技をしたり、ゲーム形式の学習をしたりすることで参加型の授業を行うことで取り組みやすかったという意見を得た。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面授業が実施されない間は Zoom で同時双方向型授業を実施する。

【Outline (in English)】
This course focuses on the structures and functions of artery, vain and nerve system. Studying these organs is important to understand sports injuries, human movement.

ECN200IA

スポーツ産業論

吉田　政幸

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義において、履修者はこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】
スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：
(1) スポーツ産業の構造および現状
(2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
(3) 米国大学スポーツの歴史的変遷、概要、産業規模
(4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書（スポーツ産業論、第 7 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。
また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史的変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツサービスと消費者行動	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 6 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが災害復興支援に取り組むように、スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的責任がある。その概念規定、種類、特徴を学ぶ。
第 7 回	スポーツメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の構造と特性を踏まえ、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを強める現状について学習する。
第 8 回	北米のプロスポーツ	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 9 回	プロスポーツ産業	みるスポーツの現状を知るとともに、プロスポーツの熱狂的ファンの心理的・行動的反応として注目されるファンエンゲージメント概念について理解を深める。
第 10 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 11 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 12 回	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントは開催都市に社会的、経済的恩恵をもたらす。イベント効果の定義、種類、形成方法、そして効果を生み出すことの意義について学習する。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組みについて学ぶとともに、企業がアスリートに協賛するエンドースメントについても理解を深める。
第 14 回	スポーツ産業のまとめ	日本のスポーツ産業の現状と特徴を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（スポーツ産業論、第 7 版）や参考資料を事前に読み込み、疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第 7 版）. 杏林書院：東京.

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
中間テスト： 50 点
期末テスト： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンなど

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2 週目以降は教科書や指定された参考資料を事前に読んできてください。

【Outline (in English)】
The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. The purpose of this course is to understand the fundamental elements of the sport industry. Before each class, students are expected to read relevant book chapters. Grading will be decided based on mid-term exam (50%) and final exam (50%). Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN200IA

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる。
3．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義：スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学１	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学２	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか１ Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM)、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか２ リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか３ モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報４	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility（CSR）事例研究）】について学習する。
13	ケーススタディー	これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。
14	授業総括	これまでの授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、
リアクションペーパーの内容（30 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing). The goals of this class are: 1.You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Explain what management knowledge can change in sports. The grade evaluated by contents of reaction paper (30%), Quiz (30%), Evaluate by the content of the report (40%).

HSS100IA

運動療法総論

安藤　正志、林田　はるみ

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】
運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特に筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動療法とは【担当：林田】	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動が生体に及ぼす影響【担当：安藤】	運動が筋骨格系に及ぼす影響を解説する
3	運動療法の効果判定の仕方（筋力）【担当：安藤】	緊張力や筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
4	運動療法の効果判定の仕方（筋張力および筋持久力）【担当：安藤】	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
5	筋力強化のための運動療法【担当：安藤】	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
6	筋持久力強化のための運動療法【担当：安藤】	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
7	運動療法の効果判定の仕方（協調性）【担当：安藤】	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	協調性のための運動療法【担当：安藤】	協調性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
9	運動療法の効果判定の仕方（柔軟性）【担当：林田】	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
10	柔軟性のための運動療法【担当：林田】	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
11	運動が生体に及ぼす影響【担当：林田】	運動が代謝循環器系に及ぼす影響を解説する
12	運動療法の効果判定の仕方（全身持久性）【担当：林田】	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
13	全身持久性強化のための運動療法【担当：林田】	全身持久性を強化するための運動方法を解説し実際に体験する
14	運動療法総論のまとめと試験【担当：林田】	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、資料を配付する

【参考書】
日本スポーツリハビリテーション学会 JSSR 認定トレーナーテキスト/JSSR 認定トレーナーテキスト編集委員会

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義の途中に実技を行うことがあるため運動ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

【Outline (in English)】
This lesson, for understand what kind of biological response is obtained by exercise. In addition, for learn about the theoretical background and practice of exercise therapy.

HSS200IA

リハビリテーション概論

昇　寛

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術者を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】
リハビリテーションの基本的知識と技術を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造
3	障害者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害体験
4	車いす杖など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
7	物理療法の実習と体験	赤外線・ホットパック
8	物理療法の実習と体験	寒冷療法
9	物理療法の実習と体験	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法
10	整形外科疾患のリハビリテーション１	整形外科疾患（主に上肢の障害）のリハビリテーション
11	整形外科疾患のリハビリテーション２	整形外科疾患（主に下肢の障害）のリハビリテーション
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害のリハビリテーション
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーション
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
イラストでまなぶ・わかる　プレリハ　リハビリ・医療系　第 1 版
株式会社アイペック

【参考書】
特に定めず

【成績評価の方法と基準】
平常点と定期試験との合計点で評価（6 割以上が合格）。出席日数が不足している場合には定期試験を受けても採点対象になりません。原則として全講義に出席してください。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の 1/3 回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
実技をより多く取り入れ理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
It aims to understand what rehabilitation is. Understand the field of rehabilitation and technicians to provide. We also experience the daily living behavior of disabled people and the tools of persons with disabilities.
【Goal】
Understand the basic knowledge and skills of rehabilitation.
【Work to be done outside of class】
1st: Nothing in particular
2nd to 14th: Efforts and review of the previous lesson Preparation for this lesson The standard study and review time is 2 hours each.
【Grading criteria】
Evaluation is based on the total score of the normal score and the regular test (60% or more passed). If you do not have enough days to attend, you will not be eligible for scoring even if you take the regular exam. As a general rule, please attend all lectures. If you have to take a rest for unavoidable reasons, please be sure to consult before or after. By imposing another task for that reason, we may allow up to 1/3 of all lectures.

HSS200IA

健康と疾患

安藤　正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧科目名：**健康科学Ⅱ [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の仕組みと病気について理解する。病気と健康について理解する。

【到達目標】
代表的疾患について基本的事項を理解し、その予防法と治療法を学ぶ。
また健康の指標となる簡便な測定法や評価法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国民病とされる代表的な病気や外傷について講義を行う。また視聴覚教材を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	健康と疾患のすすめかた	健康と疾患の授業の概要
3	病気と外傷	病気と外傷（病気とは？ 外傷とは？ 障害とは？）
4	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞とは？ 脳出血とは？）
5	癌	癌（胃癌、大腸癌、肺癌）
6	心疾患	心疾患（心筋梗塞とは？ 心虚血性疾患とは？）
7	内部障害	内部障害（糖尿病とは？ 高脂血症とは？ 動脈硬化とは？）
8	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病とは？ 脊髄小脳変性症とは？）
9	リウマチ	リウマチ（慢性関節リウマチとは？）
10	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折）
11	変形性関節症	変形性関節症（変形性膝関節症とは？ 変形性股関節症とは？）
12	腰痛症	腰痛症（急性・慢性腰痛症とは？ 筋筋膜性腰痛症とは？ 脊椎分離滑り症とは？）
13	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害	スポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靱帯損傷）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論
要点整理と用語解説　改訂第２版
編著　椿原彰夫

【参考書】
特に定めず。必要な資料を授業前にファイルなどで配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点をリアクションペーパーや提出物などで評価する 40 %・定期試験 60 %
※ 6 割以上で合格
※定期試験は欠席が多い場合は採点対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】
専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：ヘルスデザイン論を履修済みであること。

【Outline (in English)】
Understand the structure and illness of the body. Understand about diseases and health. Students should research the disease in the title of the lecture. Grades will be determined by regular exams and reports.

HSS100IA

アスレティックトレーナー概論

泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なる**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アスレティックトレーナー（AT）」の役割とその業務を理解することが第一の目的である。本邦における日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国における AT 同様の資格の状況を理解する。AT の現場での活動および組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携をとって選手をサポートしていくかなど AT が現場で活動する上で必要な知識を養う。スポーツ分野で働くことの意義について学習する。

【到達目標】
「アスレティックトレーナー」という仕事・役割を、欧米・アジアと日本、各競技、各種資格や各種スポーツ現場における役割などによる違いを通して理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントや VTR 等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、個々の意見発表の場をできる限り設けていきたい。講義の後半部分では、外部講師による特別講演も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	AT の歴史と現状	日本における AT の歴史および現状、諸外国における AT に相当する制度の現状について講義する。
2	AT の任務と役割	AT の任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	AT の業務	AT の具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	AT の活動（合宿・遠征）	AT の実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	AT の活動（練習・試合）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	AT の活動（競技別）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	AT の活動 （外部講師の招聘）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割（医学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割（科学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	医科学スタッフの構成と役割（具体的な事例）	医科学スタッフの構成と役割として、コーチングスタッフとの連携・協力について、具体的な事例から役割の違い等を明らかにしながら概説する。
11	AT の組織と運営（外部講師の招聘）	AT の組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	AT の組織と運営（データ活用）	AT の組織と運営について、競技者のコンディショニングに関するデータの管理方法およびその実際について概説する。
13	AT と倫理	AT と倫理として、AT の社会的な立場、AT を取り巻く環境について考える。
14	AT の未来	これまでの講義を通して日本におけるアスレティックトレーナーの今後について議論を行い考えを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・特になし。各回の講義資料は、学習支援システムから各自ダウンロードすることとする。

【参考書】
1．広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂
2．平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウス HD
3．スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウス HD
4．臨床スポーツ医学（月刊誌），文光堂
5．日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社
6．日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1 アスレティックトレーナーの役割

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は、授業への参加（各回の小テスト／レポートへの実施得点）を合算し、最終的に 100 点満点で点数化する。

【学生の意見等からの気づき】
授業を通して「アスレティックトレーナー（AT）」という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。アスレティックトレーナーを目指す目指さないに関わらず、スポーツに必須の役割である AT の業務内容を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けている。
コロナ禍になり過去 2 年はオンライン授業であったが、グループディスカッションをオンライン上で行った 2021 年度は反響が良かったとともに大きく、大きな気づきが得られた。
アスレティックトレーナーを目指しているものはもちろんであるが、スポーツを仕事にしたいと考えてはいるものの、アスレティックトレーナー以外の役割を目指したいと考えている人にこそ受講してもらいたいと考えている。

【Outline (in English)】
(Course outline) The primary objective is to understand the role of athletic trainers(AT) and their work. Students learn the historical background of the birth of Japan's AT and the background of the establishment. Students also touch on the activities of AT and learn about the positioning and administration at the sports scene.
(Learning Objectives) The purpose of this course is to understand the role of the athletic trainer from the perspective of the differences between Europe, the United States, and Japan, and the various sports settings.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) Grades for this lecture will be evaluated by adding up the quizzes for each session.

HSS100IA

スポーツコンディショニング論Ⅰ

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリー、履修年次が異なる**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】
1．コンディションおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解し、実践できる。
2．スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的疾患およびその救急処置について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は座学中心に行い、一部実技も行う。講義ごとに授業内レポートを課す。毎回の授業の冒頭に、前週の学生のコメントを紹介して質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（下肢）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（体幹）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（上肢）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（ストレッチング）	コンディショニングの手法として、ストレッチングの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
8	コンディショニングの手法（テーピング）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（テーピング・アイシング）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリテーション（トレーニング）の考え方についての講義を行う。
11	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
12	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
13	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
1. 日本体育協会編，公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ
2. 日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
4. 籾山日出樹総監修，臨床スポーツ医学，医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】
平常点と毎回のレポートで評価を行う。
なお、レポート提出回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand the basic concepts of sports medicine.　By applying the knowledge of human anatomy and kinesiology, students will be able to learn the methods of strength and conditioning that will minimize the risk of injury and optimize recovery time for athletes. This course will also discuss the common injuries and diseases that occur during training so that students will be able to apply their knowledge into actual practice.

HSS200IA

スポーツコンディショニング論Ⅱ

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義において「コンディション」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】
1.「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2．特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は座学中心に行い、一部実技も行う。講義ごとに授業内レポートを課す。毎回の授業の冒頭に、前週の学生のコメントを紹介して質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（身体的因子）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（環境的因子）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（心理的因子）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディションの評価	コンディションの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を経験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（下肢のストレッチング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
11	傷害予防を目的としたコンディショニング（体幹、上肢のストレッチング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、上肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を経験、習得する。
13	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点（授業内レポート）　40%
(2) 期末試験　60%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
「スポーツコンディショニング論Ⅰ」を履修してから本科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the theory of strength and conditioning. Students will learn the purposes of conditioning an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a conditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論 I

春日井　有輝

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2　足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3　足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4　足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6　膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7　膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・本科目を履修後、続けて秋学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論 II も履修すること。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ

春日井　有輝

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・実技**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テービング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論 1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論 2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論 3　肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論 4　肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論 5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
7	テーピング各論 6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論 2（腰背部）	腰背部のストレッチング
10	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと
授業で行った実技の復習をすること
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テービングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。
・春学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論Ⅰを履修後、本科目を続けて履修すること。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論

春日井　有輝

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・実技**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 3 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**
旧科目名：**テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**
※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期
テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。
秋学期
テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2　足関節のテーピング（基本）	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3　足関節のテーピング（オープン）	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4　足関節のテーピング（底背屈制限）	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6　膝関節のテーピング（前十字靭帯）	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7　膝関節のテーピング（内側、外側側副靭帯）	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング
15	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション　アイシングの概論と実践
16	テーピング各論 1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
17	テーピング各論 2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
18	テーピング各論 3　肩関節のテーピング（前方脱臼）	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
19	テーピング各論 4　肩関節のテーピング（投球障害）	投球肩障害に対するテーピング
20	テーピング各論 5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
21	テーピング各論 6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
22	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
23	ストレッチング各論 2（腰背部）	腰背部のストレッチング
24	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
25	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
26	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
27	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
28	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲兒監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
運動器の構造やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 20%、Short reports : 80%

HSS300IA

運動処方・負荷テスト

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症、各種負荷方法および装置の特性、運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論、 目的・対象に応じた各種運動処方など運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
② 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回で完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
③ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。**学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。**
⑤ **『統計学 I 』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12 誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST 変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆる VT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。降圧剤服薬者における運動について。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。血糖降下剤服薬・インスリン使用者における運動について。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体につについて講義する。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。心疾患治療薬（β ブロッカー、強心薬）服薬者における運動について。
14	運動処方症例検討	生活習慣病各疾患の実際の運動処方例について検討する。各疾患に特有の problem をどのように評価して安全かつ効果的な運動処方・療法を行うか、また降圧剤、血糖降下剤、インスリン、脂質異常症治療薬（HMG-CoA 還元酵素阻害剤）など、生活習慣病患者の多くが服薬・使用している薬が運動処方や運動療法の実践にどのように影響するか、実際の患者の症例を通して学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 3 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・心電図に関連した電気生理学（静止膜電位など）について深く学びたい場合は以下の図書が参考になる。
酒井正樹『これでわかるニューロンの電気現象』（共立出版）**※資料室収蔵**
宮川博義、井上雅司『ニューロンの生物物理』（丸善出版）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。**
③ **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有疾患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle of exercise test, to understand cardiovascular physiology for exercise prescription, and to obtain the basic skill of implementing the prescribed exercise program appropriately for patients.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

CLS300IA

スポーツ医学 A

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について必要な知識を学ぶ。内容については各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】
スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの必要性について学習する。
2	メディカルチェックの実際	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	免疫学の基礎	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動時における免疫反応	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	スポーツに関連した内科疾患	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	内科疾患における運動適性と参加可否	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・ 応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）
講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。　そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about pathophysiology, pathogenesis, prevention, and treatment of sports injurie
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

CLS300IA

スポーツ医学（内科系）

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3～4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧科目名：**スポーツ医学** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について必要な知識を学ぶ。内容については各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】
スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの必要性について学習する。
2	メディカルチェックの実際	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	免疫学の基礎	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動時における免疫反応	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	スポーツに関連した内科疾患	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	内科疾患における運動適性と参加可否	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。

11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。
12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・ 応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他 『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）
講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。　そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about pathophysiology, pathogenesis, prevention, and treatment of sports injurie
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA

生活習慣病と身体活動

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、生活習慣病とは何か、その概念・定義、生活習慣病の疫学、病態生理、生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序、身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンス、身体活動の意義・効果などの生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンスを学ぶ。

【到達目標】
① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
② 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
④ **疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。高齢者医療における課題（介護、認知症、社会保障など）について、予防医学としての運動・身体活動の役割を学習する。 **キーワード：**総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動、一次予防
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 **キーワード：**虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード：**『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード：** II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード：** LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード：**内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 **キーワード：**骨粗しょう症、変形性関節症, locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 **キーワード：**慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード：**乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。身体活動と認知症（アルツハイマー型、血管性）との関連について学習する。 **キーワード：**うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および（2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 **キーワード：**『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エピジェネティクス （2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。 **キーワード：**健康増進法、健康日本 21（第 2 次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 **キーワード：**行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』
※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the definition, pathophysiology, epidemiology, and treatment of chronic diseases and to understand the role of physical activity and exercise to prevent chronic diseases and that of physical inactivity and sedentary lifestyle to develop chronic diseases on the basis of scientific evidences.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA

運動生理学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】
運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の末梢神経活動の実際	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflex について学習する。
3	運動中の中枢神経活動の実際	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について学習する。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	運動による骨格筋への影響について学習する。
5	運動と骨	各種トレーニングに対する骨の構造、生理機能の変化を学習する。
6	運動と臓器	運動時における臓器の変化について学習する。
7	運動と糖質代謝	運動時における糖質の代謝について学習する。
8	運動とアミノ酸代謝	運動時におけるアミノ酸の代謝について学習する。
9	運動と脂質代謝	運動時における脂質の代謝について学習する。
10	運動と乳酸・核酸代謝	運動時における乳酸や拡散の代謝について学習する。
11	運動と呼吸・循環	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	運動と体温	運動における体温の上昇の影響について学習する。
13	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・宮村実春 『ニュー運動生理学 I、II』　（真興貿易、2015）
・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
・Kenney WL, eta l. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
・McArdle WD, eta l. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）
講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Course out line】
We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.
【Learning Objectives】
The goal is to acquire the knowledge necessary to practice physical activity aimed at improving health and training for improving sports performance based on scientific evidence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA

アスレティックリハビリテーションⅠ

泉　重樹

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得すること、以上である。

【到達目標】
身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識１	運動療法（具体的なエクササイズ方法を含む）の目的、方法について学習する。
3	運動療法の基礎知識２	各種トレーニングの目的、方法について学習する。
4	物理療法・補装具の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
5	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	股関節・骨盤のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
8	下肢のアスレティックリハビリテーション	代表的な種目特性に基づいた下肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
9	腰背部のアスレティックリハビリテーション	腰背部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
10	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
11	体幹のアスレティックリハビリテーション	代表的な種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
12	肘関節・前腕部のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
14	上肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしない。授業資料は学習支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
1. 日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション．日本スポーツ協会
2. 日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング．日本スポーツ協会
3. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019
4. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，４，2019
他、講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行う。評価は試験 100 %である。

【学生の意見等からの気づき】
外傷・障害の理解が不十分なため、評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害からできるだけ具体的な事例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goals of this lecture are as follows: 1) to understand the functions of the locomotor apparatus necessary for sports activities; 2) to learn about sports injuries and disorders as a major factor in the decline of locomotor functions; and 3) to learn training methods necessary for sports activities.
Learning Objectives:The goal of this lecture is to understand the specific methods of athletic rehabilitation.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: The end-of-term exam will be used as 100% of the evaluation.

HSS300IA

アスレティックリハビリテーションⅡ

春日井　有輝

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、傷害を負ったアスリートが競技に復帰する際に必要不可欠であるアスレティックリハビリテーションについて理解することを目標とする。本科目では「アスレティックリハビリテーションⅠ」で学んだ身体部位別のアスレティックリハビリテーションを踏まえ、競技種目ごとの復帰期のアスレティックリハビリテーションについて重点的に学習する。

【到達目標】
アスレティックリハビリテーションについての理解を深め、実際にアスリートに指導できるようになることを目指す。本科目では主に復帰期について学習するので、各競技種目の特性に合わせたアスレティックリハビリテーションプログラム作成と指導が出来るようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の前半にテーマに沿った講義を行い、後半は実践する。毎回レポートを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総論	アスレティックリハビリテーションについて
2	基本的な動作とコアエクササイズ	各スポーツに共通して求められる基本的な動作、特にコアの機能について学習する。
3	コアエクササイズのアスレティックリハビリテーションへの応用	第 2 回の内容を発展させ、よりスポーツ復帰のための段階的なリハビリテーションに結び付けられるようにする。
4	ジャンプ動作の基礎	基本的なジャンプ動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
5	ジャンプ動作のエラー修正エクササイズ	ジャンプ動作で起こりやすいエラーとその修正方法を学習する。
6	アスレティックリハビリテーションにおけるジャンプ動作の実践	様々な種目に合わせたジャンプ動作を学習・実践し、アスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようにする。
7	スプリント動作の基礎	基本的なスプリント動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
8	アスレティックリハビリテーションにおけるスプリント動作の実践	様々な種目に合わせたスプリント動作を学習・実践し、アスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようにする。
9	アスレティックリハビリテーションにおけるアジリティトレーニング	様々な種目に合わせたアジリティ動作を学習・実践し、アスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようにする。
10	スローイング動作の基礎	基本的なスローイング動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
11	アスレティックリハビリテーションにおけるスローイング動作の実践	様々な種目に合わせたスローイング動作を学習・実践し、アスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようにする。
12	あたり動作のアスレティックリハビリテーション	基本的なあたり動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
13	キック動作のアスレティックリハビリテーション	基本的なキック動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
14	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし。
第 2〜14 回：前回授業の復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション

【参考書】
アスレティックトレーニング学，広瀬統一ら編，文光堂，2019
その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各講義の平常点と授業内レポート点 60 %、期末レポート点 40 %で評価を行う。
3 分の 2 以上出席した者を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
各回講義の前半に座学で学んだことを、後半の実技で体感できる点が好評であった。引き続きこの形式で、学生たちの理解がより深まるよう工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで教材の配布等を行う。

【その他の重要事項】
・「アスレティックリハビリテーションⅠ」を履修済みであることが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the theory of athletic rihabilitation. Students will learn the purposes of athletic rihabilitation training an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a athletic rihabiritation program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%、Short reports : 60%

HSS300IA

アスレティックリハビリテーション

泉　重樹

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因および体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得することである。

【到達目標】
身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	物理療法・補装具療法の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
4	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
5	背腰部のアスレティックリハビリテーション	背腰部の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
6	体幹のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
7	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
8	肘関節・手関節のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
9	上肢のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
10	股関節・骨盤部のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
11	大腿部のアスレティックリハビリテーション	大腿部の外傷の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
12	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
13	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
14	下肢のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし。
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしない。授業資料は学習支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション．日本スポーツ協会
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング．日本スポーツ協会
日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019
広瀬統一他編：アスレティックトレーニング学．文光堂，2019
他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行う。試験による評価 100%とする。

【学生の意見等からの気づき】
外傷・障害の理解が不十分なため、身体評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害と評価の具体例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。
パワーポイント・プロジェクターを使用する。

【Outline (in English)】
Course outline: The goals of this lecture are as follows: 1) to understand the functions of the locomotor apparatus necessary for sports activities; 2) to learn about sports injuries and disorders as a major factor in the decline of locomotor functions; and 3) to learn training methods necessary for sports activities.
Learning Objectives:The goal of this lecture is to understand the specific methods of athletic rehabilitation.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: The end-of-term exam will be used as 100% of the evaluation.

CIM300IA

スポーツ医学Ｂ

瀬戸　宏明

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頚部の外傷・障害	主に頚部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、
　受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第 1 回：特に定めず
　第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト1－９　日本体育協会
2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100%）
その他適時小テストを行う予定
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries
【Learning Objectives】
The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma / disability and build a trauma / disability prevention program.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

CIM300IA

スポーツ医学（外科系）

瀬戸　宏明

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3
旧科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は旧科目名

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頚部の外傷・障害	主に頚部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、
　受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第 1 回：特に定めず
　第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト 1－ 9　日本体育協会
2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100%）
その他適時小テストを行う予定
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries
【Learning Objectives】
The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma / disability and build a trauma / disability prevention program.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。**さらに今年度は新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曽有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置）& AED（自動体外式除細動器）	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第 1 回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）**※資料室収蔵**
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）**※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可**
第 2 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第 1 章〜第 6 章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018）**※多摩図書館収蔵**
第 3 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第 6 回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言” から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 7 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 8 回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf）
第 9 回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
（https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf）
『雷対応マニュアル』（J リーグ）
『落雷事故の防止について』（文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）
第 10 回：
高木 修．『人を助ける心』（1998 年、サイエンス社）．（特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）**※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED ：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 11 回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．（1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 12 回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省, 2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
（https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947）
第 13 回：
『臨床雑誌 内科：特集：感染症 2020 ：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020 年 125 巻 1 号）**（医書 jp よりアクセスすることで全文ダウンロード可）**
第 14 回：
日本アンチ・ドーピング機構 website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）**※資料室収蔵**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実 』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
・入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
①　可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①　授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences.　The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). A quiz (mini test) will be provided occasionally in the classroom. The score of the quiz might be added to that of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田　道彦

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョキング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】
ジョキング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	心拍数と歩幅から個人の有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	心拍数から個人の有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 70 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。
春・秋に同じ授業を開講する。
春学期は受講者選抜を行う。（８０名）

【Outline (in English)】
Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this course students learn the characteristic and the health benefit of the aerobic exercise for jogging and walking. In addition, students acquire an accurate form of the jogging and walking. With performing jogging and walking, really doing it, each student know the reasonable exercise of strength, and to teach correct exercise strength to the making of health.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Class 1 : Special instruction
Class 2 ～ 14 : For each two hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Each report : 70%
Last report : 30%

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田　道彦

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョキング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】
ジョキング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	心拍数と歩幅から個人の有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	心拍数から個人の有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 70 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。
春・秋に同じ授業を開講する。
春学期は受講者選抜を行う。（８０名）

【Outline (in English)】
Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this course students learn the characteristic and the health benefit of the aerobic exercise for jogging and walking. In addition, students acquire an accurate form of the jogging and walking. With performing jogging and walking, really doing it, each student know the reasonable exercise of strength, and to teach correct exercise strength to the making of health.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Class 1 : Special instruction
Class 2 ～ 14 : For each two hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Each report : 70%
Last report : 30%

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤　良彦、高見　京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。
4 月 23 日（木）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いていてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	ストレングストレーニング【担当：伊藤】1	バックスクワット、上肢の水平プッシュ動作、及び垂直プル動作パターンを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：伊藤】2	フロントスクワット、オーバーヘッドスクワット、上肢の垂直プッシュ動作、水平プル動作をを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：伊藤】3	デッドリフト、及びパワークリーンの分習動作となるハイプルを学習する。
11	オリンピックリフティング【担当：伊藤】4	スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得 s する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：伊藤】5	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学び、実践的なトレーニング方法を学習する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：伊藤】6	TRX、メディスンボールなどを活用したトレーニング方法について学び、実践練習する。
14	フィットネスチェック【担当：伊藤】7	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック (筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価) の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 3 回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング— NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編．大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編．大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編．大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %），各回の実習レポート（30 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【その他の重要事項】
伊藤が担当する講義については、実技が中心となるので、授業前日に十分な休養、睡眠を確保し、前日、当日ともにしっかりと食事、水分を摂取することを推奨する。体調を整えたうえで参加することが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that are required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through a variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤　良彦、高見　京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。
4 月 23 日（木）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いていてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	ストレングストレーニング【担当：伊藤】1	バックスクワット、上肢の水平プッシュ動作、及び垂直プル動作パターンを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：伊藤】2	フロントスクワット、オーバーヘッドスクワット、上肢の垂直プッシュ動作、水平プル動作をを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：伊藤】3	デッドリフト、及びパワークリーンの分習動作となるハイプルを学習する。
11	オリンピックリフティング【担当：伊藤】4	スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得 s する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：伊藤】5	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学び、実践的なトレーニング方法を学習する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：伊藤】6	TRX、メディスンボールなどを活用したトレーニング方法について学び、実践練習する。
14	フィットネスチェック【担当：伊藤】7	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック (筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価) の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 3 回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング— NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）, 各回の実習レポート（30 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【その他の重要事項】
伊藤が担当する講義については、実技が中心となるので、授業前日に十分な休養、睡眠を確保し、前日、当日ともにしっかりと食事、水分を摂取することを推奨する。体調を整えたうえで参加することが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that are required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through a variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

エアロビック運動実習

林田　はるみ

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ 1 **単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて、「スポーツ」に発展したものである。エアロビックは、音楽のビートにのって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツであり、その一方で、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。参加者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に着けていることが必要である。本実習では、エアロビック指導者に必要な技能を習得することを目的に授業を展開する。

【到達目標】
・初級段階のエアロビックの示範ができる。
・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	初級段階のエアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチングの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う・エアロビック指導試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・健康運動実践指導者養成用テキスト
・エアロビック指導教本

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
エアロビック実技試験（40 %）：学期の中間に行う
エアロビック指導実習試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。
授業の習得度によって進度を若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
"Aerobic" dance is a familiar health sports that can be "anytime", "anywhere", "anyone" based on the beat of music, on the other hand, "Aerobic" is also positioned in expressive sports and lifelong sports in recent years. In this classes, acquiring skills necessary for aerobic leaders will be developed, in order for participants to enjoy safe and effective programs.

HSS300IA

健康増進施設実習

高見　京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
旧科目名：**国内研修ワークショップ [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は旧科目名**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導現場を通じて実務を体験することを目的とする。その準備としての接遇に関するセミナーや、健康運動指導士の役割を理解することを目的とした事前および事後の講義を受講する。

【到達目標】
健康運動を指導するための専門的な知識や技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身につけることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として回ごとに完結するテーマを設定して講義と現場学習およびその報告を織り交ぜて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
2	これからの健康増進施設	健康増進施設のあるべき姿についてについて考える。
3	健康運動指導士の役割	健康運動指導士の役割について理解する。
4	現場実習の意義について	健康増進施設での実習の意義について理解する。
5	健康状態の把握と体力測定	健康状態の把握と体力測定について理解する。
6	運動プログラムの作成と提供	運動プログラムの作成と提供について理解する。
7	運動の記録と情報管理	運動の記録と情報管理について理解する。
8	接遇セミナー	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
9	現場実習での課題の確認	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
10	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
11	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
12	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
13	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
14	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
15	健康増進施設での現場実習	講義とセミナー内容の総括
16	健康増進施設での現場実習	個別運動プログラムを作成する。
17	健康増進施設での現場実習	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
18	健康増進施設での現場実習	基本的な施設管理業務の実践を通じて理解し、各部所ごとの安全管理が効率よく確実にできるよう工夫・提案する。
19	健康増進施設での現場実習	来所者の健康管理項目について理解し、運動実践の可否について自己判断を促す。
20	健康増進施設での現場実習	対象者の年齢、性、疾病や障害に応じた体力測定の実施方法や留意点を理解する。
21	健康増進施設での現場実習	個別ケースに応じたプログラム作成を行い、実習者同士でカウンセリングし、ケースごとに集団で論議する。
22	健康増進施設での現場実習	個人情報管理について理解し、守秘義務の遵守の重要性を理解する。
23	健康増進施設での現場実習	運動の記録の仕方について学び、運動継続効果としての健康状態や体力の変化について把握し、対象者の自己効力感を高める方法について理解する。
24	健康増進施設での現場実習	個人のニーズや障害に応じた運動プログラムの作成・提供、グループ指導の方法や留意点について体験的に学習する。
25	健康増進施設での現場実習	フィットネス、スタジオ、プールなどでの機器やプログラムについて体験的に学び、運動様式の違いや特徴について理解する。
26	健康増進施設での現場実習	施設や施設外で行っている実際のフィットネスプログラムや介護予防運動指導、特定保健指導の実際を観察し、実践方法を理解する。
27	健康増進施設での現場実習の振り返り	レポートの作成
28	総括	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 10〜26 回：実習日誌の記録
実習後のレポート
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士試験 要点整理と実践問題　文光堂

【成績評価の方法と基準】
実習記録と実習後に提出するレポート (50%)
「指導者としての資質」、「実習への取組み」について実習担当者による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

【Outline (in English)】
The purpose of practical training is to experience practical experience at sports facilities such as health promotion facilities through actual exercise teaching sites for clients.

HSS300IA

スポーツ現場実習 A

泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナーの業務内容を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応（安全対策について）	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応（急性外傷の対応他）	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応（特殊環境での対応）	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応（現場の安全確保他）	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応（性別・年代別の対応他）	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション（上肢）	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション（体幹）	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション（下肢）	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション（球技）	野球・サッカー競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション（記録競技）	陸上競技・競泳のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション（採点競技）	体操競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション（格闘技）	柔道・レスリングのアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1（HOPS）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の確認と復習を行う
27	総合実習 2（現場の安全対応）	これまでのすべての活動を含めたスポーツ現場での対応の確認と復習を行う
28	総合実習 3（アスレティックリハビリテーション）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの確認と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３スポーツ外傷・障害の基礎知識
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４健康管理とスポーツ医学
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５検査・測定と評価
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６予防とコンディショニング
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７アスレティックリハビリテーション
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト８救急処置

【参考書】
1.STANLEY HOPPENFELD ：図解 四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。
評価は実習への取り組み（50 %）および現場実習報告書（レポート）（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかったという感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前ガイダンスの参加は必須としており、また場合により面接を行うことがある。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
※（再掲）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスは必須としており、場合により面接を課すことがある。

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
(Learning Objectives) The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA

スポーツ現場実習 B

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応（安全対策について）	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応（急性外傷の対応他）	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応（特殊環境での対応）	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応（現場の安全確保他）	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応（性別・年代別の対応他）	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション（上肢）	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション（体幹）	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション（下肢）	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション（球技）	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション（記録競技）	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション（採点競技）	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション（格闘技）	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1（HOPS）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習を行う
27	総合実習 2（現場の安全対応）	これまでのすべての活動を含めたスポーツ現場での対応の復習を行う
28	総合実習 3（アスレティックリハビリテーション）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３スポーツ外傷・障害の基礎知識
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４健康管理とスポーツ医学
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５検査・測定と評価
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６予防とコンディショニング
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７アスレティックリハビリテーション
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト８救急処置

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。
評価は実習への取り組み（50 %）および現場実習報告書（レポート）（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前ガイダンスの参加は必須としており、また場合により面接を行うことがある。

【その他の重要事項】
※（再掲）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
(Learning Objectives) The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA

スポーツリハビリテーション実習

安藤　正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ傷害の概要について学び、その発生原因、特徴を概説する。更に、医学的治療方法、復帰までのリハビリテーションを理解し実施できる。

【到達目標】
スポーツ傷害に対する基本的知識を学びスポーツ傷害を予防するにはどのようなことに注意すればよいか。あるいはどのような処置をすればよいのかなどの知識と技術を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
特に筋骨格系のスポーツ傷害について理解し、そのリハビリテーション方法を実習する。講義と実技を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション１	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション２	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション１	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション２	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション１	グローインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション２	グローインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション１	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション２	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション１	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション２	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1〜14 回：資料を授業支援システムから印刷し目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、授業に必要な資料を事前に配付する

【参考書】
特に定めず。配布資料に参考文献などを掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点；実習の取り組み、実際に実技を習得しているかなどを提出物などを通して評価する（40%）、定期試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
特に定めず

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

【Outline (in English)】
Learn about dysfunction, treatment and rehabilitation of each joint site. The goal is to know how to prevent osteoarthritis. Students should review functional anatomy outside of class hours. Grade evaluation methods and criteria will be determined by regular examinations and submissions.

HSS200IA

体力測定・評価実習

高見　京太、泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1
旧科目名：**身体機能測定実習** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】
・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。
・運動器の機能評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業の前半は、体力測定の目的と意義を理解し、その日実施する測定の手順と評価法を確認し、受講者自身が験者または被験者となって、測定をする側だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。
　後半は、全身の各部位の機能評価をできる能力を習得する。さらにそれぞれの運動器の機能評価をカルテに残す能力も磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド (子供、中高年者) における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト (高齢者、介護予防) における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
13	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する
14	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
・広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Learn how to measure physical fitness and the theory of subjects with various physical fitness.
-Learn the basic statistical processing method after measurement.
-Consider based on the obtained measurement results and write a sentence.
-Can evaluate the function of the locomotor.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

HSS200IA

体力測定・評価実習

高見　京太、泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
旧科目名：**身体機能測定実習** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】
・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。
・運動器の機能評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業の前半は、体力測定の目的と意義を理解し、その日実施する測定の手順と評価法を確認し、受講者自身が験者または被験者となって、測定をする側だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。
　後半は、全身の各部位の機能評価をできる能力を習得する。さらにそれぞれの運動器の機能評価をカルテに残す能力も磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド (子供、中高年者) における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト (高齢者、介護予防) における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
13	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する
14	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
・広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Learn how to measure physical fitness and the theory of subjects with various physical fitness.
-Learn the basic statistical processing method after measurement.
-Consider based on the obtained measurement results and write a sentence.
-Can evaluate the function of the locomotor.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導に関して、COVID-19 感染対策ガイドラインを学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 2・3 回の実習に関する参考書】
・『PWV を知る PWV で診る』（中山書店）**※資料室収蔵**
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）**※資料室収蔵**
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導に関して、COVID-19 感染対策ガイドラインを学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline (in English)】
The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導に関して、COVID-19 感染対策ガイドラインを学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 2・3 回の実習に関する参考書】
・『PWV を知る PWV で診る』（中山書店）**※資料室収蔵**
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）**※資料室収蔵**
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS300IA

運動学実習

安藤　正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
旧科目名：**運動学ケーススタディ** [2012 年度以前入学生]

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体へ種々の運動や動作を行わせ、あるいは種々の環境下に生体を曝露したときの生体反応を種々の測定機器を使用し運動学、運動生理学、運動解剖学、運動力学的変化を体験する。これにより運動を分析し、処方する基礎づくりとする。

【到達目標】
それぞれの課題を小グループで実施し得られたデーターを処理し報告するまでの課程ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループで各課題を実際に体験し得られたデーターを処理し報告する。課題説明の後実技を行い毎回各課題のまとめをレポートにして報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	得られたデーターの処理法、報告書の書き方を説明する
2	歩行	歩幅、歩行率、速度を求める
3	走行	ピッチ、速度、ストライドを求める
4	受講生の 1/3 が、これまでの実習（第 1 回目から 3 回目）の報告をし、フィードバック	オンラインと対面授業のハイブリッド授業形式で、これまでのまとめを報告し意見交換をする
5	移動効率 歩行と心拍数	移動効率を求める 歩行速度と心拍数を求める
6	姿勢アライメント測定と姿勢観察	立位アライメントの測定し、人の姿勢を客観的に評価する
7	人の重心	重心点を求める 重心動揺計を使用してみる
8	運動感覚	運動覚、位置覚に関する実習を行う
9	筋力	筋力、筋疲労を測定する
10	平衡感覚	重心動揺機器で重心動揺を測定しその計測結果を解説する
11	運動残効	運動残効を体験する
12	受講生の 3/1 のが、これまでの実習（第５回目から７回目）の報告をし、フィードバックする	オンラインと対面授業のハイブリッド授業形式で、これまでのまとめを報告し意見交換をする
13	受講生の 1/3 が、これまでの実習の報告（第８回目から 11 回目）をし、フィードバックする	オンラインと対面授業のハイブリッド授業形式で、これまでのまとめを報告し意見交換をする
14	筋活動、その他の実習（ゲスト講師）	筋電図等をもちいて動作時の筋活動を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1〜14 回：資料に目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要な資料を事前に配付する

【参考書】
運動学実習マニュアル（アイペック）

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告書、リアクションペーパー）（10%）、レポート課題点（毎回のテーマのレポートを提出します）（90%）

【学生の意見等からの気づき】
課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：スポーツリハビリテーション実習を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
Learn about bad posture and good posture
Learn about flexibility
Learn about muscle strength.
Learn about walking and running.
Learn about balance.
Students work to summarize and report the data obtained in class after hours. Grades will be determined by the quality of the report and presentation.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下　訓光、瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
旧科目名：**スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
①スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下におけるスポーツ活動【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。COVID-19 治癒後のアスリートの現場復帰（return to play）について学ぶ。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。COVID-19 パンデミック下における BLS について、SARS-COV2 対応 CPR 新ガイドラインについて実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション【担当：瀬戸】	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵**
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）**※資料室収蔵**
第 2 回：
木下訓光. 熱中症－海外における最近のトピックス－. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
第 3・4 回：
『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第 5 回：
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』**※資料室収蔵**
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『ライフステージ栄養学実習書』**※資料室収蔵**
第 6 回：
『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』**※資料室収蔵**
アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。
https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf
『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』**※資料室収蔵**
（AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること）
ハンズオンリー CPR よくある質問（http://www.aha-tts.com/article/13690287.html）
第 7 回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
木下訓光. やせと体組成、月経障害. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目「スポーツ医学 A」の単位を修得していることことが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下　訓光、瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧科目名：**スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
①スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下におけるスポーツ活動【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。COVID-19 治癒後のアスリートの現場復帰（return to play）について学ぶ。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。COVID-19 パンデミック下における BLS について、SARS-COV2 対応 CPR 新ガイドラインについて実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション【担当：瀬戸】	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵**
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）**※資料室収蔵**
第 2 回：
木下訓光. 熱中症－海外における最近のトピックス－. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
第 3・4 回：
『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第 5 回：
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』**※資料室収蔵**
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『ライフステージ栄養学実習書』**※資料室収蔵**
第 6 回：
『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』**※資料室収蔵**
アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。
https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf
『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』**※資料室収蔵**
（AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること）
ハンズオンリー CPR よくある質問（http://www.aha-tts.com/article/13690287.html）
第 7 回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
木下訓光. やせと体組成、月経障害. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目「スポーツ医学 A」の単位を修得していることことが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS100IA

Health and Exercise Sciences

笹井　浩行

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※スポーツ健康学部 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知らずに登録する学生が毎年いますので、冒頭にて日本語で伝えます。本授業はすべて英語でおこないます。講義、資料はもとより、受講生が執筆するレポートや発表などもすべて英語です。そのことを理解した上で受講してください。
＊＊＊
College students face many health hazards such as unhealthy dietary patterns, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes, and skills to adopt healthy behaviors. In addition, students will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media and interpret them correctly.

【到達目標】
The students will be expected to:
1. Understand the concept/definition of health.
2. Learn college-age determinants of health.
3. Gain lifelong foundations of skills and attitudes for maintaining/enhancing health.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Lectures, homework assignments, and the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and definition of health	Overview of this course, grading policy, and definition of health by the WHO.
2	Health hazards in college life	Overview of college-age health hazards
3	Healthy eating	Dietary reference intake, macro- and micro nutrients, PFC balance, and the balance guide
4	Exercise and physical activity	Definitions of exercise and physical activity, total energy expenditure and its components, and metabolic equivalent
5	Sedentary behavior	Definition of sedentary behavior, detrimental association of sedentary behavior with health, and sedentary-reducing interventions
6	Weight management	Health risks of overweight and obesity, energy restriction, weight loss and maintenance programs
7	Sleep	Optimal sleep duration, measurements of sleep patterns, sleep quality and health, and tips for good sleep
8	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
9	Sexual and maternal health	Sex-transmitted diseases/infections, and contraceptives, Stages of pregnancy, pregnancy complications, gestational weight gain, abnormal labor, and postpartum issues
10	Alcohol intake	Alcohol intake and health, optimal amount of alcohol intake, and chugging avoidance
11	Tobacco smoking	Smoking and health, types of smoking, secondhand smoking, and smoking policy
12	Drug abuse	Types of illegal drugs, risky drugs, abuse, and dependence
13	Health literacy	Interpretation of health-related information, and web search tips
14	Final student presentation	Students will have a presentation session regarding an original research article related to human health.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】
None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
20% attendance, 40% homework assignment, and 40% final presentation.

【学生の意見等からの気づき】
The course content may be changed according to the students' opinions and level of understanding.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
An active contribution to the class is greatly encouraged.

【Outline (in English)】
College students face many health hazards such as unhealthy dietary patterns, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes, and skills to adopt healthy behaviors. In addition, students will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media and interpret them correctly.

HSS100IA

Strength training

伊藤　良彦

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※スポーツ健康学部 2017 年度以前入学生履修不可**
※グローバルオープン科目として履修する場合の配当年次は 2〜4 年次

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper stretching techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

【到達目標】
During the semester students will be able to:
1.Identify skeletal muscles and joints used in strength training exercises.
2.Develop knowledge of basic strength training.
3.Create his/her own personal strength training program.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Classes are basically "Gym-style" Class. Class will always meet in the Fitness Studio of the building of Sports and Health Studies. Please dress appropriately to exercise (gym clothes and athletic shoes).
To improve your physical fitness requires regular participation in class activities. Arriving late and leaving class early will affect the participation portion of the grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Weight Training Technique; Safety and Etiquette. Designing a Weight Training Program, based upon goals.	Introduction to Strength Training (General Orientation).
2	Stretching and Flexibility.	Methods of warming and dynamic stretching.
3	Body Weight Training and Machine Training	Introduction to Machines. The Bodyweight Challenge.
4	Finalize Individual Routines and Short Review	To complete individual plan of strength training.
5	Free Weight Variations: Overhead pressing	To practice strength training and movement techniques.
6	Free Weight Variations: Horizontal pressing	To practice strength training and movement techniques.
7	Mid-term Review and Measuring Progress 1	To measure the repetition maximum of bench press(Push Up), back squat and Pull Up.
8	Free Weight Variations: Vertical pulling	To practice strength training and movement techniques.
9	Free Weight Variations: Horizontal pulling	To practice strength training and movement techniques.
10	Free Weight Variations: Squat patterns	To practice strength training and movement techniques.
11	Free Weight Variations: Deadlift patterns	To practice strength training and movement techniques.
12	Free Weight Variations: Power movements	To practice strength training and movement techniques.
13	Cardiovascular Training	To practice circuit training and high intensity interval training.
14	Measuring Progress 2, Final Exam and Feedback	To measure the repetition maximum of Push Up, Pull Up, and back squat. Final Exam and Feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Throughout the semester, students will be expected to study two hours outside of class.（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします）

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Evans N. BODYBUILDING Anatomy. Human Kinetics
Contreras B. BODYWEGHT STRENGTH TRAINING Anatomy. Human Kinetics
The National Strength and Conditioning Association. Essentials of Strength Training and Conditioning Fourth Edition. Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】
Attendance: 60% (Very small assignment involved as well)
Participation, Attitude, Work Ethic, Punctuation, Determination: 20%
Exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable because this is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
1.Students in the faculty of Sports and Health Studies MUST earn the credits of "Functional Anatomy A(機能解剖学)" and "Physical Fitness Measurements and Evaluation(体力測定評価論)" before they resister this class.
2.Students of strength training class must wear athletic attire suitable for strength training, including athletic shoes (walking, running, cross trainers, etc.), shorts or sweats and socks. Students who cannot participate due
to improper clothing will receive a zero on any graded items they miss due to improper attire.

【Outline (in English)】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper stretching techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

SOC100IA

レジャー論

谷本　都栄

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、レジャーの概念、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、スポーツ、観光、教育、文化、健康、福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、次世代社会におけるレジャーの方向性を考察する。

【到達目標】
・レジャーの形成過程について、歴史的な背景を含めて理解を深める。
・レジャーの多様性、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
・ワークシートやリアクションペーパーを活用し、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レジャーの概念	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 3 回	遊びの諸理論	「遊び」の諸理論、人間と遊び、遊びを源とする文化の発展について学ぶ。
第 4 回	レジャーの形成過程	近代以降レジャーが大衆化、多様化した経緯とその要因について学ぶ。
第 5 回	レジャー分類と特徴	現代レジャーの分類とそれぞれの特徴について学ぶ。
第 6 回	戦後日本のレジャーの発展	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 7 回	日本におけるレジャー動向	日本の社会構造やライフモデルの変化とレジャーの動向について学ぶ。
第 8 回	中間レポート	第 7 回までの授業内容に関わるテーマ
第 9 回	日本人のレジャー行動の特性	各種統計データから、日本人のレジャー行動の特性について学ぶ。
第 10 回	ライフスタイルとレジャー行動	世代やライフステージで異なる価値観や志向性とレジャー行動の関係について学ぶ。
第 11 回	日本の余暇関連行政	日本の余暇関連行政、レジャー環境に関わる課題について学ぶ。
第 12 回	余暇教育とレジャー	余暇教育、生涯学習の視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 13 回	スポーツとレジャー	スポーツとまちづくりの視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・レポートは、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。
・本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・ワークシート及びリアクションペーパー 70 %
・中間レポート 10 %
・学期末レポート 20 %
総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】
Leisure is an essential, unchanging part of human nature above utility or usefulness.　Leisure is associated with behaviours outside of work such as play, sport, recreation, cultural pursuits, social activities and education.　This course focus on the role of leisure and recreation in society emphasizing historical processes of development and change, recent phenomena, and leisure behaviours.
The program has the following objectives.
1. Introduce students to the field of Leisure Studies
2.　Provide a basic understanding of the theory and specific issues of leisure
3.　Encourage students to engage in a wide variety of leisure organizations and events

ECN100IA

スポーツ経済論

宮下　量久

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ラグビー W 杯の開催や東京オリンピック・パラリンピックを踏まえて、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】
現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
冒頭の 10〜15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までに小テストを提出してもらう予定です。小テストのフィードバックとして次の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法、キーワードなどを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俸はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俸を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	J リーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。
7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	望ましいゲームのルールとはなにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。
13	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
14	まとめ	期末レポート課題を掲出したうえで、授業の総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習については、授業前に資料を授業支援システムにアップしますので、一読しておいてください。
・復習については、小テストを次回の授業までに提出することで行っていきます。本授業の準備学習・復習時間は各 1〜2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】
笹川スポーツ財団（2020）『スポーツ白書 2020』
八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I 』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
・成績評価の基準：毎回の講義後に課す小テスト (配分： 20 %程度)、授業への積極的姿勢（配分： 10 %）、期末レポート (配分： 60 %程度)。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
民間研究所に在職時、スポーツ予算の実態やスポーツ庁の組織形態について調査研究した経験を踏まえ、スポーツ行政における課題を明確にし、その解決策を検討していきます。

【Outline (in English)】
This course provides an overview of sports-based microeconomics. You can learn how economics is a useful tool for resolving problems in society through this lecture. We will examine a compelling value proposition for the sports industry and an interesting policy concerning sports in the national government.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts.After each class meeting, students will be expected to take the short test.Your required study time is at least one hour for each class meeting.
< Grading Criteria >
Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end report: 60%、 Short tests : 20%、 in class contribution: 10%.

MAN100IA

地域スポーツ経営論

岩村　聡

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
旧科目名：**コミュニティスポーツ論 [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

【到達目標】
地域におけるスポーツクラブの機能と役割について理解し、地域スポーツ組織のマネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともにスポーツ事業の計画・運営・評価の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ振興方策の基本を理解し、Ｊリーグクラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域における役割について調査する。また、我が国のスポーツ環境と海外の地域スポーツクラブの現状を比較し、スポーツ事業の計画を立案する。(グループ発表を授業内で実施する)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	我が国のスポーツ振興方策と行政のかかわり (スポーツ基本法、スポーツ立国戦略の概要を理解する)
2	地域におけるスポーツ振興方策とと行政の関わり	我が国のスポーツ振興方策の具体例を示し、地域の行政がどのように関わっているのか理解する。
3	地域スポーツクラブの機能と役割	住民が自主的に運営する地域スポーツクラブの例を示し、その機能と役割について自身の考えを示す。
4	地域スポーツクラブの立ち上げと運営	我が国の NPO 法人で運営している総合型地域クラブを事前に調査し、自身がどのように関わり事が出来るのか、授業内で発表する。
5	地域におけるスポーツ組織の運営	スポーツボランティアの必要性を理解し、モチベーションの確保についてグループディスカッション・グループ発表を行う。
6	総合型地域スポーツクラブとは	我が国のモデルとなるスポーツクラブを映像でチェックした後、自身の考えをレポートにまとめる。
7	総合型地域スポーツクラブのシュミュレーション	前回の授業を復習し、総合型地域スポーツクラブの運営計画を作成する。
8	地域スポーツクラブの育成	総合型地域スポーツクラブの育成と運営について、自身の考えを整理する。(レポート提出)
9	スポーツ組織の運営と事業①	スポーツ組織の多様性と役割を学び、地域スポーツの構造を知る。
10	スポーツ組織の運営と事業②	ヨーロッパにおける地域スポーツクの実情を事前に調査し、我が国との違いについてまとめる。
11	海外における地域スポーツクラブの実情	海外の地域スポーツクラブの実例を示し、我が国の地域スポーツクラブ育成の課題について、ディベートを行う。
12	J リーグ百年構想	J リーグの理念を事前に調査し、スポーツの意義や地域スポーツの振興について自身の考えをまとめる。
13	スポーツ事業の計画・運営・評価	スポーツ事業の種類や基本的な進め方を学んだ後に、プログラムサービス・クラブサービス事業の計画・運営・評価を行う。
14	地域におけるスポーツ経営の総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①スポーツ関連法、スポーツ関連政策を理解する。
② J リーグの理念を調べる。
③我が国におけるスポーツ振興の実態を調べる。
④海外の総合型地域スポーツクラブを調査する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎授業でレジュメを使用する。

【参考書】
(1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ, Ⅱ：(公) 日本体育協会
(2) J リーグ百年構想　J リーグ出版
(3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
(4) クラブづくりの 4 つのドア：文部科学省

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度等）40%、レポート 20%、期末試験 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業環境を適切に保つよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
The objective of this class is to know about the organization and the goals of the sports administration in Japan.

ARSl100IA

スポーツ組織論

伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3．組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	組織とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習する。
3	スポーツと組織について	スポーツ組織における組織形態について学習する。日本のスポーツに関する政策各スポーツ団体の組織構造について学び、スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
4	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1．リーダーシップ特性論 2．リーダーシップ行動論 3．リーダーシップ条件適応理論 4．変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
5	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
6	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
7	スポーツ組織におけるガバナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化に関する現状と課題について学ぶ。
8	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
9	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	アンチドーピングに関する各スポーツ組織、各国の同行について	ドーピング問題に対する世界アンチドーピング機構、国際オリンピック委員会、各国のオリンピック・パラリンピック委員会の動向について学ぶ
12	スポーツ組織の事例紹介	スポーツ組織ケーススタディーを行い、各スポーツ組織の現状や課題把握、課題解決の試みについて学ぶ。
13	プレゼンテーション	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例について各自で調査分析し、プレゼンテーションを行う。
14	プレゼンテーション総括	プレゼンテーションの総括ならびに授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回授業時に資料を配布します。）

【参考書】
「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（３０％）＋グループプレゼンテーション（30%）＋期末レポート（40%）＝ 100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

ARSl100IA

スポーツとまちづくり

伊藤　真紀

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3．組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	組織とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習する。
3	スポーツと組織について	スポーツ組織における組織形態について学習する。日本のスポーツに関する政策各スポーツ団体の組織構造について学び、スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
4	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1．リーダーシップ特性論 2．リーダーシップ行動論 3．リーダーシップ条件適応理論 4．変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
5	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
6	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
7	スポーツ組織におけるガバナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化に関する現状と課題について学ぶ。
8	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
9	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	アンチドーピングに関する各スポーツ組織、各国の同行について	ドーピング問題に対する世界アンチドーピング機構、国際オリンピック委員会、各国のオリンピック・パラリンピック委員会の動向について学ぶ
12	スポーツ組織の事例紹介	スポーツ組織ケーススタディーを行い、各スポーツ組織の現状や課題把握、課題解決の試みについて学ぶ。
13	プレゼンテーション	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例について各自で調査分析し、プレゼンテーションを行う。
14	プレゼンテーション総括	プレゼンテーションの総括ならびに授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回授業時に資料を配布します。）

【参考書】
「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（３０％）＋グループプレゼンテーション（30%）＋期末レポート（40%）＝ 100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

SOC100IA

スポーツ文化論

山本　浩

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「スポーツとは文化活動なのか」。繰り返されてきた問いへの答えを探そうとするのがこの講義の狙いではない。スポーツはいま、アスレティックであるだけではなくなった。そこには政治、経済、社会が影を落とし、世界中で人々の関心を恒常的に引きつけるものになっている。商品価値、娯楽性、精神性をちりばめながら、あるときは道具、あるときは極めるべき深奥の道。スポーツの具有する様々な要素を子細に見つめ、それを再構成して改めてスポーツがどんな形を取り始めているのかを考えとき、そこにスポーツの持つ現代性が透けて見えてくる。文化は、時代の波を乗り越えて初めて文化たり得た。スポーツとスポーツを取り巻く事象に、時代を超えて未来に受け継がれる価値があるのを確認する。

【到達目標】
芸術とスポーツの間には似た部分と異なる部分がある。文化の中枢を担うと任じて止まない芸術に、個人の意志や思想、技術や表現があるように、スポーツの中にも同じ要素が存在する。スポーツを勝敗の観点だけから評価するのではなく、優劣の結果だけを見つめるのでもなく、社会の中で時間とともにその存在感を増してきたのはどんな理由があってのことなのか。美点を取り上げるばかりでなく、未だに顔を覗かせるさまざまな不正にも目を向けることで、スポーツの持つ特性を再認識できるようにすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
近代スポーツの発生を起点に、スポーツの変遷を社会の変化の中で確認しながら、現代スポーツの置かれている状況を分析していく。そのためには、法のあり方、金銭の巡り、社会の反応に敏感でなければならない。日本のスポーツを規定する基本法に始まって、さまざまな切り口を毎週の講義で展開しながら、「勝つ」「負ける」だけでないスポーツの実態を多面的に理解することが狙いである。そのためには日本のスタンダードをいきなり世界に適用しないこと、世界の水準から日本を推し量らないことが肝要である。ルール、レギュレーション、組織の寄付行為、法的な側面のチェックと、海外の動向にもアンテナを張っていきたい。それぞれが、自分のスポーツの持つ文化性をこれまでと違ったフィルターで見られるような完成系を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　スポーツの文化性	スポーツ文化の考え方を概観し、講義の内容と流れを伝達する。
2	スポーツ基本権	平成 23（2011）年に公布されたスポーツ基本法には、スポーツ基本権が謳われている。この権利を法文に明記したことは極めて大きな意味を持つ。一方で、競技団体の未成熟なガバナンスの為に起こる不祥事があって、たびたび国の指導を受けてきたのも日本スポーツ界の現実だ。スポーツと政治との関わりを理解する。
3	スポーツ振興法と「スポーツ（体育）の日」	1964 年東京で開催された東京オリンピックこそが、日本の現代スポーツの出発点だ。それを支えたのがスポーツ振興法であり、体育の日であった。プロ化の始まる前のスポーツ観が、現代スポーツの中にどう生かされているのかを習得する。
4	スポーツの商品化	オリンピックにプロが入り始めるのが 1980 年代。オリンピック憲章からプロフェッショナル排除の文言が消えるのと前後して、スポンサーやプロフェッショナルがスポーツの世界になだれ込んでくる。ビジネスにまでなった現代スポーツの転回点を確認する。
5	スポーツと科学	スポーツを体験から捉えるだけでなく、科学がスポーツに近づくことによってスポーツの現代性は実現した。科学とスポーツとの連携を検証する。
6	オリンピック・パラリンピックに学ぶ	日本がオリンピックに最初に登場するのは、1912 年のストックホルム大会。以来、オリンピックを目標に国内競技スポーツは強化を進めてきた。オリンピックに牽引された日本のスポーツ強化を総括する。
7	スポーツに国の威信をかけて	東西が対決した冷戦時代。スポーツは国が総力を挙げて支援すべきツールとなった。70 年代から 80 年代にかけて、国家の道具となった時代を振りかえる。
8	世界選手権とスポーツ組織	競技団体にとっては競技普及、競技力向上とともに健全経営が大きな課題となっている。メガイベントに向かう組織のあり方を把握する。
9	国体と企業スポーツ	日本の競技スポーツは、長い間、国体に焦点を当てながら進んできた。教育を巻きこんだ強化が都道府県ベースでどのように発展してきたのか。戦後の 75 年を分析する。
10	子どものスポーツ環境	どの国も子どものスポーツに対する働きかけには力が入っている。海外の事例を参考にしながら、子どものスポーツ環境を考える。
11	スポーツクラブ	日本の総合型地域スポーツクラブのモデルは、ドイツのスポーツクラブに求めることができる。しかし、70 年代から 80 年代のドイツのクラブと、現在のそれには大きな違いがある。スポーツクラブがスポーツにどう関わってきたのかを確認する。
12	オリンピックと競技力	オリンピックの度にメダル争いに関心が高まる。しかしこの傾向は、オリンピックの創始者クーベルタンの思ったところではない。それぞれの国の思惑とメディアの傾向が、この流れを加速させている。競技力強化の観点からオリンピックをチェックする。
13	オリンピックと報道	クーベルタンは、第一回の近代オリンピックが始まる前から、ジャーナリストの存在にある種の期待を抱いていた。活字メディア中心の時代であったがそれが 100 年を経るうちに、今までとは全く違った様相を見せるようになる。オリンピックとメディアの関係を探求する。
14	まとめと講義内試験	半期にわたるスポーツ文化論を総括する講義内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心を持つ競技の成り立ちや、そのスポーツが抱えている課題など、情報を取得しておくこと。その競技が、いつ、どこで、どのようにして生まれ、現在のような形に立ち至ったのかを知ることは、スポーツ全体の文化性を概観するときに、有用なヒントになるからだ。そうした知識は、他のスポーツとの差異を見極めるのに有効で、やがてはスポーツ全体を立体的に浮かび上がらせてくれる。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
「現代スポーツの論点」友添秀則　編著　大修館書店　2020 年
「よくわかるスポーツとジェンダー」　飯田貴子・熊安貴美江・來田享子　編著　ミネルヴァ書房　2018 年
「オリンピック・スタディーズ」清水 諭　編著　せりか書房　2004 年
「日本社会で生きるということ」阿部謹也 著　朝日新聞社　1999 年

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
対面形式：「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
※オンライン時：指定期限内に学習支援システムの「課題」欄を経由して提出する。
※ハイブリッド時：集中力の差を考慮して、対面で参加する学生とオンラインの学生との間に異なる課題を設定する。
オンラインで受講しているにもかかわらずライブ参加がなく、課題だけを提出する登録受講生の評価は、原評価の半分とする（最高点 1．5）。ライブ参加の場合も、短時間で切り上げて講義から退出した場合には得点が下がる可能性がある。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.5 点刻み ×13）。
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 50 点）　には必ず取り組むこと。
すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。

通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき３回まで。自分の都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題より負荷の高いものになる。期末時の追加レポートを選択せず、オンライン参加のないままでの講義内課題に学習支援システムからの回答提出も選択できる。その場合、相当な理由があった場合には最高点 2 点とする。全講義終了後、レポートを選択するか、その都度講義内課題を選択するかは受講者の判断で行うことができる。両方を同時に選択することはできない。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの表示を、わかりやすいつくりにする。

【その他の重要事項】
土地・気候・習俗・食べ物・歴史・地理的環境・経済力・教育制度、さまざまな要素がスポーツ文化に影響を与えている。小さな井戸を深く掘るだけでなく、水の出る場所を求めて広い視野で世界を見渡してもらいたい。

【Outline (in English)】
"Sports could be regarded as kinds of cultural activity?" The theme of the lecture is not to find out answers to the question. Sports are no longer merely physical activities. It is overshadowed by politics, economy and society, furthermore a tremendous number of people are involved in. They contain commercial value, entertainment, and something spiritual. It seems to be a tool for life, and sometimes we consider it as the way that should be traced. Once looking closely at various elements of sports and reconstructing them to reconsider how they appear their styles, we could discover the modernity of sports. Culture could only be approved after the laps of decades. Confirm that sports and the phenomena surround them have worth, inherited from ancestors.

SOC200IA

スポーツ取材論

増島　みどり

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。取材における「5 K」とは何か考える。オリンピックも題材にする。

【到達目標】
授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「五感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話しを聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式 HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話しを聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。
6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するために、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスペクト、遠すぎても、近過ぎてもうまくいかない理想の距離感について。
8	新しい取材分野としてのサッカー	９３年、サッカー J リーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると３００人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	AD カードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらう
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえでの取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50 %）、授業への取り組み（25 %）、レポート（25 %）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手
１０年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏
１１年＝サッカーなでしこジャパン W 杯優勝メンバー・GK 山郷のぞみ選手
１２年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏
１３年＝サッカー「なでしこリーグ」ＩＮＡＣ神戸専属トレーナー＆澤穂希コンディショングトレーナー・山田晃広氏
１４年＝サッカー「なでしこジャパン」狭山ＡＳＧＫ・山郷のぞみ選手
１５年＝陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏
１６年＝リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美選手
１７年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１８年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１９年＝９６年アトランタ五輪 1600 Mリレー 5 位、日本記録保持者・大森盛一氏
２０年＝プロマラソンランナー・川内優輝選手
２１年＝陸上女子ハンマー投げアテネ五輪出場・室伏由佳氏

【Outline (in English)】
【Course outline】
We learn the coverage method of sports to be formed on a new custom of the everyday life.
Using a moving image and the interview of sports, We acquire the power of bservation.
【Learning Objectives】
Through the approach to the competition of the top athlete, we can learn philosophy not only a technique, physical strength .
It becomes the hint to live.
【Learning activities outside of classroom】

Students try to read a newspaper, the Internet article well and are interested in sports and athletes.
【Grading Criteria /Policy】
1 Class attendance（50%）
2 Term-end report(25%)
3 Approach to a class(25%)

POL200IA

スポーツと政治

赤堀　宏幸

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピック開催など、世界的な競技会、イベントに見られるように、世界各国でスポーツと政治の関係は、多面的に切っても切り離せないようになっている。スポーツと政治は、国際的にも各国の事情でも、政治とのつながりがなく進んできた例は非常に少なく、利権などに絡んだことや、「大会不参加」など、政治に利用されていたことが歴史にも刻まれている。過去のオリンピックや競技会などのイベント、政策などを通じ、スポーツと政治はどうあるべきかを考察し、視野を広げていく。

【到達目標】
スポーツと政策、スポーツと法律、スポーツと外交など、多くの国際的な関係事例を見ながら、日本のスポーツの今後にかかわる政治との関係に関心を持てるようにする。そのうえで、多岐にわたる情報収集力、分析など、対処法や方向性も含めて多種多用な考え方を学習し、実際のスポーツイベント実施や運営に必要な事項を知識にできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、小レポート、期末レポート提出。元オリンピック選手、スポーツを含めた文部科学政策に関わった政治家、日本オリンピック委員会や日本体育協会加盟団体でオリンピックを推進してきた関係者の話、取材した経験を通じ、オリンピックや国内大会などへの提言的な企画など多角的な思考、考察する時間を設け、レポと、原稿作成など記述する時間を多くして、学習していく。4 月 9 日授業開始。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要説明、授業計画の説明。 及び全般的なスポーツと政治に関する一般論
2	国交のない国とのスポーツ交流	国交のない国でのスポーツイベントに参加したアスリートの考えていたこと。その後、国交正常化への道につながる
3	オリンピックにおける政治との関係１	オリンピックにおける政治学、近代オリンピックによって支配化を意図した例などを紹介し、政治とスポーツの関係を見る
4	オリンピックにおける政治との関係２	政治、国交回復への道、平昌オリンピックで、韓国と北朝鮮の統一チームが出場した例から何を見るか
5	オリンピックにおける政治との関係３	オリンピックの大会開催誘致、参加への政治介入。 各競技の世界選手権、アジア選手権などの開催と政治介入
6	オリンピックにおける政治との関係４	オリンピック開催、オリンピック選手育成・強化は体制護持から始まったのか
7	オリンピックにおける政治との関係５	モスクワオリンピックの米国などのボイコット（日本も不参加）と今日まで
8	オリンピックにおける政治との関係６	ロサンゼルスオリンピックのロシアなどのソ連のボイコット（日本は参加）と今日まで
9	政治と国民のスポーツ活動１	ドイツ分断時、東ドイツにおける国民のスポーツ活動の目的と状況
10	政治と国民のスポーツ活動２	スポーツとアパルトヘイトとの関係・変遷、オリンピックでの状況
11	政治と国民のスポーツ活動３	幻の東京オリンピック、第二次世界大戦後のスポーツ復活
12	スポーツ政策１　国民体育大会	国民体育大会開催発案とその後のスポーツ政策、体育協会と政治家の関係。スポーツ基本法のなりたち
13	スポーツ政策２　スポーツ六法	２１世紀になってからの現実。スポーツ基本法をはじめとするスポーツ六法と今日まで
14	スポーツ政策３　世界のスポーツ禁止令などの政策	スコットランドで発布されたゴルフ禁止令など、各国のスポーツ奨励と禁止令。スポーツとレジャーの区分、区別とスポーツ振興策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞（ニュース記事、解説、社説、コラムを中心）に目を通し、必要なキーワードをまとめたおく。雑誌、テレビなどを通じてオリンピックやスポーツ政策に関するキーワードを記録しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新聞（スポーツ紙を含む）、雑誌、書籍の一部を授業内で資料として説明・配布する。

【参考書】
各種新聞記事、雑誌記事を中心とする

【成績評価の方法と基準】
・授業内に実施する小レポート　20 %
・全授業終了後に実施するレポート　80 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Expand the field of view to le a rn the relationship between sport and politics.Olympic and politics are inseparable. Political use of the sporting event was in the past.Moscow Olympic games there is non-participation for political reasons.

ECN200IA

スポーツマーケティング論

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】
スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。
本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけではなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこない、プロジェクターを使用します。
本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケターの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際（国内の事例）	国内のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際（国外の事例）	国外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポート (40%) の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline (in English)】
This course is advanced to learn of sport marketing. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport marketing.

ECN200IA

スポーツ産業論

吉田　政幸

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義において、履修者はこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】
スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：
(1) スポーツ産業の構造および現状
(2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
(3) 米国大学スポーツの歴史的変遷、概要、産業規模
(4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書（スポーツ産業論、第 7 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。
また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史的変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツサービスと消費者行動	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 6 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが災害復興支援に取り組むように、スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的責任がある。その概念規定、種類、特徴を学ぶ。
第 7 回	スポーツメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の構造と特性を踏まえ、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを強める現状について学習する。
第 8 回	北米のプロスポーツ	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 9 回	プロスポーツ産業	みるスポーツの現状を知るとともに、プロスポーツの熱狂的ファンの心理的・行動的反応として注目されるファンエンゲージメント概念について理解を深める。
第 10 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 11 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 12 回	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントは開催都市に社会的、経済的恩恵をもたらす。イベント効果の定義、種類、形成方法、そして効果を生み出すことの意義について学習する。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組みについて学ぶとともに、企業がアスリートに協賛するエンドースメントについても理解を深める。
第 14 回	スポーツ産業のまとめ	日本のスポーツ産業の現状と特徴を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（スポーツ産業論、第 7 版）や参考資料を事前に読み込み、疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第 7 版）. 杏林書院：東京.

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
中間テスト： 50 点
期末テスト： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンなど

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2 週目以降は教科書や指定された参考資料を事前に読んできてください。

【Outline (in English)】
The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. The purpose of this course is to understand the fundamental elements of the sport industry. Before each class, students are expected to read relevant book chapters. Grading will be decided based on mid-term exam (50%) and final exam (50%). Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本　浩

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につけることに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。4K での精緻な映像に始まって 8K の現実と遜色ない映像の世界は、スポーツにこそ最高の技術を使った伝達の価値を見いだせると語っているようだ。世界のメガイベントに備えるメディアの新たな動きを確認した上で、スポーツメディアの近未来を考える機会としたい。

【到達目標】
一時は戦意高揚のために、その後は商業化の波に乗って、W 杯サッカーやオリンピックというメガイベントを契機としながらスポーツメディアはさまざまな歴史を重ねてきた。講義を経て獲得できるのは、活字、電波、写真、モバイルと進化を遂げてきたアイテムの成り立ちと必然性。しかし製品そのものに関心をとどめておくだけでは足りない。変化が促されたのは、それを求めた社会があってこそのことである。となれば、時代を画すにつれて社会そのものがどう変わってきたのかに視点は向けられなければならない。加えて現在の状況、そしてこれから。講義の過程で認識したいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアが今さしかかっている曲がり角をいかに乗り越えようとしているのか。一人一人がメディアと化したこの時代に、何がどう変化しているのか。ストリーミング、OTT、SNS、見逃し配信など、多様なルートを通して、スポーツがそれ自身どこに向かうのかを膨張してきたのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。※ウィルスの影響次第で、オンライン授業を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近いところで踏ん張っている。その組織と情報提供の実際を目にして、報道の中でのスポーツの占める位置を確認する。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	メディアの仕組み①（プリント/活字）	スポーツメディアは、メディアの中の一部分である。そこを知るには、プリントメディアの世界の常識と理念から始めなければならない。後に電波メディアも大きな影響を受けた、プリントメディアの取材から報道までのありようを見る。
4	メディアの仕組み②（音声/映像）	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	プリント（活字）メディアの中のスポーツ	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げてきた。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらプリントスポーツメディアの特徴を知る。
6	メディアとスポーツ事業	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。
7	スポーツ中継（1）~仕組みと制度~	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えにくい部分を、音声実況の歴史からテレビ中継までをハードウエアを中心に確認する。
8	スポーツ中継（2）~人と思想~	ラジオとテレビ。そこにあるのは、媒介する機材やルートの違いだけではない。方法論や考え方を見比べることで、スポーツ報道がいかに社会の要請を受けて変化したのかが見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツ番組（スタジオ制作）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
12	メガイベントとメディア	オリンピックを主催する IOC も、W 杯サッカーを主催する FIFA も、映像メディアに強い関心と影響力を持ってきた。歴史的流れの中でメガイベントとメディアの関係に習熟する。
13	スポーツメディア世界の今	放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そこでひらめいた読後感はさまざまなシーンで有用になる。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かおう。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず。

【参考書】
「メディア文化研究への招待」ポール・ホドキンソン著　土屋武久訳　ミネルヴァ書房　2016 年
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著　慶応大学出版会　2011 年
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著　ミネルヴァ書房　2012 年

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
対面形式：「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
※オンライン時：指定期限内に学習支援システムの「課題」欄を経由して提出する。
※ハイブリッド時：集中力の差を考慮して、対面で参加する学生とオンラインの学生との間に異なる課題を設定する。

オンラインで受講しているにもかかわらずライブ参加がなく、課題だけを提出する登録受講生の評価は、原評価の半分とする（最高点 1．5）。ライブ参加の場合も、短時間で切り上げて講義から退出した場合には得点が下がる可能性がある。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.5 点刻み ×13）。
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 50 点） には必ず取り組むこと。
すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき３回まで。自分の都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題より負荷の高いものになる。期末時の追加レポートを選択せず、オンライン参加のないままでの講義内課題に学習支援システムからの回答提出も選択できる。その場合、相当な理由があった場合には最高点 2 点とする。全講義終了後、レポートを選択するか、その都度講義内課題を選択するかは受講者の判断で行うことができる。両方を同時に選択することはできない。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
テレビを見ない世代が増えている中で、ウィルスの影響で激減した競技スポーツに人々はどんな反応を残すのだろうか。メガイベントがどうなるか未確定の中の講義だけに、常に未来形で “現代” を追いかけたい。
スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早くなりがちだが､講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで､受講者が確認できるような手立てを講じる。

【その他の重要事項】
スポーツジャーナリストとしての４０年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。
今年はカタールで FIFA ワールドカップの開催される年。冬季五輪を主催した IOC とそのライバルと目される FIFA とが、それぞれのメディア戦略にどのような違いを見せるのか。レースや試合の報道といった一次情報はもとより、それを支える組織の考え方に関心を向けてもらいたい。

【Outline (in English)】
To be familiar with the sports philosophies of existing media such as printed media, broadcasting, Internet and tablets that play prominent roles in recent years.
While understanding the trajectories and current situation from the origin of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand medias world where remarkable changes are anticipated.
You could have an enough chance to get acquainted with the near future of the sports media.

ECN200IA

スポーツ行政論

川崎　登志喜

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 国・都道府県・市区町村の 3 つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2. 身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】
1. スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2. 地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3. 諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。
授業形態については対面・オンラインは未定。
グループまたは個人によるプレゼンテーションがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
2	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の組織と役割について理解できる
3	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
4	スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画	スポーツ振興法の役割と課題について理解する。 スポーツ振興基本計画の役割と課題について理解する。
5	スポーツ立国戦略	スポーツ立国戦略についてその役割とその評価について理解する。
6	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	スポーツ基本法について理解する。 スポーツ基本計画について理解する。
7	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
8	都道府県のスポーツ推進計画と課題	都道府県のスポーツ推進計画についてグループ発表
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
10	市区町村のスポーツ推進計画と課題	市区町村のスポーツ推進計画についてグループ発表
11	スポーツ予算と財源	スポーツ振興の財源について理解する
12	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する
13	諸外国のスポーツ行政	欧米のスポーツ行政を中心に、諸外国からみた我が国のスポーツ行政の特徴を理解する
14	まとめ	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】
小笠原正ほか「スポーツ六法」2011
日本スポーツ法学会編「詳解　スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】
(1) 出席確認：毎時間確認する
(2) 試験方法：レポート 2 編　80%
(3) 評価基準：平常点（小レポート・プレゼンテーション・学習態度を含む）20%
（2 ／ 3 以上の出席が必要）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

【Outline (in English)】
This class purpose is
1. It can explain the mechanism and policies of sports administration at three levels, national, prefecture, municipality.
2. It is possible to think about the problem and sports business on sports from the perspective of sports administration.

SOC300IA

スポーツ消費者行動論

吉田　政幸

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業において、受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者と良好かつ持続可能な関係性を構築する方法について理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
(2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
(5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。アクティブラーニングとなるよう、学期を通じて様々なアンケートに回答し、授業内で分析結果について議論する。
また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費と消費社会	消費という活動は人々の社会階級、習慣、そして時代の流行を反映している。初回の授業では現代社会を特徴づける消費社会とそこでの消費という行動について理解を深める。
第 2 回	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義、類型、特性および意思決定過程について学ぶ。
第 3 回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
第 4 回	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
第 5 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（認知と魅力の段階）	スポーツ観戦者の意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルの中でも、特に認知と魅力の段階について学ぶ。
第 6 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（愛着と忠誠の段階）	心理的連続モデルの愛着と忠誠の段階について学ぶ。
第 7 回	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
第 8 回	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
第 9 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考えるとともに、ロイヤルティとブランド価値の関係性についても理解を深める。
第 10 回	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
第 11 回	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。
第 12 回	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアや e クチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。
第 13 回	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
第 14 回	スポーツ消費者行動のまとめ：現状と今後の展望	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性を考察した結果を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房.

【参考書】
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第 7 版）．杏林書院：東京.

【成績評価の方法と基準】
レポート 1（心理的連続モデルの診断）： 10 点
レポート 2（スポーツ消費者の社会的アイデンティティの診断）： 10 点
レポート 3（ブランドエクスペリエンスの診断）： 10 点
小テスト： 20 点
期末テスト： 50 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the basic principles of sport consumer behavior at the undergraduate level. The goal of this course is to understand important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on three short reports (30%), short exam (20%), and final exam (50%). Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong and enduring relationships with sport consumers.

SOC300IA

スポーツイベント論

吉田　政幸

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業において、受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者と良好かつ持続可能な関係性を構築する方法について理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
(2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
(5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。アクティブラーニングとなるよう、学期を通じて様々なアンケートに回答し、授業内で分析結果について議論する。
また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費と消費社会	消費という活動は人々の社会階級、習慣、そして時代の流行を反映している。初回の授業では現代社会を特徴づける消費社会とそこでの消費という行動について理解を深める。
第 2 回	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義、類型、特性および意思決定過程について学ぶ。
第 3 回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
第 4 回	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
第 5 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（認知と魅力の段階）	スポーツ観戦者の意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルの中でも、特に認知と魅力の段階について学ぶ。
第 6 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（愛着と忠誠の段階）	心理的連続モデルの愛着と忠誠の段階について学ぶ。
第 7 回	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
第 8 回	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
第 9 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考えるとともに、ロイヤルティとブランド価値の関係性についても理解を深める。
第 10 回	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
第 11 回	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。
第 12 回	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアや e クチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。
第 13 回	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
第 14 回	スポーツ消費者行動のまとめ：現状と今後の展望	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性を考察した結果を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房.

【参考書】
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第 7 版）．杏林書院：東京.

【成績評価の方法と基準】
レポート 1（心理的連続モデルの診断）： 10 点
レポート 2（スポーツ消費者の社会的アイデンティティの診断）： 10 点
レポート 3（ブランドエクスペリエンスの診断）： 10 点
小テスト： 20 点
期末テスト： 50 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the basic principles of sport consumer behavior at the undergraduate level. The goal of this course is to understand important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on three short reports (30%), short exam (20%), and final exam (50%). Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong and enduring relationships with sport consumers.

ECN200IA

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤　真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3
旧科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なる

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる。
3．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義：スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学１	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学２	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか１ Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM)、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか２ リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか３ モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報４	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility（CSR）事例研究)】について学習する。
13	ケーススタディー	これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。
14	授業総括	これまでの授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、
リアクションペーパーの内容（30 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing). The goals of this class are: 1.You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Explain what management knowledge can change in sports. The grade evaluated by contents of reaction paper (30%), Quiz (30%), Evaluate by the content of the report (40%).

LAW200IA

スポーツ法学Ⅱ

飯田　研吾

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2021 年、コロナ禍の中で、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、国民のスポーツへの関心が高まるとともに、新たなスポーツの価値について考えるきっかけとなった。
一見、華やかにも見える日本のスポーツ界において、スポーツ事故、代表選考、スポーツ選手の契約問題、アンチ・ドーピングの問題、暴力・ハラスメント等、様々な問題が今もなお生じている。
そこで本授業では、現実にスポーツ界で起きている様々な事例を題材としながら、背後にある法律知識や法律問題を理解し、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力の習得を目標とする。

【到達目標】
現実にスポーツ界で起きている様々な事例について、背後にある法律知識や法律問題を理解することができる。
スポーツ界で起きている問題について、法的な視点から解決策や予防策を提示することができる。
特徴的なスポーツ紛争（裁判例や仲裁事例等）を学ぶことで、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、質疑応答を行いながら教員と受講生との間で双方向型の授業を実施し、受講者に考える機会を与えられるよう心掛ける。できる限り、各テーマに関係する具体的な事例を紹介しながら解説を行う予定である。
また、毎回の授業において、前回授業以降に起きたスポーツ界の話題について、法的問題や解決策、検討事項などを発表してもらうことや、リアクションペーパーの提出も予定している（詳細は授業にて説明する）。
なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、授業の進め方、参考テキスト、評価方法についての説明
2	スポーツ法の体系	スポーツに適用される法律、スポーツ基本法、スポーツ固有法
3	スポーツ紛争と解決手段	スポーツ紛争の特徴、裁判、スポーツ仲裁、近時の事例紹介
4	スポーツ事故と責任	スポーツ指導者・選手の注意義務・安全配慮義務、スポーツ事故やスポーツ障害の予防と対策
5	代表選考を巡る問題	代表選考を巡る法的問題の所在、紛争事例の検討
6	オリンピック・パラリンピックとスポーツ法	オリンピック・パラリンピックに関する紛争事例や人権問題等の解説
7	スポーツ団体のガバナンス	国内競技団体のガバナンスの意義・重要性、不祥事事件の対応例の検討
8	アスリートの法的地位	プロスポーツ選手の法的地位、アマチュアスポーツ選手の法的地位、選手会の意義
9	スポーツと契約	アスリートに関する契約、スポンサー契約、スポーツ会員契約とトラブル、スポーツ観戦契約
10	スポーツと知的財産権	スポーツに関する肖像権、パブリシティ権、放映権
11	スポーツのインテグリティ①（アンチ・ドーピング、八百長問題等	アンチ・ドーピング規に関するルールとその課題、紛争事例の紹介と争い方、八百長の問題点、無気力試合
12	スポーツのインテグリティ②（暴力、ハラスメント等）	暴力・ハラスメントに関する法令の解説、責任の所在、根絶のための取組
13	スポーツと子どもの権利	子どもの権利に関する法令、最近の議論の状況、海外での取組例
14	授業内テスト	すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習
授業日までの１週間に起きたスポーツに関する報道等を確認し、法的な観点から検討しておく。これについては、毎回、発表してもらうことを予定している。文献を事前に読む必要がある場合には、予め指示する。
復習
必要に応じて課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は計２時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料（印刷物）を配布する。

【参考書】
「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「標準テキスト：スポーツ法学（第 3 版）」日本スポーツ法学会監修（エイデル研究所）
「スポーツの法律相談」青林書院
「スポーツ法への招待」道垣内正人　他（ミネルヴァ書房）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正　他（不磨書房）
その他、随時、参考になるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。また、授業の進捗に合わせて、１回、中間レポートを課す予定である。
成績評価の方法は、授業内テスト６０％、中間レポート２０％、授業への取組み（平常点）２０％とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、グループディスカッションの要望もあったため、今年度はそういった形式も取り入れていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にはパワーポイントや配布資料を用いて講義を進行する予定である。

【その他の重要事項】
本科目は、新しい法改正や制度改正、事件・事故等の発生によって、講義内容や順序を変更することがある。

【Outline (in English)】
In 2021, in the midst of the Covid-19, the Tokyo Olympics and Paralympics was held, The public's interest in sports has increased , and it has triggered new thinking about the value of sports.
In the seemingly glamorous world of Japanese sports, various problems still occur, such as sports accident, selection, contract issue of athletes, anti-doping problem, violence / harassment, etc.
In this class, from the various cases in the fields of sports, to understand the legal knowledge and the legal problems, and to learn the ability of legal thinking and management which is necessary as a person who will engage in the fields of sports in the future.

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（新聞）

名取　裕樹

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツはさまざまなメディアを通じて日々報じられ、論じられている。特に日本の新聞は社会全般の事象と同様に、スポーツの報道においても正確性、信頼性が求められ、文体の工夫やビジュアル化などでスポーツの持つドラマ性を伝えることに努めている。新聞によるスポーツ報道の全体像を、Ｊリーグや五輪、サッカーのワールドカップ、テニス四大大会など国内外の報道に携わってきた講師とともに考察する。

【到達目標】
スポーツの情報は新聞以外にも雑誌や放送、ネットにあふれ、多様化している。その現状を把握した上で、新聞報道の特徴と重要性が理解できる。スポーツに関わる者として、情報を取捨選択し、スポーツの本質を正しく分析することができる。記事の書き方を例に、日常生活や将来の社会生活でも物事を分かりやすく伝えられる文章力が身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、学期終盤にはスポーツを文章で伝える基礎的技術を実践する予定。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げたり、質問に答えたりして全体にフィードバックする。講義の順番、内容は変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズム序論	授業概要の説明。新聞、放送、デジタルメディアにおけるスポーツ報道の特性を分析する。
2	スポーツ報道と通信社、新聞社	通信社が世界のスポーツ報道で担ってきた重要な役割と、日本の新聞におけるスポーツ報道の変遷を知る。
3	新聞報道とスポーツ報道の定型	新聞の一般的な構成と、読み物や解説、成績欄などスポーツ記事の定型を知り、優れたスポーツ報道を探る。
4	紙面のビジュアル化	記事に深みを与え、記録を分かりやすく伝える写真、グラフィックスなどビジュアル化の現状を知る。
5	スポーツ報道の視点	スポーツの何を伝えるか。ジャーナリストに求められるスポーツの見方、伝え方を考える。
6	取材方法論	優れた報道の基礎は取材にしかない。スポーツの本質の理解と競技場外での取材の蓄積の重要性を知る。
7	インタビュー論	報道に厚みを増すインタビュー。競技場内外での記者会見、インタビューの現状を知り、本音を引き出すインタビュー手法を探る。
8	新聞が読者に届くまで	取材活動の裏側にある日々の編集会議や、記事の点検から配信・印刷までの流れを知り、正確な報道を支える新聞製作の現場を学ぶ。
9	五輪報道の変遷とメディア①	スポーツ界最高峰のイベントである五輪の歴史とメディアにおける位置づけを考察する。
10	五輪報道の変遷とメディア②	五輪報道の取材現場を紹介し、東京五輪と北京冬季五輪の報道内容を分析する。
11	Ｊリーグとメディア	地域密着を旗印に日本プロスポーツ界に潮流をつくったＪリーグ。地方紙との強い関係性とその背景を考察する。
12	スポーツ報道実践研究	最近のスポーツ記事を教材に、報道のあり方を検証する。
13	記事作成のノウハウ	基本的な記事作成のノウハウを検討し、分かりやすい文章作成法を学ぶ。
14	試験＝授業内レポート作成	新聞を読み、講座で学んだことについて、自分の考察を長めの文章にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアのスポーツニュース、特に新聞報道に積極的に接すること。最低でも週に１度は新聞を読む習慣をつける。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
最終回の講義で作成するレポートの内容（７０％）、普段の受講時の意見表明などの受講姿勢（３０％）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメをより効果的に活用する。学生との意見交換を図る。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces the full picture of Japanese sports journalism, mainly focusing on newspaper coverage by the highly experienced sports journalist, who has been working in the sport journalism and covered various sports events both at home and abroad for more than 35 years, to students taking this course.
At the end of the course, students are expected to grasp the current feature and trend of sports journalism in Japan, understand the distinction between newspapers and other medium, select more correct information on sports, and learn to write easy-to-understand sentences. Final grade will be decided base on the following; Term-end short report (70%) and in-class contribution (30%).

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（放送）

加茂　明

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウィズ/ポスト・コロナ時代に、スポーツの力を発揮できるようにするためには、ジャーナリズムは何が求められるのか。賛否で揺れ動いた 2021 年東京五輪とパラリンピックにテレビアタッシェ（広報）として参加、選手とテレビ局とを結んだ講師が、学生の興味・関心を引き出す様々なテーマを取り上げます。学生はメッセージを受け取り、自分が感じたことや自分の意見を、自分の言葉で表現する力を養っていきます。全体としてコミュニケーション能力を伸ばすことを目的にします。

【到達目標】
情報過多のネット時代には「なぜ？」という問いを探しながら、思い込みや先入観という落とし穴に気づいていくことが求められます。相互尊敬、相互信頼に基づくヨコの関係を築きながら、多様なものの見方や考え方に接し、複数の観点を持つ重要性を理解していくことも大事です。毎回、様々なテーマと出会いながら、自分で活用できる方法を学び、実践に移していく力を養っていきます。最終的に、自分なりに時代の潮流を見る目を持ち、「自分はこう考える」と文章と言葉にして伝える知力を得ることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の興味・関心を引き出すために、ヴィヴィッドな題材を取り上げ問いかけていきます。講師のスポーツ報道・番組制作の経験談・失敗談を紹介しながら、今の時代と照らし合わせて検証します。「信頼関係の築き方」や「トラブルの対処の仕方」についても、コミュニケーションの観点から随時取り上げ、自分ごととして財産にしてもらいます。講義全体を通して「伝える」「受け取る」「意思を疎通する」ことを重要視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズムの世界〜ガイダンス	講師自己紹介と簡単なアンケート調査。「コミュニケーション能力を伸ばす」授業の目的と、「私の考え方」「進め方」「出席とレポート重視の成績評価」など概要を説明する。
2	スポーツの力とメディアの影響力	ウィズ/ポストコロナ時代に多くの人に勇気と希望を与えるスポーツの力はこれまで以上に求められている。そのスポーツのスタイルやルールを変えてしまうほど影響力を及ぼしてきたメディア。スポーツと政治との関係を歴史背景を踏まえながら検証。ジャーナリズムの役割を見つめ直す。
3	新しい価値観と教訓〜コロナ禍の現場報告	賛否に揺れ動き無観客で行われた東京五輪。多くの人が感染拡大を危惧しながらもテレビの中の選手に拍手を送っていた。競技場から消えた声援。アスリートたちが示した新しい価値観や様々な意思。教訓にすべき多くのトラブル。ＴＶアタッシェとして参加した講師の報告をもとに顧みる。
4	リスペクトと信頼〜メディアの条件	相互尊敬・相互信頼に基づく共感的な態度がいかに重要か。サッカーやテニス、陸上や大相撲などの取材・制作経験をもとに「アピールの仕方」や「信頼関係の築き方」「トラブルの対処の仕方」などをともに考える。
5	相互信頼と勇気づけ〜グッドコーチの条件	ヨコの関係で「選手自身が自分の成長や進歩に目を向けられるよう指導する」コーチがいる一方、タテの関係で「選手にほとんど気づきを与えない」コーチもいる。根拠なき精神論が残る「不祥事の現状」や「競技人口の減少」を踏まえながら、「怒らない現場づくり」「勇気づけ」に着目する。
6	言葉の力〜トップアスリートから学んだ心の整え方	コロナ禍でストレスが増加する中、メンタルヘルスは重要課題。レジリエンス（弾力性や回復力）を身に着けるにはどうすればよいか。「笑顔」「一生懸命」「ありのままを受け止める」。心に残るアスリートやコーチの言葉をもとに部活や就活、日常生活で大切な心の整え方を探る。
7	沈黙の金メダリスト〜インタビューから生まれるもの	言葉を発するまで時間のかかる人がいる。ＡＩに果たして待つことはできるのだろうか。選手の心を映し出すインタビュー。聞く側と聞かれる側、それぞれで生まれてくるものは何か。講師の実体験とその後を検証。記者会見やヒーローインタビューに潜む問題点は。「聞く」力に光をあてる。
8	ロッカールームの真実〜ドキュメンタリー番組の視点	若者に支持されるドキュメンタリー。「イチロー」と「大谷翔平」の取り上げ方の違いは。「知りたいこと」に応え「伝えたいこと」に思いを込める企画の意図は。ＮＨＫスペシャルやクローズアップ現代を制作してきた経験談をもとに、ジャーナリストに求められる「視点」にスポットをあてる。
9	情報過多〜ネット時代のスポーツジャーナリズム	ＡＩが記事を書きロボットが実況する。ＳＮＳでスポーツ動画が拡散し「炎上」「社会問題化」する。有料放送・ネット配信の独占化も進み「国民の物語」を提供してきたテレビから若い世代が離れている。スポーツに大きな影響力を持つソーシャル・メディア。スポーツ報道の在り方を見据える。
10	厚底靴とビッグデータ〜企業とメディアとアスリート。	データを集積しＡＩの解析によって生まれた厚底靴。ネットワークに繋がる「ビッグデータ」や「テクノロジー」はスポーツに変化をもたらしている。スポーツの主役だった「生身の身体」はどこにいくのか。高校野球や箱根駅伝との結びつきを強固にしてきたメディアも変化の兆しを見せている。
11	オープンシェア革命と自由な価値観〜スポーツと社会のつながり	大リーグや箱根駅伝でスキルやデータをオープンにすることで業界のレベルアップを図る「オープンシェア革命」。ダンスは中学校の必修化で部活動が急成長。パリ五輪でデビューするブレイクダンスは東京五輪で脚光を浴びたスケートボードに共通する自由な価値観を際立たせている。
12	Ｚ世代とスポーツ〜エクストリーム・パラリンピック・ｅスポーツ	若い人たちをどう取り込むかはオリンピックもメディアも共通課題。冬季五輪に登場した「エクストリームスポーツ」。アジア大会の正式競技になった「ｅスポーツ」。自己実現のためのスポーツへと変革を遂げる「パラリンピック」。自分の価値観を重視するＺ世代の視点からスポーツをとらえる。
13	小さな度胸試し〜考えていることを言葉にしてみよう	「自分にとってスポーツとは何か」自由に発表してもらう。聞き手は、たとえ自分とは異なる価値観でも受け止める視野の広さを得る。みんなで学びを創る時間を目指す。
14	試験とまとめ	到達目標に基づいて出題。レポート形式。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビやネットが、スポーツをどのように伝えているか、日常から意識して接しましょう。目の前の情報にすぐに満足せずに「本当にそうかな？」「一方的な見方ではないかな？」「別の角度から考えたらどうなるかな？」と自らに問いかけてみてください。多様な視点を知った上で「自分はこう考える」とたどりついていく、その積み重ねが、コミュニケーション能力を伸ばしていきます。授業のテーマに基づいて毎回 1 時間、事前に考え、振り返り、有意義な講義にしていきましょう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わず、放送や新聞の記事、番組などの素材を随時使用します。

【参考書】
参考書などは、授業内で適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】
●毎回、授業の最後に一定の時間を設け、その日のテーマに基づいた短いレポートを提出してもらいます。評価基準は、講義の理解度や多様な視点、具体例、自分の考え方を示しているかどうかなどです。**(4%×12 回=48%)**
● 13 回目の授業で意見発表会を実施します（7 %）
●最終週に「スポーツジャーナリズムをいかに理解し、コミュニケーション能力を身につけたか」みるために、レポート形式の試験をします（45 %）

【学生の意見等からの気づき】
●支持の多かった静かな授業環境づくりについて、よりメリハリをつけて取り組みます。

●大教室授業であったため学生の意見発表は最終回に集中的にやりましたが、普段の授業でも随時取り入れる工夫を凝らしていきます。

【その他の重要事項】
●採用面接官をつとめた経験を活かして、学生と向き合いながら授業を進めていきます。
●ニュース番組の編集責任者をつとめた経験を活かし、スポーツを取り囲む政治、経済、社会、国際問題なども取り上げて視野を広げる機会にしていきます。
●「私語」は授業をきちんと聴きたい学生の権利を侵すルール違反。認めません。

【Outline (in English)】
What is required of journalism in order to be able to exert the power of sports in the with / post-corona era? Participating in the 2021 Tokyo Olympics and Paralympics as a TV attache (public relations), which was shaken by the pros and cons, the instructor who connected the athletes and the TV station took up various themes that attracted the interest and interest of the students, and the students thought and put it into words. The purpose is to improve communication skills.
[Learning Objectives]
The goal is to have an eye to see the trends of the times in your own way, and to acquire the intelligence to convey in sentences and words, "I think this way."
[Learning activities outside of classroom]
Based on the theme of the lesson, think in advance, look back, and make a meaningful lecture for 1 hours each.
[Grading Criteria / Policy]
● Each time, specify "in time" at the end of the lesson and ask you to submit a short report based on the theme of the day. (4% x 12 times = 48%)
● You will hold an opinion presentation in the 13th lecture (7%)
● In the final week, you will take a report-style exam (45%) to see how you
understood sports journalism and acquired communication skills.

ECN300IA

スポーツ政策論

森岡　裕策

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 4/Wed.4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国のスポーツ政策の動向と、諸外国のスポーツ政策を学んだ上で、平成 23(2011) 年制定の「スポーツ基本法」に基づき、平成 24(2012) 年に策定された「第 1 期スポーツ基本計画」及び平成 28(2016) 年に改定された「第 2 期スポーツ基本計画」及び令和 4(2022) に改定された「第 3 期スポーツ基本計画」における具体的施策について習得する。加えて、文部科学省・スポーツ庁及び地方公共団体のスポーツ施策・事業への反映状況やスポーツ団体の動向等について学ぶ。また、平成 27(2015) 年のスポーツ庁創設に伴い、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省、外務省等などのスポーツ関連政策の総合的な推進等に関する行政方針について学ぶ。さらには、コロナ禍により 2021 年に延期された東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ大会）やワールドマスターズゲームズ 2021 関西などのメガスポーツイベントの状況等を観察しながら、大会開催に向けた政策課題について学ぶ。

【到達目標】
国及び地方公共団体のスポーツ行政施策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことにより、行政が推進するスポーツ施策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ひと」「もの」「かね」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを習得する。「ひと」は、スポーツ指導者、組織運営者、政策立案及び執行者等、「もの」は、スポーツ施設、設備等の在り方、「かね」は、事業を執行するための予算、スポーツ施設の管理・運営の手法などを学ぶ。また、東京 2020 オリパラ大会後の有形・無形のスポーツ・レガシー実現を目指すスポーツ政策の在り方を考える。今後、受講生が、教育職や行政職をはじめとする、スポーツ関連の職域において活躍することができる基礎的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を踏まえつつ、発信される国や地方公共団体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、日本スポーツ振興センター (JSC)、日本スポーツ協会 (JSPO)、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本パラスポーツ協会 (JPSA)、各競技団体 (NFs) 等のスポーツ統括団体や中央競技団体等から発出されるスポーツ推進方策や時事問題（インテグリティ、不祥事等）を解説するとともに、社会的な貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）に関連する報道等を活用して授業を進める。なお、時事的な情報や問題発生により講義内容の変更や順序の変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説及び授業進行や評価方法等に関する説明
2	我が国のスポーツ政策の変遷と国及び地方公共団体のスポーツに関する振興計画等	我が国のスポーツ政策の経緯と諸外国のスポーツ政策（ユネスコのスポーツ憲章、ドイツのゴールデンプラン等）
3	「スポーツ基本法」と「スポーツ基本計画にみる主要提言と政策課題	文部科学省の政策（審議会答申、立国戦略、基本計画等）、地方公共団体の政策（審議会答申、地方スポーツ推進計画等）
4	公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO) の設立経緯と事業構造	我が国におけるスポーツ界の構造とスポーツ統括団体としての役割・任務、展開する事業を解説
5	総合型地域スポーツクラブの育成と社会的効果	我が国の地域スポーツクラブ政策の流れ、総合型クラブの登録・認証制度の意義、クラブに対する中間支援組織の現状
6	国際オリンピック委員会 (IOC) オリンピック憲章に基づく 2020 東京オリパラの開催と検討課題	オリンピズムの根本原則に基づくオリパラ開催の意義、東京 2020 大会後のレガシー創出における課題
7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性化、経済効果	国民体育大会の価値、各種競技大会やスポーツイベントの開催、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西開催等の意義、国際競技大会の誘致、スポーツツーリズムの活用
8	障がい者スポーツ政策とパラリンピック開催に関する現状と課題	障がい者スポーツの動向、障がい者スポーツ指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	新しい時代にふさわしいコーチング・コーチの確立、公認スポーツ指導者養成制度の概要	スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）を踏まえたコーチング環境の改善・充実に向けた取組、モデル・コア・カリキュラムの概要
10	運動部活動改革これまでの経緯と今後の取組	運動部活動の現状と課題、部活動指導員の制度化、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン、運動部活動の地域移行への取組の概要
11	一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) の設立と検討課題	UNIVAS（日本版 NCAA) 創設に係る検討の経緯、設立理念・社会的意義、その役割と将来像
12	子供のスポーツ機会の確保	子供の体力・運動能力の現状と課題、スポーツ機会の確保における問題点
13	スポーツ・インテグリティの確保	スポーツ団体におけるガバナンス・コンプライアンスの強化、「スポーツ団体ガバナンス・コード」に基づくスポーツ・インテグリティの確保に向けた取組内容
14	授業内テストの実施	すべての資料を持込み不可とし、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツ政策については、国（文科省をはじめ厚労省、国交省、厚労省、経産省、外務省等）や地方公共団体（都道府県、市区町村）及びスポーツ関係団体（JSPO、JOC、JSC、各 NF 等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織のＨＰ等で常にチェックしていること。
2022 年度は、東京オリパラ大会後のレガシー等に関連する情報を常時確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に、適時、スポーツ政策、スポーツ行政に関する報道記事や資料を配布し、講義を進行する。

【参考書】
文部科学省、スポーツ庁のＨＰ（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）、都道府県のスポーツ所管課（教育委員会・知事部局）のＨＰ（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）
「よくわかるスポーツマネジメント」柳沢和雄他　編集（ミネルヴァ書房）
公益財団法人日本スポーツ協会の HP（主要事業）
「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行
笹川スポーツ財団の HP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】
授業中に配布した資料等は持込み不可とする。講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、毎回の講義に対する集中度や理解度を問い、その平常点に３０％、最終講義日に設定する授業内テストに７０％を評点化し、その評点の合計点が６０点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内テストの結果やプレゼンテーション、ディベートなどを踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認し、逐次改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】
授業時に、パワーポイントやＤＶＤを使用する。

【その他の重要事項】
本科目は、社会科学の分野であり、例えば、行政・政策の変動や社会的な問題の発生など、重要な時事問題等の発生により、講義の順序や内容の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Student will acquire concrete measures of “The 1st Sport Basic Plan” established in 2012 and “The 2nd Sport Basic Plan” revised in 2016 based on “The Basic Act on Sport” enacted in 2011 after learning the trend of the sports policy of our country and foreign countries. Focuses on the reflection status of MEXT and local governments on sports politics and projects, trends of sports organizations, and the administrative policy on comprehensive promotion, etc. of each relevant ministries and agencies’ sport related policies along with the establishment of the Sport Agency in 2015. Topics include the policy challenges for success while observing the preliminary conditions for hosting the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and the World Master Games 2021 Kansai.

ECN300IA

スポーツビジネス論Ⅲ

吉田　政幸

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツビジネス論Ⅲでは企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。受講者はスポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の学習をとおして、スポーツ組織がスポンサーを獲得する仕組みについて理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツスポンサーシップの定義を説明できる。
(2) スポーツスポンサーシップにおいて協賛企業が期待できる効果を説明できる。
(3) スポーツスポンサーシップにおいてスポーツ組織が期待できる効果を説明できる。
(4) スポンサー企業と協賛対象の間の整合性とその関係性に応じたアクティベーション・プログラムの重要性を説明できる。
(5) スポーツ組織と協賛企業の双方にとって有益かつ持続可能なスポンサーシップ契約の企画書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。
　新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツスポンサーシップの基礎的理解	スポーツスポンサーシップの定義、誕生および発展の背景、現在の市場規模について学習する。
第 2 回	スポンサーシップの種類	企業がスポーツに協賛する代表的なものとして、チーム、リーグ、選手、試合、施設を取り上げ、それらのスポンサーシップの事例および特徴について学ぶ。
第 3 回	スポンサーシップを通じたマーケティング活動	スポーツスポンサーシップを通じたマーケティング活動について、スポーツ組織と協賛企業の両方の視点から理解する。
第 4 回	スポンサーシップにおける消費者の意思決定過程	スポーツイベントの参加者や観戦者が協賛企業を認知し、興味を抱き、実際に製品やサービスを購入するまでにはいくつかの段階がある。ここでは消費者の意思決定過程に着目し、スポンサーシップの効果について考える。
第 5 回	「スポンサーシップ」対「広告」	スポンサーシップにおける企業の宣伝活動は間接的かつ支援的であるのに対し、広告における企業の宣伝活動は直接的かつ説得的である。こうした違いを学ぶとともに、スポンサーシップが発展してきた背景についても広告との違いから理解する。
第 6 回	アスリート・エンドースメント	プロスポーツや国際試合で活躍する選手は使用しているスポーツ用品の推奨者としての役割を持つ。彼らは試合以外の場面でも、車、腕時計、嗜好品などを推奨している。今回はアスリートが製品を推奨するエンドースメントについて学ぶ。
第 7 回	スポンサーシップにおける整合性	企業のイメージが協賛するスポーツ関連の対象のイメージと一致している度合いのことを整合性と呼ぶ。本授業では整合性の種類、役割、高め方などについて学習する。
第 8 回	スポンサーシップのアクティベーション	スポンサーシップを活性化させ、効果を高める工夫のことをアクティベーションと呼ぶ。今回の授業ではアクティベーションの概念、種類、特徴を、スポンサーの種類と併せて理解する。
第 9 回	スポンサーシップの企画書	スポーツ組織が企業に協賛を提案する際に作成する企画書の構成、内容、注意点について学び、実際にグループに分かれて企画書の作成に取り掛かる。
第 10 回	価格設定	企業がスポーツ組織に支払うスポンサー権料は露出方法、アクティベーションの度合い、契約年数などによって異なる。ここではスポンサー権料の価格設定について学ぶ。
第 11 回	スポンサーシップの評価（メディア露出と認知度）	スポンサーシップは寄付ではない。企業は支払ったスポンサー権料に対してマーケティング目標の達成を期待する。本授業ではこの費用対効果を説明する評価方法について、特にメディア露出と認知度の形成の観点から学ぶ。
第 12 回	スポンサーシップの評価（イメージ、購買への影響）およびソーシャルスポンサーシップ	スポンサーシップの評価について、イメージの向上と購買行動の観点から学習する。授業の後半ではスポーツへの協賛活動を通じて社会問題の解決するソーシャルスポンサーシップについて理解を深める。
第 13 回	アンブッシュマーケティングへの対応	スポンサーシップ契約を正式に結んでいない企業が、特定のイベントに関連づけて商業活動を行うことを「アンブッシュマーケティング」と呼ぶ。ここではスポンサーシップの倫理的問題と対応策について学習する。
第 14 回	スポーツスポンサーシップのまとめ	学期を通じて学習したスポーツスポンサーシップの理論と実践を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の課題として、企画書の作成を行います。同じ班のメンバーと協力して企画書を作成してください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回、資料を配付する）。

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを用いたショートアンサー： 30 点（3 点 ×10 回）
学期前半の内容に関する小テスト： 30 点
期末テスト： 40 点
合計： 100 点
【リアクションペーパーの評価基準】
学期を通じてショートアンサー形式の問いを 10 回出題します。授業の最後の時間を使ってリアクションペーパーに解答を記入してください。各問いは以下の 3 段階で評価します：
1 点：授業の内容を踏まえている
2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら説明している
3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、課題に対して合理的な説明を行っており、高い文章力で書かれている。

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】
配布資料に沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された読み物を読んできてください。

【Outline (in English)】
This course provides a detailed examination of sport sponsorship. The goals of this course are to learn (1) the strategic relationships between events, teams, athletes, fans, and corporate sponsors and (2) understand professional techniques used to sell sponsorship packages. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on short report (30%), short exam (30%), and final exam (40%). Upon successful completion of this course, students will be able to understand the theoretical rationale for sponsorship and strategic communications through sponsorship.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
・課題に対して、仮説をたてることができる
・仮説を調査票にすることができる
・回答しやすい調査票作成ができる
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
・実務へのインプリケーションを行うことができる
・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ。
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える。
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う。
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ。
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる。
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ。
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する。
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る。
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】
調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme
, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤　真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／ 3 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
・課題に対して、仮説をたてることができる
・仮説を調査票にすることができる
・回答しやすい調査票作成ができる
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
・実務へのインプリケーションを行うことができる
・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
17	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の仮説の設定	第 18 回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施	第 19 回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査結果の発表	第 20 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の調査票の妥当性の確認	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う
25	定量調査の実施	定量調査を実施する
26	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の集計、分析、仮説検証	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の集計、分析結果の考察、結果のまとめ	第 22 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します

【参考書】
授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】
調査票 (50%)、分析・レポート (5 0%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

伊藤　真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
・課題に対して、仮説をたてることができる
・仮説を調査票にすることができる
・回答しやすい調査票作成ができる
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
・実務へのインプリケーションを行うことができる
・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
2	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
3	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
4	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
5	事前調査の実施	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる。
6	事前調査結果の発表	第 5 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる。
7	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う。
8	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う。
10	定量調査の実施	定量調査を実施する。
11	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
12	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
13	調査の集計、分析結果の考察	第 12 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】
調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN100IA

Sport Consumer Behavior

佐藤　晋太郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※スポーツ健康学部 2017 年度以前入学生履修不可**
※グローバルオープン科目として履修する場合の配当年次は 2〜4 年次

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
From an American perspective, this course is intended to provide students a general overview of the traditional and more recently developed theories and practices related to sport consumers. Students will learn important concepts and theories related to the cultural, psychological, behavioral, and social characteristics of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how individuals become loyalty sport consumers and even positive contributors to the development of unique sport culture.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) Understand the cultural and social characteristics of sport consumers in the American context,
(2) Gain knowledge about important concepts, ideas, and practices related to the psychology and behavior of sport consumer behavior,
(3) Explain how traditional and more recently developed theories can be applicable to sport consumer behavior.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The course will be taught through lectures, group discussions, and the final exam. Considering the current situation (e.g., the spread and severity of COVID -19), I will provide online Zoom lectures.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course requirements, course objectives, course strategy, textbook, topical course outline
2	Stadium consumption	Sport consumer behavior in the Big 4 leagues and college sport (reading material: chapter 1)
3	Sport consumption types	Sport consumer behavior and luxury suites, club seats, new media, and sponsorship (reading material: chapter 1)
4	Fan socialization	The definition, process, and outcomes of fan socialization in childhood and adolescence (reading material: chapter 3)
5	Socialization and connection to sport	Fan socialization among young and older adults, psychological connection to sports and teams (reading material: chapter 3)
6	Culture and subcultures	The definition and elements of culture and subculture and their influence on sport consumer behavior (reading material: chapter 5)
7	Needs, values, and goals	The concepts and theories of personal needs, values, and goals in sport consumer behavior (reading material: chapter 6)
8	Spectator motivation	The definition, measurement, and application of sport consumer motivation (reading material: chapter 7)
9	Observer motives and fan motives	Observer motives, fan motives, and “Fig Five” motives
10	Consumer perceptions	The definition, elements, and decision-making process of sport consumer perception (reading material: chapter 8)
11	Perceptions: interest and evaluation	Consumer interest, consumer evaluation, and brands as stimulus characteristics
12	Sport consumer decision-making models	The historical development and current models of consumer behavior theories in marketing (reading material: chapter 2)
13	Theories of sport consumer behavior	Various attitudinal models of consumer behavior and their applications to the sport context (reading material: chapter 2)
14	Course summary	Course summary, conclusion, feedback, and exam review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Every week, the students have to answer short questions and read the textbook in order to get more detailed information on important ideas, concepts, and theoretical explanations in each topic.（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします）

【テキスト（教科書）】
None.

【参考書】
Trail, G.T., & James, J.D. (2015). Sport Consumer Behavior. Seattle, WA: Sport Consumer Research Consultants LLC.
PDF copies of the textbook are available and uploaded in the material folder on the Learning Management System.

【成績評価の方法と基準】
The students will be assigned grades based on successful completion of the following class components:
Short answer questions (5 points X 10 weeks) 50 points
Final exam（multiple-choice questions） 50 points
Total 100 points

【学生の意見等からの気づき】
Every week, I try to provide as many industry examples as possible to clearly explain class topics. Also, I encourage students to engage in an in-class discussion because diverse students from different departments attend this course.

【学生が準備すべき機器他】
Microsoft Office, laptop computer

【その他の重要事項】
Students in the faculty of Sports and Health Studies MUST earn the credits of “Sport Business Theory 1 (スポーツビジネス論Ⅰ)” and “Sport Industry Theory (スポーツ産業論)” before they register this course.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) Understand the cultural and social characteristics of sport consumers in the American context,
(2) Gain knowledge about important concepts, ideas, and practices related to the psychology and behavior of sport consumer behavior,
(3) Explain how traditional and more recently developed theories can be applicable to sport consumer behavior.

HSS200IA

スポーツビジネス海外演習

吉田　政幸、伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・演習**
開講時期：**スプリングセッション**/Spring Session ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国のスポーツビジネスを現地で実際に学習することにより、履修者は（1）世界最高峰のスポーツビジネスの基礎を理論と実践から理解するとともに、（2）米国特有の多様な文化、民族に触れることで国際感覚を養う。

【到達目標】
受講者は事前学習および現地での演習を通じて、以下の目標を達成する：
（1）米国四大プロスポーツビジネスの特徴と成功の背景を理解し、説明できる。
（2）米国大学バスケットボールの仕組みと社会的位置づけを理解し、説明できる。
（3）英語でのスポーツビジネスの講義やスタジアム・ツアーに参加し、その内容を理解することができる。
（4）多民族、異文化が融合する米国社会の特徴とそこで暮らす人々の心理的・行動的特性を理解し、説明できる。
（5）自己主張と自己責任が問われる米国社会で、目標に向かって活躍する日本人の生き方を学ぶとともに、その考え方を自分のキャリア形成の参考にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は海外演習であり、新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢によって、授業の実施および方法を変更する可能性がある。
授業は（1）大学での講義と（2）現地での演習によって構成される。大学での講義は、米国四大プロスポーツと大学スポーツのビジネスとしての特徴について学習するとともに、現地での演習に向けたガイダンス（演習の目的、概要、スケジュール、注意事項）を実施し、渡航の準備を行う。現地での演習は、実務担当者による講演、スタジアム視察、試合観戦、参加者同士の共有会を主な内容とし、参加者はスポーツビジネスの基礎を理論と実践の両面から学習するとともに、英語によるコミュニケーション能力と国際人としての意識の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	演習の目的と意義を理解するとともに、主な学習内容と現地での演習の注意点を理解する。併せて、渡航に向けた準備（パスポートの取得、観光ビザの申請）に関する説明を受ける。パスポート未取得者は夏休み期間に取得する。
2 回	現地での演習に関する講義	現地での演習内容と場所について説明を受け、文化的、社会的、地理的特徴を理解する。
3 回	目標設定	演習に参加した理由と現地で学習したい内容を書き出し、他の参加者と情報を共有することで互いに意識を高め合う。
4 回	英語によるコミュニケーション	現地での講義、スタジアム視察、試合観戦などで事前に身に付けておくと便利な英語表現を学ぶ。併せて、米国社会におけるマナーやタブーなどについても理解する。
5 回	出発前オリエンテーション	観光ビザの登録を済ませるとともに、出発前の説明（出発当日の行動予定、空港での出国手続き、機内での過ごし方、現地での入国審査の注意点、現地での過ごし方）を受ける。
6 回	現地演習：ガイダンス	演習の目的と意義を改めて確認するとともに、各自の目標を明確にする。併せて、現地演習のスケジュール、内容、注意点について説明を受ける。
7 回	現地演習：講義	現地の社会的、文化的、経営的な特性を踏まえたスポーツマーケティングに関する講義を受け、フィールド演習において理論的な考察を行うための視点を養う。
8 回	現地演習：プロバスケットボール・アリーナ	プロバスケットボール・アリーナを視察し、ビジネスモデルを理解する。
9 回	現地演習：アメリカンフットボール・スタジアム	アメリカンフットボール・スタジアムを視察し、ビジネスモデルを理解する。
10 回	現地演習：大学スポーツ	NCAA（全米大学アスレチック協会）の大学バスケットボールの試合を視察し、大学スポーツの商業化とその社会的、文化的意味について理解を深める。
11 回	現地演習：ランニング・クリニック	市民マラソンの普及と発展を目的として活動しているランニングセンターを訪問し、その事業概要を学ぶとともに、実際にランニング・クリニックに参加し、ランニングが市民生活の一部となっている状況について理解する。
12 回	現地演習：プロバスケットボール観戦	プロバスケットボールのホームゲームを視察し、集客戦略、先進技術の活用方法、ファンの特性などについて学ぶ。
13 回	現地演習：プロアイスホッケー観戦	プロアイスホッケーのホームゲームを視察し、集客戦略、先進技術の活用方法、ファンの特性などについて学ぶ。
14 回	総括	事前に受講した講義と現地での視察を通して得た発見、知識、語学力、意識変化などについて自らまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
注意事項の多い海外演習ですので、課される準備学習を着実に行うとともに、事前の講義にはすべて出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習前の課題レポート（目標設定）： 10%
現地での英語による視察内容の理解度テスト： 10%
実習後の課題レポート（大学スポーツやプロスポーツに関する内容）： 80%
【レポートの評価基準】
100%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。
80%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。
60%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。
40%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら論じている。
20%：演習の内容を踏まえて論じている。

【学生の意見等からの気づき】
現地での演習プログラムは履修者の希望や興味関心に応えた内容となるよう調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
現地での演習ではランニング・クリニックに参加するプログラムがあります。運動できる格好を準備してください。

【その他の重要事項】
現地は日本と全く異なる法律、社会規範、民族性によって秩序づけられていますので、教員と現地スタッフの指示に従ってください。

【Outline (in English)】
This course is an international sport business seminar in the United States. The goals of this course are to learn (1) the theoretical and practical bases of professional and collegiate sport businesses and (2) understand cultural, ethnic, and racial diversity in the American society. This course includes on-campus lectures and practical activities in the U.S. Before each on-campus lecture, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on short report (10%), short exam (10%), and final report (80%). Upon successful completion of this course, students will be able to synthesize and apply theories, concepts, and practices related to American sport businesses and develop ideas that are useful, appropriate, and novel in Japan.

SOC100IA

トップアスリート論

増島　みどり

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピックイヤーとなった 2021 年、22 年、メダリストや世界記録保持者といったトップアスリートたちを中心に、彼らが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素にフォーカスし、自分たちで検証していく。

【到達目標】
トップアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。選手を、メディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
一流を超えた「超」一流選手たちの思考，技術，肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトップアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストに呼んで授業を行ってもらい、「トップアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トップアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トップアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトップアスリートを発表してもらう。
3	トップアスリートの「心技体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトップアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トップアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	２代に渡るトップアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、２代競技者を考える。
6	女性アスリートの台頭と活躍	日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた１９８０年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する２０００年後半までの歴史と進歩の詳細について。２０１６年W杯で連覇を狙うなでしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。
7	オンリーワン思考と技術	日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらう。
8	怪我とリハビリ、復帰への道程	一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。
9	オリンピックムーブメント	IOC（国際オリンピック委員会）、JOC（日本オリンピック委員会) の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020 年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。
10	トップアスリートを支える環境	不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。
11	トップアスリートのメンタルトレーニング	大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。
12	薬物問題とパフォーマンス	過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終らない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらう。
13	トップアスリート長寿の理由	近年、３０代、４０代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考える。
14	グループでの討論、発表など	グループでの討論、発表など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：新聞を読む。ニュースの中でもトップアスリートについて情報を持って授業に臨む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材は、トップアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50 %）、授業への取り組み（25 %）、レポート（25 %）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝サッカー元日本代表・名波浩氏
１０年＝バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏
１１年＝大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手
１２年＝陸上男子四百㍍障害世界陸上メダリスト・為末大選手
１３年＝パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手
１３年＝プロサッカーリーグ「Ｊリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏
１４年＝競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手
１５年＝成立学園コーチ・山郷のぞみ氏
１６年＝リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び４位・鈴木徹選手
１７年＝世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリスト・鈴木徹選手
１８年＝W杯取材のため、なし。
１９年＝電動車椅子サッカー日本代表・永岡真理選手
２０年＝パリ世界陸上銅メダリスト・末續慎吾選手
２１年＝東京五輪・パラリンピック旗手・佐藤真海選手

【Outline (in English)】
【Course outline】
We learn the physical of top athletes, technique, strength of mental. In addition, We consider it what kind of factor they have other than these.
【Learning Objectives】
Through the approach to the competition of the top athlete, we can learn philosophy not only a technique, physical strength .
It becomes the hint to live.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to read a newspaper, the Internet article well
and are interested in sports and athletes.
【Grading Criteria /Policy】
1 Class attendance（50%）
2 Term-end report(25%)
3 Approach to a class(25%)

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅱ

平野　裕一

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
幼児から中高年までのライフステージごとのトレーニング実施者、および女性や競技者といった一般成人男性とは異なるトレーニング実施者のトレーニング内容・方法を学ぶ。この理解によりトレーニング実施者の多様性を知り、トレーニング指導に際してトレーニングを効率的、効果的に進められるようにする。一方で自分の身体についてトレーニング内容・方法、その効果の測定方法を計画し、8 週間のトレーニングを実践する。それによって自身のからだやこころの変容を知るとともに、トレーニング効果の個別性を学ぶ。

【到達目標】
・ライフステージおよび体力レベルごとにトレーニング実施者に応じたトレーニングの内容、方法を理解する。
・自身の身体についての測定、トレーニングのデータを 8 週間継続的に取得・分析すること
を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
幼児～思春期前児童、思春期、中高年者、女性、ジュニア競技者、シニア競技者とトレーニング実施者ごとの心身の特徴およびトレーニング内容・方法を紹介する。一方で自身の身体についてのトレーニングとその効果を測定する方法を計画し、８週間にわたって各自実施してレポートを学期末に提出する。トレーニング内容および測定結果は毎週提出させてその進捗をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・授業で扱うトレーニング実施者の紹介 ・トレーニング計画、測定法の提示
2	幼児～思春期前の児童のスキルトレーニング	・形態の変化 ・スキルトレーニング ・トレーニング計画、測定法の考案
3	幼児～思春期前の児童の筋力トレーニング	・子どもの筋力トレーニング ・トレーニング計画、測定法の考案
4	思春期の全身持久力と筋持久力トレーニング	・思春期の特徴 ・全身持久力および筋持久力トレーニングの効果
5	中高年者の有酸素性および無酸素性のトレーニング	・加齢にともなう身体機能の変化 ・中高年者の有酸素性、無酸素性のトレーニング
6	中高年者のトレーニングとこころの関係	・中高年者の” こころ” が運動に及ぼす影響 ・運動が” こころ” に及ぼす影響
7	女性の身体組成および有酸素性、無酸素性、神経系のトレーニング	・体格、身体組成の性差、 ・女性の有酸素性、無酸素性能力のトレーニング、神経系のトレーニング
8	女性の性周期とトレーニング	・女性ならではの特徴を考えたトレーニング
9	ジュニア競技者の追跡調査とトレーニング	・競技者育成プログラム ・ジュニアトップ競技者の追跡調査の概要およびトレーニングの提言
10	ジュニア競技者の最近のトレーニング	・ジュニア競技者の最近のトレーニング（陸上競技、スピードスケート、テニス）
11	サッカージュニア競技者の体力測定からのトレーニング提言	・ジュニア競技者（サッカー選手）の体力測定とトレーニング
12	マラソン選手のトレーニング動向と HIIT	・マラソン選手のトレーニングの変遷 ・高強度間欠的運動トレーニングの効果
13	スキージャンプ選手のトレーニングと腱のトレーニング	・スキージャンプ選手のトレーニング ・反動動作の特徴 ・腱のトレーニング
14	サッカー選手の血中乳酸濃度を活用したトレーニング	・サッカー選手のトレーニング ・血中乳酸濃度を活用したトレーニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内あるいは外の時間に計画したトレーニングを８週間実践し、測定およびトレーニング実践を毎週報告する。期末に考察を含めたレポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（授業の各回で資料を作成して学習支援システムの「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングの科学的基礎」宮下充正、ブックハウスＨＤ

【成績評価の方法と基準】
トレーニング実践の計画書１０％、測定、トレーニングの毎週の報告２７％、期末レポート１０％、期末試験５３％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各自のトレーニングを動機づけられるようなデータ、出来事を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
トレーニング効果をグラフ化するためのソフトウエア（エクセルなど）。
トレーニング実践や測定で使う用具、機器など。

【その他の重要事項】
自己責任で実施できるトレーニング、測定項目を選択すること。
トレーニングを実践できない者に対しては相談に応じる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class deals with the physical and skill training on the female, the subjects from infant to middle and old age, and the junior and senior athletes. Training variables on each subject are compared from those on the healthy male subject. In parallel, 8 weeks physical training program is planned and implemented individually during the semester.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand the training procedures and contents on the various peoples, and to realize the individual differences of training effects through the self physical training.
【Learning activities outside of classroom】
Students plan self physical training program for 8 weeks and carry it out.
【Grading Criteria/Policy】
Plan of physical training (10%), weekly report of physical measurement and training practice (27%), term-end report of physical training (10%), and term-end exam (53%)

HSS100IA

スポーツ運動学

工藤　裕仁

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し，運動および動きの評価の基礎を学習することによって，実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ．
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する．

【到達目標】
運動の質的評価の方法について，その流れ，手続き，注意点の概要を理解し，学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し，動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する．学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身体運動を構成する要素について概説し，身体構造と発達，身体構造と機能，動きのとらえ方（主観と客観）を理解し，その評価方法とストラテジーを学ぶ．運動指導のための評価として，モルフォロギーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り，その概要を学ぶ．またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態，種類，原理，局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロギーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロギー，バイオメカニクス的評価に基づく運動指導 走運動，投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】
試験　100%

【学生の意見等からの気づき】
具体例の提示を出来るだけ多くとり，理解を助ける．
web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise. To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement. It is desirable to review the previous lecture and prepare for the next lecture.
Grading criteria are exams(100%).

HSS200IA

スポーツコーチング論Ｂ

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】
年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・ 科学の活用を学ぶ。コーチや教育者として対象者に対する責任を理解する。技術・戦術的、又はフィジカル指導の前転になる心理的な様相の必要性を学び、現場でも活かせるツールを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング学概論、コーチングとは	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	様々なコーチング現場④	コーチングの原理・哲学
7	様々なコーチング現場⑤	指導の目的と設定
8	様々なコーチング現場⑥	コーチングスタイル
9	様々なコーチング現場⑦	選手とのコミュニケーション
10	様々なコーチング現場⑧	勝つチーム文化の構築
11	様々なコーチング現場⑨	選手のモチベーション向上
12	様々なコーチング現場⑩	ゲーム形式のコーチング方法
13	コーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外と国内の取組み
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なコーチング現場における現状の準備学習、及びグループで課題の発表を作成することがが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし (講義形式の回には資料を作成して提示する)。
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
Martens, R. (2012). Successful coaching (4th ed.). Champaign, IL: Human Kinetics.
Bloom, B. (Ed.). (1985). Developing talent in young people. New York: Ballantine.
Burton, D., & Raedeke, T.D. (2008). Sport psychology for coaches.
Côté, J., Young, B., North, J., & Duffy, P. (2007). Towards a definition of excellence in sport coaching. International Journal of Coaching Science, 1(1), 3-17.

【成績評価の方法と基準】
グループによる課題提出、及び発表　2 回（30 %） 14 回目の授業中に試験を行う（50 %）
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline (in English)】
Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology. The aim is to understand the importance of the psychological and pedagogical aspects in coaching.
The topics will cover the following areas:
- coaching philosophy and its importance
- communication
- motivation
- various coaching and teaching techniques

HSS200IA

スポーツコーチング論Ⅱ

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】
年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・ 科学の活用を学ぶ。コーチや教育者として対象者に対する責任を理解する。技術・戦術的、又はフィジカル指導の前転になる心理的な様相の必要性を学び、現場でも活かせるツールを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング学概論、コーチングとは	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	様々なコーチング現場④	コーチングの原理・哲学
7	様々なコーチング現場⑤	指導の目的と設定
8	様々なコーチング現場⑥	コーチングスタイル
9	様々なコーチング現場⑦	選手とのコミュニケーション
10	様々なコーチング現場⑧	勝つチーム文化の構築
11	様々なコーチング現場⑨	選手のモチベーション向上
12	様々なコーチング現場⑩	ゲーム形式のコーチング方法
13	コーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外と国内の取組み
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なコーチング現場における現状の準備学習、及びグループで課題の発表を作成することがが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし (講義形式の回には資料を作成して提示する)。
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
Martens, R. (2012). Successful coaching (4th ed.). Champaign, IL: Human Kinetics.
Bloom, B. (Ed.). (1985). Developing talent in young people. New York: Ballantine.
Burton, D., & Raedeke, T.D. (2008). Sport psychology for coaches.
Côté, J., Young, B., North, J., & Duffy, P. (2007). Towards a definition of excellence in sport coaching. International Journal of Coaching Science, 1(1), 3-17.

【成績評価の方法と基準】
グループによる課題提出、及び発表　2 回（30 %） 14 回目の授業中に試験を行う（50 %）
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline (in English)】
Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology. The aim is to understand the importance of the psychological and pedagogical aspects in coaching.
The topics will cover the following areas:
- coaching philosophy and its importance
- communication
- motivation
- various coaching and teaching techniques

HSS200IA

スポーツ戦略・戦術論

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツで戦略・戦術を立てるためには、そのスポーツのパフォーマンスを分析する必要がある。パフォーマンスには意欲・動機づけといった心理的要因、それに応じたエネルギーの発揮といった生理的要因、そしてエネルギーをパフォーマンスに変換していく技術的要因が関与するが、この授業ではこれらの要因によって表出されたパフォーマンス自体を分析するために必要な知識を理解し、分析するための技法を習得する。

【到達目標】
スポーツのパフォーマンスを分析する意義と目的、パフォーマンスを分析する方法を理解し、いくつかの方法については技法までも習得することによって、スポーツにおける戦略・戦術を立てる際にそれらを活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は前後半に分ける。前半では、映像撮影とＧＰＳデータ収集およびそれらの編集を紹介する。その中で、いくつかの技法についてはそれらを用いて実際にデータの収集・分析を試みてもらう。後半では、球技における量的分析と質的分析について学び、ゲーム分析を試みてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2	スポーツパフォーマンス分析の意義と目的	・これまで実践されてきた例を紹介しながら意義と目的を説く ・量的分析と質的分析の整理 ・記述的分析と自動分析の整理
3	スポーツ映像データの収集①	ノーマル撮影によって映像データを収集する際の知識を説き、実際にデータ収集を試みる
4	スポーツ映像データの収集②	ハイスピード撮影によって映像データを収集する際の知識を説く
5	スポーツ映像データの収集③	映像データ編集ソフトウエアの原理と活用を紹介する
6	ＧＰＳによるデータの収集	ＧＰＳの原理を説き、スポーツの中でのデータ収集例を紹介する
7	GPS 機能がついてない機器に移動体・リカバリー解析	練習、試合や日常生活における負荷、又は回復の測定方法の紹介
8	球技におけるデータを得る前に	スポーツ競技の背景を考え、どのような視点でデータを取得するのかを学ぶ
9	球技における量的分析と質的分析①	球技の分析で用いられている、量的な分析と質的な分析について学ぶ
10	球技における量的分析と質的分析②	自身が選んだスポーツ競技を用いて、そのスポーツ競技の背景と明らかにしたい内容についての考慮して、量的分析指標と質的分析指標を作成する
11	球技における量的分析と質的分析③	前回講義で作成した量的・質的分析指標を用いて、実際にゲーム分析を行い、ゲーム分析手法を学ぶ　1
12	球技における量的分析と質的分析④	前回行った分析について発表する　1
13	球技における量的分析と質的分析⑤	自分で作成した量的・質的分析指標を用いて、前回と違う方法、又はソフトを使用し、実際にゲーム分析を行う　2
14	まとめと発表	前回行った分析について発表する　2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で収集したデータの分析を試みる。
授業で出された課題について調べ、レポートを提出する場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
・「スポーツパフォーマンス分析入門」ピーター・オドノヒュー、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
レポート 5 回（50 %） 14 回目の授業中にテストを行う （50 %）
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン
データ分析に用いるソフトウエア（エクセルなど）
映像を取り込める携帯電話

【Outline (in English)】
In order to formulate strategies and tactics in sports, it is necessary to analyze the performance of the sport.　Performance involves psychological factors such as motivation and drive, physiological factors such as energy expenditure, and technical factors such as the conversion of energy into performance.　In this class, students will learn the knowledge necessary to analyze the performance itself as expressed by these factors.
The main topics will be the followings:
- analysis for individual sports
- analysis for team/invasion sports
- analysis for injury prevention in team sports
- gps tracking
- video analysis
- understanding game models
-

PSY200IA

スポーツ心理学 B

島本　好平

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はアスリートに対する心理的援助活動の理論と応用について学習することを目的とする。具体的には競技パフォーマンスを発揮させるために必要な自己理解と心理的スキルの基礎を学び，体験を通してそれらのスキルを獲得するための方法を学ぶ。

【到達目標】
最終的には受講生が各心理的スキルを身につけ，そのスキルを実践場面や生活全般の中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式にて授業を展開する。毎回授業後にリアクションペーパーの提出をもって授業出席とカウントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。メンタルトレーニングの意義とその役割について解説する。
2	自己理解が確かな成長を促す	成長を望むなら自己理解は必須であることを理解する。自己理解を促すグループワークを行う。
3	自己理解を促す他者理解	ペア活動によりある他者と密にコミュニケーションを取ること他者理解を深め、それをさらなる自己理解へとつなげる。
4	キャリア形成に及ぼす自己理解の重要性	本学部卒業生に登壇してもらい、自己理解が卒業後のキャリア形成に及ぼす影響について講演してもらう。
5	「メンタルが強い」が意味するところを知る	「メンタルが強い」という言葉が意味するところを明確に確認し、メンタル強化に向けた具体的な目標設定につなげる。
6	自らの心理的な競技能力への理解を深める	「心理的競技能力診断検査」に実際に回答することで、自己の心理的な競技能力への理解を深める。
7	心身相関の考え方をもとに自己コントロール能力を身につける	その時の感情に流されるのではなく、逆に感情をコントロールする手法を心身相関の考え方から学ぶ。
8	ネガティブ感情や思考のコントロール	自分の中でのネガティブワード（緊張、不安、失敗）の定義を書き換え、負の感情をより適切にマネジメントできるようにする。
9	イメージ技法の実施及びその評価	イメージトレーニングの科学的根拠を解説し，イメージの種類，イメージトレーニングの手順・展開方法を説明する。体験を通してイメージトレーニングの基礎を学ぶ。
10	注意集中技法の実施及びその評価	「注意」や「気持ち」の切り替え等に活用される各種心理技法を紹介し，その実践方法と評価法について学ぶ。
11	チームのまとまりにつながる個々のメンバーの行動とは	チームのまとまり（集団凝集性）に影響を及ぼす、個々のメンバーの行動（組織市民行動）について解説します。
12	人間力の競技パフォーマンスへの影響	メンタルや競技スキル以外の要素である人間力が、パフォーマンスの発揮に及ぼす影響をエビデンスにもとづき解説する。
13	人間力が引退後のセカンドキャリアに及ぼす影響	現役時のスポーツキャリアが、引退後のセカンドキャリアやアスリートの生涯に及ぼす影響を人間力をもとに考察します。
14	まとめ	これまで行った授業の総復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回の授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それを基に，興味のあるトピックについてさらに知識を深めていってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布する予定です。

【参考書】
・「スポーツメンタルトレーニング教本　三訂版」（大修館書店，著：日本スポーツ心理学会）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点 60 %，最終レポート： 40 %，※その他にも加点要素あり。
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出された受講生からの質問、意見、感想については、翌週の授業序盤に前回の復習も兼ねて可能な限りフィードバックします。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによって，授業計画に変更が生じることがあります。また，パフォーマンス発揮につながる心理的スキルに関する近年の研究やトピックについても随時提示していく予定です。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn the theory and application of psychological support activities for athletes. Specifically, learn the basics of psychological skills for high athletic performance and learn how to improve these skills through experience.

HSS200IA

スポーツ戦術論（サッカー）

小井土　正亮

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技力向上ならびに普及、育成を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】
サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかせる分析方法、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
サッカーに関する戦術を講義・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第 2 回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第 3 回	サッカーとは何か①	サッカーの歴史について学ぶ
第 4 回	サッカーとは何か②	サッカーの競技特性について学ぶ
第 5 回	サッカーにおける戦術とは何か①	サッカーにおける戦術の考えかたを理解する
第 6 回	サッカーにおける戦術とは何か②	サッカーにおける戦術の考えかたの理解を深める
第 7 回	サッカーにおける個人・グループ戦術（攻撃）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち攻撃について理解する
第 8 回	サッカーにおける個人・グループ戦術（守備）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち守備について理解する
第 9 回	サッカーにおけるチーム戦術①	サッカーにおけるチーム戦術について理解する
第 10 回	サッカーにおけるチーム戦術②	サッカーにおけるチーム戦術について理解を深める
第 11 回	サッカー戦術の実践現場・指導現場での活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（チームづくり）を学ぶ
第 12 回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（トレーニング）を学ぶ
第 13 回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集、ミーティング）を学ぶ
第 14 回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容に関するレポート 80 %、学期末レポートまたはテスト 20 % で評価する
ただし、出席（毎回授業のレポートの提出）が 7 割以上者を成績評価対象者とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる開講のため情報機器の準備は必須である

【Outline (in English)】
The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.
【到達目標（Learning Objectives）】
Understand various tactics in soccer from various angles, and also learn analysis methods and teaching methods that can be used as athletes and instructors.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is desirable to collect information on soccer tactics, including different levels, ages, genders, and domestic and international soccer situations. The standard preparatory study and review time for this class is one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Evaluate with 80% of each lesson content report, end-of-term report or test 20%
However, those who attend 70% or more (submit a class report each time) are eligible for grade evaluation.

HSS200IA

スポーツ戦術論（ハンドボール）

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハンドボール競技の歴史から始め、現代のハンドボール全体的な発展を学ぶ。戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。また、ハンドボールの様々な局面について具体的に理解する。

【到達目標】
ハンドボールの歴史や戦術を理解しながら、他球技の考え方、又はルール変更の影響も理解する。戦術を理解した上で、ゲーム分析を学ぶ。ハンドボール競技における基礎戦術について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。コートにて実践的な学習と映像を利用し、グループ・個人による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ハンドボール競技の歴史	映像を利用して、ハンドボールの歴史を紹介する
2	コーチングフィロソフィー	様々なコーチング哲学の紹介
3	ゲームの局面構造	球技の試合における学習
4	オフェンスにおける技術と戦術の構造	オフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
5	ディフェンスにおける技術と戦術の構造	ディフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
6	技術・戦術の発達	技術と戦術の関係性を学習する
7	ルールの変更と技術・戦術の発達との関係	ルール変更の影響について分析し、理解する
8	個人戦術力 (技術力と戦術的思考力) の構造	個人に求められているオフェンスとディフェンス技術と戦術
9	グループ戦術とチーム戦術の構造	2 − 3 人の協力によるグループプレー
10	セットオフェンスにおける技術力と戦術力の養成	セットオフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
11	セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成	ディフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
12	速攻における技術力と戦術力の養成	速攻における典型的なオフェンスを紹介する
13	ゲームパフォーマンスの分析と評価	ゲーム分析における基本考え方を紹介する
14	まとめ	ハンドボールの試合を視察しながら戦術におけるディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で出された課題について調べ、レポートを提出する場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
日本ハンドボール協会 編 『ハンドボール指導教本』 大修館書店
必要であればその際に資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業の総合評価 40 %　テスト 60 %
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます

【学生が準備すべき機器他】
① リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境
② ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター（スマートフォンは不可の場合もある）
ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること

【Outline (in English)】
The course will introduce handball's development through history, and the tactical elements in detail. Theoretical and practical lessons are planned. Students will be able to recognize and explain simple tactical movements in a handball match.
Students will obtain knowledge on the basic tactical means and strategies in handball, what is applicable to other invasion sports as well. Also, there is going to be an introduction to simple video analysis in order to recognize and explain individual and group tactical elements. Some practical lessons are going to be organized, for a better understanding through visualization and personal experience.

【その他の特記事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

HSS100IA

ダンス実習

河鰭　真世

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ダンスの特性を理解した上で、基礎的な技術を習得し、身体で表現することの楽しさを体感する。主に学習指導要領に基づき「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」についての技能や知識を深めると共に、それらを活用し、自らの創作課題を解決する能力を身に付ける。身体表現を通じて仲間と共感し、融合することを重視し、ダンスに親しむ資質や能力を育てる。

【到達目標】
1）ダンスの特性を理解し、基礎的な技術を習得することができる。
2）自身が表現したいイメージを具現化し、他者へ伝達する能力を身につけられる。
3）他者の作品やさまざまなダンスジャンルの作品を観賞することで表現の理解を深められる。
4）集団的活動や身体表現を通じてコミュニケーション能力を育成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実技授業を中心に、講義等も取り入れながら授業を進めていく。授業の前半は、前回の復習や基本的な技術の習得、動きの説明、後半は「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」を行い、作品についてのグループディスカッションやレポート作成を行う。
【重要】
基本的に対面にて授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスによる影響により授業内容の変更を行う可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業科目の目標と進め方について説明を行い、身体表現を行うための身体を準備する。
2	創作ダンス①　運動課題	ダンス特性と種類、専門的な用語の説明を行い、基本的な下肢の動作技術習得（ステップ）を中心に行う。
3	創作ダンス②　運動課題	基本的なステップ技術に上肢の動作を加え、上肢と下肢の動きの連動などを中心に行う。
4	創作ダンス③　運動課題	基本的な技術に加え、跳躍や移動動作を中心に行う。
5	フォークダンス①	海外のフォークダンスの軽快なステップや隊形変化を中心に行い、他国の伝統文化を理解する。
6	フォークダンス②	代表的な日本の民踊を中心に行い、自国の伝統文化を理解する。
7	創作ダンス③ イメージ課題	提示したイメージを具現化し、身体表現を行う。
8	創作ダンス④ 群、構成課題	空間構成の理論や動きの実践（直線移動と曲線移動）を用いて技能の発展を行う。
9	現代的なリズムのダンス①	基本的なステップやリズムの習得を目指す。
10	現代的なリズムのダンス②	変化のあるリズムの特徴を捉え、動きを組み合わせる。
11	ダンス作品鑑賞	日本や海外のダンスなど様々なダンスジャンルを観賞する。観賞作品を通じて表現の解釈や技能向上を目指す。
12	作品発表に向けた創作	作品創作に向けて、基礎技術を生かした動きの発展（上肢と下肢の連動）を行い、総合的な技術練習を行う。
13	作品発表	授業を通して得た運動課題やイメージ課題、構成を組み込み創作作品を作り上げ、発表する。参加者はそれぞれの踊りを観賞して評価を行う。
14	まとめ	本実習のまとめを行い、ダンスの重要性についてディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に要求しないが、必要に応じてノートの作成を指示する場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じて担当教員がテキストを配布する。

【参考書】
・マヤ・レックス (2000) エレメンタリーダンス-基礎から表現の動きの指導-. 大修館書店
・中村恭子, 宮本乙女, 中村なおみ 編著 (2011) 明日からトライ！ ダンス授業. 大修館書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
・ノート等課題提出物（30%）：定期的に提出するノートやレポートの内容を評価する。
・実技（30%）：自身の身体や舞踊文化、音楽に対する理解を深めながら踊ることができているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
基本的にダンスを実践する授業ですので、動きやすく踊ることに適した服装で受講してください。ただし数回ほど座学形式の授業を実施しますが、その際の服装は自由です。授業全 14 回を通して毎回必ず筆記用具を持参してください。また基礎的な技術習得のために動作の説明をノートに記載してもいます。そのため A4 のノートを一部持参してください。その他の注意事項については初回の授業にて説明します。

【その他の重要事項】
ダンス経験の無い学生でも、自分を表現することに対して苦手意識を持っている学生方、誰でも大歓迎です。参加者全員でコミュニケーションをとりながら、楽しくダンスを学びましょう。
なお本実習は定員が決まっていますので、受講希望者が多い場合は抽選となります。

【Outline (in English)】
Understand the characteristics of dance, acquire basic skills, and experience the joy of physical expression.　To deepen skills and knowledge of "Creative dance," "Folk dance," and "Modern rhythm dance," mainly based on the Courses of Study, and to acquire the ability to utilize these skills and knowledge to solve their own creative problems.　Emphasize empathy and integration with peers through physical expression, and develop the qualities and abilities to become familiar with dance.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川　洋子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
旧科目名：**舞踊論** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント〜ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
始めにリズムダンス・表現活動についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
大人数での創作活動は、新型コロナウィルスの感染状況を見つつ決定する。行なえない場合は、過去の作品を見ながら作品の作り方や評価方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスを行う意義について学ぶ。
2	リズムダンス	始めに基本的なステップを練習し、それを基に、ダンスが苦手な生徒にもできる創作方法を知る。ダンスが苦手な生徒にも指導できる方法を学ぶ。
3	表現活動のための身体の使い方	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方や動きのバリエーションを学ぶ。
4	表現活動における振り付け方法　①	日常的な身近な題材（言葉）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
5	表現活動における振り付け方法②	表現としての動きにバリエーションを加え更に動きの幅を広げる。緩急・スピードの変化など。
6	表現活動における振り付け方法③	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
7	表現活動における振り付け方法④	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
8	学習指導案の作成①	指導案作成について説明。作成する為に必要なことを知る。 2 ~ 3 名のグループに分かれ、指導案を作成。
9	学習指導案の作成②	作成した指導案について、具体的な内容を話し合う。説明用の教材を考え、音楽を決め、見本となる教員の動きを作り練習する。
10	模擬授業 中学 1 年生〜2 年生	作成した指導案を基に中学 1 年生または 2 年生の模擬授業を実施。終了後、テーマの適性や、生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点を話し合う。
11	模擬授業 中学 3 年生〜高校 1 年生	作成した指導案を基に中学 3 年または高校 1 年生の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
12	創作活動 1	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	創作活動 2	引き続き振り付けを考えると共に、グループ内で振り付けを共有。最後まで通せるようにする。
14	創作発表 授業のまとめ	創作作品を発表。 その後ビデオにて客観的に自身の作品を見ることで、創作作品の鑑賞・評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：事前に送った資料、学習指導要領「ダンス」を読んでおく。
第 2 回目以降も、事前に送った資料を読んで概要を知る。
また、毎回の授業内容をまとめ、疑問点・わからない言葉の意味などを調べ理解を深める。毎時間レポートを提出する。
本授業の準備・復習時間は、各 0.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。授業前日までに、授業支援システムにて資料を送ります。

【参考書】
① https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1336654.htm
『表現運動系及びダンス指導の手引き』　文部科学省
② https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf
中学校学習指導要領　(平成 29 年告示)　保健体育編
③ https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説　保健体育偏　体育偏

【成績評価の方法と基準】
ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。
・平常点　授業に取り組む姿勢（出席回数を含む）50 %
・レポート（授業の理解度）30 %
・技術点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さから活動可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
模擬授業については、希望者または教師から担当者を指名し行うこととします。また、指導案作成は、様々な考え方を学ぶためにグループワークとします。

【学生が準備すべき機器他】
資料を学習支援システムにて送るので、パソコンまたはスマートフォンが必要です。

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of seif expression and commiunication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川　洋子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4
旧科目名：**舞踊論** [2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント〜ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
始めにリズムダンス・表現活動についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
大人数での創作活動は、新型コロナウィルスの感染状況を見つつ決定する。行なえない場合は、過去の作品を見ながら作品の作り方や評価方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスを行う意義について学ぶ。
2	リズムダンス	始めに基本的なステップを練習し、それを基に、ダンスが苦手な生徒にもできる創作方法を知る。ダンスが苦手な生徒にも指導できる方法を学ぶ。
3	表現活動のための身体の使い方	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方や動きのバリエーションを学ぶ。
4	表現活動における振り付け方法　①	日常的な身近な題材（言葉）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
5	表現活動における振り付け方法②	表現としての動きにバリエーションを加え更に動きの幅を広げる。緩急・スピードの変化など。
6	表現活動における振り付け方法③	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
7	表現活動における振り付け方法④	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
8	学習指導案の作成①	指導案作成について説明。作成する為に必要なことを知る。 2 ~ 3 名のグループに分かれ、指導案を作成。
9	学習指導案の作成②	作成した指導案について、具体的な内容を話し合う。説明用の教材を考え、音楽を決め、見本となる教員の動きを作り練習する。
10	模擬授業 中学 1 年生〜2 年生	作成した指導案を基に中学 1 年生または 2 年生の模擬授業を実施。終了後、テーマの適性や、生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点を話し合う。
11	模擬授業 中学 3 年生〜高校 1 年生	作成した指導案を基に中学 3 年または高校 1 年生の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
12	創作活動 1	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	創作活動 2	引き続き振り付けを考えると共に、グループ内で振り付けを共有。最後まで通せるようにする。
14	創作発表 授業のまとめ	創作作品を発表。 その後ビデオにて客観的に自身の作品を見ることで、創作作品の鑑賞・評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：事前に送った資料、学習指導要領「ダンス」を読んでおく。
第 2 回目以降も、事前に送った資料を読んで概要を知る。
また、毎回の授業内容をまとめ、疑問点・わからない言葉の意味などを調べ理解を深める。毎時間レポートを提出する。
本授業の準備・復習時間は、各 0.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。授業前日までに、授業支援システムにて資料を送ります。

【参考書】
① https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1336654.htm
『表現運動系及びダンス指導の手引き』　文部科学省
② https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf
中学校学習指導要領　(平成 29 年告示)　保健体育編
③ https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説　保健体育偏　体育偏

【成績評価の方法と基準】
ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。
・平常点　授業に取り組む姿勢（出席回数を含む）50 %
・レポート（授業の理解度）30 %
・技術点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さから活動可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
模擬授業については、希望者または教師から担当者を指名し行うこととします。また、指導案作成は、様々な考え方を学ぶためにグループワークとします。

【学生が準備すべき機器他】
資料を学習支援システムにて送るので、パソコンまたはスマートフォンが必要です。

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of seif expression and commiunication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

剣道実習

小田　佳子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道では、まずその歴史や特性に触れ礼法を学び、基本的動作や技を修得し、試合・審判ができるようになる。
剣道指導を行うための基本的な知識・技能を習得する。
「剣道実習」では、前半で「木刀による基本技稽古法」による技能習得を行い、後半で剣道具を装着した剣道実技を実施し、技能習得による示範ができるように実践的指導力を培う。

【到達目標】
①「武道」としての剣道の歴史や特性に触れ、基本動作と基本的な技能を習得する。
②剣道を指導する上での、基本的な知識・技能を習得する。
③剣道の指導法・審判法等について研究・研鑽を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は春学期からとする。
①相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。
②伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解し、これらの基本的な技能を習得する。
②授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化と剣道の歴史 ・授業のすすめ方 ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構え
2	基本動作	・防具の着け方、片づけ方（小手・胴・垂れの着用） ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り・左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本技稽古法① 正面・小手・胴・突き	・基本動作の反復 ・素振り（一挙動・跳躍素振り） ・対人動作での竹刀打ち込み練習
4	基本技稽古法② 正面・小手・胴・突き	・基本指導法①の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴） 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴）
5	基本技稽古法③ 連続技（二・三段の技）	・基本技稽古①-②の反復 ・連続技 ・打ち込み稽古
6	基本技稽古法④ 払い技・引き技	・基本技稽古①-③の反復 ・引き技 ・打ち込み稽古
7	基本技稽古法⑤ 引き技・抜き技	・基本技稽古①-④の反復 ・引き技・抜き技 ・打ちこみ稽古 ・互角稽古
8	基本技稽古法⑥ 出ばな技	・基本技稽古①-⑤の反復 ・引き技・抜き技 ・出ばな技 ・互角稽古
9	基本技稽古法⑦ 返し技	・基本技稽古①-⑥の反復 ・返し技 ・抜き技・出ばな技 ・互角稽古
10	基本技稽古法⑧ （総合演武）	・基本技稽古①-⑦の反復 ・互角稽古 ・簡易試合（総合演武）
11	基本指導法 （実技①）	・基本指導法の反復 ・総合演習 1（仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古）
12	基本指導法 （実技②）	・総合演習 1 基本稽古の反復 ・試合・審判法①
13	基本指導法 （実技③）	・総合演習 2 ・基本指導法の反復 ・試合・審判法②
14	基本技稽古法 基本指導法 （評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・技能テストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を確認する。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度と貢献度
②模擬授業評価
③基本技・技能評価
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の武道的特性上、実技は継続して学ぶことが重要です。
・竹刀や剣道着、剣道具は大学のモノを使用します。
・手ぬぐい（面の下につける）と面マスク（感染予防対策）は各自準備して下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）、面シールド（感染予防対策）は学校からの支給となります。

【Outline (in English)】
kendo is one area of BUDO, martial ways in Japan, students can learn its history and characteristics at first, then learn the basic movements and techniques, and be able to have matches and referees.
1) To learn kendo, which acquire the basic knowledge and skills for conducting kendo classes. Basic practical kendo movements can be learned at first.
2)To develop one's educational ability through mock lessons of Kendo at the end.

HSS100IA

剣道指導論実習

小田　佳子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
備考（履修条件等）：※ 2013〜2017 年度入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道では、まずその歴史や特性に触れ礼法を学び、基本的動作や技を修得し、試合・審判ができるようになる。
剣道指導を行うための基本的な知識・技能を習得する。
「剣道実習」では、前半で「木刀による基本技稽古法」による技能習得を行い、後半で剣道具を装着した剣道実技を実施し、技能習得による示範ができるように実践的指導力を培う。

【到達目標】
①「武道」としての剣道の歴史や特性に触れ、基本動作と基本的な技能を習得する。
②剣道を指導する上での、基本的な知識・技能を習得する。
③剣道の指導法・審判法等について研究・研鑽を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は春学期からとする。
①相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。
②伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解し、これらの基本的な技能を習得する。
②授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化と剣道の歴史 ・授業のすすめ方 ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構え
2	基本動作	・防具の着け方、片づけ方（小手・胴・垂れの着用） ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り・左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本技稽古法① 正面・小手・胴・突き	・基本動作の反復 ・素振り（一挙動・跳躍素振り） ・対人動作での竹刀打ち込み練習
4	基本技稽古法② 正面・小手・胴・突き	・基本指導法①の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴） 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴）
5	基本技稽古法③ 連続技（二・三段の技）	・基本技稽古①-②の反復 ・連続技 ・打ち込み稽古
6	基本技稽古法④ 払い技・引き技	・基本技稽古①-③の反復 ・引き技 ・打ち込み稽古
7	基本技稽古法⑤ 引き技・抜き技	・基本技稽古①-④の反復 ・引き技・抜き技 ・打ちこみ稽古 ・互角稽古
8	基本技稽古法⑥ 出ばな技	・基本技稽古①-⑤の反復 ・引き技・抜き技 ・出ばな技 ・互角稽古
9	基本技稽古法⑦ 返し技	・基本技稽古①-⑥の反復 ・返し技 ・抜き技・出ばな技 ・互角稽古
10	基本技稽古法⑧ （総合演武）	・基本技稽古①-⑦の反復 ・互角稽古 ・簡易試合（総合演武）
11	基本指導法 （実技①）	・基本指導法の反復 ・総合演習 1（仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古）
12	基本指導法 （実技②）	・総合演習 1 基本稽古の反復 ・試合・審判法①
13	基本指導法 （実技③）	・総合演習 2 ・基本指導法の反復 ・試合・審判法②
14	基本技稽古法 基本指導法 （評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・技能テストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を確認する。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度と貢献度
②模擬授業評価
③基本技・技能評価
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の武道的特性上、実技は継続して学ぶことが重要です。
・竹刀や剣道着、剣道具は大学のモノを使用します。
・手ぬぐい（面の下につける）と面マスク（感染予防対策）は各自準備して下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）、面シールド（感染予防対策）は学校からの支給となります。

【Outline (in English)】
kendo is one area of BUDO, martial ways in Japan, students can learn its history and characteristics at first, then learn the basic movements and techniques, and be able to have matches and referees.
1) To learn kendo, which acquire the basic knowledge and skills for conducting kendo classes. Basic practical kendo movements can be learned at first.
2)To develop one's educational ability through mock lessons of Kendo at the end.

HSS100IA

剣道指導論演習

小田　佳子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にして資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるよう展開する。
毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ （模擬授業１）	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
9	基本指導法⑧ （模擬授業２）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ （模擬授業３）	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
11	基本指導法⑩ （模擬授業４）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
12	基本指導法⑪ （模擬授業５）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
13	基本指導法⑫ （模擬授業６）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業６ ・抜き技 試合・審判法① 3 名で構成するグループにより「審判」を行う。 審判法について省察
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第 4 版
・授業において適時、資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③修得技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かし学生にわかりやすく指導する。剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

【Outline (in English)】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS100IA

剣道指導論演習

小田　佳子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にして資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるよう展開する。
毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ （模擬授業１）	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
9	基本指導法⑧ （模擬授業２）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ （模擬授業３）	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
11	基本指導法⑩ （模擬授業４）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
12	基本指導法⑪ （模擬授業５）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
13	基本指導法⑫ （模擬授業６）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業６ ・抜き技 試合・審判法① 3 名で構成するグループにより「審判」を行う。 審判法について省察
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第 4 版
・授業において適時、資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③修得技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かし学生にわかりやすく指導する。剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

【Outline (in English)】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS200IA

器械運動実習

島本　好平

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
また、この授業では複数のグループを形成し、受講者は自らが所属するグループの中で各運動課題の達成に向けた教え合い・学び合いを実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 30%、運動課題の達成状況 70 %により行う。
教員による運動課題の達成状況の確認（評価）は，一度限りではなく随時何度でも行う。評価は 5 段階（◎，○，△+，△，△−）で実施し，努力した分だけ自らの成長を実感できるようになっている

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論実習

島本　好平

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
備考（履修条件等）：※ 2013〜2017 年度入学生対象
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
また、この授業では複数のグループを形成し、受講者は自らが所属するグループの中で各運動課題の達成に向けた教え合い・学び合いを実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 30%、運動課題の達成状況 70 %により行う。
教員による運動課題の達成状況の確認（評価）は，一度限りではなく随時何度でも行う。評価は 5 段階（◎，○，△+，△，△−）で実施し，努力した分だけ自らの成長を実感できるようになっている

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論演習

島本　好平

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今期は対面授業である。器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導方法について、主体的に関わる演習形式を通して学習する。

【到達目標】
1) 中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を習得できる。
2) 指導法を工夫・改善することを習慣化する
3) 安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画や評価の方法等について説明を行う。また、ストレッチの重要性や安全面に配慮したグループ学習の意義等について理解を深める。
2	基本学習 1	段階的目標設定（スモールステップ）等の効果的なコーチングについてについて理解を深める。
3	基本学習 2	指導案計画の作成について学ぶ。
4	模擬授業（マット運動 1）【第 1 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
5	模擬授業（マット運動 1）【第 2 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
6	模擬授業（マット運動 2）【第 1 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
7	模擬授業（マット運動 2）【第 2 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
8	模擬授業（マット運動 3）【第 1 グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
9	模擬授業（マット運動 3）【第 2 グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
10	模擬授業（跳び箱 1）【第 1 グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
11	模擬授業（跳び箱 1）【第 2 グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
12	模擬授業（跳び箱 2）【第 1 グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
13	模擬授業（跳び箱 2）【第 2 グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
14	まとめ	授業のまとめと振り返り 器械運動指導演習における気づきや指導方法について、グループディスカッションし、学習した成果を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
①高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008 ②金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984 ③高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009 ④高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
先生役：模擬授業の実践 60 %、生徒役：学習状況や参加度 40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生からの感想や要望を可能な限り取り入れながら、授業計画を構成していきます。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・シューズ・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
To review skills and to learn knowledge and safety in instrument exercises like mat gymnastics and jumping box exercises, and also to review the step-by-step instruction necessary for teaching junior high and high school students the safe assisting method.

HSS200IA

器械運動指導論演習

島本　好平

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今期は対面授業である。器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導方法について、主体的に関わる演習形式を通して学習する。

【到達目標】
1) 中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を習得できる。
2) 指導法を工夫・改善することを習慣化する
3) 安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画や評価の方法等について説明を行う。また、ストレッチの重要性や安全面に配慮したグループ学習の意義等について理解を深める。
2	基本学習 1	段階的目標設定（スモールステップ）等の効果的なコーチングについてについて理解を深める。
3	基本学習 2	指導案計画の作成について学ぶ。
4	模擬授業（マット運動 1）【第 1 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
5	模擬授業（マット運動 1）【第 2 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
6	模擬授業（マット運動 2）【第 1 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
7	模擬授業（マット運動 2）【第 2 グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技 2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
8	模擬授業（マット運動 3）【第 1 グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
9	模擬授業（マット運動 3）【第 2 グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
10	模擬授業（跳び箱 1）【第 1 グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
11	模擬授業（跳び箱 1）【第 2 グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
12	模擬授業（跳び箱 2）【第 1 グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 1 グループ】
13	模擬授業（跳び箱 2）【第 2 グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第 2 グループ】
14	まとめ	授業のまとめと振り返り 器械運動指導演習における気づきや指導方法について、グループディスカッションし、学習した成果を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
①高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008 ②金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984 ③高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009 ④高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
先生役：模擬授業の実践 60 %、生徒役：学習状況や参加度 40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生からの感想や要望を可能な限り取り入れながら、授業計画を構成していきます。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・シューズ・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
To review skills and to learn knowledge and safety in instrument exercises like mat gymnastics and jumping box exercises, and also to review the step-by-step instruction necessary for teaching junior high and high school students the safe assisting method.

HSS200IA

体つくり運動実習

濵谷　萌子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つの領域がある。それぞれのねらいについて、前者は、自他の心身への気付きや、互いに交流することであり、後者は、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動を行うことである。履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
その他、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付くという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動指導論実習

濵谷　萌子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2
備考（履修条件等）：※ 2013〜2017 年度入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つの領域がある。それぞれのねらいについて、前者は、自他の心身への気付きや、互いに交流することであり、後者は、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動を行うことである。履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
その他、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付くという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動指導論演習

小野田　桂子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修者は体育授業において、生徒を体つくり運動に親しませることができる指導力を身に付ける。体つくり運動には「体ほぐし運動」と中学校では「体の動きを高める運動」,「実生活に生かす運動の計画」、高等学校では「実生活に生かす運動の計画」の領域がある。「体ほぐし運動」は気付きや仲間と関わり合うことの観点がねらいであり、「体の動きを高める運動」,「実生活に生かす運動の計画」は体力向上の行い方を知ることがねらいである。中学生・高校生を指導する際に運動をすることの楽しさを実感させることを基本に学習する。

【到達目標】
1) 履修者が、中学校・高等学校において体つくり運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度などを主体的、自主的、能動的に力を身につけることができる。
2) 環境と運動との関係や世界の諸問題についてを考え、指導法を工夫・改善することを習慣化することにより、「自由と進歩」の実践知を獲得し、思考力・判断力・表現力を身に付けることができる。
3) 安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、感染拡大予防に努めたグループワークによる協働的な演習を行いアクティブラーニングによる授業展開をしていく。主体的に学習に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進める。毎授業でのリアクションペーパー提出あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本学習　①	授業ガイダンス、体つくり運動理論、「体の動きを高める運動」コーディネーショントレーニング、柔軟１【レポート課題１】自己の体力認識
2	基本学習　②	【体ほぐし運動】道具を使った運動（ボール）【体の動きを高める運動】ストレッチ（携帯電話利用）
3	基本学習　③	【体ほぐし運動】模倣運動・リズムステップ　【体の動きを高める運動】コーディネーショントレーニング【課題運動】ステップ１基本
4	基本学習　④	【体ほぐし運動】リズムジャンプグループ【体の動きを高める運動】」コーディネーショントレーニンググループ【課題運動】リズムステップ２応用
5	基本学習　⑤	【体ほぐし運動】音楽を使った運動、【課題運動】リズムステップ３創作と発表練習（タブレットなど利用し、改善点を見つけ学習を進める）
6	基本学習　⑥	【実技試験】リズムステップ（グループ） 【レポート課題 2】実生活に生かす運動の計画（自身の運動計画）
7	指導案計画確認	グループ分け・指導計画・相談 【ICT】タブレットなど利用し、道具を使った運動（なわとび指導）学習をする
8	模擬授業（長縄・柔軟）	「体ほぐし運動・柔軟向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（表現運動・調整力）	「表現運動を取り入れた体ほぐし運動・調整力を高める」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業（ボール・持久力）	「道具を使った（ボール）体ほぐし運動・持久力向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（音楽・瞬発力）	「道具を使った（長縄）体ほぐし運動・柔軟向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（フープ・筋力）	「フープを取り入れた体ほぐし運動・筋力向上のため、実生活に生かす運動の計画をする」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
13	模擬授業（模倣運動・ゲーム（瞬発力））	「模倣運動」「ゲーム・鬼ごっこ」を取り入れた体ほぐし運動・筋力向上のため、実生活に生かす運動の計画をする」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
14	まとめ	体つくり運動授業振り返りとまとめ 【レポート課題３】 体つくり運動の工夫（ディスカッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模擬授業の指導案づくりに際する調べ学習等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 となる。アナロゴンを積極的にとりいれる。自らの生活に運動をとり入れ実践することを推奨する。世界の諸問題について体力や生涯スポーツとしての側面から、自身との関係を考える習慣を身につける。

【テキスト（教科書）】
教科書使用なし

【参考書】
【保健体育編　体育編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
【保健体育編】中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説
https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf

【成績評価の方法と基準】
【参加態度】30 %
①仲間と協力し、能力を高あう授業への取り組み姿勢と指導方法習得のための積極的な「態度」を評価する。
②自己の指導に問題意識を持ち、改善しようとする「態度」を評価する。
③自己の体調管理ができ、体調不良による不参加を防ぐ「態度」を評価する。
【実技試験】20 %
課題運動　リズムステップ
仲間と協力し、想像力を磨き、実践・発表する力を評価する。
【模擬授業点】20 %
①体つくり運動の指導案作成により、「理解と知識」を評価する。
②体つくり運動の模擬授業により、指導力と実技力の「実践力」を評価する。
③動機付けについての工夫に対して「取り組む力」を評価する。
【課題レポート】30 %
①毎回の振り返りレポートにおける「知識・理解」「考える力」「気づき」「独創性」「伝える力」を評価する。
②記述内容の独創性や自身の考えを後押しする文献などの引用を使い記述されているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実技力の向上や履修者の体力向上にもつながる内容を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
日頃から、自身の体力向上や体調管理に努めていただきたい。水分やタオルは各自用意してください。水分やタオルを各自準備し、体調管理の上、参加する。
リアクションペーパーを毎回記録する。
終了後、自他の体調を振り返り、気づきを記録する。授業の復習をし、自身に不足な体力について考え、生活に運動を取り入れていただきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
There are two types of karadatukuri undou (physical training exercises): karadahogushiundou (body relaxation exercises) and karadanougokiwotakameruundou (physical fitness enhancing exercises). While the purpose of the former is awareness, coordination, and interaction, that of the latter is an understanding of how to improve physical fitness. When teaching junior high and high school students, it is imperative for them to realize the joy of exercising, which will allow them to become involved in physical education and exercise.
【Learning Objectives】
1) Students will be able to acquire leadership, knowledge, and attitudes that enable them to design physical education classes in junior high school and high school independently, voluntarily, and actively.
2) By thinking about the relationship between the environment and exercise and various problems in the world as well as devising and improving teaching methods, students will gain practical knowledge of freedom and progress, enjoy the ability to think and judge, and be able to express appropriately.
3) Safety will be considered.
【Learning activities outside of the classroom】
Two hours will be allocated each to preparatory learning and an opportunity to review the lesson. It is recommended that you incorporate exercise in your own life. Furthermore, acquire a habit of thinking about relationships with yourself from the aspects of physical fitness and lifelong sports with regard to various problems in the world.
【Grading Criteria /Policy】
[Participation attitude] 30%
(1) The attitude of working on lessons that enhance abilities in cooperation with colleagues and a positive attitude related to learning teaching methods will be evaluated.
(2) An awareness of problems in self-guidance and attitude to improve will be evaluated.
(3)The attitude that allows you to manage your own physical condition and prevent non-participation because of one's poor physical condition will be evaluated.
[Practical test] 20%
Exercise rhythm step
Your collaboration with your colleagues, use of imagination, and ability to practice and present will be assessed.
[Mock lesson points] 20%
(1) Understanding and knowledge of developing a teaching plan for physical exercise will be evaluated.
(2) Practical leadership ability and practical skills will be assessed through a mock physical exercise lesson.
(3) Ability to work for ingenuity in motivation will be evaluated.
[Issue Report] 30%
(1) Knowledge and understanding, thinking ability, awareness, creativity, and ability to convey in each review report will be evaluated.
(2) Whether the description is based on the originality thereof and the citations of documents that support one's own ideas will be assessed.

HSS200IA

サッカー実習

三浦　佑介

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%), 実技テスト (20%) により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた, 技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら, 教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%), 実技テスト (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA

サッカー実習

三浦　佑介

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%), 実技テスト (20%) により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた, 技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら, 教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス&サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%), 実技テスト (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA

サッカー指導論実習

三浦　佑介

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
旧科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%)，実技テスト (20%) により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%)，実技テスト (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA

サッカー指導論実習

三浦　佑介

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
旧科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%)，実技テスト (20%) により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト (80%)，実技テスト (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA

サッカー指導論演習

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**
旧科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)〜ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス (実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導案の作成	グループにて指導案の作成を行う
13	指導実践	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践の評価	指導者の観点および参加者の観点から指導案と指導内容について評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認Ｃ級コーチ）(公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践 (60%)，レポート (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く
3 限の授業は経験者を対象としたレベル・強度設定とします。
4 限の授業は未経験者を対象としたレベル・強度設定となります。

【Outline (in English)】
(Course outline)This course is to learn about the practice and theory of football.（Learning Objectives） Students will be able to understand how they conduct coaching of football. （Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following coaching practice: 60%、Short reports : 40%.

HSS200IA

サッカー指導論演習

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 4/Wed.4**
旧科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)〜ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス (実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導実践Ⅰ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が攻守の切り替えをテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う
13	指導実践Ⅱ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が攻撃をテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践Ⅲ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が守備をテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認Ｃ級コーチ）(公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践 (60%)，レポート (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く
3 限の授業は経験者を対象としたレベル・強度設定とします。
4 限の授業は未経験者を対象としたレベル・強度設定となります。

【Outline (in English)】
(Course outline)This course is to learn about the practice and theory of football.（Learning Objectives） Students will be able to understand how they conduct coaching of football.（Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following coaching practice: 60%、Short reports : 40%.

HSS200IA

バレーボール実習

山田　稔

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。
バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
【技能】
状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防が展開できるようにする。
【態度】
バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全が確保できるようにする。
【知識、思考・判断】
バレーボールの歴史的変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
・ゲーム内で自分の役割とその責任を果たせるよう、ゲームを中心とした授業運営を行う。
・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
・バレーボールに必要な知識を習得できているか、毎時リアクションペーパーで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・基本技術の習得について（パス、レシーブ、サービス） ・ローテーションの行い方 ・ゲーム	・授業の概要と目的、到達目標、評価とその方法について理解すること。 ・基本技術（パス、レシーブ、サービス）ができること。 ・ローテーションの仕方が理解できること。
2	・バレーボールの歴史的変遷①について ・チーム分け ・基本技術の練習について（パス、レシーブ、サービス） ・ローテーションの行い方 ・ゲーム	・バレーボールの歴史的変遷について理解すること。 ・チーム分けを行う。チーム内で自己紹介とキャプテン等の役割分担を決定する。
3	・バレーボールの歴史的変遷②について ・基本技術の練習（ディグ、トス） ・ゲーム	・バレーボールの歴史的変遷②について理解すること。 ・1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行うこと。 ・攻撃につなげるためのトスを上げること。
4	・バレーボールのルール①について ・基本技術の練習（スパイク、トス） ・ゲーム	・バレーボールのルール①について理解すること。 ・ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・攻撃につなげるためのトスを上げること。
5	・バレーボールのルール②について ・基本技術の練習（レセプション） ・ゲーム	・バレーボールのルール②について理解すること。 ・サーブに対応して、レセプションすること。
6	・基本技術の練習（ブロック）について ・ゲーム	・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだりすること。 ・守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすること。
7	・基本技術の練習（チームフォーメーション）について ・ゲーム	・状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようにすること。 ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。
8	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦①）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・フォーメーションに応じた位置に動けるようにすること。
9	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦②）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に攻撃面） ・ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにすること。
10	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦③）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること。
11	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦④） ・技能評価	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動すること。 ・評価規準に基づき、ゲーム中のプレイを撮影して評価する。
12	・実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） ・ゲーム（リーグ戦⑤） ・技能評価	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。 ・評価規準に基づき、ゲーム中のプレイを撮影して評価する。
13	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦⑥）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に攻撃面） ・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができること。
14	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦⑦） ・本講義のまとめ	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に対するふり返りを行うため、毎時リアクションペーパーを提出すること。
・実技試験（ゲーム中のプレイ）を行うため、技能の定着を図っておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とすること。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
バレーボールの技能　実技試験　40%
毎時のリアクションペーパー　30 %
授業への積極的な貢献度　30 %
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。
教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】
本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準して、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball basic theory. It also enhances the development of students' skill in Volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball basic theory and skills.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to Preparatory learning and review time. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process Hourly reaction paper (30%), Volleyball skills (40%), and in-class contribution（30%）.

HSS200IA

バレーボール指導論実習

山田　稔

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
旧科目名：**バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。
バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
【技能】
状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防が展開できるようにする。
【態度】
バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全が確保できるようにする。
【知識、思考・判断】
バレーボールの歴史的変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
・ゲーム内で自分の役割とその責任を果たせるよう、ゲームを中心とした授業運営を行う。
・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
・バレーボールに必要な知識を習得できているか、毎時リアクションペーパーで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・基本技術の習得について（パス、レシーブ、サービス） ・ローテーションの行い方 ・ゲーム	・授業の概要と目的、到達目標、評価とその方法について理解すること。 ・基本技術（パス、レシーブ、サービス）ができること。 ・ローテーションの仕方が理解できること。
2	・バレーボールの歴史的変遷①について ・チーム分け ・基本技術の練習について（パス、レシーブ、サービス） ・ローテーションの行い方 ・ゲーム	・バレーボールの歴史的変遷について理解すること。 ・チーム分けを行う。チーム内で自己紹介とキャプテン等の役割分担を決定する。
3	・バレーボールの歴史的変遷②について ・基本技術の練習（ディグ、トス） ・ゲーム	・バレーボールの歴史的変遷②について理解すること。 ・1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行うこと。 ・攻撃につなげるためのトスを上げること。
4	・バレーボールのルール①について ・基本技術の練習（スパイク、トス） ・ゲーム	・バレーボールのルール①について理解すること。 ・ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・攻撃につなげるためのトスを上げること。
5	・バレーボールのルール②について ・基本技術の練習（レセプション） ・ゲーム	・バレーボールのルール②について理解すること。 ・サーブに対応して、レセプションすること。
6	・基本技術の練習（ブロック）について ・ゲーム	・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだりすること。 ・守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすること。
7	・基本技術の練習（チームフォーメーション）について ・ゲーム	・状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようにすること。 ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。
8	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦①）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・フォーメーションに応じた位置に動けるようにすること。
9	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦②）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に攻撃面） ・ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにすること。
10	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦③）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること。
11	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦④） ・技能評価	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動すること。 ・評価規準に基づき、ゲーム中のプレイを撮影して評価する。
12	・実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） ・ゲーム（リーグ戦⑤） ・技能評価	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。 ・評価規準に基づき、ゲーム中のプレイを撮影して評価する。
13	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦⑥）	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に攻撃面） ・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができること。
14	・チームの課題解決のための練習について ・ゲーム（リーグ戦⑦） ・本講義のまとめ	・チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践すること。（主に守備面） ・ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に対するふり返りを行うため、毎時リアクションペーパーを提出すること。
・実技試験（ゲーム中のプレイ）を行うため、技能の定着を図っておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とすること。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
バレーボールの技能　実技試験　40%
毎時のリアクションペーパー　30 %
授業への積極的な貢献度　30 %
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。
教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】
本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準して、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball basic theory. It also enhances the development of students' skill in Volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball basic theory and skills.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to Preparatory learning and review time. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process Hourly reaction paper (30%), Volleyball skills (40%), and in-class contribution（30%）.

HSS200IA

バレーボール指導論演習

山田　稔

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
旧科目名：**バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員からの講義（評価）を受け、バレーボールの技能習得及び指導を行うために必要な指導計画の作成、指導技術を身に付けることを目的とする。教員や仲間同士間の積極的な意見交換を通して、自らやチームとしての課題を発見し、仲間と共に協力して課題解決を図ることを通して、講義に主体的に取り組む態度を醸成する。

【到達目標】
・教職免許を取得する学生は、これまで学んだ教職に関する基礎科目や自らの学習経験をもとに、自身の教員としての課題を発見し、問題解決を図ることができるようにする。
・教職免許を取得しない学生は、模擬授業を通して、人に指導することの難しさを知ることやリーダーシップの発揮の仕方、授業計画の作成や適正な評価を行うことの大切さについて学び、自らの課題を自己発見することができるようにする。
・バレーボールのチーム活動を通して、仲間との意見交換に積極的に参加し、他者の意見を取り入れながら、より良い指導方法、指導技術を発見したり、身に付けたりすることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・バレーボールの基本的な動作原理を理解し、授業づくりにおいての 3 つの視点（授業形態、指導方法、教材の工夫）について、専門的知識と技能を身に付けられるよう、順序だてて講義を進めていく。
・バレーボールの授業計画力及び実践的指導力を身に付けるため、一人 20 分間の模擬授業を行う。
・毎時、講義内容についてのリアクションペーパーを作成し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・チーム編成 ・サービスとレセプションの理解 ・ゲーム	・講義の概要と目的、到達目標、評価とその方法について解説する。 ・チームメンバーの決定を行う。
2	・ディグフォーメーションについて ・ゲーム	・守備のバランスを維持する動きについて理解ができるようにする。
3	・つなぎのボールのあげ方について ・移動を伴うディグフォーメーションについて ・ゲーム	・移動を伴いながら、スパイクに繋がるトスを上げることについて理解ができるようにする。 ・仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。
4	・模擬授業に向けて指導案の書き方を説明する。 ・フロントプレーヤーが参加するディグフォーメーションについて ・レセプションから攻撃への移行について ・ゲーム	・指導案のフォーマットと書き方の見本を配布する。 ・プレイヤーの移動に伴って、ディグフォーメーションの位置が移動することについて理解ができるようにする。 ・レセプションから助走を取って、アタックフオーメーションへの移行を行うことができるようにする。
5	・指導技術について ・アタックの助走について ・レセプションからアタックへの移行についての理解 ・ゲーム	・ネットに向かってアタックの助走練習を行うことができるようにする。 ・指導する際に必要な技術について解説する。 ・相手コートからチャンスボールをセッターに返球し、2 歩助走を行って直上トスをアタックすることができるようにする。
6	・スポーツパフォーマンスの構造について ・アタックの助走からセットされたボールを打つことについて ・アタックカバーフォーメーションについて ・ゲーム	・スポーツパフォーマンスの構造の構造について解説する。 ・2 歩助走からセットされたボールに合わせてアタックを打つことができるようにする。 ・味方のアタックに対して、アタックカバーフォーメーションを取ることが理解できるようにする。
7	・運動学習について ・ブロックとダイレクトスパイクについて ・模擬授業について ・ゲーム	・運動学習の方法と理論について解説する。 ・ブロックの基本姿勢を取ることができるようにする。 ・移動とジャンプの基本動作を理解することができるようにする。 ・ダイレクトスパイクの行い方をできるようにする。 ・模擬授業の指導案作成と行い方について理解することができるようにする。
8	・模擬授業のリフレクションシートについて ・役割に応じた責任を果すことについて	・模擬授業終了後のリフレクションシートの書き方について解説する。 ・自分のポジションの役割を果たすため、ポジション別の練習を行うことができるようにする。
9	・模擬授業の実施①（一人 20 分間）について ・模擬授業のふり返りディスカッションについて ・模擬授業に関するリフレクションシートの提出について（次週までに提出）	・1 時間の授業指導案を作成すること。 ・模擬授業を行い、終了後は意見交換を授業者側と生徒役側で行うこと。 ・授業終了後、1 週間以内にリフレクションシートを提出する。
10	・模擬授業の実施②（一人 20 分間）について ・模擬授業のふり返りディスカッションについて ・模擬授業に関するリフレクションシートの提出について（次週までに提出）	・1 時間の授業指導案を作成すること。 ・模擬授業を行い、終了後は意見交換を授業者側と生徒役側で行うこと。 ・授業終了後、1 週間以内にリフレクションシートを提出する。
11	・模擬授業の実施③（一人 20 分間）について ・模擬授業のふり返りディスカッションについて ・模擬授業に関するリフレクションシートの提出について（次週までに提出）	・1 時間の授業指導案を作成すること。 ・模擬授業を行い、終了後は意見交換を授業者側と生徒役側で行うことが理解できるようにする。 ・授業終了後、1 週間以内にリフレクションシートを提出すること。
12	・技術指導における効果的な指導法ついて ・ゲーム（リーグ戦①）	・模擬授業を踏まえ、効果的な指導法について解説する。 ・各チームの課題解決を図る練習を行う。
13	・個人差を考慮した指導法について ・ゲーム（リーグ戦②）	・模擬授業を踏まえ、個人差に応じた指導法について解説する。 ・各チームの課題解決を図る練習を行う。
14	・四大教師行動について ・ゲーム（リーグ戦③） ・本講義のまとめ	・模擬授業を踏まえ、四大教師行動について解説する。 ・各チームの課題解決を図る練習を行う。 ・本講義をふり返り、学びの内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎時間学ぶ理論について、学んだ内容をふり返る。
・模擬授業実施に向け、指導案の作成を行う。
・模擬授業を受けた側の学生とのディスカッションを行い、リフレクションシートを作成する。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
模擬授業の指導案　10%
模擬授業の内容　20%
模擬授業のリフレクションシート　10 %
毎時のリアクションペーパー　30 %
授業への積極的な貢献度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度の講義については学生よりおおむね良い評価をもらうことができた。しかし、課題はまだ多くある。教職を目指す学生にとっては、模擬授業のねらいに即した授業が確実にできるよう授業マネジメントや教授方法について丁寧に指導していく必要がある。教職を取らない学生にとっても有意義な講義となるよう、指導講評の中にリーダーシップの重要性や運動・スポーツと健康の繋がり、生きる術を学ぶ保健体育の授業であることについて理解させたり体験する中で、将来社会に出て役立つ講義内容にしていかねばならない。

【その他の重要事項】
バレーボール実習では、バレーボール基礎理論及び技術の習得及びバレーボールの指導方法について、学習指導要領を基に丁寧に指導していく。したがって、バレーボール実習とバレーボール指導論演習を同時に履修することにより深い学びが実現すると考える。両方の講義を履修すること原則とすることを求めたい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball Teaching Theory and Teaching Techniques. It also enhances the development of students' skill in How to do teaching volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball skills and instruction.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to Preparatory learning and review time. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process Hourly reaction paper (30%), Volleyball mock lesson (40%), and in-class contribution（30%）.

HSS200IA

バスケットボール実習

清水　貴司

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces basic ability of basketball, learn about the way of refereeing in basketball and the history of basketball to students taking this course.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course are to basic basketball skills and be able to practice basic movements in a game by understanding the position and role of each player.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected reread the materials distributed in class. Your study time will be more than one hour for class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policies）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following overall evaluation of leadership and class participation attitude 50%、evaluation by practical examination 50%.

HSS200IA

バスケットボール実習

岩見　雅人

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボールの特性やルールを理解し、競技を実施する上で必要となる身体能力や基礎的な技術（ドリブル・パス・シュートなど）について学習する。また，巧みに身体とボールを操作する方法について実践し、その向上法について学ぶ。グループ練習や試合を通じて、基本的なチーム戦術、ならびにプレーおよびコミュニケーションの両方における「積極性」と「協調性」の重要性を理解するとともに，個人・チーム技能向上の喜びや多角的なスポーツの楽しみ方を学ぶ。

【到達目標】
1) バスケットボールの特性やルールについて学び、競技を実施する上でどのような身体能力や基礎的技術が必要となるかを理解し、安全に競技を実践することができる。
2) バスケットボールで求められる基礎的技術について、自身のスキルを正しく分析し、積極的にスキルを改善・向上させ、技能の変化を適切に評価することができる。
3) グループでの取り組みを通じて、「する」「みる」「ささえる」の観点から，スポーツの多角的な楽しみ方を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技で必要な知識や技術について、実技を中心に習得できるように展開していきます。個人技術のスキル評価から、個人技能練習、チーム戦術練習、ゲーム形式へと、段階的に発展させながら進めます。単にプレーをするだけではなく、個人やチーム内でパフォーマンスを分析し、振り返りながら実施していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、履修上の諸注意などのガイダンス、希望者が多い場合は受講者の選抜
2	バスケットボールの歴史・ルール・競技特性について、スキルテストについて	・バスケットボールの歴史、ルール、競技特性について解説 ・スキルテストの内容について説明 ・ミニゲーム
3	スキルテストの実施、基礎的スキルの練習	・スキルテストの実施、結果の分析法について説明 ・基礎的スキルの練習方法について
4	グループ分け、個人技能の練習①	・スキルテストの結果を参考にグループ分け ・個人技能（ドリブル、パス、シュート）の練習法について
5	個人技能の練習②、練習計画の立て方	・個人技能（1 対 1 のオフェンス、ディフェンス）の練習 ・練習計画の立て方（計画表の作成）について
6	個人技能の練習③、3 人制（3x3）について	・個人技能（2 対 2、3 対 3、スペーシング） ・3 人制（3x3）の実施
7	チーム戦術の練習①、3x3 の実施	・チーム戦術（ゲームライク・トレーニング）の練習 ・3x3 のゲーム実施
8	チーム戦術の練習②、スクリメージ	・チーム戦術（チームオフェンス・ディフェンス）の練習 ・スクリメージの実施
9	チーム戦術の練習③、5 対 5 のゲーム	・チーム戦術（ゲームに向けた戦術）の練習 ・リーグ戦の実施方法について
10	リーグ戦の実施と運営①	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価① ・スカウティングデータの活用について
11	リーグ戦の実施と運営②	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価② ・チームワークについて
12	リーグ戦の実施と運営③	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価③ ・スキルテストの内容確認
13	スキルテストの実施、スキル分析レポートについて	・スキルテストの実施 ・スキル変化の分析レポートの作成について ・ピックアップゲーム
14	授業のまとめ、レポート提出	・授業のまとめと振り返り ・レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バスケットボールの基本的ルールや、基礎的技能の練習法などについて予め準備学習をします。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」，大修館書店，2015.
「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」，大修館書店，2016.
「ファンドリル」，ベースボール・マガジン社，2019.
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）：授業への参加度、態度、意欲等を総合的に評価します。
実技点（30 %）：実技における積極性や協調性を総合的に評価します。
課題点（30 %）：スキルテストの分析レポートなどの課題から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的には毎回実技を行いますので、運動に適した服装、屋内シューズを準備してください。タオルや水分補給用のボトルを持参し、必要に応じてスポーツ用マスクを準備することを推奨します。
課題について、Google フォームを経由して提出していただくことがあります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は、初回授業にて選抜を行います。選抜方法は上級生を優先とし、計 40 名を上限とします。基本的には、秋学期に行う「バスケットボール指導論演習」を同年度に履修することを条件とします。
＊授業の内容は人数や進捗によって随時変更いたします

【Outline (in English)】
This course focuses on learning about the essential basketball skills and physical fitness requirements and developing knowledge of the basketball principles, rules, and safety issues. In addition, students will learn how to improve body control with/without the basketball. Through group practice, students will understand basic basketball strategies and the importance of "activeness" and "cooperation" in behavior and communication.　Students will also learn the pleasure of improving individual and team performance and how to enjoy sports with others.

HSS200IA

バスケットボール指導論演習

清水　貴司

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**
旧科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。
また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム（運営）展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。）
2	模擬授業（ボールハンドリング・ドリブルについて）	グループ及び 1 名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業（パス・シュートについて）	グループ及び 1 名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業（ディフェンス・ボールマンに対する守り方について）	グループ及び 1 名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業（オフェンス・カッティングプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業（オフェンス・スクリーンプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業（オフェンス・アウトナンバープレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業（マンツーマンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がマンツーマンチームディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業（ゾーンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業（戦術・チームオフェンス、セットプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスの戦術（セットプレー）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業（戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて）	グループ及び 1 名がディフェンスの戦術（ローテーション）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
12	模擬授業（授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて）	グループ及び 1 名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる（レポート作成）
14	まとめ　各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表（レポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜12 回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）
第 13 回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく
第 14 回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準 とします

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店
バスケットボール用語辞典　監修　小野修二　小谷究　廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】
参加態度 40 点　指導案の評価 20 点　模擬授業の評価 20 点　レポート 20 点

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】
※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大 40 名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール実習の受講後の学生を優先とする。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】
This course introduces acquire knowledge as an instructor or teacher, learn how to teach advanced students and beginners.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to to acquire the leadership skills and knowledge to develop basketball lessons in junior high and high schools as a leader.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Students will be expected prepare a summary of your reflections on the mock class and areas for improvement. Your study time will be more than one hour for class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policies)】
Your overall grade in the class will be decided based on the following attitude 40%, evaluation of teaching plan 20%, evaluation of mock class 20%, report 20%.

HSS200IA

バスケットボール指導論演習

岩見　雅人

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボールで必要となる基礎的・発展的技術を学び、身体やボールを「安全」かつ「巧み」に操作するための指導法について学習する。バスケットボールの個人技能とチーム戦術についても理解を深め、オンボール（ボールを持っているとき）とオフボール（ボールを持たないとき）の動きなど、「ゴール型競技」に特徴的なルールや戦術、またその指導法について学ぶ。指導実践やゲーム実践を通して振り返りや改善を繰り返すことで、スポーツや身体運動の指導能力を向上させていく。

【到達目標】
1) バスケットボールの特性やルールについて理解し、安全かつ協調的に競技を実施することができる。
2) バスケットボールで求められる身体能力や基礎的技術について理解し、適切に指導計画を立案、指導実践することができる。
3) 指導実践やゲーム実践における自身や他者の指導や活動を振り返り、より適切かつ効果的な指導へと改善していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
指導実践を中心として授業を展開していく。教員やコーチとして指導現場に立った際に、どのように指導計画を立て、指導するかを実践しながら学んでいく。グループワークを積極的に取り入れ、協力・協働して演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、履修上の諸注意などのガイダンス、指導実践について
2	指導・コーチング方法について、ミニゲーム	・学習指導要領の確認 ・指導やコーチングにおいて重要となるポイントについて ・ミニゲーム
3	グループ分け、安全管理、指導計画の作成方法について	グループ分けし、安全に運動するためのポイント、指導計画の立案・作成方法について解説する
4	指導実践①（ウォーミングアップ）、ゲーム実践	担当者が指導役となり、ウォーミングアップの指導実践をする。生徒役はその実践に対する感想や評価をフィードバックする。
5	指導実践②（ボールハンドリングスキル）、ゲーム実践	ボールハンドリングスキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
6	指導実践③（ドリブルスキル）、ゲーム実践	ドリブルスキルの指導実践をする。生徒役はその実践に対する感想や評価をフィードバックする。
7	指導実践④（パススキル）、ゲーム実践	パススキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
8	指導実践⑤（シュートスキル）、ゲーム実践	シュートスキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
9	指導実践⑥（ディフェンス）、ゲーム実践	ディフェンスの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
10	指導実践⑦（チームオフェンス、スペーシング）、ゲーム実践	チームオフェンスなどの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
11	指導実践⑧（ピック＆ロール）、ゲーム実践	ピック＆ロールの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
12	指導実践⑨（ゲームライク・プラクティス）、ゲーム実践	ゲームライクな練習の指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
13	指導実践やゲーム実践の振り返りとまとめ、レポート課題について	・指導実践やゲーム実践の内容を振り返り、自己成長計画を立てる。 ・レポート課題についての説明
14	授業のまとめ、レポート提出	・授業のまとめと振り返り ・レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バスケットボールの基本的ルールや、スキル・戦術の練習法・指導法などについて予め準備学習をします。指導実践においては、与えられたテーマに対する指導計画を作成します。準備学習や計画作成は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」，大修館書店，2015.
「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」，大修館書店，2016.
「ファンドリル」，ベースボール・マガジン社，2019.
「バスケットボールの動き向上トレーニング」，ベースボール・マガジン社，2021.
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）：授業への参加度、態度、意欲等を総合的に評価します。
実践点（40 %）：指導実践や実技の取り組みを総合的に評価します。
課題点（20 %）：授業内で課すレポート等の提出物から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的には毎回実技を行いますので、運動に適した服装、屋内シューズを準備してください。タオルや水分補給用のボトルを持参し、必要に応じてスポーツ用マスクを準備することを推奨します。
課題について、Google フォームを経由して提出していただくことがあります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は、受講者の選抜（Google form）を行います。選抜方法は上級生を優先とし、計 32 名を上限とします。基本的には、春学期開講の「バスケットボール実習」を履修していることを条件とします。
＊指導実践のテーマ等は、人数や授業の進捗に応じて随時変更します。

【Outline (in English)】
This course focuses on understanding fundamental/advanced basketball skills and students will learn how to teach to manipulate the body and basketball "safely" and "skillfully". Students also learn characteristics of individual skills and team tactics about "Goal-Oriented Game". Through the teaching practice and basketball game, students will be developing their teaching skills.

HSS200IA

バスケットボール指導論実習

清水　貴司

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
旧科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces basic ability of basketball, learn about the way of refereeing in basketball and the history of basketball to students taking this course.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course are to basic basketball skills and be able to practice basic movements in a game by understanding the position and role of each player.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected reread the materials distributed in class. Your study time will be more than one hour for class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policies）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following overall evaluation of leadership and class participation attitude 50%、evaluation by practical examination 50%.

HSS200IA

バスケットボール指導論実習

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボールの特性やルールを理解し、競技を実施する上で必要となる身体能力や基礎的な技術（ドリブル・パス・シュートなど）について学習する。また，巧みに身体とボールを操作する方法について実践し、その向上法について学ぶ。グループ練習や試合を通じて、基本的なチーム戦術、ならびにプレーおよびコミュニケーションの両方における「積極性」と「協調性」の重要性を理解するとともに，個人・チーム技能向上の喜びや多角的なスポーツの楽しみ方を学ぶ。

【到達目標】
1) バスケットボールの特性やルールについて学び、競技を実施する上でどのような身体能力や基礎的技術が必要となるかを理解し、安全に競技を実践することができる。
2) バスケットボールで求められる基礎的技術について、自身のスキルを正しく分析し、積極的にスキルを改善・向上させ、技能の変化を適切に評価することができる。
3) グループでの取り組みを通じて、「する」「みる」「ささえる」の観点から，スポーツの多角的な楽しみ方を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技で必要な知識や技術について、実技を中心に習得できるように展開していきます。個人技術のスキル評価から、個人技能練習、チーム戦術練習、ゲーム形式へと、段階的に発展させながら進めます。単にプレーをするだけではなく、個人やチーム内でパフォーマンスを分析し、振り返りながら実施していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、履修上の諸注意などのガイダンス、希望者が多い場合は受講者の選抜
2	バスケットボールの歴史・ルール・競技特性について、スキルテストについて	・バスケットボールの歴史、ルール、競技特性について解説 ・スキルテストの内容について説明 ・ミニゲーム
3	スキルテストの実施、基礎的スキルの練習	・スキルテストの実施、結果の分析法について説明 ・基礎的スキルの練習方法について
4	グループ分け、個人技能の練習①	・スキルテストの結果を参考にグループ分け ・個人技能（ドリブル、パス、シュート）の練習法について
5	個人技能の練習②、練習計画の立て方	・個人技能（1 対 1 のオフェンス、ディフェンス）の練習 ・練習計画の立て方（計画表の作成）について
6	個人技能の練習③、3 人制（3x3）について	・個人技能（2 対 2、3 対 3、スペーシング） ・3 人制（3x3）の実施
7	チーム戦術の練習①、3x3 の実施	・チーム戦術（ゲームライク・トレーニング）の練習 ・3x3 のゲーム実施
8	チーム戦術の練習②、スクリメージ	・チーム戦術（チームオフェンス・ディフェンス）の練習 ・スクリメージの実施
9	チーム戦術の練習③、5 対 5 のゲーム	・チーム戦術（ゲームに向けた戦術）の練習 ・リーグ戦の実施方法について
10	リーグ戦の実施と運営①	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価① ・スカウティングデータの活用について
11	リーグ戦の実施と運営②	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価② ・チームワークについて
12	リーグ戦の実施と運営③	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価③ ・スキルテストの内容確認
13	スキルテストの実施、スキル分析レポートについて	・スキルテストの実施 ・スキル変化の分析レポートの作成について ・ピックアップゲーム
14	授業のまとめ、レポート提出	・授業のまとめと振り返り ・レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バスケットボールの基本的ルールや、基礎的技能の練習法などについて予め準備学習をします。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」，大修館書店，2015.
「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」，大修館書店，2016.
「ファンドリル」，ベースボール・マガジン社，2019.
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）：授業への参加度、態度、意欲等を総合的に評価します。
実技点（30 %）：実技における積極性や協調性を総合的に評価します。
課題点（30 %）：スキルテストの分析レポートなどの課題から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的には毎回実技を行いますので、運動に適した服装、屋内シューズを準備してください。タオルや水分補給用のボトルを持参し、必要に応じてスポーツ用マスクを準備することを推奨します。
課題について、Google フォームを経由して提出していただくことがあります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は、初回授業にて選抜を行います。選抜方法は上級生を優先とし、計 40 名を上限とします。基本的には、秋学期に行う「バスケットボール指導論演習」を同年度に履修することを条件とします。
＊授業の内容は人数や進捗によって随時変更いたします

【Outline (in English)】
This course focuses on learning about the essential basketball skills and physical fitness requirements and developing knowledge of the basketball principles, rules, and safety issues. In addition, students will learn how to improve body control with/without the basketball. Through group practice, students will understand basic basketball strategies and the importance of "activeness" and "cooperation" in behavior and communication. Students will also learn the pleasure of improving individual and team performance and how to enjoy sports with others.

HSS200IA

テニス実習

植村　直己

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウィルス感染状況によりオンライン・オンデマンド型での開講となる可能性もあります。
その場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTA ツアーの仕組み
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTA テニスルールブック」(日本テニス協会)
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70 %）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
原則として対面授業を実施します。但し、新型コロナウィルス感染の影響により、オンライン・オンデマンド型授業に変更される可能性もあります。
その場合は、都度、学習支援システムを確認して下さい。

【Outline (in English)】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス実習

植村　直己

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウィルス感染状況によりオンライン・オンデマンド型での開講となる可能性もあります。
その場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTA ツアーの仕組み
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTA テニスルールブック」(日本テニス協会)
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70 %）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
原則として対面授業を実施します。但し、新型コロナウィルス感染の影響により、オンライン・オンデマンド型授業に変更される可能性もあります。
その場合は、都度、学習支援システムを確認して下さい。

【Outline (in English)】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村　直己

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1
旧科目名：テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウィルス感染状況によりオンライン・オンデマンド型での開講となる可能性もあります。
その場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTA ツアーの仕組み
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70 %）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
原則として対面授業を実施します。但し、新型コロナウィルス感染の影響により、オンライン・オンデマンド型授業に変更される可能性もあります。
その場合は、都度、学習支援システムを確認して下さい。

【Outline (in English)】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村　直己

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
旧科目名：テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウィルス感染状況によりオンライン・オンデマンド型での開講となる可能性もあります。
その場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTA ツアーの仕組み
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70 %）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
原則として対面授業を実施します。但し、新型コロナウィルス感染の影響により、オンライン・オンデマンド型授業に変更される可能性もあります。
その場合は、都度、学習支援システムを確認して下さい。

【Outline (in English)】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論演習

植村　直己

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
旧科目名：**テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウィルス感染状況によりオンライン・オンデマンド型での開講となる可能性もあります。
その場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本６ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターン基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTA ツアーの仕組み
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルス応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界の事を学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70 %）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
春学期科目のテニス実習を併せて履修することが臨ましい。
原則として対面授業を実施します。但し、新型コロナウィルス感染の影響により、オンライン・オンデマンド型授業に変更される可能性もあります。
その場合は、都度、学習支援システムを確認して下さい。

【Outline (in English)】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

バドミントン実習

升　佑二郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術 1	グリップと技術習得
2	基本技術 2	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク 1	ドライブ
4	基本ストローク 2	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク 3	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク 4	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク 5	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編 1	オールロング
9	基本技術　応用編 2	オールショート
10	シングルス 1	フットワーク
11	シングルス 2	ゲーム組立
12	ダブルス 1	フォーメーション
13	ダブルス 2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン指導論実習

升　佑二郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧科目名：**バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術 1	グリップと技術習得
2	基本技術 2	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク 1	ドライブ
4	基本ストローク 2	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク 3	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク 4	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク 5	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編 1	オールロング
9	基本技術　応用編 2	オールショート
10	シングルス 1	フットワーク
11	シングルス 2	ゲーム組立
12	ダブルス 1	フォーメーション
13	ダブルス 2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン指導論演習

升　佑二郎

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧科目名：**バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論 1	講義と実技　「基本ストローク」
3	バドミントン技術論 2	講義と実技　「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論 3	講義と実技　「フットワーク」
5	バドミントン競技指導 1	講義と実技　「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導 2	講義と実技　「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論 1	講義と実技　「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論 2	講義と実技　「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技　「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技　「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技　「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析 1	講義と実技　「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析 2	講義と実技　「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

ソフトボール実習

大田　穂

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術を習得するため，屋外での実技を基本とする．ただし，ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には，室内での講義も実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．
屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．
授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問等は，その次の授業の際に取り上げて全体に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：授業のスケジュールや準備事項等の確認．
第２～１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：春学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成 30 年 7 月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・テスト（５０％）から評価する．
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
・授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通して履修すること．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.
Experiment/Practice(one-credit)
1 ： Check class schedule and preparations
2~13 ： Review of the previous class and preparation for the next class(including short reports)
14 ： Comprehensive review
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 30%, Short reports : 20%, Term-end examination: 50%.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.

HSS200IA

ソフトボール指導論実習

大田　穂

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧科目名：**ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として，ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける．また，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し，正しく安全に指導できる力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術を習得するため，屋外での実技を基本とする．ただし，ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には，室内での講義も実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．
屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：特になし．
第２〜１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：春学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
「中学校学習指導要領」
「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
その他は授業内で適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・テスト（５０％）から評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通して履修すること．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

ソフトボール指導論演習

大田　穂

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧科目名：**ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技，ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための室内での講義を実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．指導方法を習得するための実技では，小グループでの相互指導（模擬授業）を行う．
屋外での実技授業の場合には小グループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．
授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問等は，その次の授業の際に取り上げて全体に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	さまざまな練習方法（守備・ピッチング）	守備とピッチングについての練習方法の紹介とその意図
第 3 回	さまざまな練習方法（打撃・走塁）	打撃と走塁についての練習方法の紹介とその意図
第 4 回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリーへの指導方法と留意点
第 5 回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第 6 回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第 7 回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 8 回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 9 回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 10 回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 11 回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 12 回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 13 回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第 14 回	学期末まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：春学期の復習（基本的な技術およびルールの理解）．
第２～１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：秋学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成 30 年 7 月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・相互指導（模擬授業）レポート（２０％）・学期末レポート課題（３０％）から評価する．
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
・授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この授業を理解するためには，春学期の「ソフトボール実習」を理解することが前提となる．
秋学期のみの履修は基本的には認めない．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.
Lecture/Exercise(two-credits)
1 ： Preparation for basic skills and rules
2~13 ： Review of the previous class and preparation for the next class(including short reports)
14 ： Comprehensive review
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 30%, Short reports : 20%, Mock lesson : 20%, Term-end reports: 30%.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.

HSS200IA

陸上競技実習

苅部　俊二

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な理論および技術を習得し、その指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。
また、教員採用試験の受験課題に対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといったスポーツ科学の視点から陸上競技をとらえ、理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の歴史・特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論 （短距離走）	短距離走のルールを学び、その理論、指導法について学習する。
第 4 回	走運動の実技 （短距離走）	スタート、疾走動作の実践、タイムトライアルの実施。
第 5 回	走運動の理論 （ハードル走）	ハードル走のルールを学び、その理論、指導法、ハードリング動作について学習する。
第 6 回	走運動の実技 （ハードル走）	ハードル走の実践、タイムトライアルを行う。
第 7 回	走運動の理論 （リレー競技）	リレー競技の特性、ルール、指導法を学習する。
第 8 回	走運動の実技 （リレー競技）	リレー競技の実践、タイムトライアルを行う。
第 9 回	跳躍運動の理論 （走幅跳）	走幅跳の特性、ルール、指導方法、跳躍動作について学習する。
第 10 回	跳躍運動の実技 （走幅跳）	走幅跳の実践、トライアルを行う。
第 11 回	跳躍運動の理論 （走高跳）	走高跳の特性、ルール、指導法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の実技 （走高跳）	走高跳の実践、トライアルを行う。
第 13 回	投運動の理論 （砲丸投）	砲丸投の特性、ルール、指導法を学習する。
第 14 回	投運動の実技 （砲丸投）	砲丸投の実践、トライアルを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習復習を必須としますが、特に実技を実施する授業の前に、前回授業に実施する競技特性、ルールなどの復習を行うこと。
授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
実技試験（70 %）および授業への積極的な貢献度（30 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course learn to the theories and techniques of track-and-field.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than two hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: practical examination
(60%) and usual performance score (30%).

HSS200IA

陸上競技指導論実習

苅部　俊二

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3
旧科目名：陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な理論および技術を習得し、その指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。
また、教員採用試験の受験課題に対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといったスポーツ科学の視点から陸上競技をとらえ、理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の歴史・特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論 （短距離走）	短距離走のルールを学び、その理論、指導法について学習する。
第 4 回	走運動の実技 （短距離走）	スタート、疾走動作の実践、タイムトライアルの実施。
第 5 回	走運動の理論 （ハードル走）	ハードル走のルールを学び、その理論、指導法、ハードリング動作について学習する。
第 6 回	走運動の実技 （ハードル走）	ハードル走の実践、タイムトライアルを行う。
第 7 回	走運動の理論 （リレー競技）	リレー競技の特性、ルール、指導法を学習する。
第 8 回	走運動の実技 （リレー競技）	リレー競技の実践、タイムトライアルを行う。
第 9 回	跳躍運動の理論 （走幅跳）	走幅跳の特性、ルール、指導方法、跳躍動作について学習する。
第 10 回	跳躍運動の実技 （走幅跳）	走幅跳の実践、トライアルを行う。
第 11 回	跳躍運動の理論 （走高跳）	走高跳の特性、ルール、指導法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の実技 （走高跳）	走高跳の実践、トライアルを行う。
第 13 回	投運動の理論 （砲丸投）	砲丸投の特性、ルール、指導法を学習する。
第 14 回	投運動の実技 （砲丸投）	砲丸投の実践、トライアルを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習復習を必須としますが、特に実技を実施する授業の前に、前回授業に実施する競技特性、ルールなどの復習を行うこと。
授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
実技試験（70 %）および授業への積極的な貢献度（30 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course learn to the theories and techniques of track-and-field.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than two hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: practical examination
(60%) and usual performance score (30%).

HSS200IA

陸上競技指導論演習

苅部　俊二

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧科目名：**陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、理論、実技を通じて学習し、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を身につける。
教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を得ることを目的に、運動生理学やバイオメカニクスなどといったスポーツ科学の視点から陸上競技をとらえ、理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導法を学習する。また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案法について学習する。
第 2 回	走運動の理論、指導法	走運動の理論、指導法を学習する。
第 3 回	短距離走、リレー競技の指導	短距離走・リレー競技の指導法を学習する。
第 4 回	ハードル走の指導	ハードル走の指導法を学習する。
第 5 回	跳躍運動の理論・指導法	跳躍運動の理論、指導法を学習する。
第 6 回	跳躍運動の指導（走幅跳・三段跳）	走幅跳・三段跳の指導法を学習する。
第 7 回	跳躍運動の指導（走高跳・棒高跳）	走高跳・棒高跳の指導法を学習する。
第 8 回	投運動の理論・指導法	棟運動の理論、指導法を学習する。
第 9 回	投運動の指導（砲丸投・円盤投）	砲丸投・円盤投の指導法を学習する。
第 10 回	投運動の指導（やり投げ・ハンマー投）	やり投げ・ハンマー投げの指導法を学習する。
第 11 回	歩運動の理論と実技	歩運動の実践から指導法を学習する。
第 12 回	走運動の指導案作成と指導実習	走運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 13 回	跳躍運動の指導案作成と指導実習	跳躍運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 14 回	投擲運動の指導案作成と指導実習	投擲運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：次回授業の準備、および前回授業への取り組みについて復習すること。
準備・復習時間は合わせて各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
実技・実習（30 %）、平常点（70 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, students will learn and master the training theories and coaching methods of track-and-field.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course learn to the training theories and coaching methods of track-and-field.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than four hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: practical examination
(30%) and usual performance score (70%).

HSS200IA

野外教育実習（スノー）

高見　京太

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 1 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウインタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウインタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】
ウインタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウインタースポーツの技術と指導及び野外教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメーキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上と野外教育指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前学習	スノー・スポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
2	開講式、１日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レッスンを行う。
3	１日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
4	２日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の練習を行う。
5	２日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の到達状況を確認する。
6	２日目夜の講義	提示された課題に対して、ループワークを行う。
7	３日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の練習を行う。
8	３日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の到達状況を確認する。
9	３日目夜の講義	2 日目のグループワークの成果を発表する。
10	４日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の練習を行う。
11	４日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の到達状況を確認する。
12	４日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
13	５日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、実技練習のまとめを行う。
14	実技テスト・閉講式	ＳＡＪの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】
・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟 (スキージャーナル社)

【成績評価の方法と基準】
・実習前講義を、正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点 (16%)
・レポート課題 (10%)
・実習の平常点 (42%)
・ワークショップの平常点 (12%)
・実技テスト (10%)
・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Experience the wonders and charms of skiing or snowboarding.
-Obtain objective evidence based on the SAJ (Ski Association of Japan) badge test.
-Aim to become a leader who has acquired the necessary qualities and attitudes as a practical skill, life management, decision-making leader, which is necessary when engaging in youth education in the future.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
· the quality of the students' experimental performance(16%)
Report assignment (10%), Normal point of training (42%), Workshop normal points (12%), Practical test (10%), Training diary (10%)

HSS200IA

野外教育指導論演習（スノー）

高見　京太

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 3 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
旧科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウインタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウインタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】
ウインタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウインタースポーツの技術と指導及び野外教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメーキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上と野外教育の指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけを学習する。
2	野外活動としてのウインタースポーツの特性	野外活動としてのウインタースポーツの特性を学習する。
3	ウインタースポーツの歴史	ウインタースポーツの歴史の古代から隆盛期について学習し、スキーの現代における状況を理解する。
4	ウインタースポーツ活動環境	ウインタースポーツフィールドの自然環境、人文環境、社会環境について学習する。
5	スキー・スノーボードの身体運動学	スキー、スノーボードを解剖学、バイオメカニクス、生理学、心理学的からアプローチする。
6	スキー・スノーボード技術の発達と用品・用具の関係	スキー技術の発達と用品・用具の関係を理解する。
7	スキー技術と方法論（プルークターン	スキーのプルークターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
8	スキーの技術と方法論（シュテムターンとパラレルターン）	スキーのシュテムターンとパラレルターンのメカニズムを学習する。
9	スノーボードの技術と方法論 (ロングターン)	スノーボードのロングターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
10	スノーボードの技術と方法論 (ショートターン)	スノーボードのショートターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
11	スキー・スノーボードの指導法について (装備)	スキー・スノーボードの装備について学習する。
12	スキー・スノーボードの指導法について (学校教育)	学校教育におけるスキー・スノーボードの授業のあり方について学習する。
13	スキー・スノーボードの指導法について (リスクマネジメント)	スキー傷害への対応について学習する。
14	ウインタスポーツキャンプのオーガナイジング―実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方	スキーキャンプのオーガナイジング―実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方を学習する。
15	現地実習の準備	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
16	開講式、１日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。
17	１日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
18	２日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の練習を行う。
19	２日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の到達状況を確認する。
20	２日目夜の種目別講義	基本技術のワークショップを行う。
21	３日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の練習を行う。
22	３日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の到達状況を確認する。
23	３日目夜の種目別講義	ストレッチ、マッサージのワークショップを行う。
24	４日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の練習を行う。
25	４日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の到達状況を確認する。
26	４日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
27	５日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、実技練習のまとめを行う。
28	実技テスト・閉講式	ＳＡＪの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】
・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟 (スキージャーナル社)

【成績評価の方法と基準】
・実習前講義を、無断または正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点 (16%)
・レポート課題 (10%)
・実習の平常点 (42%)
・ワークショップの平常点 (12%)
・実技テスト (10%)
・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Experience the wonders and charms of skiing or snowboarding.
-Obtain objective evidence based on the SAJ (Ski Association of Japan) badge test.
-Aim to become a leader who has acquired the necessary qualities and attitudes as a practical skill, life management, decision-making leader, which is necessary when engaging in youth education in the future.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
・the quality of the students' experimental performance(16%)
Report assignment (10%), Normal point of training (42%), Workshop normal points (12%), Practical test (10%), Training diary (10%)

HSS100IA

柔道実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4 年次／1 単位
曜日・時限：土 1/Sat.1
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
・学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。
・礼法を習得する。
・受け身を習得し、安全に柔道ができるようにする。
・柔道の基本動作（構え、組み方、歩き方、体さばき）を習得することで投げ技と固め技がスムーズに行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順 1	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順 2	体落とし
5	練習法の理解とその実際 1	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順 1	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順 2	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際 2	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順 1	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順 2	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
・まず受け身を身につけることが肝要であり、安全にも結びつくので、授業以外でも場所を見つけて受け身の練習をしてください。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢と礼法　40 %
・受け身テスト（後ろ、横、前、前まわり）20 %
・技能テスト（授業で取り上げた投げ技と固め技）40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の柔道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Judo is a culture unique to Japan that originated from Jiu-jitsu, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, To be able to enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat.
【Learning Objective】
To be able to attack and defend with the throwing techniques and katame-techniques.
To master “Rei-hou".
To master "ukemi" so that students can perform judo safely.
To master the basic movements of Judo (stance, kumi-kata, way of walking, and bodywork) so that students can smoothly execute nage-waza and katame-waza.
【Learning activities outside of classroom】
The first thing to do is to learn “ukemi", which will lead to safety, so please find a place outside of class to practice “ukemi".
The standard total preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation in class and courtesy 40%
“Ukemi" test (back, side, front, and forward): 20%.
Skills test (“nage” and “katame’ techniques covered in class) 40%

HSS100IA

柔道実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
・学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。
・礼法を習得する。
・受け身を習得し、安全に柔道ができるようにする。
・柔道の基本動作（構え、組み方、歩き方、体さばき）を習得することで投げ技と固め技がスムーズに行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順 1	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順 2	体落とし
5	練習法の理解とその実際 1	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順 1	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順 2	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際 2	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順 1	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順 2	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
・まず受け身を身につけることが肝要であり、安全にも結びつくので、授業以外でも場所を見つけて受け身の練習をしてください。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢と礼法　40 %
・受け身テスト（後ろ、横、前、前まわり）20 %
・技能テスト（授業で取り上げた投げ技と固め技）40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の柔道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Judo is a culture unique to Japan that originated from Jiu-jitsu, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, To be able to enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat.
【Learning Objective】
To be able to attack and defend with the throwing techniques and katame-techniques.
To master “Rei-hou".
To master "ukemi" so that students can perform judo safely.
To master the basic movements of Judo (stance, kumi-kata, way of walking, and bodywork) so that students can smoothly execute nage-waza and katame-waza.
【Learning activities outside of classroom】
The first thing to do is to learn “ukemi", which will lead to safety, so please find a place outside of class to practice “ukemi".
The standard total preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation in class and courtesy 40%
“Ukemi" test (back, side, front, and forward): 20%.
Skills test (“nage” and “katame’ techniques covered in class) 40%

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
旧科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
・学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。
・礼法を習得する。
・受け身を習得し、安全に柔道ができるようにする。
・柔道の基本動作（構え、組み方、歩き方、体さばき）を習得することで投げ技と固め技がスムーズに行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順 1	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順 2	体落とし
5	練習法の理解とその実際 1	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順 1	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順 2	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際 2	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順 1	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順 2	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
・まず受け身を身につけることが肝要であり、安全にも結びつくので、授業以外でも場所を見つけて受け身の練習をしてください。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢と礼法　40 %
・受け身テスト（後ろ、横、前、前まわり）20 %
・技能テスト（授業で取り上げた投げ技と固め技）40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の柔道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Judo is a culture unique to Japan that originated from Jiu-jitsu, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, To be able to enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat.
【Learning Objective】
To be able to attack and defend with the throwing techniques and katame-techniques.
To master "Rei-hou".
To master "ukemi" so that students can perform judo safely.
To master the basic movements of Judo (stance, kumi-kata, way of walking, and bodywork) so that students can smoothly execute nage-waza and katame-waza.
【Learning activities outside of classroom】
The first thing to do is to learn "ukemi", which will lead to safety, so please find a place outside of class to practice "ukemi".
The standard total preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation in class and courtesy 40%
"Ukemi" test (back, side, front, and forward): 20%.
Skills test ("nage" and "katame' techniques covered in class) 40%

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
旧科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
・学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。
・礼法を習得する。
・受け身を習得し、安全に柔道ができるようにする。
・柔道の基本動作（構え、組み方、歩き方、体さばき）を習得することで投げ技と固め技がスムーズに行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順 1	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順 2	体落とし
5	練習法の理解とその実際 1	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順 1	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順 2	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際 2	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順 1	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順 2	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
・まず受け身を身につけることが肝要であり、安全にも結びつくので、授業以外でも場所を見つけて受け身の練習をしてください。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢と礼法　40 %
・受け身テスト（後ろ、横、前、前まわり）20 %
・技能テスト（授業で取り上げた投げ技と固め技）40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の柔道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Judo is a culture unique to Japan that originated from Jiu-jitsu, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, To be able to enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat.
【Learning Objective】
To be able to attack and defend with the throwing techniques and katame-techniques.
To master “Rei-hou".
To master "ukemi" so that students can perform judo safely.
To master the basic movements of Judo (stance, kumi-kata, way of walking, and bodywork) so that students can smoothly execute nage-waza and katame-waza.
【Learning activities outside of classroom】
The first thing to do is to learn “ukemi", which will lead to safety, so please find a place outside of class to practice “ukemi".
The standard total preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation in class and courtesy 40%
“Ukemi" test (back, side, front, and forward): 20%.
Skills test (“nage” and “katame’ techniques covered in class) 40%

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2018 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
旧科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・授業を受ける側が理解しやすい言葉を選び、理解を助ける効果的なデモンストレーションができるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。柔道独特の特殊な動作が多いので、その習得に時間をかけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50 %
グループを作り先生役と生徒役に分かれ模擬授業を行います。授業のテーマの選び方、テーマに対する授業の組み立ての整合性、デモンストレーションの巧拙、言葉のわかりやすさなどを評価します。
・平常点　　50 %
積極的な授業参加度合いと発言等で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 3 0 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Martial arts is a culture unique to Japan that originated from martial arts, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, It is an exercise where you can enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat. Practice making the martial arts class.
【Learning Objective】
To be able to conduct safe and effective classes that take advantage of the characteristics of martial arts.
To choose words that are easy for students to understand, and to give effective demonstrations that help them understand.
For those who wish to advance their skills, we will introduce opportunities for dan promotion and other means to help them become dan masters.
【Learning activities outside of classroom】
The students will be instructed in class, but they should also read the Health and Physical Education section of the Courses of Study for Junior High Schools and High Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology). Since there are many special movements unique to judo, please take time to learn them.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Practice class exam 50%.
Students will be divided into groups and take on the roles of teacher and students to conduct a mock class. The teacher and students will be evaluated on how they choose the theme of the class, the consistency of the class structure with respect to the theme, the skill of their demonstration, and the clarity of their language.
Ordinary score: 50%.
Evaluation will be based on the degree of active participation in class and comments made.

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
旧科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**
備考（履修条件等）：**※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50 %
・平常点　　50 %

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・対面で授業ができる状況になった場合には対面授業を行う。
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案の発表し、それに対して全員でコメントおよび修正できるようにする。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	仮模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	仮模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	仮模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	仮模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	仮模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	仮模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。柔道独特の特殊な動作が多いので、その習得に時間をかけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50 %
グループを作り先生役と生徒役に分かれ模擬授業を行います。授業のテーマの選び方、テーマに対する授業の組み立ての整合性、デモンストレーションの巧拙、言葉のわかりやすさなどを評価します。
・平常点　　50 %
積極的な授業参加度合いと発言等で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 30 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Martial arts is a culture unique to Japan that originated from martial arts, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, It is an exercise where you can enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat. Practice making the martial arts class.
【Learning Objective】
To be able to conduct safe and effective classes that take advantage of the characteristics of martial arts.
To choose words that are easy for students to understand, and to give effective demonstrations that help them understand.
For those who wish to advance their skills, we will introduce opportunities for dan promotion and other means to help them become dan masters.
【Learning activities outside of classroom】
The students will be instructed in class, but they should also read the Health and Physical Education section of the Courses of Study for Junior High Schools and High Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology). Since there are many special movements unique to judo, please take time to learn them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Practice class exam 50%.
Students will be divided into groups and take on the roles of teacher and students to conduct a mock class. The teacher and students will be evaluated on how they choose the theme of the class, the consistency of the class structure with respect to the theme, the skill of their demonstration, and the clarity of their language.
Ordinary score: 50%.
Evaluation will be based on the degree of active participation in class and comments made.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・対面で授業ができる状況になった場合には対面授業を行う。
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案の発表し、それに対して全員でコメントおよび修正できるようにする。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	仮模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	仮模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	仮模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	仮模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	仮模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	仮模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。柔道独特の特殊な動作が多いので、その習得に時間をかけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50 %
グループを作り先生役と生徒役に分かれ模擬授業を行います。授業のテーマの選び方、テーマに対する授業の組み立ての整合性、デモンストレーションの巧拙、言葉のわかりやすさなどを評価します。
・平常点　　50 %
積極的な授業参加度合いと発言等で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 30 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Martial arts is a culture unique to Japan that originated from martial arts, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, It is an exercise where you can enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat. Practice making the martial arts class.
【Learning Objective】
To be able to conduct safe and effective classes that take advantage of the characteristics of martial arts.
To choose words that are easy for students to understand, and to give effective demonstrations that help them understand.
For those who wish to advance their skills, we will introduce opportunities for dan promotion and other means to help them become dan masters.
【Learning activities outside of classroom】
The students will be instructed in class, but they should also read the Health and Physical Education section of the Courses of Study for Junior High Schools and High Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology). Since there are many special movements unique to judo, please take time to learn them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Practice class exam 50%.
Students will be divided into groups and take on the roles of teacher and students to conduct a mock class. The teacher and students will be evaluated on how they choose the theme of the class, the consistency of the class structure with respect to the theme, the skill of their demonstration, and the clarity of their language.
Ordinary score: 50%.
Evaluation will be based on the degree of active participation in class and comments made.

HSS200IA

スイミング実習

金田　和也

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回目はガイダンスとして受講者を確認する。2 回目からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の流れや課題などを確認いたします。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング実習

金田　和也

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回目はガイダンスとして受講者を確認する。2 回目からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の流れや課題などを確認いたします。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論演習

金田　和也

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧科目名：**スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者 (大学生) がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。４泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本 技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方:８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と 100 ｍ個人メドレーのタイム測定を行う）
他施設をお借りしての授業となります

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】
将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論実習

金田　和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1
旧科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回目はガイダンスとして受講者を確認する。2 回目からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の流れや課題などを確認いたします。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論実習

金田　和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
旧科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1 回目はガイダンスとして受講者を確認する。2 回目からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の流れや課題などを確認いたします。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論演習

金田　和也

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧科目名：**スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者 (大学生) がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。４泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本 技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方:８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と 100 ｍ個人メドレーのタイム測定を行う）
本年は他施設を借りての授業となります。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】
将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

【Outline (in English)】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

ハンドボール実習

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハンドボールの基礎理論及び技能、指導方法について小学校・中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。ハンドボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し，ハンドボールの各ポジション・ゲームに求めらる技術や戦術を理解できる。ハンドボール試合にてプレーできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
GSA(game sense approach), 様々なサイドゲームを導入し, 常に戦術的な課題解決しながら必要な技術とルールを学ぶ。学生によるグループディスカッション形式にて課題解決を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ミニゲーム	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認
2	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム①	ハンドボールボールの投げ方、キャッチ
3	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム②	基本的なシュート（ランニング、ステップ、ジャンプ）を学ぶ
4	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム④	オフザボール動きを学ぶ
5	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑤	ディフェンスの基本技術を習得する
6	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑥	各ポジションにおけるシュート技術を習得する
7	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑦	各ポジションにおけるディフェンスの考え方、及技術を習得する
8	ゴールキーパーの基礎技術、ゲーム	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
9	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム①	２〜３人で連携してプレーする。スペースの作り方。
10	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム②	２〜３人で連携してプレーする。クロス。
11	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム③	防御における２〜３人の連携、及ゴールキーパーとの連携
12	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム①	基本的な攻撃と防御システムを学ぶ。マンツーマンディフェンスとそれに対する攻撃
13	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム②	ゾーンディフェンスとそれに対する攻撃
14	まとめ、ハンドボール紅白試合	学生達が運営したハンドボール試合を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ハンドボール試合視察
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
レポート 25 % テスト 25 % 授業の総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Students will obtain the basic techniques and tactics of handball and understand the rules through active participation. Basic skills will be thought through various teaching methods (traditional, TGfU, GSA, etc) that can be applied to the actual teaching environment and circumstances.

HSS200IA

ハンドボール指導論演習

NEMES ROLAND JANOS

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハンドボールの指導では年齢とレベルに応じて課題が異なる。本授業では、ハンドボールの種目特性と、特に中学生・高校生を指導する際の課題を認識させ、生徒をハンドボールに親しませることができるような体育授業を行える指導力を養成する。また、ルール、審判法、安全等に関する知識およびフェアプレイを遵守する態度についても理解を深めさせる。

【到達目標】
小学校・中学校・高等学校において、ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し，生徒に基礎的な技術および戦術，知識，態度を習得させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認、指導に関する原理・原則の解説
2	ハンドボールの歴史と現況	ハンドボール競技の発展、ルール・戦術の発達
3	ハンドボールの特性及び指導理論	ハンドボールのゲーム構造 攻撃と防御の技術と戦術、一貫指導、年代別指導、学校体育での指導
4	個人技能の習得	コートプレーヤーの基礎技術とゲーム
5	個人戦術力の習得	コートプレーヤーの個人戦術とゲーム
6	グループ戦術力の習得	コートプレーヤーのグループ・チーム戦術とゲーム
7	ゴールキーピング技能の習得	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
8	まとめとテスト 指導案作成	ルールのテスト ２～３名のグループに分かれ、担当する模擬授業の指導案を作成する
9	模擬授業 1	担当グループが「攻撃の基礎技術」をテーマとし、伝統的な指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
10	模擬授業 2	担当グループが「攻撃の基礎技術」をテーマとし、ゲーム形式の指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
11	模擬授業 3	担当グループが「防御の基礎技術」をテーマとし、伝統的な指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
12	模擬授業 4	担当グループが「防御の基礎技術」をテーマとし、ゲーム形式の指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
13	模擬授業 5	担当グループが「攻撃におけるグループ戦術」をテーマとし、ゲーム形式の指導法を使い、。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
14	まとめ、紅白試合	模擬授業のまとめと振り返り ・試合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループプレゼンの準備が求められる。
未定本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
必要に応じて資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【成績評価の方法と基準】
発表 25 %、指導案の評価 25%、授業の総合評価 25%、テスト 25%
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズを準備するこ。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Students will learn and practice the teaching methodology of handball, specially focused on the 10-16 years old age group.Beside learning the methodology, they will be able to refereeing and organizing handball game.
The main goal of the class is to be able to organize and conduct handball specific lessons for children of various ages. Students will teach handball technical and tactical elements to each-other in groups. There performance will be evaluated by the teacher and by each-other as well. Feedback is going to be provided after each lesson. Writing and submitting lesson plans individually and in
group too will be required.

HSS200IA

青少年指導実習（サッカー）

小井土　正亮

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度入学生以降対象**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本サッカー協会公認 C 級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、サッカー指導者としての基礎的な能力を身につける。

【到達目標】
サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認 C 級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第 2 回	発育発達と一貫指導	発育による心と身体の変化を知る。
	サッカーの競技精神	プレーする心がまえについて理解を深める。
第 3 回	チームマネジメント	チーム運営の方法を学ぶ。
	メディカル	医学的な理解を深める。
第 4 回	ゲーム	ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第 5 回	テクニック	サッカーにおけるテクニックについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第 6 回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第 7 回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第 8 回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第 9 回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第 10 回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第 1 グループ 1 回目。
第 11 回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第 2 グループ 1 回目。
第 12 回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第 1 グループ 2 回目。
第 13 回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第 2 グループ 2 回目。
第 14 回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
JFA サッカー指導教本 2022
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 80 %、授業後のレポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本授業は基本的には集中形式（2023 年 1 月を予定）で行う
ガイダンスならびに第 2 回、第 3 回の講義については事前にオンラインによる講義（後期期間中）を行う
受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format (scheduled for January 2023).
Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.
Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.
Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】
The goal is that acquiring basic abilities as a soccer coach in accordance with the curriculum of the Japan Football Association official C-class coach license course.
【到達目標（Learning Objectives）】
As a first step as a soccer coach, acquire the basic knowledge and skills necessary for coaching, and be able to properly coach players in the upbringing age.
Obtained a C-class coach license officially recognized by the Japan Football Association.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is desirable to look back on the soccer coaching methods that you have experienced in your youth and analyze them from various angles.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Normal score 80%, post-class report 20%

HSS200IA

青少年指導実習（陸上）

苅部　俊二

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度入学生以降対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学童期から少年期におけるスポーツ指導（陸上運動）の方法について理論を実践の両面から学んでいく。

【到達目標】
学童期から少年期の発育発達期におけるスポーツ指導の方法について、理論と実践の両面から学び、青少年スポーツ（陸上運動）の指導者に必要な知識を深める.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
発育発達期におけるトレーニング論、指導法、学童期から少年期の障害や心理について知識を養い，少年アスリートのクラブチームに実際に参加し，指導を体験することで理解を深める。また，指導の計画，方法について検討し，体験終了後にはその成果や反省点，改善点について発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、クラブチームの紹介。
第 2 回	発育発達① 身体、運動能力の発達	学童期から少年期の身体と運動の発育発達について学習する。
第 3 回	発育発達② 心の発達	学童期から少年期の心の発育について学習する。
第 4 回	発育発達③ トレーニングと障害、危機管理	トレーニング法や発育発達期における傷害、危機管理について学習する。
第 5 回	キッズの指導法① 体力指導	学童期から少年期の体力要素の指導法について学習する。
第 6 回	キッズの指導法② 技術指導	学童期から少年期の技術要素の指導法を学習する。
第 7 回	スポーツクラブの実際	総合型地域スポーツクラブの現状を学習する。
第 8 回	指導実習① 幼児	幼児の指導を実施する。
第 9 回	指導実習② 学童（低学年 1）	学童（低学年： 1 年-2 年）の指導を実施する。
第 10 回	指導実習③ 学童（中学年）	学童（中学年： 3 年-4 年）の指導を実施する。
第 11 回	指導実習④ 学童（高学年）	学童（高学年： 5 年-6 年）の指導を実施する。
第 12 回	指導実習⑤ 少年期（中学生）	少年期（中学生）の指導を実施する。
第 13 回	指導実習⑥ 青少年期（高校生）	青少年期（高校生）の指導を実施する。
第 14 回	指導実践の報告	指導結果の報告と発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習前は指導法の確認、実習後は報告書の作成を行う。
準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 13 楽しいキッズの陸上競技　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
実習 (60%)、授業への積極的な貢献度 (20%)、レポート（20 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
These practice sessions introduce the methods and practices of sports training for schoolchildren and preadolescents. Students will learn how to apply coaching theories to practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course learn to the methods and practices of track-and-field for schoolchildren.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than two hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: practical training
(60%) , short reports (20%) and usual performance score (20%).

HSS200IA

野外教育実習（マリン）

井上　尊寛、木下　訓光

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 1 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材についてダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1 ボードセイリング	機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深め、操作技術について学習する
10	現地実習 2 スキューバダイビング	水中で自由に移動する技術の獲得 (中性浮力)、さらに、教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
11	現地実習 3 シーカヤック	カヤックやパドルの形状や機能、および潮の満ち引きや川の流れ、風との関係についても理解し、自由に操れるような操作技術について学習する
12	現地実習 4 ウェイクボード	器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解し、水面に立ち、ボードをコントロールするための技術について学習する
13	現地実習 5 スタンドアップパドル	用具の理解や特徴を捉え、自由に海面を進めるような技術について学習する
14	総括	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて資料を配布する
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline & learning Objectives)This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end report: 40%、Short reports : 40%、in-class contribution : 20%.

HSS200IA

野外教育指導論演習（マリン）

井上　尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：※ 2013〜2017 年度入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材についてダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1	ウィンドサーフィンの機材について 機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深める
10	現地実習 2	ウインドサーフィンの技術について ボードに立ち、風を受けながら進むための技術の獲得
11	現地実習 3	ウィンドサーフィンの技術について 2 ある程度自由にボードを操れるような操作技術の獲得
12	現地実習 4	スキューバダイビングの技術について 1 実際に海中にて活動し、プールとの違いを理解する
13	現地実習 5	スキューバダイビングの技術について 2 バディシステムについて理解を深め、お互いの状況に配慮しながら潜行する
14	現地実習 6	スキューバダイビングの技術について 3 海中の状況に応じた泳法や、中性浮力を保つ
15	現地実習 7	スキューバダイビングの技術について 4　水中で自由に移動する技術の獲得の他に、 海中でのリスクについても検討する
16	現地実習 8	スキューバダイビングの技術について 5 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
17	現地実習 9	シーカヤックの技術 1 カヤックの形状や機能、パドルの形状や、推進力を得るための構造について理解する
18	現地実習 10	シーカヤックの技術 2 自由に艇を操縦するためのパドリングや、舵の取り方を学習する
19	現地実習 11	シーカヤックの技術 3 １人乗りと２人のりそれぞれを操り、それぞれの違いについて理解する
20	現地実習 12	シーカヤックの技術 4 潮の満ち引きや、川上もしくは川下への移動におけるカヤックの状態について理解する
21	現地実習 13	シーカヤックの技術 5 教育的な側面から、指導の意義とリスクについて理解する
22	現地実習 14	ウェイクボードの技術 1 器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解する
23	現地実習 15	ウェイクボードの技術 2 水面に立ち、ボードをコントロールするための技術の獲得
24	現地実習 16	ウェイクボードの技術 3 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
25	現地実習 17	スタンドアップパドルの技術 1 用具の理解や、特徴を捉える
26	現地実習 18	スタンドアップパドルの技術 2 自由に海面を進めるような技術の獲得
27	講義	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義に ついて検討する
28	総括	終了後、活動の内容をそれぞれでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて資料を配布する
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline & learning Objectives)This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end report: 40%、Short reports : 40%、in-class contribution : 20%.

HSS200IA

野外教育実習（キャンプ）

島本　好平、井上　尊寛、鬼頭　英明

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 1 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近郊に豊かな自然を有する多摩キャンパスの立地を活かし、自然に親しみ、自然環境への理解と関心を深めることを目的とした野外教育実習を実施する。

【到達目標】
自然に親しむゲーム・アクティビティを通して自然環境への理解と関心を深めるとともに、今日の野外教育の動向や自然に潜む危険性に対する認識も高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
事前学習として、大学校内において野外教育に関する講義と簡易な実習、野外における衛生管理に関する講義を受ける。その後、校外において宿泊を伴う野外実習を行い、自然に親しみ、自然に対する理解や認識を深め、自己の気付きや変化等に対するレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	校内学習および校外学習に関する説明、服装等の準備物、健康上の諸注意、授業評価について、等
2	野外教育について（講義）	社会環境の変化等による自然への理解や認識の不足、自然への対応力の不足が指摘される中で、今日に求められる野外教育について学習する。
3	野外での健康・衛生管理について	怪我・疾病に対する応急処置、細菌性及び自然毒食中毒発生防止のための衛生管理の配慮事項等について学習する。
4	自然に親しむ簡易ゲーム①	大学校内で「自然を観る」ゲームを実践する。
5	自然に親しむ簡易ゲーム②	大学校内で「自然を探す」ゲームを実践する。
6	自然に親しむ簡易ゲーム③	大学校内で「生態系を感じる」ゲームを実践する。
7	校外実習①-「自然を観る」	多摩近郊の野外において「自然を観る」活動やゲームを実践する。
8	校外実習②-「自然を触る」	多摩近郊の野外において「自然を触る」活動やゲームを実践する。
9	校外実習③-「自然を味わう」	多摩近郊の野外において「自然を味わう」活動を実践する。
10	校外実習④-「自然を聴く」	多摩近郊の野外において「自然を聴く」活動を実践する。
11	校外学習⑤－「自然を探す」	多摩近郊の野外において「自然を探す」活動を実践する。
12	振り返り①「グループ・ディスカッション」	自然への気づき、認識、理解という点から、感得したものや学習成果についてグループ・ディスカッションを行う。
13	校外実習⑤-「自然への対応」	自然を利用した冒険教育系の野外活動を実施。
14	振り返り②「レポート提出」	自己の自然への気づき、認識、理解の深まり等について振り返りを行い、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は 2 時間、復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度配付する。

【参考書】
自然体験活動研究会編『野外教育の理論と実践』
熊條歩『学校教育を活かす自然体験教育』

【成績評価の方法と基準】
積極的な体験活動への参加とその態度（60 %）、振り返り・レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
記載不要

【学生が準備すべき機器他】
野外での活動に適した服装、シューズ等

【その他の重要事項】
体調を整えて参加すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire understanding and interest in the natural environment. At the end of the course, students are expected to learn positive attitude toward outdoor activities. Your study time will be more than a few hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
The prior study: 20%, The main outdoor activities: 60%, The final report: 20%

HSS200IA

スポーツコーチング海外演習

NEMES ROLAND JANOS、井上　尊寛

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**スプリングセッション**/Spring Session ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
欧州のトップスポーツクラブ (サッカーを中心とするが他の競技も扱う) を実際に現地視察し、コーチングの観点を持ちながら多角的に学ぶ。履修者は (1) 欧州サッカーのレベルを直に感じ、選手の強化・育成 (トップチームや下部組織)・普及について、コーチングや指導方法だけでなく、トレーニング環境やスタジアムなどの周辺的な環境についても理解を深める。(2) 欧州のスポーツに対する考え方、文化、国としての制度・政策についても理解を深める。(3) プロスポーツという事業が指導現場といかにかかわっているのか、多角的な視点からの理解も深めていくことも目的とする。

【到達目標】
・海外のトップレベルのコーチング方法やモデルを理解する。
・強化・育成・普及といったクラブ構造やクラブ哲学に関して理解する。
・ヨーロッパの総合型スポーツクラブ・スポーツシューレをはじめとした、スポーツ環境などについて多角的な視点から学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は（1）現地スポーツ系の大学ないしはクラブでの講義と（2）現地での現場実習に区分される。現地スポーツ大学ないしはクラブの講義においては、欧州スポーツの特徴や選手の強化・育成・普及構造システム、指導方法、クラブフィロソフィーなどを学ぶ。また現地で実際に活躍されている海外の指導者やスタッフなどの専門家との講義・ディスカッションも行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方、留意すべき点、評価の方法
2	事前指導①	指導者の役割についての国際比較について
3	事前指導②	欧州におけるスポーツ文化と指導の実際
4	事前指導③	指導現場で用いられる用語についての解説
5	現地実習①	トップチームトレーニング視察
6	現地実習②	アカデミートレーニング視察
7	現地実習③	普及現場におけるトレーニング視察
8	現地実習④	関係周辺施設視察
9	現地実習⑤	スタジアム視察
10	現地実習⑥	海外の指導者、スタッフ、専門家とのディスカッション（コーチングプログラム・タレント養成発掘プログラム等について）
11	現地実習⑦	現地での試合観戦 (事前のスカウティングも含む)
12	現地実習⑧	スカウティングレポートの作成
13	報告会・総括	海外演習での経験・体験を総括し、共有することで、今後のコーチング現場への活用を見出す
14	事後指導	現地での体験から得たものなどの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海外の文化・習慣・言語などについ情報をまとめておき、実際に自身がこの演習を通して何を学び、今後にいかすか目的を明確にしておくことが望ましい
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
本演習の事前講義・海外演習・事後演習、報告会への全出席したうえで、理解度、平常点等を総合的に評価する。レポート 50%、模擬授業の総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき特になし

【Outline (in English)】
(Course outline & learning Objectives)The goal of this stay is to know and to understand the football system in Europe.
We will focus on:
- Training methods, coaching approach (visit ofprofessional team)
- Relationship with sport, differences between Asia and Europe
- Not only coaching approach but also sports management.
(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end report: 40%、Short reports : 40%、in-class contribution : 20%.

HSS200IA

専門演習 I

安藤　正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らあるいは他人の健康管理ができるようになることが授業の目的である。
検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ
健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める
健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を学ぶ

【到達目標】
上級生あるいは教員と協同して課題に取り込むことで、身体機能の測定やメンテナンスを指導できる能力を身につけ、健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し自ら学ぶ課題解決型学習と実習形態である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	機能解剖学実習（運動器を中心に復習する）	共同で復習と学習する
3	機能解剖学知識のまとめ	健康管理やトレーニングに必要な機能解剖学を獲得しているかを確認する
4	ストレッチング実習１（頚部・上半身）	共同でストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
5	ストレッチング実習２（体幹・下半身）	共同でストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
6	ストレッチング実習３（復習）	ストレッチングの基礎テクニック 30 手技を復習する
7	ストレッチング知識と技術のまとめ	健康管理やトレーニングに必要なストレッチング技術を獲得しているかを確認する
8	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習２１（頚部・上半身）	共同でマッサージの技術を実習をしながら獲得する
9	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習２（頚部・上半身）	共同でマッサージの技術を実習をしながら獲得する
10	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習３（復習）	マッサージが代表的な筋（30）に実施できるか確認する
11	マッサージ知識と技術のまとめ	健康管理やトレーニングに必要なマッサージ技術を獲得しているかを確認する
12	検査測定実習１（バイタルサイン）	バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸）の測定実習
13	検査測定実習２（頚部・上肢の可動域測定）	頚、肩、肘、手関節の可動域測定実習
14	検査測定実習３（体幹・下肢の可動域測定）	体幹、股、膝、足関節の可動域測定実習
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	検査測定実習４（上肢・筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
17	検査測定実習５（下肢・筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
18	検査測定実習（四肢長・周径測定）	四肢長・四肢周径の測定方法を学び実習する
19	検査測定実習（まとめ）	基本的な検査測定技術が獲得されたかを確認する
20	トレーニング実習１（健康増進）	健康増進を目的とするトレーニングを立案し実施する
21	トレーニング実習２（筋力増大）	筋力増強を目的とするトレーニングを立案し実施する
22	トレーニング実習３（全身持久力増大）	全身持久力増大を目的とするトレーニングを立案し実施する
23	トレーニング実習４（器具・マシーン）	トレーニング器具やマシーンを使用したトレーニングを体験する
24	検査測定で得られたデーター処理方法を学ぶ	データ分析 t 検定、相関分析、分散分析など
25	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表１	発表資料作成（３名程度の学生）
26	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表２	最終課題発表（前回以外の３名程度の学生）
27	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表３	最終課題発表（前回以外の３名程度の学生）
28	同じゼミ生の卒業研究発表会に参加する	研究発表の仕方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の調査、報告書のまとめなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツリハビリテーション学会監修　JSSR 認定トレーナー教本（※この授業を履修すると JSSR 認定トレーナー試験資格が得られます）

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点；積極的発言や態度、単元ごとの検定やテストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】
より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。
実技を中心に体験型の授業とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

【Outline (in English)】
Course outline:
The course outline is as follows. We will learn about basic health fitness tests, functional anatomy, stretching techniques, training techniques, and relaxation techniques.
Learning Objectives:
Learning Objectives is about getting basic health care and implementing health promotion programs.
Learning activities outside of classroom:
For Learning activities outside of classroom, please review and practice what you learned in class.
Grading Criteria:
Grading Criteria is determined by the performance of the assignment and the results of the certification exam.

HSS200IA

専門演習 I

中澤　史

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学に関する文献の講読を通して当該領域の動向を理解する。体験的学習やフィールドワークを通してデータを収集し、分析した結果について考察する。これらの取り組みを通して調査研究の方法を総合的に学習する。

【到達目標】
1. スポーツ心理学領域の動向について説明することがきる。
2. スポーツ心理学に関するデータを収集し、分析することができる。
3. 分析した結果について考察し、発表できる。
4. 研究テーマを抄録にまとめ、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
アスリートの心理サポートやチームビルディングを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告の内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深めるとともに各自の研究テーマを絞り込んでいく。また、講義、体験的学習、フィールドワークなどにより、卒業研究の遂行に不可欠となる基礎的な調査方法について学ぶ。授業で取り組むプレゼンテーションやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	スポーツ心理学で用いられるグループワークへの参加を通して、その方法、意義などについて学習する。
3	体験的学習によるデータ収集	スポーツを用いた体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	データの入力・分析	収集したデータをエクセルシートに入力し、統計ソフトを用いて集計・分析する。
5	データの整理	集約したデータを基礎集計としてまとめ、図表を作成する。
6	発表用資料の作成	整理したデータをパワーポイントにまとめて発表する。
7	パーソナリティ検査	パーソナリティ検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
8	心理的競技能力の診断	心理的競技能力診断検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
9	チームワークの診断	チームワークを診断する心理検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
10	対人関係能力の診断	対人関係能力を診断する質問紙を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
11	実践報告を読む	スポーツ心理学に関する実践報告の講読を通して研究論文のまとめ方について学習する。
12	研究構想と抄録のまとめ方	ゼミ内の研究構想報告会に参加し、抄録のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究内容の発表	今後取り組む予定の研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。
15	研究内容の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	文献の収集	スポーツ心理学に関する先行研究、図書、雑誌等の文献の収集方法について学習する。
17	研究倫理	研究倫理、同意書、調査概要の説明の仕方等について学習する。
18	調査の方法	個別調査におけるインタビューガイドの作成や調査方法等について学習する。
19	質的研究の理論と方法	スポーツ心理学領域における質的研究の理論と方法について学習する。
20	心理統計法の理論と実践（データ集約について学ぶ）	欠損値の処理や新しい変数の作成など、データハンドリングの方法を学習する。
21	心理統計法の理論と実践（相関関係について学ぶ）	2 変数間の相関関係を分析する方法を学習する。
22	心理統計法の理論と実践（有意差検定について学ぶ）	2 群間の平均値差を分析する方法を学習する。
23	効果的なプレゼンの技術	相手に「伝わる」プレゼン資料の作成と発表の方法を学習する。
24	体育授業による心理的効果	体育授業による心理的効果について実践報告を通じて学習する。
25	調査研究の流れを知る	ゼミ内の研究計画発表会に参加し、研究計画のまとめ方や発表の仕方について学習する。
26	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文発表会に参加し、卒業論文について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
27	研究内容の発表（第１グループ）	第 1 グループが、研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。
28	研究内容の発表（第２グループ）	第 2 グループが、研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 先行研究の講読、調査の実施、データの収集・分析、結果に対する考察といった予備調査に関わる課題が与えられますので、授業外においてその作業に取り組んでください。
2. ゼミで担当するスポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 中澤　史「アスリートの心理学」日本文化出版　2016
2. 小宮あすか・布井雅人「Excel で今すぐはじめる心理統計　簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社　2018

3. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院　2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 研究計画書・抄録等の提出物： 60 %
2. プレゼンテーション、授業への参画状況： 40 %
※抄録、グループワークによる報告書、リアクションペーパー、各種課題では、授業やグループでの取り組みの内容を踏まえて適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
1. 競技スポーツの現場で役立つ心理スキルの理論と方法について、受講生間で情報交換を行います。
2. チームビルディングの促進に役立つ体験的学習への取り組みを通して、受講生間の新規的人間関係の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
2. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
3. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Understand trends in this area through reading literature on sport psychology. We will consider the results of collecting and analyzing data through experiential learning and fieldwork. Through these efforts, students will comprehensively learn research methods.
【Learning Objectives】
1. Can explain the trends in the field of sport psychology.
2. Can collect and analyze data on sport psychology.
3. Can consider and present the results of the analysis.
4. Can summarize your research theme in an abstract and present it.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this exercise is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.
1. You will be given tasks related to preliminary research such as reading previous research, conducting surveys, collecting and analyzing data, and considering the results, so please work on those tasks outside of class.
2. You will be given the opportunity to collect, analyze and present the results of the data for the sports teams in charge of the seminar, so please work systematically in each group.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.
1. Submissions of research plans, abstracts, etc .: 60%
2. Presentation and participation in classes: 40%

HSS200IA

専門演習 I

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける 2 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】
本ゼミにおける 2 年次の到達目標は以下の 3 点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対して HOPS に基づいた評価ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際（図書館実習）	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学：筋骨格系／上肢	機能解剖学（筋骨格系／上肢）の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学：筋骨格系／下肢	機能解剖学（筋骨格系／下肢）の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学：筋骨格系／体幹	機能解剖学（筋骨格系／体幹）の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学：神経系	機能解剖学（神経系）の演習・小テストを行う。
8	実技演習：テーピング・下肢	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・下肢）を習得する。
9	実技演習：テーピング・上肢	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・上肢）を習得する。
10	実技演習：テーピング・体幹	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・体幹）を習得する。
11	実技演習：他のコンディショニング	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（ストレッチング）を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価：診察学	HOPS および SOAP について学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価：応急処置	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価：まとめ	ロールプレイを通して HOPS を実践する。
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価：夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。
16	肩関節の外傷・障害に関する発表	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害に関する発表	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
18	頚部の外傷・障害に関する発表	頸部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習：肩関節の評価	これまでの肩関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
20	実技演習：膝関節の評価	これまでの膝関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
21	実技演習：頸部の評価	これまでの頚部の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
22	実技演習：総合演習	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
23	腰部の外傷・障害に関する発表	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害に関する発表	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害に関する発表	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害に関する発表	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習：これまでの総合演習	これまでの評価について、実技による実践練習・試験の練習を行う。
28	実技試験とフィードバック	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行うとともにフィードバックをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】
1. 日スポ協公認アスレティックトレーナーテキスト１～９
2. 坂井建雄，松村譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
3. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館．2011
4. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
5.Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
6. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
7. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %），ゼミ内容や課外活動への取り組み（30 %）
出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等も鑑みながら、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
アスレティックトレーナーはスポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で、受講生は一生懸命頑張ってくれている。今後も継続してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The purposes of the athletic training seminar 1 are as follows, 1.learning knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. to have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. 3. to conduct a literature search for previous research.
(Learning Objectives) The following are the three goals of this seminar: 1. to acquire knowledge of functional anatomy; 2. to be able to do a literature search; 3. to be able to do a HOPS-based evaluation.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) Evaluated comprehensively based on normal scores, seminar content, and extracurricular activities.

HSS200IA

専門演習 I

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての基本となる知識を総合的に学習する。「マネジメント（基本と原則）」を読み、マネジメントの基本を学修した後、スポーツマネジメント並びにスポーツ組織行動論の基礎知識を学習する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる。
3．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
前期の授業では、マネジメントならびにスポーツマネジメントに関わる基礎理論について講義を行い、スポーツマネジメント学についての基本となる知識を習得する。後期の授業では、スポーツ組織行動論に関する講義を行い、総合的にスポーツマネジメントを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）、マネジメントの生成と発展について学習する。 マネジメントの生成から現代までの一連の流れを学習する。
3	マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義、スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
5	スポーツビジネスとは	スポーツビジネスの現状、市場について学ぶ。
6	スポーツとメディア	スポーツとメディアの関係について学習する。スポーツ組織とメディアリレーショ ン・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは? 戦略の立て方について学習する。
7	スポーツリーグマネジメント	スポーツビジネスとお金に関わる事例 を経営学的な視点から考えていく。ス ポーツリーグ運営について学習する。
8	スポーツチームマネジメント	スポーツビジネスとお金に関わる事例 を経営学的な視点から考えていく。ス ポーツチーム運営について学習する。
9	企業の社会的責任とスポーツ	スポー ツを使った Corporate social responsibility(CSR) 事例研究) について学習する。
10	ケーススタディー１	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例について課題に取り組む
11	ケーススタディー２	第９回の授業に続き、ケーススタディーについてグループディスカッションを行う
12	プレゼンテーションの方法について	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	プレゼンテーション準備	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う 準備を行う
14	前期最終プレゼンテーション	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う
15	後期授業オリエンテーション	後期の授業の進め方について説明を行う。次年度に向けた授業方針の確認を行う。
16	スポーツ組織について	スポーツ組織における組織形態について学習する。日本のスポーツに関する 政策各スポーツ団体の組織構造について学び、スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、そ れらの評価手法について学習する。
17	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、 スポーツ組織における効果的なリー ダーシップの在り方について学習する。
18	スポーツ組織におけるガ バナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央 競技団体のコンプライアンス強化に関 する現状と課題について学ぶ。
19	スポーツ組織におけるモ チベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズム について理解する。
20	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを 行うかについて学習する。
21	スポーツマネジメントに関する調査について学ぶ	量的調査・質的調査の研究の手法について学ぶ
22	調査の分析方法について学ぶ	基本的な統計的分析の手法について学ぶ（カイ二乗検定、平均値の差の検定、回帰分析など）
23	調査テーマについて学	スポーツマネジメントに関する調査・研究事例を学美、各グループの調査テーマを決める準備を行う。
24	調査研究決定	スポーツマネジメントに関する調査テーマを決め、調査方法を決定する
25	質問項目の決定	質問紙を作成し、質問項目の妥当性、信頼性について確認する
26	調査の実施	スポーツマネジメントに関する調査を行う。データを収集し、データを打ち込む。
27	調査データの分析・考察・まとめ	調査データの分析を行い、その分析をもとに考察、結果のまとめを行う

28	最終グループ発表	各グループで行った調査結果についてグループプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では必ず予習として教科書「マネジメント－基本と原則」や「スポーツマネジメント」を読んでから授業に参加して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マネジメント」[エッセンシャル版]」基本と原則（ピーター・F・ドラッカー上田惇生）ダイヤモンド社「スポーツマネジメント」(改訂版)（原田宗彦・小笠原悦子編著）大修館書店
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【参考書】
特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（100 %）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Comprehensively learn the basic knowledge about sports management studies through management science, social psychology, and sociology. After studying the fundamentals of management by reading " Principle of Management)", you will study the basic knowledge of sports management and sports organization behavior theory. The goals of this course are 1. You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Understand the basic knowledge to effectively manage a sports organization. Grade evaluation is judged by the report assignment (100%) imposed at each class.

HSS200IA

専門演習 I

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第 3 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第 4 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 5 回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 8 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 9 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 10 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第 11 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリー変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法ついて学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検証の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】
(Course outline) This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. (Learning Objectives) Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research. (Learning activities outside of classroom) Your study time will be more than four hours for this seminar. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%) and usual performance score (60%).

HSS200IA

専門演習 I

越智　英輔

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身体活動や運動トレーニングがもたらす身体への応答・適応に関して運動生理学の視点から学びます。過去の先行研究を検索する方法、まとめる方法、仮説の立て方など、実際に実験を計画する上で必要な手法を習得することを目的とします。

【到達目標】
1. 必要な図書・論文の検索が自分でできる。
2. 検索した文献をレビューできる。
3. 理解した内容を、プレゼンテーションができる。
4. 先行研究の位置付けを把握し、実験を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期前半は、文献のインターネット検索法、レビュー法を学んでもらい、まとめた内容を発表してもらいます。その後、実際に実験を実施してもらいます。最後に研究の立案、実験計画の手順（倫理、統計）などを学んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容を説明し、履修人数に応じて授業の進め方を調整する
2	文献の紹介	文献の種別を学ぶ
3	図書検索	図書の検索方法を理解する
4	論文検索	科学論文の検索法を学ぶ
5	文献の分類	検索した文献のレビュー法を学ぶ
6	文献の総括	プレゼンテーション法を学ぶ
7	文献のレビュー発表	実際に文献をまとめて発表する
8	実験の準備	紹介した文献で実施している測定を行うための準備をする
9	実験実習の実施	実験を実施する
10	実験データの解析	得られたデータを分析し、統計解析を行う
11	データのプレゼンテーション法	実験データのプレゼンテーション法を学ぶ
12	プレゼンテーション	実験データを発表し、過去の論文との再現性を確認する
13	筋電図法の紹介	文献、測定法を紹介する
14	筋電図測定の実施	実際に測定する
15	筋電図データのまとめ	分析結果をまとめる
16	筋力測定の紹介	文献・測定法を紹介する
17	筋力測定の実施	実際に測定する
18	筋力測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
19	筋厚、筋硬測定の紹介	文献、測定法を紹介する
20	筋厚、筋硬測定の実施	実際に測定する
21	筋厚、筋硬測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
22	生化学的分析の紹介	文献、測定法を紹介する
23	生化学的分析の実施	実際に実施する
24	生化学的分析の解析	データを解析する
25	生化学的データのプレゼンテーション	分析結果をまとめて発表する
26	研究の仮説立案	これまでの文献レビューと実習を踏まえて研究の仮説を立てる
27	研究計画書の作成	仮説に基づく実験計画書を作成する
28	研究計画書の紹介	作成した計画書を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を検索してもらったり、入手した文献をレビューしてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容 60%、実習を含めた授業への参加姿勢 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
文献検索、プレゼンテーションのための PC が必要です。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential components of exercise training and physical activity on human body to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of research strategy.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports and presentations (60%)and in-class contribution (40%).

HSS200IA

専門演習 I

小田　佳子

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】
学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校の『学習指導要領解説・保健体育編』および体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解く。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域＋体育理論の演習（模擬授業）に参加し体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する
2	「体つくり運動」の理論的検討	「体つくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
3	「体つくり運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体つくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
5	「器械運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
7	「陸上競技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
9	「球技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
11	「武道」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
13	「ダンス」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する
15	「体つくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
16	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
17	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
18	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
19	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
20	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
21	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
22	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
23	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
24	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
25	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
26	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
27	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する
28	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「模擬授業」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は 6 時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）
体育の教材を創る（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）、プレゼンテーション・模擬授業（３０％）、レポート点（２０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り学生参加型による対面方式で授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。
授業形態についてもコロナ感染拡大状況によって柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
Learning the basic theory of Physical Education and lesson planning

HSS200IA

専門演習 I

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学に関する調査・研究について見識を深め、講義で修得した理論を主体的に受けとめ，実践する姿勢を育成する。

【到達目標】
2 年次を対象とし、スポーツ科学（主にコーチング分野）に即した、少人数での報告・討論・実践により見識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学，コーチ学、スポーツ心理学などといったスポーツ科学分野における論文の構成，研究の方法，分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
第 2 回	情報・文献の検索①（図書館）	図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
第 3 回	情報・文献の検索②（インターネット検索）	インターネットなど様々な手法での情報収集、文献検索の方法について学習する。
第 4 回	統計解析①（統計の基礎）	実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
第 5 回	統計解析②（データの収集）	実験・研究に必要な統計解析（データの収集法）について理解を深める。
第 6 回	統計解析③（データの解析）	実験・研究に必要な統計解析（データの解析法）について理解を深める。
第 7 回	研究法①（研究法）	スポーツ科学に関する研究法を学習する。
第 8 回	研究法②（実験法）	スポーツ科学に関する実験法を学習する。
第 9 回	研究法③（調査法）	スポーツ科学に関する調査法を学習する。
第 10 回	文献の検索と輪読①（文献検索）	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。
第 11 回	文献の検索と輪読②（文献輪読）	興味のあるテーマを選択し、文献を検索、輪読する。
第 12 回	文献の検索と輪読③（文献の要約・レジュメの作成）	興味のあるテーマを選択し、文献を要約しレジュメを作成する。
第 13 回	文献の検索と輪読④（プレゼンテーション）	興味のあるテーマを選択し、レジュメを使用し、発表を行う。
第 14 回	文献の検索と輪読⑤（グループワーク・ディスカッション）	興味のあるテーマを選択し、グループワーク、ディスカッションを行う。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期授業のまとめを行う。 夏休み期間の課題研究について話し合う。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。 夏期研究のまとめを行う。
第 17 回	実験・調査の方法 予備実験① （実験機器）	研究・実験に必要な機器について理解を深める。
第 18 回	実験・調査の方法 予備実験② （機器の使用）	実験方法に基づき、実際に機器を使用する。
第 19 回	実験・調査の方法 予備実験③ （社会調査法）	社会調査の方法を学習する。
第 20 回	実験・調査の方法 予備実験④ （データの収集）	予備実験からデータを収集、整理の方法を学習する。
第 21 回	実験・調査の方法 予備実験⑤ （データの解析）	予備実験からデータの解析方法を学習する。
第 22 回	実験・調査の方法 予備実験⑥ （データの解釈）	予備実験からデータの解釈方法を学習する。
第 23 回	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールを学習する。
第 24 回	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
第 25 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション① 研究テーマの検討	各自の研究テーマを模索し検討する。
第 26 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション② 研究テーマの発表	各自の研究テーマについて発表を行う。
第 27 回	今後の研究課題の方向性発表① （研究課題の発表）	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討する。
第 28 回	今後の研究課題の方向性発表② （研究計画の発表）	演習Ⅱに向けた各自の研究課題についての実験・調査の計画を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前次回授業の予習および前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：次回授業の予習および前回授業の復習
準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
学習状況（60 %）と発表（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim of this seminar is read an academic paper and to do oral presentation.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%)
and usual performance score (60%).

HSS200IA

専門演習Ⅰ

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、授業実践や文献輪読を通じて学校保健や公衆衛生上の健康課題について理解を深めることである。
いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど学校保健上の課題を取り上げ、全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】
専門演習を通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、講義により基本的事項について理解を図る。その後、参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。原則、対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	専門演習の進め方について確認する。
2	文献と検索	保健に関する専門雑誌を紹介し、論文の構成について理解する。
3	まとめ方	レポートのまとめ方について理解する。
4	子どもの健康課題	現代的な健康課題について理解する。
5	子どもの生活習慣病の課題	子どもの基本的生活習慣の重要性について理解する。
6	性の逸脱行動	子どもの性に関する健康課題について理解する。
7	喫煙	子どもの喫煙に関する健康課題について理解する。
8	飲酒	子どもの飲酒に関する健康課題について理解する。
9	薬物乱用	子どもの薬物乱用に関する健康課題について理解する。
10	メディアと健康	子どものメディアから受ける健康課題について理解する。
11	子どもが身につけるべきミニマム	保健において子どもが身につけるべきミニマムとは何か理解を深める
12	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について理解を深める
13	学校におけるライフスキル教育の進め方	学校でのライフスキル教育の進め方について理解を深める
14	学習指導要領の組み立て	保健に関する学習指導要領の組み立てについて理解する
15	学習指導要領の系統性	発達段階を踏まえた学習指導要領の校種間での系統性について理解する
16	保健に関する教材の考え方	保健の教材について既存の資料の内容の考え方について理解を深める
17	学習指導要領各論 感染症について	学習指導要領で示される感染症の指導内容について理解する
18	学校安全の教育内容	学校安全に関する指導内容について理解する
19	性に関する指導	学習指導要領における性に関する指導内容について理解を深める
20	喫煙防止教育	学習指導要領における喫煙と健康に関する指導内容について理解を深める
21	飲酒防止教育	学習指導要領における飲酒と健康に関する指導内容について理解を深める
22	薬物乱用防止教育	学習指導要領における薬物乱用と健康に関する指導内容について理解を深める
23	医薬品に関する指導	学習指導要領における医薬品に関する指導内容について理解を深める
24	食育と食品安全	学習指導要領における食に関する指導及び食品安全に関する指導内容について理解を深める
25	心の健康	学習指導要領における心の健康に関する指導内容について理解を深める
26	環境と健康	学習指導要領における環境と健康に関する指導内容について理解を深める
27	がんに関する指導	がんに関する指導内容について理解を深める
28	科学的根拠とは	科学的根拠に基づいて指導することの重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題による準備を基本とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配付資料による。

【参考書】
適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題５０％、プレゼンテーション４０％、平常点１０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見は積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】
授業計画は授業の進展により変更がありうる

【Outline (in English)】
(Course Outline) The purpose of this course is for students to deepen their understanding of health education and public health.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skill for teacher of health education.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports(50%),presentation on research(40%)、in class contribution(10%).

HSS200IA

専門演習 I

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的測定・調査を学ぶ

【到達目標】
科学的測定・調査を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的測定・調査を実践して結果を分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	VO2max の測定	VO2max を測定する
2	VO2max の分析	VO2max を分析する
3	Mechanical efficiency の測定	Mechanical efficiency を測定する
4	Mechanical efficiency の分析	Mechanical efficiency を分析する
5	LT の測定	LT を測定する
6	LT の分析	LT を分析する
7	FFQ による栄養調査	FFQ で栄養摂取を調査する
8	FFQ による栄養調査の分析	FFQ による栄養調査の結果を分析する
9	安静時代謝の測定	安静時代謝を測定する
10	安静時代謝の分析	安静時代謝の測定結果を分析する
11	DXA の測定	DXA で体組成を測定する
12	DXA の分析	DXA の測定結果を分析する
13	InBody の測定	InBody を測定する
14	InBody の分析	InBody の測定結果を分析する
15	自由行動下のエネルギー消費測定	自由行動下のエネルギー消費を測定する
16	自由行動下のエネルギー消費分析	自由行動下のエネルギー消費を分析する
17	MLSS の測定	MLSS を測定する
18	MLSS の分析	MLSS を分析する
19	HIIT の VO2 測定	HIIT の VO2 を測定する
20	HIIT の VO2 分析	HIIT の VO2 分析する
21	トレーニング中の心拍測定	トレーニング中の心拍を測定する
22	トレーニング中の心拍分析	トレーニング中の心拍を分析する
23	EatSmart による栄養調査	EatSmart で栄養摂取を調査する
24	EatSmart による栄養調査の分析	EatSmart による栄養調査の結果を分析する
25	RESTQ-Sport による調査	RESTQ-Sport で調査を行う
26	RESTQ-Sport の分析	RESTQ-Sport の調査結果を分析する
27	Critical power の測定	Critical power を測定する
28	Critical power の分析	Critical power を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は 1 時間程度

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）**※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習 I ・ II を通して本書を読破することを強く勧める**
・本多勝一.『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社.（2004）**※研究室収蔵**
・福澤一吉.『議論のレッスン』. 生活人新書.（2002）**※資料室収蔵**
・小笠原 喜康、片岡 則夫.『中高生からの論文入門』. 講談社現代新書.（2019）**※資料室収蔵**

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵、ただし旧版および 10 版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり**
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり**
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
② 抄読会（20 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
④ 実習参加（20 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20 %）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
測定の順番は適宜変更され、また繰り返し行う可能性がある。
したがってすべての測定を予定通り行えるとは限らない。
この授業は測定体験型授業ではない。「ただそこにある機器」で「とりあえず測定を行ってみる」だけでは学びとは言えない。背景にある生理学的基礎、医学的知識に基づく測定の実践、データの科学的分析、批判的解釈が行えるようにすることが必要であり、そのために実習を行うので、学びは高度で膨大である。「たくさんの科学的測定を体験できるゼミ」といった勘違いをすることの無いように。したがって知識の習得やデータの分析に関連するスキルを取得するために、学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。**なお測定を積み重ねていく中で実習室の利用ルールや機器の扱い方を十分習熟すること。**
測定以外にも課題図書を指定してモデレーターを決め、読解力を評価し、テーマを議論する回を適宜行う。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide opportunities to conduct scientific measurements.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of measurements and evaluations in sports medicine and science.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; in class contribution (20%), reviewing scientific and medical literature (20%), presentation of measurement data (20%), participation in experiments (20%), and submitting reports related the topics in the classroom (20%).

HSS200IA

専門演習 I

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】
①運動器疾患についての知識の獲得。
②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際 1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際 2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会 9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
15	頭頚部について/抄読会	頭頚部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会 1	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会 2	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会 1	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会 2	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と 3 年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
・坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
・臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Acquiring knowledge about locomotor disorders.
− Can evaluate locomotor disorders based on findings.
− Acquire the basic ability of scientific analysis and logical thinking ability.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS200IA

専門演習Ⅰ

高見　京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月 5/Mon.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表する。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	発表する論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表のための資料を作成する。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサルを行う。
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定を実施する。
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータを整理する。
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察する。
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	実施した健康づくり教室について振り返りをする。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定方法を理解する。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートを発表する。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定方法を理解する。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートを発表する。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定を理解する。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定を理解する。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートを発表する。
24	筋力の測定方法	筋力の測定方法を理解する。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートを発表する。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実施方法を理解する。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートを発表する。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業への参加 (40%) ：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2) 課題の提出および発表 (60%) ：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ｉでは研究テーマを探索するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Understand how to proceed with research.
− B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
− C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS200IA

専門演習 I

島本　好平

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフスキルコーチングの基礎理論について学びます。

【到達目標】
ライフスキルへの理解を深めることを主な目的とします。ライフスキルの具体像やその性質、特にアスリートが現役時のスポーツキャリア、および引退後に新たなキャリアを形成させていく上での、ライフスキル獲得の意義を確認していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
ライフスキルに関する専門書等の資料を教員側から提示します。学生はそれらを事前に通読し、その内容を要約した上で次週にプレゼン発表を行います。その内容について全体ディスカッションを行い、内容についての理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミ（ライフスキルコーチング）の趣旨説明を行う。
2	ゼミの内容と春学期の進め方	ゼミで扱う内容と毎週のゼミの進め方について説明を行う。
3	ライフスキルに関する資料の提示（学校保健関連）	教員側より、学校保健に関連するライフスキルの資料を提示する。
4	ライフスキルに関する資料の提示（体育授業関連）	教員側より、体育授業に関連するライフスキルの資料を提示する。
5	ライフスキルに関する資料の提示（運動部関連）	教員側より、運動部活動に関連するライフスキルの資料を提示する。
6	ライフスキルに関する資料の提示（セカンドキャリア関連）	教員側より、トップアスリート等のセカンドキャリアに関連するライフスキルの資料を提示する。
7	ライフスキルプログラムに関する資料の提示	教員側より、ライフスキルの獲得を支援する教育プログラムに関連する資料を提示する。
8	ライフスキルに関するプレゼン発表（学校保健関連）	学校保健関連のライフスキルについての学生によるプレゼン発表
9	ライフスキルに関するプレゼン発表（体育授業関連）	体育授業関連のライフスキルについての学生によるプレゼン発表
10	ライフスキルに関するプレゼン発表（運動部関連）	運動部活動に関連するライフスキルについての学生によるプレゼン発表
11	ライフスキルに関するプレゼン発表（セカンドキャリア関連）	アスリートのセカンドキャリアに関連するライフスキルについての学生によるプレゼン発表
12	ライフスキルに関するプレゼン発表（ライフスキルプログラム関連）	ライフスキルの教育プログラムについての学生によるプレゼン発表
13	全体討論	これまでの発表の中で見られた各論点について、全体でディスカッションを行う。
14	まとめ	各専門書に見られるライフスキルの基礎理論についての理解を深める。
15	秋学期の進め方	秋学会のゼミの進め方について説明を行う。
16	学術論文の探し方	ライフスキルに関する学術論文を収集するための方法を説明する。
17	ライフスキルに関する学術論文の紹介（学校保健関連）【前半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（学校保健関連）【人数の関係上前後半で構成／以下同様】
18	ライフスキルに関する学術論文の紹介（学校保健関連）【後半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（学校保健関連）
19	ライフスキルに関する学術論文の紹介（体育授業関連）【前半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（体育授業関連）
20	ライフスキルに関する学術論文の紹介（体育授業関連）【後半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（体育授業関連）
21	ライフスキルに関する学術論文の紹介（運動部関連）【前半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（運動部関連）
22	ライフスキルに関する学術論文の紹介（運動部関連）【後半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（運動部関連）
23	ライフスキルに関する学術論文の紹介（セカンドキャリア関連）【前半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（セカンドキャリア関連）
24	ライフスキルに関する学術論文の紹介（セカンドキャリア関連）【後半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（セカンドキャリア関連）
25	ライフスキルに関する学術論文の紹介（教育プログラム関連）【前半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（教育プログラム関連）
26	ライフスキルに関する学術論文の紹介（教育プログラム関連）【後半】	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（教育プログラム関連）
27	全体討論	ライフスキルに関する先行研究に見られる問題点等について、全体でディスカッションを行う。
28	まとめ	ライフスキルに関する研究の動向について理解を深める。また、次年度のゼミへのつながりと展望を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外の時間で専門書、学術論文を読み込み、発表資料を作成する必要があります。本授業の準備学習は 3 時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）、プレゼンテーション発表（５０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業方法で進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得ます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the knowledge of life skills and psychological research. At the end of the course, students are expected to be able to investigate the research plan of life skills study. Your study time will be more than a few hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
The attitude: 40%, The comprehension: 60%

HSS200IA

専門演習Ⅰ

成田　道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康など分野にとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する。

【到達目標】
各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ別にスポーツに関する疑問等を調査研究しプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行う。スポーツに関連する論文や文献を読み理解し、各自の研究テーマの決定（仮）に役立てることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画と自己紹介を行う
2	指導者について	各自これまでに出会った指導者について発表する
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ
4	グループ別研究テーマの決定	グループに分かれて関心がある研究テーマを決める
5	役割分担の決定	グループ別に調査方法と各自の役割分担を明確化する
6	調査・情報収集	グループ別に研究テーマに沿ってインターネット等から調査・情報収集を行う
7	グループ別レジュメの作成	グループ別に収集した調査・情報をもとにレジュメを作成する
8	グループ別レジュメの発表	グループ別に作成したレジュメを発表する
9	プレゼンテーション作成	グループ別に研究テーマをもとにプレゼンテーショを作成する
10	プレゼンテーション発表	グループ別に前回作成したものを発表する
11	プレゼンテーションの総括	各グループのプレゼンテーションの総括を行う
12	プレゼンテーションの修正	総括で出された意見をもとにプレゼンテーションの修正を行う
13	小論文の作成	グループ別に修正したプレゼンテーションをもとに小論文を作成する
14	春学期まとめ	春学期の反省点を確認し秋学期に備える
15	ガイダンス	秋学期の授業計画について説明する
16	個人別研究テーマ検討	各自興味ある研究テーマを検討する
17	個人別研究テーマのプレゼン	各自の研究テーマを発表する
18	個人別研究の研究方法の検討	各自の研究計画を立てる
19	情報収集	各自の研究テーマについてインターネットで情報収集する
20	文献の検索	各自研究テーマについて文献を検索する
21	文献の講読	各自研究テーマについて文献を要約し発表する
22	レジュメの作成	各自文献とインターネット等の情報を整理しレジュメを作成する
23	レジュメの発表	各自前回作成したレジュメを発表する
24	プレゼンテーション制作	各自の研究についてプレゼンテーションを作成する
25	プレゼンテーション発表	前回作成したものを発表する
26	プレゼンテーション総括	各自の発表の総括を行う
27	小論文の執筆	各自の発表と総括からの意見を取り入れ小論文を執筆する
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し、次年度へ備える。反省点・問題点を認識する。小論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間
を標準とします。
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０%）・プレゼンテーション（３０%）・レポート（３０%）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
発表した内容についてもっと幅広い議論が必要だったように思えるので改善していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In this course students make a research on a topic which they wish to study in any field which is related or unrelated to sports and health.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students investigate it and aim for finding a study theme after the next year from themes that they study it and announced.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Class 1 : Special instruction
Class 2 ～ 14 : For each four hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
Class 15 : A review of Spring semester
Class 16 ～ 28 : For each four hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Judging a normal point (40%), presentation (30%), a report (30%) generally,
Grading Criteria is evaluated.

HSS200IA

専門演習 I

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
球技におけるトップレベッルの選手やコーチに求められていることについて知識を深めることを目標とする。年齢・性に応じた育成、又はトップレベルでのコーチングを学習する。スポーツコーチング学と研究について紹介する。

【到達目標】
1. スポーツコーチングへの理解を深めることを主な目的とします。
2. スポーツコーチングという化学のさまざまな分野について学する
3. 各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
学術論文や先行研究を読み，理解することを目的とし，体育学，コー チ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構 成，研究の方法，分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。本演習について説明と意見交換を行う。 情報収拾について学習する
2	スポーツコーチングについて	国際的なスポーツコーチに求められている様々な能力
3	国際的なコーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外の取組み
4	トップレベルまでの選手育成	年齢・性に応じたコーチング、長期的なアスリート開発（LTAD）、一貫指導
5	ジュニア期の育成について	海外で行う一貫指導における論文を紹介する
6	ジュニア期の育成について	国内の一貫指導における情報をグループ別発表を行う
7	ジュニア期の育成について	球技における様々なコーチング方法、Game Centred Approach に着目して
8	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディーベート
9	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディーベート
10	実技	Game Centred Approach を実践的に学習する
11	トップレベル・国際レベルコーチング	トップアスリートのコーチングに求められている能力、環境
12	トップレベル・国際レベルコーチング	アスリートのパーフォマンスにおける情報収拾、研究法論
13	トップレベル・国際レベルコーチング	現場視察
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表。
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表。
16	選手育成・コーチングについて①	コーチングの目的とコアバリューについてグループ発表とディスカッションを行う。
17	選手育成・コーチングについて②	コーチング哲学とバリューについてグループ発表とディスカッションを行う。
18	選手育成・コーチングについて③	選手のモチベーションについて発表とディスカッションを行う。
19	選手育成・コーチングについて④	技術指導ついて発表とディスカッションを行う。
20	選手育成・コーチングについて⑤	戦術指導ついて発表とディスカッションを行う。
21	ゲーム分析	試合分析用のソフトを利用し、ゲーム分析について学習する。
22	コーチング評価方法論	コーチ人・コーチングの成果を評価法についてグループ発表とディスカッションを行う。
23	指導案の検討①	興味がある球技種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の 観点から検討する。
24	指導案の検討②	興味がある個人種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の 観点から検討する。
25	指導案の検討③	指導案の作成におけるまとめを行う。
26	大会、又は指導現場の見学①	コーチングが行われている現場の視察を行う。
27	大会、又は指導現場の見学 ②	現場視察における評価発表、ディスカッションを行う。
28	まとめ	1 年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）、プレゼンテーション発表（５０％）により評価します。
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
① リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境
② ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター（スマートフォンは不可の場合がある）
③ 統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保

【Outline (in English)】
The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. This seminar aims to introduce the broad area, which is covered by sports coaching science. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching. There are going to be group and individual assignments in regard with coaching topics. Students will be required to prepare and present their assignments, feedback will be provided after each presentation. Practical lessons and visiting training sessions are also planed. The secondary objective of this class is to help students building interest in a specific area, and start planning the diploma thesis.

HSS200IA

専門演習Ⅰ

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法を学ぶ。

【到達目標】
スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
測定法の原理、使用法を調べ、先行研究とともにプレゼンテーションする。
測定法ごとにグループをつくり、提示された測定課題に参画する。
測定課題の結果をフィードバックする。
教員から今後の測定法の活用に関するコメントをフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・授業の進め方のガイダンス ・グループ分けと測定法の選択
2	・測定原理と測定法①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸測定の測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
3	・先行研究の紹介①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の先行研究をプレゼンテーションし、理解する
4	・課題の設定①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の測定課題を検討して設定する
5	・身体組成の測定	・課題に沿って身体組成を測定する
6	・呼気ガス分析の測定	・課題に沿って呼気ガス分析を実施する
7	・血中乳酸濃度の測定	・課題に沿って血中乳酸濃度を測定する
8	・測定結果のフィードバック①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の測定結果をフィードバックする
9	・測定原理と測定法②	・筋力、筋電図の測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
10	・先行研究の紹介②	・筋力、筋電図の先行研究をプレゼンテーションし、理解する
11	・課題の設定②	・筋力、筋電図の測定課題を検討して設定する
12	・筋力の測定	・課題に沿って筋力の測定を実施する
13	・筋電図の測定	・課題に沿って筋電図の測定を実施する
14	・測定結果のフィードバック② ・前半の総括	・筋力、筋電図の測定結果をフィードバックする ・前半の総括と後半に向けて
15	・後半のガイダンス	前半の課題の改善と後半のガイダンス
16	・測定原理と測定法③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
17	・先行研究の紹介③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの先行研究をプレゼンテーションし、理解する
18	・課題の設定③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの測定課題を検討し、設定する
19	・MCの測定	・課題に沿ってMCの測定を実施する
20	・フォースプレートの測定	・課題に沿ってフォースプレートの測定を実施する
21	・ストレインゲージの測定	・課題に沿ってストレインゲージを用いた測定を実施する
22	・測定結果のフィードバック③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの測定結果をフィードバックする
23	測定原理と測定法④	・ゴニオメータ、加速度計の測定原理と測定法をプレゼンテーションして、理解する
24	先行研究の紹介④	・ゴニオメータ、加速度計の先行研究をプレゼンテーションして、理解する
25	課題の設定④	・ゴニオメータ、加速度計の課題を検討して設定する
26	・ゴニオメータの測定	・課題に沿って絵ゴニオメータを用いた測定を実施する
27	・加速度計の測定	・課題に沿って加速度計を用いた測定を実施する
28	・測定結果のフィードバック④ ・後半の総括	・ゴニオメータ、加速度計による測定結果をフィードバックする ・後半を総括し、次年度への改善を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。
・測定の準備（消耗品の確認、充電、授業前の電源）をする。
・測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。
・先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して学習支援システムの「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか、朝倉書店
・「バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎」金子公宥、福永哲夫、杏林書院
・「バイオメカニクス　人体運動の力学と制御」D.A.Winter、ラウンドフラット

【成績評価の方法と基準】
・測定の原理をまとめ、適切にプレゼンテーションした（１０％）
・適切な先行研究を探し、要点をまとめてプレゼンテーションした（１０％）
・測定の課題を適切に設定した（３０％）
・測定に検者あるいは被検者として積極的に参加した（３０％）
・測定結果を適切にフィードバックした（１０％）
・測定法のマニュアルを改善した（１０％）

【学生の意見等からの気づき】
・先行研究を数多く紹介し、測定の活用がイメージできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
分析ソフト（エクセルなど）、プレゼンソフト（パワーポイントなど）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Outline of this class is to learn and master the measurement procedures on sports biomechanics and sports physiology.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand and master the measurement procedures, and to use these measurements to solve the question in the sport coaching.
【Learning activities outside of classroom】
Students investigate the measurement principle and related references, and analyze the data obtained in the class.
【Grading Criteria/policy】
Presentations of measurement principle, reference, and data feedback (30%), planning of measurement theme (30%), participation in the measurement (30%) and improvement of measurement manual (10%)

HSS200IA

専門演習 I

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション，研究・実験計画の基礎，文献のレビュー，実験・測定・調査の具体的方法，統計解析，研究仮説の設定などの各方法を学び，研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応
○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価，運動中のエネルギー代謝
○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	文献を利用した研究の着想について学ぶ	文献を利用した研究の着想，計画立案の方法について学ぶ。
第 4 回	研究計画を学ぶ	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ。
第 5 回	先行研究を用いた調査法を学ぶ	個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 6 回	先行研究を用いた知見のまとめ方を学ぶ	前回に続き，個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 7 回	データの種類を学ぶ	尺度の判定（名義・順位・間隔・比率尺度データ）の特性について学ぶ。
第 8 回	複数群のデータの関係性を検討する方法を学ぶ	相関・予測の分析（相関係数，重相関係数），名義尺度・順序尺度データの分析について学ぶ
第 9 回	複数群のデータの差異を検討する方法を学ぶ	平均の有意差の分析（t 検定），分散の有意差の分析について学ぶ。
第 10 回	実験計画法（一要因分散分析）を学ぶ	一要因の分散分析（被験者間・被験者内の各計画，多重比較）について学ぶ。
第 11 回	実験計画法（繰り返しのある二要因分散分析）を学ぶ	二要因の分散分析（被験者間計画，交互作用）について学ぶ。
第 12 回	実験計画法（混合計画の二要因分散分析）を学ぶ	二要因の分散分析（被験者内計画，混合の各計画）について学ぶ。
第 13 回	実験計画法（三要因分散分析）を学ぶ	三要因の分散分析（被験者内・被験者間・混合の各計画）について学ぶ。
第 14 回	骨格筋活動の測定方法を学ぶ	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 15 回	骨格筋活動の測定を実践する	骨格筋活動（筋電図）の測定方法を学ぶ。
第 16 回	エネルギー代謝の測定方法を学ぶ	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 17 回	エネルギー代謝の測定を実践する	エネルギー代謝（呼気ガス分析）の測定方法を学ぶ。
第 18 回	動作解析の測定方法を学ぶ	身体の動作解析についてグループで調査して発表し，論議する。
第 19 回	動作解析の測定を実践する	動作解析の測定方法を学ぶ。
第 20 回	質問紙調査を用いた測定方法を学ぶ	質問紙調査についてグループで調査して発表し，論議する。
第 21 回	質問紙調査を用いた測定を実践する	質問紙調査の方法について学ぶ。
第 22 回	指示・指導に関する測定方法を学ぶ	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し，論議する。
第 23 回	研究課題の設定法を学ぶ	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 24 回	研究計画の立案法を学ぶ	担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 25 回	研究計画の立案を実践する	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 26 回	研究・データ収集に向けた準備を学ぶ	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。
第 27 回	収集データの解釈法を学ぶ	グループごとに，ミニ研究のデータ分析・考察を行う。
第 28 回	研究成果を発表する	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法．ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進．健康・スポーツ科学のための調査研究法．杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文．心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方．東京図書.
田中敏，山際 勇一郎．ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで．教育出版.

【成績評価の方法と基準】
評価は，1) 実験・調査・発表の内容： 60%，2) 授業への参画状況（出席・発言など）： 40%，で行います。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度は，春学期前半のオンラインで授業を実施せざるをえない状況でしたが，対面授業を開始してから，履修者間のコミュニケーションが促進され，非常に充実した活動が実施できたと感じています。次年度は，原則対面での授業を実施予定ですが，昨年度実施できなかった各種測定機器の使用方法や実際に測定できるデータの確認等も含めて授業を行っていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising their research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys, and data analysis.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Search for articles that contain the data of interest.
2. Prepare presentation materials and make accessible presentations to understand.
3. Understand the papers' experimental and research methods and analysis methods described.
4. Perform basic experiments, measurements, and surveys.
【Learning activities outside of the classroom】In most classes, students will be required to search and review literature, prepare presentations, and write research plans. In addition, both individual research and group research require students to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. The standard time for these preparatory studies and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations(60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS200IA

専門演習Ⅰ

山本　浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生主体で進む 100 分間である。ジャーナルな視点を大切にし「スポーツの中の社会」「社会の中のスポーツ」に姿を現すさまざまな問題を検証、議論するのを狙いとする。スポーツ組織のありよう、アスリートの環境など改善の余地ある案件は、スポーツ世界には山積している。あるときはニュースから、またあるときは身近な体験から問題点を掘り起こし、背景から取り巻く条件までを丹念に調べたあと、自分の主張につないでいく。それぞれが取り上げたテーマや分析が、専門演習Ⅲで取り組む対象になることも考えた上で演習を進めていきたい。基本的な手法も身につけなければならない。①資料を選択しポイントをいかに取り出すか②複数の情報源に当たり、取り出した材料の重複部分を探す③素材の断片をどう組み合わせて自分の論理に重ねるか④理解促進や論理強化のための写真やデータをどう配剤するか。世論を見極めた上で世論に流されない、自分なりの世界観を身につけてもらいたい。そのために法の定めるところ、経済の原則に倣うところ、社会の求めに応じるところをわきまえて自分の意見表明を構成する。演習では、3 年生が中心となってディベートを回す時間が増える。自分の思考だけに集中せず、視野を広くして演習に臨もう。

【到達目標】
専門演習Ⅰのポイントは、示されたテーマに対しさまざまな体験と知見をもとに焦点を定め、くまなく見回し、深く考えて持論をまとめ上げることにある。一つ一つのトピックに対して、感想を口にするのではなく、自分なりの世界観に基づいた鋭い批評精神を発揮しなければならない。
スポーツの世界で起きるさまざまな出来事に対して自分なりの仮説を立て、それを証明する行為は、研究者が取り組む方法と何ら変わらない。聴く人、読む人を強く説得できるような素材を集め、それを提示する力を涵養する。
伝える際の根本原則、①わかりやすい構成②新鮮な情報③魅力的な提示④説得力のある論理立て⑤第三者の意見の尊重、そして⑥他人にはない個性があってなお均整のとれたものの見方を把握する。
そうした手法を自らのものにしながら、社会を貫く世界観を人前で提示できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の基本原則は、教員の指導に頼るばかりでなく自ら学ぶ姿勢を大切にするところにある。折に触れて提示されたテーマに対し、自分なりの視点を設定するところから始まる。
今年度もポイントにしたいのはディベートである。目前の対象に対する評価を求められたとき、心の中で意見が分かれることは珍しくない。「妥当だ」と考える自分がいる一方で「不当だ」とささやく自分がいたりもする。そんなときに取るべき姿勢は、二つの自分を戦わせてみることだ。ディベートでは、それをあえて片方に重心を置いて、別の人間と対峙する。自分の置いた重心を大切にしながら、言辞、映像、資料を使って持論を展開する。やがて、自分の思考の及ばなかったところ、情報の欠落していた部分がわかるようになる。この段階で既に論理をめぐる貴重な経験を自分の中に積み始めている。ディベートを大切にした演習を展開したい。
ウィルスの状況は予断を許さないが、対面を原則として進めていく。積極的な取り組み、発信を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと自己紹介 ゼミ長選定	これからの演習の進め方をガイドするとともに新たな参加者の自己紹介を口頭で受ける。2 年生のゼミ長、副ゼミ長を決定する。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、読み方 ディベートの基礎	専門演習Ⅱのゼミ生のプレゼンテーションを見て、そのあり方を分析し、どうとらえたかをディベートに昇華させる。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料がどんなところにあるのか。具体的なテーマを巡って選択肢やアプローチの方法を知る。
4	プレゼンテーション制作	他人のプレゼンテーションを参考にしながら、あるべきスタイルやその構成を知る。アニメーションの使い方、スライドの構成を実際に作って体験する。
5	プレゼンテーション実施	前週に制作したプレゼンをスクリーンで発表し、意見交換をし、それぞれの過不足を論じる。
6	調査・インタビュー・素材抽出のヒント。	自分の主張を構成する素材を集めるに当たって、自ら方向付けをし、仮説を規定するのがインタビューやアンケートである。その考え方を学び取る。
7	論文の分析、書き方のポイント。	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章だてなど論文の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーション：焦点の捉え方と組み立てを考える。	近年、社会で話題になったスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT（Keynote) で制作する。
9	プレゼンテーション：異論を取り込む。	前週の制作 PPT(Keynote) を発表。参加者の批評を元に、新たな方向付け、深みの取り方をディベート形式の議論で学ぶ。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で文献検索の方法を受講する（予定、日付移動の可能性あり）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。
12	プレゼンテーション制作：視野の広がりと重心の置き方を工夫する。	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
13	プレゼンテーション制作：過去に遡り源流を求める。	先行研究を読み込んで、自分の分析に加える。
14	春学期総括	演習内で提示する短いテーマに、時間内に持論を制作する。
15	夏課題総括：個別のテーマ検証を行う。	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括：独自性の立て方をどう創り出すか。	あらかじめ設定しておいた夏の課題で自分なりの工夫がどこに設定されているかを検討。
17	夏課題総括：論理の流れを組み立てる。	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果をストーリーベースでチェックする。
18	プレゼンテーション制作：[スポーツ組織をどう捉えたか]	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作し、それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション発表：「課題のつかみと目指す方向」に視点を置いて検証する。	前週制作したものを発表する。その際に、課題の設定にジャーナルな観点があるかを確認する。
20	プレゼンテーション発表：「資料の収集と整理」に視点を置いて検証する。	制作にかかっていたもののうち、主張や分析の基礎となる資料に関する検討を行う。
21	プレゼンテーション発表：「論理上の整合性」に視点を置いて検証する。	過去２週の間に演習で受けた批評をもとに、自作のプレゼンテーションを論理性を大切にしながら改訂する。
22	プレゼンテーションとディベート：改善点と工夫を考える。	前週の改訂版を提示し、どこにどのような手を加えたのかを意識しながらプレゼンする。
23	プレゼンテーションとディベート：メディアの主張と対比する。	前々週から改訂してきたプレゼンに同様のテーマを取り上げたメディアをぶつけてみる。
24	プレゼンテーションを元に論文制作。	二次研究発表＝夏以降作った研究の改訂版と批評を行う。
25	論文発表：自らのテーマを論文形式に書き起こし、参加者に配布する。	プレゼンテーションと対をなすのが文章化した素材である。口頭での発表を、書き起こしてみる.
26	論文発表と校正：配布した論文を取り上げ参加者で議論する。	それぞれが手にした他のゼミ生の論文を厳しい目で批判する。
27	論文発表と校正：議論を反映したものを改めて文章化し参加者に配布。	書き方、構成、ストーリーの整合性など、点検をした末の改訂バージョンを制作。
28	小論文により研究､執筆、PPT 制作の力量試験。	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①情報取得のために信頼のおける情報源に対する接触を怠らないことで、特にその際の出典元を誤らないようにしっかりメモ、それもすぐにメモをすることが大切だ。
②自分自身の体験を取り込んで、そこにある普遍性を大切にする。自分の口で訊ね、自分の耳で聞き、自分の手で書き残すことが重要である。
③気になったシーンは写真に撮っておく。自分の発表に利用すると効果的なスライドになることがある。写真の撮影時期、対象、場所などの記録も忘れない。
④専門演習Ⅱの受講生とも密に情報交換し、その手法や視点を学ぶこと。

⑤テレビのプレゼンテーションをよく分析する。流れ、展開、材料の引き出し方など参考になるものがたくさんある。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。スパンを区切って 2 週間かけて制作するようなリズムを作りたい。

【テキスト（教科書）】
なし (必要に応じその都度、用意する)。

【参考書】
求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（批評の内容/スライドを使った発表/ディベートの説得力/演習での積極性）70 %、最終課題 30 %。
評価基準：論理・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど。最終課題は、終盤の演習の中で提示するテーマに対して、規定期日までに学習支援システム上で提出する。演習の総括として大きな意味がある。
※プレゼンテーションは、ウェブ対応になった際にも可能な範囲でチャレンジしてもらう。

【学生の意見等からの気づき】
専門演習Ⅱの受講生に傾きがちな発表のチャンスを、専門演習Ⅰの受講生にも意図的に豊富に配分する。
学生主体のアクティブな時間を有効に組み立てる。
ディベート形式の時間を大切にする。参加感を大切にし、充実した 100 分になるよう心がける。
ポイントになるところで外部講師を招いて、社会の見方を再確認する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンでスライド制作ソフトを使用する。携帯できる自分のパソコンがある場合は持参すること。パワーポイント、Keynote、DVD 、映像資料などは頻繁に使用する。

【その他の重要事項】
［研究室］担当教員の研究室は 456（Line であれば Yamamotora28）分からないこと、新しいアイデア、何かを抱えていたら一人で閉じこもらず、コミュニケーションの機会を増やすこと。
［外部講師］どんなジャンルの人物をどのタイミングで招くのか。盛んな意見を出してもらいたい。
［ゼミ合宿］事情が許せば休みを利用したゼミ合宿を編成したい。関東近県をターゲットに予定を検討する（ウィルス問題が不安のない状態になった場合）。演習室で獲得できない時間を過ごす。

【Outline (in English)】
The participants should stand on their own feet. You should keep journalistic views, especially under the consciousness of society in the sports world and the sports world in society. The two structures will be good and well aware that the athletes live in it. The fundamental technique must be mastered, to collect material for your own theory, to find out the essential parts which overlap on two different sources, to combine several materials up to the stuff, to organize some appropriate pictures on your slides. You would be expected to maintain reliable viewpoints.

HSS200IA

専門演習 I

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習において、履修者はスポーツマーケティングに関する理論と実践について総合的に学習する。演習後、履修者は（1）スポーツマーケティングに関する重要テーマとそれに関連する概念や理論を説明できるようになるとともに、（2）自分自身の研究テーマを明確に定めることができるようになる。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマネジメントにおけるスポーツマーケティングの位置づけを説明することができる。
2. スポーツマーケティングに関する重要概念の定義を述べることができる。
3. スポーツマーケティングに関する現象を説明する代表的な理論を説明することができる。
4. 演習の議論を踏まえ、自分自身の研究テーマを明確に設定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期はスポーツマーケティングに関する基本的知識を身に付けるため、学習支援システムにアップロードされる資料を事前に読み、演習ではそれらに基づいて議論する。秋学期はスポーツメーカー、観戦型スポーツイベント、参加型スポーツイベントのマーケティングのそれぞれについて、調査を実施・分析したり、現場の実務担当者の話を聞いたり、海外の研究者のレクチャーを受けたりするなどして、理論と実践の両面から総合的に学習する。春学期も秋学期も学期末に予定されたグループ発表において、プレゼンテーションを行う。
新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：春学期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
第 3 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルインパクト	五輪やサッカー W 杯のようなメガスポーツイベントには社会を変える力がある。これをソーシャルインパクトと呼ぶが、その定義、種類、考え方について学ぶ。
第 4 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルキャピタル	スポーツはプレイヤー、仲間、対戦相手、ファンなどの人々の相互作用で成立しており、その過程において人々を結び付ける働きを担っている。それをソーシャルキャピタルと呼ぶことができ、その定義、種類、重要性を理解する。
第 5 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ウェルビーイング	国際連合が発表した SDGs の 3 番目の開発目標がウェルビーイングである。このウェルビーイングとスポーツマーケティングの関係性について学習する。
第 6 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの登場により、スポーツを消費する人々の心理や行動に変化が生じている。今回はスポーツ消費者行動におけるソーシャルメディアの意味と役割について学ぶ。
第 7 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：観戦スタイルの変化と態度変容	テクノロジーの技術革新や社会環境の変化（温暖化、大規模災害、感染症蔓延など）はスポーツの観戦スタイルに影響を与える。こうした変化に対する人々の適応方法を理解する。
第 8 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 9 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 10 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 11 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する。
第 12 回	卒業研究を知る	4 年生の卒業研究の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツマーケティングに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツマーケティングに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
第 15 回	秋学期の概要の説明	秋学期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	スポーツメーカーのマーケティングに関するテーマ設定	プレゼンテーションの方法を学ぶとともに、グループのテーマを決め、発表の役割を分担する。
第 17 回	スポーツメーカーのマーケティングに関する資料作成	グループで協力して発表資料を作成する。
第 18 回	スポーツメーカーのマーケティングに関する討論	ゲスト講師（現場の実務担当者）の前で発表するとともに、課題解決に向け、ディスカッションする。
第 19 回	海外のスポーツマーケティング：テーマ設定	ゲスト講師（海外のスポーツマーケティングの専門家）の資料を事前に学習し、質問を考える。
第 20 回	海外のスポーツマーケティング：討論	ゲスト講師（海外のスポーツマーケティングの専門家）によるスポーツビジネスの授業を受講し、英語でディスカッションに参加する。
第 21 回	スポーツマーケティング研究：観戦型スポーツの先行研究	観戦型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 22 回	スポーツマーケティング研究：参加型スポーツの先行研究	参加型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 23 回	スポーツマーケティング研究：拡大産業に関する先行研究	スポンサーシップ、ツーリズム、インターネットなどに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 24 回	スポーツマーケティング研究：構想発表会	3 年生の卒業研究の構想発表会に参加する。
第 25 回	参加型スポーツイベントのマーケティング：ケースの理解	ケースメソッドのアプローチから、東京マラソンのマーケティングの仕組みを理解する。
第 26 回	参加型スポーツイベントのマーケティング：考察	ケースメソッドのアプローチから、東京マラソンのマーケティングの成功理由と今後の課題を考察する。
第 27 回	演習のまとめ	1 年間に渡って取り組んできたゼミの専門的な学習を振り返り、まとめとする。
第 28 回	卒業研究発表会	4 年生の卒業研究の発表会に参加する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備、レポートの作成などがあります。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
（1）スポーツマーケティングの重要概念に関する課題レポート（10 点、春学期）
（2）スポーツマーケティング調査：データ収集（10 点、春学期）
（3）スポーツマーケティング調査：結果の集計と報告（10 点、春学期）
（4）スポーツメーカーのマーケティングに関する課題（10 点、秋学期）
（5）スポーツマーケティング研究に関する課題（20 点、秋学期）
（6）観戦型スポーツマーケティングに関する課題（20 点、秋学期）
（7）参加型スポーツマーケティングに関する課題（20 点、秋学期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では海外の事例や文献に加え、身近な日本のスポーツや文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的に学習してください。

【Outline (in English)】
This is sport marketing seminar at the undergraduate level. The goal of this seminar is to learn theories and practices related to sport marketing. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on short report (10%), data collection and analysis (10%), group presentation (10%), mid-term report (30%), and final report (40%). Upon successful completion of this course, students will be able to (1) understand some concepts and theories relevant to important themes in sport marketing and (2) clearly identify their own research topics.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

安藤　正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らあるいは他人の健康管理ができるようになることがこの授業の目的である。
検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ
健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める
健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を学ぶ

【到達目標】
教員と下級生と協同して課題に取り込むことで、身体機能の測定やメンテナンスを指導できる能力を身につけ、健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し自ら学ぶ課題解決型学習と実習形態である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	機能解剖学実習（運動器を中心に復習する）	共同で復習と学習する
3	機能解剖学知識のまとめ	健康管理やトレーニングに必要な機能解剖学を獲得しているかを確認する
4	パートナーストレッチング実習（頚部・上半身）	共同で頚部・上肢のストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
5	パートナーストレッチング実習（体幹・下半身）	共同で体幹・下肢のストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
6	ストレッチング実習（復習）	ストレッチングの基礎テクニック 30 手技を復習する
7	ストレッチング知識と技術のまとめ（技能検定）	健康管理やトレーニングに必要なストレッチング技術を獲得しているかを確認する
8	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習（頚部・上肢）	共同で頚部・上肢筋へのマッサージの技術を実習をしながら獲得する
9	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習（体幹・下肢）	共同で体幹・下肢筋へのマッサージの技術を実習をしながら獲得する
10	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習（前回の復習）	マッサージが代表的な筋（30）に実施できるか確認する
11	マッサージ知識と技術のまとめ（技能検定）	健康管理やトレーニングに必要なマッサージ技術を獲得しているかを確認する
12	検査測定実習（バイタルサイン）	バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸）の測定実習
13	検査測定実習（頚部・上肢の可動域測定）	頚、肩、肘、手関節の可動域測定実習
14	検査測定実習（体幹・下肢の可動域測定）	体幹、股、膝、足関節の可動域測定実習
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	検査測定実習（上肢の筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
17	検査測定実習（下肢の筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
18	検査測定実習（四肢長・周径測定）	四肢長・四肢周径の測定方法を学び実習する
19	検査測定実習（まとめ）	基本的な検査測定技術が獲得されたかを確認する
20	トレーニング実習（健康増進）	健康増進を目的とするトレーニングを立案し実施する
21	トレーニング実習（筋力増大）	筋力増強を目的とするトレーニングを立案し実施する
22	トレーニング実習（全身持久力増大）	全身持久力増大を目的とするトレーニングを立案し実施する
23	トレーニング実習（器具・マシーン）	トレーニング器具やマシーンを使用したトレーニングを体験する
24	検査測定で得られたデーター処理方法を学ぶ	データ分析 t 検定、相関分析、分散分析など
25	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査	発表資料の作成
26	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査報告	最終課題発表（３名程度の学生のための発表の場とする）
27	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査報告	最終課題発表（３名程度の学生のための発表の場とする）
28	4 年生の発表、および健康科学、トレーニング科学に関する学会に参加する	学会参加・日程未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の調査、報告書のまとめなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツリハビリテーション学会監修　JSSR 認定トレーナー教本（※この授業を履修すると JSSR 認定トレーナー試験資格が得られます）

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点：積極的発言や態度、単元ごとの検定やテストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】
より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。
実技を中心に体験型の授業とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

【Outline (in English)】
The course outline is as follows. We will learn about basic health fitness tests, functional anatomy, stretching techniques, training techniques, and relaxation techniques.
Learning Objectives is about getting basic health care and implementing health promotion programs.
For Learning activities outside of classroom, please review and practice what you learned in class.
Grading Criteria is determined by the performance of the assignment and the results of the certification exam.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

中澤　史

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰにおいて習得したスポーツ心理学に関する知識や調査手法についてより深く学び、卒業論文作成に向けた研究テーマを確定するとともに研究計画書を作成する。演習の後半において学生は予備調査に取り組み、その結果を基に研究計画を精査する。

【到達目標】
1. 数量的・質的分析法を習得し、活用できる。
2. 予備調査から得たデータを分析し、その結果について発表できる。
3. 予備調査から明らかとなった課題を整理し、発表できる。
4. 先行研究や予備調査の結果を基に研究テーマを設定し、研究計画書を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
先行研究の講読や実践的な調査手法に関する学びを通して、専門演習Ⅰで習得した知識の向上を図る。仮説検証に向けた予備調査の結果を発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。授業で取り組むプレゼンテーションやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	グループワークが自己理解・他者理解を深める一手段となることを体験的に学習する。
3	体験的学習を通したデータ収集	スポーツを用いた体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	研究の仕方・データの整理	スポーツ心理学に関する調査・研究の進め方およびデータの整理の仕方について学習する。
5	データの比較	統計ソフトを用いた分析方法（t検定、分散分析等）について学習する。
6	データの関係性	統計ソフトを用いた分析方法（相関関係等）について学習する。
7	質的研究法	スポーツ心理学における質的研究の理論と方法について学習する。
8	質問紙法	質問紙を用いた調査方法およびそのまとめ方について学習する。
9	チームを対象とした事例検討	チームを対象とした事例報告を通して競技活動によるチームワークの変化について学習する。
10	個人を対象とした事例検討	個人を対象とした事例報告を通して競技活動による心理社会的能力の変化について学習する。
11	対人関係に焦点付けた事例検討	対人関係に焦点付けた事例報告を通して競技活動による対人関係能力の変化について学習する。
12	研究計画書	研究計画書のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究計画の発表	今後取り組む予定の研究計画（案）を抄録にまとめ発表する。
15	研究計画の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	先行研究の検討（第 1 グループ）	第 1 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
17	先行研究の検討（第 2 グループ）	第 2 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
18	先行研究の検討（第 3 グループ）	第 3 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
19	先行研究の検討（第 1 グループ）	第 1 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
20	先行研究の検討（第 2 グループ）	第 2 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
21	先行研究の検討（第 3 グループ）	第 3 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
22	研究課題の選定	各自のテーマについて（1）研究の背景、（2）研究目的、（3）学術的な意義について検討する。
23	研究の背景	先行研究によってどこまで解明されており、何が未解明の研究課題なのかを特定することによって各自の研究テーマを絞りこむ。
24	研究の目的・意義	研究の目的を設定し、その研究の社会的な意義を明確にする。
25	研究の枠組み	各自の研究で扱う対象者、分析方法などの枠組みを明確にするとともに、予想される結果についての仮説を立てる。
26	予備調査の研究計画	仮説検証を目的とした予備調査に関する準備状況を踏まえた研究計画を発表する。
27	予備調査の実施準備	予備調査の準備を整え、調査を実施し、その結果をまとめる。
28	研究計画の発表	先行研究および予備調査の結果を踏まえて研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 先行研究の講読、調査の実施、データの収集・分析、結果に対する考察といった予備調査に関わる課題が与えられますので、授業外においてその作業に取り組んでください。
2. ゼミで担当するスポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 中澤　史　「アスリートの心理学」日本文化出版　2016
2. 小宮あすか・布井雅人「Excel で今すぐはじめる心理統計　簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社　2018

3. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院　2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 研究計画書・抄録等の提出物： 60 %
2. プレゼンテーション、授業への参画状況： 40 %
※研究計画書、グループワークによる報告書、リアクションペーパー、各種課題では、授業やグループでの取り組みの内容を踏まえて適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
1. 競技スポーツの現場で役立つ心理スキルの理論と方法について受講生間で情報交換を行います。
2. チームビルディングの促進に役立つ体験的学習への取り組みを通して受講生間の新規的人間関係の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
2. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
3. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this class is to help students enhance the knowledge and research methods acquired in Seminar Ⅰ. In the second half of the class, students work on a preliminary survey and review the research plan based on the results.
【Learning Objectives】
1. Learn and utilize quantitative and qualitative analysis methods.
2. Can analyze the data obtained from the preliminary survey and announce the results.
3. Can organize and present the issues clarified from the preliminary survey.
4. Can set a research theme based on the results of previous research and preliminary research and create a research plan.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this exercise is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.
1. You will be given tasks related to preliminary research such as reading previous research, conducting surveys, collecting and analyzing data, and considering the results, so please work on those tasks outside of class.
2. Each group should work systematically as they will be given the opportunity to collect, analyze and present the results for the sports teams in charge of the seminar.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.
1. Submissions of research plans, abstracts, etc .: 60%
2. Participation in presentations and classes: 40%

HSS300IA

専門演習Ⅱ

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける 3 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】
アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、一年間を通して活動ができることが 3 年次の本ゼミナールの到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　2 年時から引き続き、春学期では事前準備の上で発表・実践が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定および発表、可能な限り予備実験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3 年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹部全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。
15	研究の方法とは	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
16	機器の操作方法実習：バイオデックス他	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。
17	機器の操作方法実習：フォースプレート	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法実習：筋電図	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法実習：フレームディアス	フレームディアスの使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法実習：超音波診断機器	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
21	研究計画の作成および抄読会	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
22	研究計画の添削および抄読会	研究計画を作成し、添削する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	現場実習報告の書き方	アスレティックトレーナー現場での活動の報告書の書き方を講義する。
24	現場実習報告の実施	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。
25	研究計画の推敲と予備実験	卒業研究の準備として各自の研究計画から、予備実験を行う。
26	予備実験結果の検討	予備実験として行った内容を検討し研究計画に反映する。
27	研究計画発表会	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	研究計画発表の振り返りとともに 3 年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習
第 16 回：春学期の復習
第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内で適宜、紹介する。

【参考書】
1．日スポ協公認アスレティックトレーナーテキスト１～９
2．ドナルド・A．ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー．医歯薬出版．2012
3．坂井建雄，松村譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
4．日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館書店．2011
5．小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
6．Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
7．臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
8．広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%、種々の活動への取り組み 40%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などを通して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
アスレティックトレーナーは体育・スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場（スポーツ現場）の経験が大変重要であることを実感している。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The purposes of the athletic training seminar 2 are as follows. 1. to learn knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. to have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. 3. to review the study along a graduation study theme and set a problem to reach the graduation thesis.
(Learning Objectives) The seminar goal is for the student trainer to understand the duties and roles of an athletic trainer in a sports setting and to be able to work with them throughout the year.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) Evaluated comprehensively based on normal scores, seminar content, and extracurricular activities.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業では、スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。後期の授業では、コミュニケーション能力を高めるために、毎回プレゼンテーション行う。専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】
1．スポーツマネジメントを深く学ぶこと。
2.4 年次に挑戦することとなる卒業研究のテーマを把握すること。
3. 受講者は専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定すること。
4. 自身が選んだ研究を実行するために必要な先行研究を読み、適切な研究方法を他の受講者と共に検討すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
３年次を対象に、少人数でのプレゼンテーション・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した基礎的な理論を理解し、２年次の専門演習Ⅰにおいて学んだ知識ならびに本講義で学んだ理論をもとに卒業研究テーマの決定を目標とし、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究に向けた準備の進め方、調査の手法などについて説明する
2	マネジメントとは１ マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは２ マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは 3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	組織とは スポーツの組織化 スポーツ組織の文化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）ならびに、組織文化ついて学習する。
6	スポーツ組織のコントロールシステム 組織コミットメント	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
8	スポーツ組織におけるモチベーションマネジメント	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	プレゼンテーションの方法について　1	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
12	プレゼンテーションの方法について　2	効果的なプレゼンテーション方法について視覚的なアプローチから考える。
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行う準備をする。
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。
15	後期演習の概説	後期の演習の概要及び卒業研究の意義を理解する。卒業論文執筆に向けた今後の進め方に確認する。
16	研究の進め方について１	量的研究の手法について解説する。
17	研究の進め方について２	質的研究の手法について解説する。
18	情報・文献の検索について	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
19	先行研究について	先行研究の読み方について解説する。
20	過去の卒業研究の検討１	各自のテーマにあった過去の卒業研究を読み、各自（１）文献の要約（２）研究群の整理、（３）問題点の特定を行う。
21	過去の卒業研究の検討２	第２０回の授業で行った各自のテーマにあった過去の卒業論文について、（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点について発表を行う。
22	先行研究の検討１	先行研究について、各自（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点の特定と行う。
23	先行研究の検討 2	第２２回の授業で行った各自のテーマにあった先行研究について、（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点について発表を行う。
24	研究課題の選択 研究課題発表	各自興味をもった研究テーマに関する、（１）研究背景、（２）研究目的、（３）方法について発表する。
25	論文の構成	各自研究テーマに沿った論文の構成について学ぶ。
26	緒言の書き方について	緒言の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。
27	研究背景の書き方について	研究背景の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。
28	研究目的、方法の書き方について	研究目的、方法の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関する過去の卒業論文と一般論文

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（70 %）、卒業研究のプロポーザル内容（30 %）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの行う機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In the 1st semester, we will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.) in order to understand the basic theory to effectively manage sports organizations. In the 2nd semester, presentation will be required every time to enhance communication skills. We will read up previous graduation research and preceding studies in order determine the research subjects that can be developed into graduation research from the contents learned through the lectures of seminar I and seminar II class lectures.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
(2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
(3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第 3 回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第 4 回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第 5 回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第 6 回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第 7 回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第 8 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 9 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わりの強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 10 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 11 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第 12 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤルティ	スポーツにおける顧客ロイヤルティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第 13 回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
第 15 回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	過去の卒業研究の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 17 回	過去の卒業研究の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 18 回	過去の卒業研究の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 19 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 20 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 21 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 22 回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1）研究の背景、(2）研究目的、(3）学術的な重要性、(4）実践的な重要性をまとめ、発表する。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 28 回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
(1）研究手法に関するレポート： 10 点（前期）
(2）研究テーマの発表： 10 点（前期）
(3）過去の卒業研究のレビュー： 10 点（後期）
(4）一般の先行研究のレビュー： 10 点（後期）
(5）序論（緒言、問題の所在）の執筆： 20 点（後期）
(6）序論（目的、重要性）の執筆： 20 点（後期）
(7）序論（概念的枠組み）の執筆： 20 点（後期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
専門演習は論文を作成することを最終的な目標とし、専門演習Ⅰから Ⅲまでの 3 年間、理論だけでなく、多くのフィールドワークや課題に取り組む必要があります。よって、専門演習Ⅱを履修するためには以下の条件を満たすことが求められます。授業への参加だけでなく、課外活動に対する取り組みや各課題に対する一定以上の評価が得られていること。

【Outline (in English)】
This course is a seminar of sport marketing research. The goal of this seminar is to learn how to conduct sport marketing research based on students' own interests and research questions. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on short report (10%), data collection and analysis (10%), literature review (20%), and the end-of-term report (60%). Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

小田　佳子

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】
指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体つくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当者が「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当者が「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当者が「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当者が「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当者が「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当者が「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
15	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講者に対する指導的役割の確認を行う。
16	「体つくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
17	「体つくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
18	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
19	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
21	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
22	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
23	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
25	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
26	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
27	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
28	「体育理論」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は 6 時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（６０％）、レポート点（４０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生参加型の対面式授業により進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。
授業形態についてもコロナ感染拡大状況によって柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
Learning the theory and practice of teaching methods in physical education classes

HSS300IA

専門演習Ⅱ

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育学，コーチ学などといったスポーツ科学分野における文献分析から，自分の取り組みたいテーマを選択していく。

【到達目標】
自らの研究テーマについて，研究方法や実験方法，分析方法など研究に必要なスキルを高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，スポーツ科学（主にコーチング分野）に即した報告・討論・実践を通じて学習を深める。これまでに修得した理論を主体的に受けとめ，専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第 2 回	情報収集①（文献検索）	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
第 3 回	情報収集②（発表）	演習合同で行うテーマについて文献検索を行い、プレゼンする。
第 4 回	演習合同研究テーマの検討	演習合同で行う研究についてテーマを決定する。
第 5 回	文献検索	演習合同テーマに関する文献の検索を行う。
第 6 回	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
第 7 回	予備実験	演習合同テーマについて予備実験を行う。
第 8 回	データ解析	演習合同テーマ予備実験のデータの解析を行い、プレゼンする。
第 9 回	実験実習	演習合同テーマの実験・調査を行う。
第 10 回	論文作成①（構成）	演習合同テーマの論文（ポスター）の構成を行う。
第 11 回	論文作成②（執筆）	演習合同テーマの論文（ポスター）の執筆を行う。
第 12 回	論文作成③（推敲・校正）	演習合同テーマの論文（ポスター）を推敲・校正を繰り返す。
第 13 回	論文の完成	演習合同テーマの論文（ポスター）を完成させる。
第 14 回	研究成果の発表	演習合同テーマの論文（ポスター）を発表する。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。 夏期研究テーマを検討する。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
第 17 回	ポスター発表作製	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスターを作製する。
第 18 回	ポスター発表	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスター発表を行う。
第 19 回	ポスター発表のフィードバック	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスター発表のフィードバックを行う。
第 20 回	論文計画書作成	各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う。
第 21 回	研究テーマの検索	各自の研究テーマを模索する。
第 22 回	研究テーマの発表	各自の研究テーマを発表する。
第 23 回	研究テーマのディスカッション	各自の研究テーマについてディスカッションする。
第 24 回	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
第 25 回	予備実験①（実験）	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
第 26 回	予備実験②（解析）	各自研究テーマの予備実験の解析を行う。
第 27 回	予備実験③（発表）	各自研究テーマの予備実験の結果を発表する。
第 28 回	今後の研究課題の方向性発表	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：準備学習および復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：準備学習および復習
準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学習状況（60 %）と発表（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義となるよう努めます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim is to increase specialist knowledge for graduation thesis writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%)
and usual performance score (60%).

HSS300IA

専門演習Ⅱ

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなどの学校保健上の課題、公衆衛生上の課題について論文輪読などの活動を通じて全般的に理解を深め、研究課題をもてるようにするとともに、特に教職希望者は授業実践を通じて実践力を高められるようにする。

【到達目標】
専門演習Ⅱを通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。原則、対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習 1 を振り返り、Ⅱの演習計画について確認する。
2	子どもの健康課題	現代的な健康課題についてデータを読みとく。
3	子どもの生活習慣病の課題	子どもの健康課題、生活習慣病の課題に関わる文献を読みとく。
4	性の逸脱行動	性の逸脱行動に関わるデータの意味を理解する。
5	性の逸脱行動の文献を読む	性の逸脱行動に関する文献を読み解く。
6	性に関する指導	指導案を作成する。
7	未成年喫煙に関する知見	未成年喫煙に関するデータを理解する。
8	未成年喫煙の健康影響	文献を読み解く。
9	未成年喫煙に関する指導案作成	指導案を作成する。
10	未成年飲酒に関する知見	未成年飲酒に関するデータを理解する。
11	未成年飲酒の健康影響	文献を読み解く。
12	未成年飲酒の健康影響に関する指導案作成	指導案を作成する。
13	薬物乱用と健康	薬物乱用に関するデータを理解する。
14	薬物乱用の健康影響－覚せい剤－	関連薬物の実態と課題について理解する。
15	薬物乱用の健康影響－大麻と危険ドラッグ－	関連薬物の実態と課題について理解する。
16	薬物乱用に関する文献	文献を読み解く。
17	薬物乱用に関する指導案作成	指導案を作成する。
18	メディアによる影響	文献を読み解く。
19	広告分析	広告分析により批判的思考を養う指導案を作成する。
20	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について専門演習Ⅰの理解を踏まえ、さらに理解を深める。
21	ライフスキル教育	危険行動を防ぐための意義について構成スキルとの関連性を踏まえ理解を深める。
22	ライフスキル教育の指導案作成	指導案を作成する。
23	医薬品に関する指導	関連文献を読みとく。
24	医薬品に関する指導案作り	医薬品に関する指導案を作成する。
25	安全教育に関する領域構造	安全教育に関する領域と系統性について理解を深める。
26	安全教育に関するデータ解析	安全教育に関するデータを読み解く。
27	安全教育に関する指導案作成	安全教育に関する指導案を作成する。
28	環境と健康に関するデータ	環境を健康に関するデータを読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案の作成、文献を読みレポートを作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説保健体育編
高等学校学習指導要領保健体育編

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション４０％、レポート５０％、平常点１０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見は積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】
授業計画は授業の進展により変更がありうる。

【Outline (in English)】
(Course Outline) The purpose of this course is for students to deepen their understanding of health education or public health.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skill for teacher of health education.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports(50%),presentation on research(40%)、in class contriobution(10%)

HSS300IA

専門演習Ⅱ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】
春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿って調査活動を行う。
研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。
英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。
各学生の研究に必要な実験・測定を行う。
ヒューマンカロリメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーション・スキル	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーションの方法論	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会	[演習] 3 年生による研究経過の発表会
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] ゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 引き続き前回行っていないゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の分析	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を分析する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の比較検討	[演習] 分析データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を比較検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LT の測定①	[実習] ゼミ生の LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] 前回行えなかったゼミ生の LT を測定する。
18	LT の分析	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定 ①	運動や身体活動に伴うゼミ生のエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定 ②	前回行えなかったゼミ生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果を分析する。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習] 前回から進捗させた 3 年生の研究発表
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養の基礎	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の２月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）**※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める**
・Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵**

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵、ただし旧版および 10 版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり**
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり**
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。
② **専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の 2 月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅱの成績は D 判定となる可能性があり、かつ専門演習Ⅲの履修を認めない。**
③ 参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
④ 抄読会・Book Club（5 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
⑤ プレゼンテーション（10 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
⑥ 実習参加（10 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑦ 演習およびレポート作成（10 %）：科学的分析能力。
⑧ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to determine the theme of a graduation thesis by the end of the spring term and to start research in the summer vacation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hour beforehand and 2 hour afterward. Students must report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; whether or not the students can determine the theme of their graduation thesis and can start research by the deadline as mentioned above (60%), in class contribution (5%), reviewing scientific and medical literature (5%), presentation of measurement data (10%), participation in experiments (10%), and submitting reports related the topics in the classroom (10%). If a student can't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February, the grading of the student will be "D". Furthermore, the student is not permitted to take the seminar III in the next year.

HSS300IA

専門演習 Ⅱ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】
①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3 年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	Introductuion について/抄読会	リサーチクエスチョンの重要性について講義する。
12	Material and Method について/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	統計について/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodex など）/抄読会	主に Biodex の操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMG など）/抄読会	主に EMG の操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXA の原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）

21	研究計画の検討（リサーチクエスチョンに妥当性）/抄読会	リサーチクエスチョンの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の検討（対象と方法の妥当性）/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の検討（使用予定の統計方法の妥当性）/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験の設定	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験の報告	予備実験の結果と考察について報告する。
26	予備実験の総括	予備実験の limitation の討議と総括
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1： 3 年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
・坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
・臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− can evaluate locomotor disorders based on your findings and the knowledge you have acquired.
− Acquire the application of scientific analysis and logical thinking ability.
− Searching for research themes and setting assignments for graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS300IA

専門演習 Ⅱ

高見　京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月 5/Mon.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表の資料作成。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力の測定方法	筋力の測定。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業への参加 (40%) ：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2) 課題の提出および発表 (60%) ：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱでは研究デザインを策定するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Understand how to proceed with research.
− B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
− C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

島本　好平

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート等に対する予備調査や予備的な実践を通じて、ライフスキルに関する調査研究または実践研究を実施していくための方法論の習得を目指します。

【到達目標】
質問紙法によるアンケート調査の実施から、分析結果を導き出すまでの一連の手順について理解し、次年度の卒業研究の実施につなげていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、質問紙法によるアンケート調査実施に係る各種知識について理解を深める。その後、実際に仮のテーマにもとづきアンケート用紙を作成、調査を実施し、データを解析した上で分析結果を導き出すまでの一連の流れを体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習の流れについて確認を行う。
2	仮の研究テーマの検討	卒業研究に係る一連の流れを体験するための仮のテーマについて検討を行う。
3	仮の研究テーマの決定	関連する先行研究等を入念に確認した上で、仮の研究テーマを決定する。
4	仮のテーマにおける研究目的の検討	何をどこまで明らかにしようとするのか、研究の目的について検討する。
5	研究目的の決定と調査計画の検討	研究目的を決定した後、それを達成するための調査計画の検討を行う。
6	調査計画のプレゼン発表	調査計画をゼミメンバーにプレゼンし、ディスカッションを通して細部にわたり検討する。
7	アンケート用紙の作成（調査内容の検討）	実際にデータを収集する調査内容について検討を行う。
8	アンケート用紙の作成（レイアウトの検討）	信頼のあるデータの確保につながる、調査票のレイアウトについて検討を行う。
9	調査対象と調査時期の検討	データを収集する対象を決め、それに適した調査時期を検討する。
10	手続きの検討	確実に調査を実施するための依頼の手順と、回答者への倫理的配慮について検討を行う。
11	データ入力フォーマットの検討	回収したデータを効率良く入力していくためのフォーマットについて検討を行う。
12	データの回収から入力まで	データ入力作業に移るまでに必要な作業について学習を行う。
13	データ入力時注意事項の確認	データケースの採用・不採用を区別するための視点等について学習する。
14	まとめ	春学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深めていく。
15	秋学期における目標設定	秋学期の学習の見通しを示すとともに、各自目標の設定を行う。
16	統計的分析方法の確認	仮テーマにおける研究の目的を達成するために必要な分析手法について確認する。
17	統計的分析手法の学習	確実に分析が実施できるよう、サンプルデータ等をもとに分析手法への理解を深める。
18	統計的分析の実施	回収したデータに対して実際に分析を実施する。
19	統計的分析の実施（追認）	再度同様の分析を実施し、先に得られた結果に間違いがないかを確認する。
20	分析結果の解釈	個々の分析結果を適切に解釈するための視点について学ぶ。
21	分析結果の提示	個々の分析結果を順序良く提示していくための視点について学ぶ。
22	分析結果の考察の意味	考察とは何かの視点を学ぶ。
23	分析結果への考察を深める	より深い考察を行うための視点を学ぶ。
24	発表資料の構成の検討	各章（序論、方法、結果、考察）に割り当てる内容を検討する。
25	発表資料の作成	パワーポイントを用いて発表資料の作成に取り組む。
26	プレゼン発表の練習	一通り発表を行い、改善点を確認した上で発表資料に修正を加える。
27	仮のテーマにもとづく研究発表会	次年度の本番さながらの研究発表会を行う。
28	まとめ	秋学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は それぞれ 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（６０%）、最終のプレゼン発表（４０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the practice of life skills research. At the end of the course, students are expected to learn a series of
the survey research method. Your study time will be more than a few hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
The survey plan: 30%, The process: 30%, The main finding: 40%

HSS300IA

専門演習Ⅱ

成田　道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点、問題点を整理し４年次演習Ⅲの卒業論文作成に備える。

【到達目標】
２年次秋学期の演習Ⅰで研究発表したテーマを参考に秋学期各自の演習Ⅲに向けて研究テーマを決定し、４年次の卒論に向けて準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ別にスポーツに関する疑問等を調査研究しプレゼンテーションを行い、それについてディスカッショを行う。演習Ⅰの秋学期に設定したテーマを再考し、決定したテーマに沿ってさらに調査研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画と自己紹介を行う
2	演習Ⅰを振り返る	各自演習Ⅰの研究を振り返り検討する
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ
4	グループ別調査１ 研究テーマの決定	グループに分かれ関心のある研究テーマを決める
5	グループ別調査２ 役割分担	グループ別に調査方法と各自の役割分担を明確化する
6	グループ別調査３ 調査・情報収集	グループ別に研究テーマに沿ってインターネット等で調査・情報収集を行う
7	グループ別レジメの作成	グループ別に収集した調査・情報をもとにレジュメを作成する
8	グループ別レジュメの発表	グループ別に作成したレジュメを発表する
9	プレゼンテーション１ 作成	グループ別に研究テーマをもとにプレゼンテーションを作成する
10	プレゼンテーション２ 発表	グループ別に前回作成したものを発表する
11	プレゼンテーションの総括	発表したプレゼンテーションの総括を行う
12	プレゼンテーションの修正	総括で出された意見をもとにプレゼンテーションの修正を行う
13	小論文の作成	グループ別に修正したプレゼンテーションをもとに小論文を作成する
14	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し秋学期に備える
15	ガイダンス	秋学期の授業計画について説明する
16	個人別研究テーマの再検討	各自演習Ⅰの研究テーマを再検討する
17	個人別研究テーマの決定１	各自の研究テーマ発表する
18	個人別研究テーマの決定２	各自の研究テーマについてディスカッションする
19	小論文計画書作成	各自の研究テーマについて小論文作成計画を立てる
20	文献の検索	各自の研究テーマについて文献を検索する
21	文献の講読	各自の研究テーマについて文献を購読、要約し発表する
22	レジュメの作成	各自の研究テーマについて文献・インターネット等で資料を収集しレジュメを作成する
23	レジュメの発表	前回作成したレジュメを発表する
24	プレゼンテーション	各自の研究テーマについてプレゼンテーションを作成・発表する
25	小論文作成１	各自研究テーマについて発表したプレゼンテーションをもとに小論文を執筆し発表する
26	小論文作成２	前回発表の総括を行う
27	小論文作成３	総括の意見を取り入れ小論文を完成させる
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し次年度に備える。年間を振り返り反省点・問題点を確認する。小論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％）・プレゼンテーション（３０％）・最終レポート（３０％）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後の目標を明確に把握し指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Students investigate their topics, elucidate doubtful points and problems and develop a research.
【到達目標（Learning Objectives）】
While taking the theme that published the results of its research in Seminar I into account, each student decides the theme for Seminar III and prepares for a graduation thesis.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Class 1 : Special instruction
Class 2 ～ 14 : For each four hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
Class 15 : A review of Spring semester
Class 16 ～ 28 : For each four hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Judging a normal point (40%), presentation (30%), a report (30%) generally,
Grading Criteria is evaluated.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，体育学，コーチ学などといった運動科学分野における文献分析から，自分の取り組みたいテーマを選択していく。自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
少人数グループに分かれ、国内外の文献を検索と発表することを通じ、コーチングに関連している様々な研究法と論文の書方について学習する。３年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ，２年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められ, 連絡系統の確認をする
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討
3	文献検索の方法と実際①	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検 索の方法に習熟する。
4	プレゼンテーション制作①	演習生Ⅰの制作をサポートする
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表し、意見交換から過不足の検討
6	統計解析の基礎	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
7	研究法①	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケートとその考え方を議論する
8	研究法②	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する
9	研究法③	スポーツコーチング科学の特徴に関する研究法について学習する
10	プレゼンテーション方法	パワーポイントプレゼンテーションについて学習する。
11	プレゼンテーション方法②	前週制作のパワーポイントを演習生Ⅱの代表数人が提示、議論する。
12	文献検索と輪読①	国内のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
13	文献検索と輪読②	海外のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
17	研究計画書の書き方①	緒言，目的，方法の記載の仕方について学ぶ
18	研究計画書の書き方②	期待される結果、研究の意義
19	研究計画書の書き方③	進み方・フローチャートにおける考え方
20	研究計画作成①	小人数のグループでコーチング現場におけるテーマを設定し、研究計画を作成する
21	研究計画作成②	前回グループで設定した研究計画を発表し、意見交換する
22	論文作成①	研究計画に基づいて、小論文を作成する（目的と方法）
23	論文作成②	研究計画に基づいて、論文を作成する（結果と考察）
24	論文作成③	研究計画に基づいて、論文を作成する（目次と参考文献含め、全文）
25	発表①	グループごと論文発表を行う①
26	発表②	グループごと論文発表を行う②
27	発表③	グループごと論文発表を行う③
28	総括	演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随 時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。 ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50 %) とプレゼン (50 %) によって評価する
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
① リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境
② ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター（スマートフォンは不可の場合がある）
③ 統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching. Third grade students will be required to guide the 2nd graders, assist with presentations and conduct debates. International research papers on coaching science will be used for understanding the most recent findings. As well as for learning how to write scientific reports and further diploma work. The secondary goal is to find a topic and creating a research plan for the upcoming graduation thesis. The students shall be able:
1. To be able to search for articles containing the desired data.
2. To be able to prepare presentation materials and make presentations that are easily understood by the audience.
3. To be able to understand the methods of experiments, investigations, and analyses described in the papers.
4. To be able to perform basic experiments, measurements, and investigations.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法を学ぶ。

【到達目標】
自分自身の研究課題を見出し、それを解決するために用いる測定法に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
自身の研究課題を考案し、研究計画にまとめてプレゼンする。
習熟すべき測定法を選択し、２年生に測定法を指導する。
研究課題をトライアルとして実行し、そのデータを分析、プレゼンする。
習熟した測定法の既存マニュアルを更新する。
教員から今後の測定法の活用に関するコメントをフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・授業の進め方のガイダンス ・グループ分けと測定法の選択
2	・測定原理と測定法①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
3	・先行研究の紹介①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の先行研究をプレゼンテションし、理解する
4	・課題の設定①	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の測定課題を検討して設定する
5	・身体組成の測定	・課題に沿って身体組成を測定する
6	・呼気ガス分析の測定	・課題に沿って呼気ガス分析を実施する
7	・血中乳酸濃度の測定	・課題に沿って血中乳酸濃度を測定する
8	・測定結果のフィードバック① ・研究課題の考案	・身体組成、呼気ガス分析、血中乳酸濃度の測定結果をフィードバックする ・自身の研究課題を考案する
9	・測定原理と測定法②	・筋力、筋電図の測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
10	・先行研究の紹介②	・筋力、筋電図の先行研究をプレゼンテーションし、理解する
11	・課題の設定②	・筋力、筋電図の測定課題を検討して設定する
12	・筋力の測定	・課題に沿って筋力を測定する
13	・筋電図の測定	・課題に沿って筋電図を測定する
14	・測定結果のフィードバック② ・研究課題の考案 ・前半の総括	・筋力、筋電図の測定結果をフィードバックする ・自身の研究課題を考案する ・前半の総括と後半へ向けて
15	・後半のガイダンス	・前半の課題の改善と後半のガイダンス
16	・測定原理と測定法③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
17	・先行研究の紹介③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの先行研究をプレゼンテーションし、理解する
18	・課題の設定③	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの測定課題を検討して設定する
19	・MCの測定	・課題に沿ってMCの測定を実施する
20	・フォースプレートの測定	・課題に沿ってフォースプレートの測定を実施する
21	・ストレインゲージの測定	・課題に沿ってストレインゲージを用いた測定を実施する
22	・測定結果のフィードバック③ ・研究課題の設定	・MC、フォースプレート、ストレインゲージの測定結果をフィードバックする ・自身の研究課題を設定する
23	・測定原理と測定法④	・ゴニオメータ、加速度計の測定原理と測定法をプレゼンテーションし、理解する
24	・先行研究の紹介④	・ゴニオメータ、加速度計の先行研究をプレゼンテーションし、理解する
25	・課題の設定④	・ゴニオメータ、加速度計の測定課題を検討して設定する
26	・ゴニオメータの測定	・課題に沿ってゴニオメータの測定を実施する
27	・加速度計の測定	・課題に沿って加速度計の測定を実施する
28	・測定結果のフィードバック④ ・研究課題の設定 ・後半の総括	・ゴニオメータ、加速度計による測定結果をフィードバックする ・自身の研究課題を設定する ・後半を総括し、次年度への改善を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。
２年生に指導できるように測定法に習熟する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して学習支援システムの「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか、朝倉書店
・「バイオメカニクス、身体運動の科学的基礎」金子公宥、福永哲夫、杏林書院
・「バイオメカニクス　人体運動の力学と制御」D.A.Winter、ラウンドフラット

【成績評価の方法と基準】
・測定の原理をまとめ、適切にプレゼンテーションした（１０％）
・適切な先行研究を探し、要点をまとめてプレゼンテーションした（１０％）
・自身の研究課題を適切に設定した（３０％）
・測定に検者あるいは被検者として積極的に参加した（３０％）
・測定結果を適切にフィードバックした（１０％）
・測定法のマニュアルを改善した（１０％）

【学生の意見等からの気づき】
研究課題について多くのコミュニケーションがとれるようにする

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Outline of this class is to learn and master the measurement procedures on sports biomechanics and sports physiology/
【Learning Objectives】
Objectives are to understand and master the measurement procedures, and to use these measurements to solve the question in the sports coaching.
【Learning activities outside of classroom】
Students investigate the measurement principle and related references, and analyze the data obtained in the class.
【Grading Criteria/Policy】
Presentations of measurement principle, reference, and data feedback (30%), planning of own research theme (30%), participation in the measurement (30%), and improvement of measurement manual (10%)

HSS300IA

専門演習 Ⅱ

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション，研究・実験計画の基礎，文献のレビュー，実験・測定・調査の具体的方法，統計解析，研究仮説の設定などの各方法を学び，研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応
○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価，運動中のエネルギー代謝
○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	文献を利用した研究の着想について学ぶ	文献を利用した研究の着想，計画立案の方法について学ぶ。
第 4 回	研究計画を学ぶ	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ。
第 5 回	先行研究を用いた調査法を学ぶ	個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 6 回	先行研究を用いた知見のまとめ方を学ぶ	前回に続き，個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 7 回	データの種類を学ぶ	尺度の判定（名義・順位・間隔・比率尺度データ）の特性について学ぶ。
第 8 回	複数群のデータの関係性を検討する方法を学ぶ	相関・予測の分析（相関係数，重相関係数），名義尺度・順序尺度データの分析について学ぶ
第 9 回	複数群のデータの差異を検討する方法を学ぶ	平均の有意差の分析（t 検定），分散の有意差の分析について学ぶ。
第 10 回	実験計画法（一要因分散分析）を学ぶ	一要因の分散分析（被験者間・被験者内の各計画，多重比較）について学ぶ。
第 11 回	実験計画法（繰り返しのある二要因分散分析）を学ぶ	二要因の分散分析（被験者間計画，交互作用）について学ぶ。
第 12 回	実験計画法（混合計画の二要因分散分析）を学ぶ	二要因の分散分析（被験者内計画，混合の各計画）について学ぶ。
第 13 回	実験計画法（三要因分散分析）を学ぶ	三要因の分散分析（被験者内・被験者間・混合の各計画）について学ぶ。
第 14 回	骨格筋活動の測定方法を学ぶ	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 15 回	骨格筋活動の測定を実践する	骨格筋活動（筋電図）の測定方法を学ぶ。
第 16 回	エネルギー代謝の測定方法を学ぶ	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 17 回	エネルギー代謝の測定を実践する	エネルギー代謝（呼気ガス分析）の測定方法を学ぶ。
第 18 回	動作解析の測定方法を学ぶ	身体の動作解析についてグループで調査して発表し，論議する。
第 19 回	動作解析の測定を実践する	動作解析の測定方法を学ぶ。
第 20 回	質問紙調査を用いた測定方法を学ぶ	質問紙調査についてグループで調査して発表し，論議する。
第 21 回	質問紙調査を用いた測定を実践する	質問紙調査の方法について学ぶ。
第 22 回	指示・指導に関する測定方法を学ぶ	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し，論議する。
第 23 回	研究課題の設定法を学ぶ	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 24 回	研究計画の立案法を学ぶ	担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 25 回	研究計画の立案を実践する	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 26 回	研究・データ収集に向けた準備を学ぶ	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。
第 27 回	収集データの解釈法を学ぶ	グループごとに，ミニ研究のデータ分析・考察を行う。
第 28 回	研究成果を発表する	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法．ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進．健康・スポーツ科学のための調査研究法．杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文．心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方．東京図書.
田中敏，山際 勇一郎．ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで．教育出版.

【成績評価の方法と基準】
評価は，1) 実験・調査・発表の内容： 60%，2) 授業への参画状況（出席・発言など）： 40%，で行います。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度は，春学期前半のオンラインで授業を実施せざるをえない状況でしたが，対面授業を開始してから，履修者間のコミュニケーションが促進され，非常に充実した活動が実施できたと感じています。次年度は，原則対面での授業を実施予定ですが，昨年度実施できなかった各種測定機器の使用方法や実際に測定できるデータの確認等も含めて授業を行っていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising their research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys, and data analysis.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Search for articles that contain the data of interest.
2. Prepare presentation materials and make accessible presentations to understand.
3. Understand the papers' experimental and research methods and analysis methods described.
4. Perform basic experiments, measurements, and surveys.
【Learning activities outside of the classroom】In most classes, students will be required to search and review literature, prepare presentations, and write research plans. In addition, both individual research and group research require students to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. The standard time for these preparatory studies and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations(60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300IA

専門演習Ⅱ

山本　浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に専門演習Ⅰを経験した学生による専門演習Ⅱは、演習Ⅰで培った力を元にさらに大きな世界観でスポーツを捉えるところに重心を置く。「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」などが研究テーマの守備範囲に入る。専門演習Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲを見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出することを勧めたい。となれば「何に取り組むのか」を土台に、「どう取り組むのか」に意識を置くことだろう。
演習ⅠとⅡに共通する要素は、「厳しく突き詰めて得た持論を外に向かって展開する」ところにある。大切にするのは意見のぶつけ合いで、ディベートを集中的に取り込み、持論の提示、他者の意見の理解、そしてさまざまな情報を材料に、問題解決のために取るべき施策の評価に時間を費やしたい。

【到達目標】
専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論理展開を身につけること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。
目指すべきは、ⓐ矛盾のない資料の選択や抽出法の獲得ⓑ対立意見を十分に検討し、採否の判断能力の向上ⓒ説得力のある論理構築法の習得ⓓ具体事例をおろそかにせず、全体を目指す力、そしてⓔ完成度が高く力のある論文を書く能力を獲得することである。
専門演習Ⅰからのグレードアップで特に目指したいのは緻密な論理の構築で、そのためには多くの時間とエネルギーを割く心構えを持たねばならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
状況を見極めての判断になるが、基本は対面での演習を想定している。三密にならないように気を配りながらも、同じ空間にいてこそ得られる、専門演習らしいやり取りができることを期待している。
専門演習Ⅱは、あくまで学生主体の授業である。参加者は専門演習Ⅰから大きな隔たりを感じないかも知れないが、要求水準は更に高い。授業の中で求められるのは①積極的なリーダーシップの発揮②後進の手本となるような研究成果の発表③幅広いジャンルに対する知見や斬新なものの見方の提示である。初めて専門演習の世界に入ってくるⅠの学生たちの期待は大きい。経験を生かして、Ⅰの学生たちに、あるときは厳しくあるときは寛容に、自身の研究の成果はわかりやすくなお深く対応する。リーダーシップを随所に発揮しながら、専門演習Ⅱの学生達が軸になって演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　演習生Ⅱの自己紹介	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められる。連絡系統の確認をする。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方、ディベートの基礎を振り返る。	演習生Ⅱの代表者数人によるプレゼンテーション見本を見せる。意見交換、ディベートの要件把握をする。
3	素材のあり所と押さえ方への工夫。	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討する。
4	プレゼンテーション制作	演習生Ⅰの制作をサポートする。それぞれが演習Ⅰで獲得した手法を披瀝する。
5	プレゼンテーション発表から意見交換。	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表しその後、意見交換から過不足の検討に至る。
6	調査・インタビュー・素材抽出	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケートで、その重みや考え方を議論する。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーション：社会は何を求めているか。	話題になっているスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。その際に、対立するアイデアを十分に取り込む技法を習得する。
9	プレゼンテーションからディベート：経験を積んだプレゼンターの視点。	前週制作の PPT を演習生Ⅱの代表数人が提示、その後、ディベート形式で議論する。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で、文献検索と論文執筆法の講習を受ける（予定／日程変更の可能性あり）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。演習Ⅱの受講生は複数のメディアにあたること。
12	プレゼンテーション制作：歴史を隔て、大陸を違えて考える。	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。その際に年月の経過がどのような論調の違いを生んできたかにも注意を払う。
13	プレゼンテーション制作：独自の資料とその分析。	アンケートや調査の結果を統計処理して、自分の主張の柱のひとつに取り込む。
14	春学期の総括	演習時に与えるテーマで課題を作成する。前年に経験した演習Ⅰの成果を思い返し、演習Ⅱらしくうまく昇華させること。
15	夏課題総括：テーマの正当性に重心を置いて。	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。演習Ⅰの受講生から始めるプレゼンテーションを厳しい観点で見る。
16	夏課題総括：独自の視点	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。自分の作り上げてきたスポーツ観を大切にする。
17	夏課題総括：主張と切り替え	夏の課題の成果を発表する。特にプレゼンテーションの中の論理の切り替えに注意を払う。
18	プレゼンテーション制作：「組織の仕組みと現代性」	プレゼンテーションに登場したスポーツシーンに視点を据え、それと関わる組織や団体の考え方を検証する。
19	プレゼンテーション発表：課題に関して甲論乙駁（こうろんおつばく）	A が指摘する「課題」は B にとっても「課題」なのか。課題の捉え方を議論する。
20	プレゼンテーション発表：膨大な資料、適切な選択	制作にかかっていたものを発表する際に、取り上げられた資料以外にどんなものがあってなぜ排除されたのかを議論する。
21	プレゼンテーション発表：自分の結論を急がない。	論理を追って結論に達するのではなく、結論ありきのプレゼンテーションになっていないか。一つ一つを丁寧にたぐり寄せる。
22	プレゼンテーションとディベート：意味のある改善、大局観からの主張。	前週の改訂版をプレゼンする。意見や主張の多様性の中で自らの視点を過（あやま）たない。
23	プレゼンテーションとディベート：メディアを採る。	前々週から改訂してきたプレゼンを振り返り、同様の報道をメディアの中に求める。テーマが似ていると言うだけでなく、論理構成に近いものを探り出すこと。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	ここまでのやりとりで手にしたものを、高いレベルで文章化してみる。
25	論文発表：自らのテーマと主張を文章化。映像のない論理展開への切り替え。	写真やイラストが果たしていた、主張を強化する役割を文字はどのように補完できるのか。
26	論文発表と校正：配布された論文を元に、議論の渦を起こす。	他の受講生の論文を、俯瞰したものの見方で評価し、不足するところを校正提案をする。
27	論文発表と校正：異論を検討し、ジャーナルな視点を研ぎ澄ます。	最終的な改訂バージョンは、卒論執筆への礎石になる可能性がある。
28	専門演習Ⅱ総括	これまでの演習で取り上げたテーマに共通する、トピックの分析、材料の集め方、主張の方法など、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
行動に制限のかかる時間が限りなく減っていくのか。それとも膠着状態のままで、無用な外出を避けざるを得ない時間が続くのか。状況に応じて外部情報の取り方、その読み方がそれぞれの経験値を大きく左右しかねない。書かれていること、伝えられていることをそのまま真に受けるか。なぜそのように伝えられるのか。演習の時間外でも、そのための力量を上げることが大いに可能だ。メディアの情報に敏感になろう。あるいは思った様にイベントが展開されない年度前半になるかも知れない。過去に情報を探る時間が増える可能性があるが、A 紙を読んで頷き、B 画面を見てなるほどと納得するだけでは足りない。その時代の生活水準、科学の力、宗教の強さ、世界が世界を知らない時代。さまざまな論調を少し離れたところから読み解き、そこに自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の考えがどこからきたのか、足下を探っておくことも必要だ。

大学生活の次のステージを考えたとき、もう一つ大切なことは、自分の人生設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうかにある。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義の進捗状況に応じ、大きなテーマを 2 週間をかけて履修していく。

【テキスト（教科書）】
なし (必要に応じてその都度、用意する)。

【参考書】
求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（批評の内容/研究発表）70 %、 最終課題 30 %（演習時間外に、時間をかけて制作)。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
演習終盤にテーマを提示し、それを期限内に提出することで最終課題とする。

【学生の意見等からの気づき】
専門演習ⅠとⅡの間で発言機会にバランスを取った時間配分を心がける。
学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートを続けたい。エントリーシートのチェックなど依頼には随時応じる。
参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。演習生の積極的な提案を待ちたい。
ディベートの機会を増やすが、積極果敢な主張の展開に務めてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
自分のパソコンを持っている演習生は、それを持参すること。パワーポイント、キーノート、DVD ､映像資料などを頻繁に使用するだけでなく、気がかりなこと、演習中の疑問はパソコンで常に調べられる態勢でいるとよい。

【その他の重要事項】
自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。状況を見極めながら可能であれば夏休みにゼミ合宿を検討する。事情が許せば参加するよう求めたい。
オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運び、演習の際には指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。

【Outline (in English)】
A student who has already experienced the seminar I could capture sports with a larger world view. Students who participate in seminar Ⅱ should broaden their horizons to the seminar Ⅲ and try to extract a future theme of their studies. They find there some fundamental principles: ① introduction with good comprehension ② easy-to-understand composition ③ fresh information ④ development not to be got weary ⑤ convincing logic and ⑥ originality.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は各自の卒業研究のテーマを設定する。秋学期は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する先行研究をレビューするとともに、各自の研究構想を立案し、それに基づいて卒業論文の序論を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
(3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性、仮説を示すことができる。
(4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。
(5) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて興味をもった研究テーマを掘り下げる。
新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：春学期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
第 3 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルインパクト	五輪やサッカー W 杯のようなメガスポーツイベントには社会を変える力がある。これをソーシャルインパクトと呼ぶが、その定義、種類、考え方について学ぶ。
第 4 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルキャピタル	スポーツはプレイヤー、仲間、対戦相手、ファンなどの人々の相互作用で成立しており、その過程において人々を結び付ける働きを担っている。それをソーシャルキャピタルと呼ぶことができ、その定義、種類、重要性を理解する。
第 5 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ウェルビーイング	国際連合が発表した SDGs の 3 番目の開発目標がウェルビーイングである。このウェルビーイングとスポーツマーケティングの関係性について学習する。
第 6 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの登場により、スポーツを消費する人々の心理や行動に変化が生じている。今回はスポーツ消費者行動におけるソーシャルメディアの意味と役割について学ぶ。
第 7 回	スポーツマーケティングの重要テーマ：観戦スタイルの変化と態度変容	テクノロジーの技術革新や社会環境の変化（温暖化、大規模災害、感染症蔓延など）はスポーツの観戦スタイルに影響を与える。こうした変化に対する人々の適応方法を理解する。
第 8 回	研究テーマの設定	グループに分かれて研究テーマを設定し、分析するための変数と尺度を特定する。
第 9 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の設計	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の質問項目を設定するとともに、実際の調査方法を計画する。
第 10 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の実施	作成した質問項目と調査計画に基づき、データを収集する。
第 11 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の実施の分析	収集したデータを入力・分析し、プレゼンテーションの資料を作成する。
第 12 回	卒業研究を知る	4 年生の卒業研究の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
第 13 回	ゼミ内プレゼンテーション 1	設定した研究テーマに関するプレゼンテーションを行う：前半グループ
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション 2	設定した研究テーマに関するプレゼンテーションを行う：後半グループ
第 15 回	秋学期の演習の概要の説明	秋学期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	先行研究（卒業研究）の検討	先行研究（卒論 2 本）ついて、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 17 回	先行研究（一般の論文）の検討	先行研究（一般の論文 1 本）ついて、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 18 回	スポーツマーケティング研究：観戦型スポーツの先行研究	観戦型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 19 回	スポーツマーケティング研究：参加型スポーツの先行研究	参加型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 20 回	スポーツマーケティング研究：拡大産業に関する先行研究	スポンサーシップ、ツーリズム、インターネットなどに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
第 21 回	研究テーマの設定	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 重要概念、(3) 目的、(4) 研究の重要性をパワーポイントでまとめる。
第 22 回	研究テーマの発表	パワーポイントで作成した各自のテーマを発表する。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	演習のまとめ	1 年間に渡って取り組んできたゼミの専門的な学習を振り返り、まとめとする。
第 28 回	卒業研究発表会	4 年生の卒業研究の発表会に参加する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。春学期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。秋学期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文。

【成績評価の方法と基準】
(1) 研究テーマの設定： 10 点（春学期）
(2) スポーツマーケティング調査の実施： 10 点（春学期）
(3) 先行研究のレビュー： 20 点（秋学期）
(4) 序論（緒言、問題の所在）の執筆： 20 点（秋学期）
(5) 序論（目的、重要性）の執筆： 20 点（秋学期）
(6) 序論（概念的枠組み）の執筆： 20 点（秋学期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では海外の事例や文献に加え、身近な日本のスポーツや文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的に学習してください。

【Outline (in English)】
This course is a seminar of sport marketing research. The goal of this seminar is to learn how to conduct sport marketing research based on students' own interests and research questions. Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. Grading will be decided based on short report (10%), data collection and analysis (10%), literature review (20%), and the end-of-term report (60%). Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

越智　英輔

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身体活動や運動トレーニングがもたらす身体への応答・適応に関して運動生理学の視点から学びます。過去の先行研究を検索する方法、まとめる方法、仮説の立て方など、実際に実験を計画する上で必要な手法を習得することを目的とします。

【到達目標】
1. 必要な図書・論文の検索が自分でできる。
2. 検索した文献をレビューできる。
3. 理解した内容を、プレゼンテーションができる。
4. 先行研究の位置付けを把握し、実験を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期前半は、文献のインターネット検索法、レビュー法を学んでもらい、まとめた内容を発表してもらいます。その後、実際に実験を実施してもらいます。最後に研究の立案、実験計画の手順（倫理、統計）などを学んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容を説明し、履修人数に応じて授業の進め方を調整する
2	文献の紹介	文献の種別を学ぶ
3	図書検索	図書の検索方法を理解する
4	論文検索	科学論文の検索法を学ぶ
5	文献の分類	検索した文献のレビュー法を学ぶ
6	文献の総括	プレゼンテーション法を学ぶ
7	文献のレビュー発表	実際に文献をまとめて発表する
8	実験の準備	紹介した文献で実施している測定を行うための準備をする
9	実験実習の実施	実験を実施する
10	実験データの解析	得られたデータを分析し、統計解析を行う
11	データのプレゼンテーション法	実験データのプレゼンテーション法を学ぶ
12	プレゼンテーション	実験データを発表し、過去の論文との再現性を確認する
13	筋電図法の紹介	文献、測定法を紹介する
14	筋電図測定の実施	実際に測定する
15	筋電図データのまとめ	分析結果をまとめる
16	筋力測定の紹介	文献・測定法を紹介する
17	筋力測定の実施	実際に測定する
18	筋力測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
19	筋厚、筋硬測定の紹介	文献、測定法を紹介する
20	筋厚、筋硬測定の実施	実際に測定する
21	筋厚、筋硬測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
22	生化学的分析の紹介	文献、測定法を紹介する
23	生化学的分析の実施	実際に実施する
24	生化学的分析の解析	データを解析する
25	生化学的データのプレゼンテーション	分析結果をまとめて発表する
26	研究の仮説立案	これまでの文献レビューと実習を踏まえて研究の仮説を立てる
27	研究計画書の作成	仮説に基づく実験計画書を作成する
28	研究計画書の紹介	作成した計画書を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を検索してもらったり、入手した文献をレビューしてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容 60%、実習を含めた授業への参加姿勢 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
文献検索、プレゼンテーションのための PC が必要です。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential components of exercise training and physical activity on human body to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of research strategy.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports and presentations (60%)and in-class contribution (40%).

HSS400IA

専門演習Ⅲ

安藤　正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文，あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
4 年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見いだし，それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告，討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データーの報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行う主にグループ①の学生を対象とする。	文献を検索しこれを報告する。他の学生は意見を述べる。
5	関連した文献報告を行うグループ②の学生を対象とする。	文献を検索しこれを報告する。他の学生は発表を聞き、意見を述べる。
6	発表された内容を振り返り文献検索の手順および報告書のまとめ方を指導する。	文献を検索手順、文献のまとめかた、および報告する手順を前半の発表会の意見を考慮しながら随時修正する。
7	関連した文献報告を行うグループ①の学生を対象とする。	前回の研究と関連した文献を検索しこれを報告する。
8	関連した文献報告を行うグループ②の学生を対象とする。」	前回の研究と関連した文献を検索しこれをまとめ報告する。
9	グループ①の学生を対象として中間発表会を行う。	これまでの情報と計画、または成果を報告する
10	グループ②の学生を対象として中間発表会を行う。	これまでの情報と計画、または成果を報告する。この際、前回の意見を反映させながら報告書を完成させる。
11	グループ①の学生を対象とし論文指導を行う。	面談で個々に論文指導を行う。特に全体の章立てなどを主とする。
12	グループ②の学生を対象とし論文指導を行う。	面談で個々に論文指導を行う。全体の章立て、進んでいる学生は各章について指導する。
13	完成度に応じて論文指導を行う。	完成度に応じて、面談で論文指導を行う。特に時間帯は問わない。
14	研究の方法までの論文指導を行う。	面談で方法までの論文指導を行う。
15	中間報告会	中間報告会 (前半部分の進行具合を確認する)
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会に参加することで欠点や利点を学ぶ
17	卒論論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会に参加して意見を聞き、研究計画の欠点を発見習をする。
18	卒論論文報告会で指摘された事項を修正	下学年ゼミ生徒の合同報告会で出された意見を集約し計画書を修正する。
19	下級学年と小グループで試験的実験をする 個人面接指導①	研究協同実験 計画書にもとづき２～３名の被検者に試験的実験を行う。 順番で面接指導
20	下級学年と小グループで実験計画の完成度を高め実験する 個人面接指導②	協同実験 前回の試験的実験で気が付いた欠点を修正しながら更に 2～3 名の実験を行う。 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで目的の被検者数に達するよう実験数をこなす。 人面接指導③	協同実験 順番で面接指導 問題点を指摘する
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導 2 回目の指導では指摘事項が修正されているかをチェック
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導 3 回目の指導では完成度を高める
24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導 4 回目の指導では報告会に提示できる形式をチェック
25	報告会前半グループ	報告会を行い最終チェックをする 後半のグループは意見を述べる
26	報告会後半グループ	報告会を行い最終チェックをする 前半のグループは意見を述べる
27	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
28	学術大会への参加	学会へ参加し学術的雰囲気を体験する（日程未定） 順番で面接指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文に仕上げるまでの課程を学ぶ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自関連した文献を１０論文以上検索し読む。

【参考書】
各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】
発表会の成績（30%）、論文の完成度（60%）、宿題等論文の作成のための課題（10%）

【学生の意見等からの気づき】
個人面接による指導を中心とする

【学生が準備すべき機器他】
研究に関する参考文献や図書を各自が検索しみつける。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

【Outline (in English)】
course of outline: Individual graduation research guidance is conducted.
learning objectives: The goal of the class is to complete the graduation research and the bachelor thesis.
Learning activities outside of classroom ： first thinking about the idea of research.and think about the method of research.
next collect data, analyze and consider the data.　And then finish research papers.
Grading Criteria is determined by the completeness and quality of the dissertation.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
スポーツ医学・アスレティックトレーニング、特にスポーツ外傷・障害予防に関する実験研究、調査研究、実践的な取り組みや具体的な事例に対する報告等の研究を行い卒業論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
本ゼミでは実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認と全体の確認を行う。
2	研究テーマの立案 1	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
3	研究テーマの立案 2 ／検討	研究テーマのディスカッション結果から修正した新たな内容を検討する。
4	予備実験の準備	研究テーマに基づいた予備実験を計画する。
5	予備実験（機器の使い方）	予備実験を通して、実験機器の使用方法・注意点を学習する。
6	予備実験（測定の練習）	実験に用いる機器を使用して、自身で実験を試みる。
7	予備実験実施	予備実験を行い、データをとる。
8	予備実験解析	予備実験結果を解析し、実験データから研究計画の検討を行う。
9	予備実験のまとめ	修正内容を踏まえ、予備実験を通して研究の方向性を決定する。
10	これまでの振り返り	予備実験を振り返り、本実験へ向けた最終的な検討の上、実験計画を完成させる。
11	倫理書作成と本実験準備	倫理書を作成し、本実験を行う。
12	本実験開始	被験者・検者とともに実験を開始する。
13	本実験実施	引き続き、本実験を行う。
14	本実験実施と振り返り	実験を行いながら、データ解析を行い、結果を振り返る。
15	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマに基づいたこれまでの活動のプレゼンテーションを行う。
16	本実験／追加実験	中間発表会の結果に基づき、本実験・追加実験を行う。
17	本実験／追加実験（予備）	被験者・検者への協力の下、本実験もしくは追加で実験を行う。
18	本実験／追加実験の振り返り	本実験・追加実験を行いながら、データを検討し方向性を確認する。
19	本実験／追加実験（再検討）	振り返りを踏まえ、本実験・追加実験のさらなる実施や終了を検討する。
20	本実験／追加実験（完成）	すべての本実験・追加実験を終了し、データ解析の準備を行う。
21	データ集計	本実験のデータの集計および分析を開始する。
22	データ解析	集計したデータをを解析するとともに、内容を検討する。
23	論文執筆開始	データ解析を継続するとともに、卒業論文の執筆を開始する。
24	結果の振り返りと考察	研究結果をまとめあげ、考察の執筆に取り掛かる。
25	考察の完成	卒業論文の考察を完成させる。
26	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
27	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を同領域のゼミ生達と合同で発表し、ディスカッションを行う。
28	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～14 回　研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。
15～28 回　先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中喜代次，西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法，NAP，2004
広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
他、授業内で適宜紹介する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究計画書（10 %）、プレゼンテーション（デザイン発表・中間発表・卒業論文発表）（20 %）、卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
研究を一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生や大学院生である上級生・ゼミ他の下級生たちの協力なしには行えない。ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間達とのコミュニケーションをとりながら、皆で積極的に「卒業研究」に取り組んでもらいたい。

【Outline (in English)】
(Course outline) A purpose of the athletic training seminar 3 is to finish writing the graduation thesis of the athletic training and/or sports science field.
(Learning Objectives) Students will conduct experimental research and survey research on the prevention of sports injuries and disorders, and write a graduation thesis.
(Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy) Evaluation will be based on research plan (10%), presentation (20%), and graduation thesis (70%).

HSS400IA

専門演習Ⅲ

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰ・Ⅱの講義を通して学んだ内容から研究課題を決定し、学生自身が選んだ研究テーマについて先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし、計画的に研究を実施し、データ収集・分析、考察を行い、研究成果をまとめ卒業論文を執筆し、発表することを目的とします。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. 研究テーマの設定
2. 先行研究の検討
3. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説の設定
4. 研究方法を適切に設定し、データを収集
5. データを分析し、標本の特性と仮説の検証
6. 結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し、1 年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に支持された点について準備し、記述・分析内容について演習で添削を受ける。各自の研究計画にあわせて、全体・個別に学指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。
2 回	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、各自 1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
3 回	研究テーマの設定	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
4 回	序論:研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。
5 回	序論:研究の目的および重要性	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差（独創性）について明確にする。
6 回	序論:概念的枠組み	卒業論文のデータを収集する卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
7 回	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
8 回	方法:研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。
9 回	方法：調査票の作成	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17 回	結果：基本的属性と行動的特性の集計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析や重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に解釈し、そこから引き出した知見について記述する。仮説に対する答え、先行研究との比較検討、問題点を記述する。
23 回	考察:実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
24 回	結論	考察から言えること、仮説への答え、この研究で示されたことを結論として記述する。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	引用文献、巻末資料	引用文献や巻末資料を整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付, 書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤結論、⑥その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
各自の卒論テーマに合わせて、自主的に卒論を進めていく準備ができるように授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
1 年を通じて各自積極的にかつ計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】
Student decide research theme based on the contents learned through the lectures of the specialized exercises I and II, find the direction from the research of the previous research on the research theme chosen by the student himself/herself. Student conduct the research in a systematic manner and aim at considering, summarizing research results, writing graduation thesis, and presenting it.
The goals of this course are as follows:
1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions, hypothesis setting
4. Appropriately set the research method and collect data
5. Analyze the data and test sample characteristics and hypotheses
6. Creating results, considerations and conclusions
The grade evaluation is as follows:
Theme announcement: 10 points
Announcement of survey plan: 10 points
Interim announcement: 10 points
Final announcement: 20 points

Bachelor thesis ((1) Introduction, (2) Method, (3) Result, (4) Consideration, (5) Conclusion, (6) Other writing skills, logic, format, etc.): 50 points
Total: 100 points.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、卒業論文を作成することを目的とする。自らが選択したテーマに則した研究方法、調査および分析の方法などを踏まえた研究成果をまとめることを目的とする。

【到達目標】
本演習の到達目標は、自らが定めたテーマに沿った目的の設定、研究の重要性、仮説の設定、先行研究のレビューなどを適切に記載できること。適切な情報収集と分析の手法を用いて記述すること。最終的には得られた結果から結論を導くことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
年間を通して論文の執筆を計画的に進める。受講者は事前に資料を用意し、授業内にて添削を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義について学ぶ。また、各自研究計画を立てる。
2 回	研究の背景と問題点の整理	スポーツマネジメントの視点で、研究対象とする組織などが抱える課題を特定する。
3 回	研究の目的および重要性	研究課題を受け、目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的・実務的な貢献を果たすことができるのかについて検討する。
4 回	概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因を定義し、概念的枠組みについて検討する。
5 回	仮説の設定および導出根拠の記述	仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	研究環境および対象の決定	研究対象とする母集団およびサンプルを設定する。
7 回	調査計画	データ収集を行うための計画を立てる。
8 回	質問項目の検討①	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を検討する。
9 回	質問項目の検討②	調査対象者の心理的・行動的特性を測定するための要因を検討する。
10 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
11 回	統計的手法の検討	標本の特性を示すために必要な統計的な手法について学ぶ。
12 回	尺度の妥当性および信頼性の検討	研究に用いる尺度や分析の手法が統計的、内容的に妥当性や信頼性を担保しうるか検討する。
13 回	調査計画の発表準備	卒業論文の緒言、目的、方法、研究の意義などをまとめた抄録を作成する。併せてスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	スライドを用いて発表し、指摘された内容を踏まえ再度検討する。
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認し、完成に向けた計画を立てる。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17 回	調査データの分析①	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を記述する。
18 回	調査データの分析②	対象者の心理的特性を分析した結果を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。

20 回	仮説の検証①	分析結果（基礎集計）を用い、仮説を検証する文章を記述する。
21 回	仮説の検証②	分析結果（各種検定や回帰分析など）を用い、その結果を記述する。
22 回	考察①	得られた分析結果の考察をおこない、設定した仮説の検証をおこなう。
23 回	考察②	仮説検証およびより深い考察を行っていく。必要に応じて追加分析を行う。
24 回	実践的示唆	実務として貢献しうる結果について検討し、記述する。
25 回	研究の限界	取り組んできた研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述し、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。
27 回	最終発表の準備	論文発表のスライドを作成するとともに、卒業論文の抄録も併せて作成する。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として与えられた課題に取り組み、授業内にて添削を受けてください。授業で指摘された内容を修正し、次の課題へ取り組むように。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うために必要な機材やソフトウェア

【Outline (in English)】
(Course outline) This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. (Learning Objectives) Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.The aim of this seminar is read an academic paper and to do oral presentation. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%)

HSS400IA

専門演習Ⅲ

小田　佳子

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「体育科教育・スポーツ哲学（体育原理）領域」関する学術的・実践的知識を深め、卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。
専門演習Ⅲ (卒論指導) では、個別指導を通して卒業論文のより高い水準での完成をめざす。

【到達目標】
学術的な精度とオリジナリティのある卒業論文を完成する。
研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。
4 年生の卒論草稿と 3 年生の模擬授業の検討を行い、演習自体はグループディスカッション形式で、見学や合宿（体験）などのフィールドワークを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	先行研究の検索	先行研究・文献等の検索方法を知る
3	テーマの選定	卒業論文のテーマを絞り込む
4	先行研究抄読①	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
5	先行研究抄読②	先行研究抄読を発表する
6	先行研究抄読③	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
7	先行研究抄読④	先行研究抄読を発表する
8	先行研究抄読⑤	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
9	先行研究抄読⑥	先行研究抄読を発表する
10	先行研究抄読⑦	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
11	卒論テーマと目的の確定 → 卒論構想プレゼン	主要文献となる先行研究抄読をまとめ、卒論テーマと目的を確定する
12	研究方法の検討	卒論の研究方法を検討する
13	研究方法の確定	研究方法を確定し、調査・検討を開始する
14	ゼミ合宿の計画	ゼミ合宿の計画
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	結果・分析①	研究結果をまとめ、分析する
17	結果・分析②	研究結果をまとめ、分析する
18	考察	研究結果から考察をすすめる
19	考察	研究結果から考察をすすめる
20	卒論中間報告会①	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
21	卒論中間報告会②	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
22	卒論中間報告会③	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
23	卒論中間報告会④	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
24	卒論中間報告会⑤	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
25	卒論中間報告会⑥	卒論をまとめ、内容を発表する
26	卒論中間報告会⑦	卒論をまとめ、内容を発表する
27	卒論最終発表会	卒論の最終発表をする
28	まとめ	卒業論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。
本授業の準備学習・復習時間は各 6 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋建夫編著『新版・体育科教育学入門』大修館書店
友添秀則・岡出美則編著『教養としての体育原理』大修館書店

【参考書】
随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文内容（８０％）、卒業論文発表（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつ、学生が思索の迷路に陥らないような指導を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具、パソコン、記録用媒体（USB 等）

【その他の重要事項】
常に知的好奇心を以て臨むこと！

【Outline (in English)】
Deepening academic and practical knowledge about "Physical Education / Sports Philosophy (Physical Education Principles)", aiming to complete graduation research. Learning how to set research themes and objectives, how to select research methods, analysis of results and think.
In Specialized Exercise III (Graduation Thesis Guidance), we aim to complete the graduation thesis in a higher level through individual guidance.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

越智　英輔

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、卒業論文の作成にあたって必要な研究の構想、計画、実験・調査の実施、データ分析を行います。あわせて、得られた結果の解釈や考察をすすめます。最終的に卒業論文としてまとめるとともにプレゼンテーションも行います。

【到達目標】
1. 研究テーマを設定できる
2. 適切な研究計画を立案できる
3. 適切な結果の解釈ができる
4. 上記を論文としてまとめることができる
5. 完成した卒業論文をプレゼンテーションできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰ、Ⅱで学習した内容をさらに深めていきます。研究計画書を作成し、実際に調査、実験を行いデータを取得します。得られたデータを分析し、結果の解釈を行います。最終的に卒業論文としてまとめるとともにプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文の作成へ向けてタイムラインを確認する
2	研究テーマの設定	研究の意義と目的に照らしてテーマを設定する
3	研究デザインの立案	設定した研究テーマに基づき大まかなデザインを検討する
4	研究デザインの公表	研究デザインのプレゼンテーションを行う
5	先行研究のレビュー	先行研究を調査し、研究の背景と意義を確認する
6	先行研究の紹介	先行研究をまとめてプレゼンテーションを行う
7	緒言の作成	緒言の作成法を学ぶ
8	緒言の紹介	作成した緒言をプレゼンテーションする
9	実験・調査法の基本	実験・調査法の基本を学ぶ
10	実験・調査法の紹介	研究テーマに沿った適切な実験・調査法をプレゼンテーションする
11	実験・調査の分析法	得られるデータを分析するための統計手順を学ぶ
12	実験・調査の分析法の紹介	研究テーマに沿ったデータ分析法を紹介する。
13	関連する実験・調査方法の確認	直接的に関係しないものの関連がありそうな手法を再度検討し、測定法とアウトカムを確定する
14	方法の作成	方法の作成法を学ぶ
15	方法の紹介	作成した方法をプレゼンテーションする
16	予備実験・調査	本実験に向けて予備実験を行う
17	予備実験・調査データの分析	得られた予備実験データを解析する
18	予備実験・調査データの紹介	実際の調査・測定を実施し、データを取得する
19	予備実験・調査結果のプレゼンテーション	実際の実験・調査のデータを分析してプレゼンテーションを行う
20	緒言と方法の再検討	緒言と方法に問題がないかを再確認する
21	倫理的検討と研究の限界について検討	研究対象の倫理的配慮、測定で明らかになる範囲を確認する
22	本実験・調査の実施	本実験・調査を実施する
23	本実験・調査の解析	結果をまとめる
24	本実験・調査結果の解釈と考察	結果を図表にしてプレゼンテーションし、結果の解釈を深める
25	結果と考察の作成	結果と考察の作成法を学ぶ

26	結果と考察の紹介	作成した結果と考察をプレゼンテーションする
27	結論の作成	研究全体の結論、限界と現場への応用を検討する
28	卒論の完成	要旨などを含めて卒論全体の構成を最終確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での文献を調べてもらったり、解析を行ったり、プレゼンテーションの準備を進めてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文を 100 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce how to write the bachelor thesis such as purpose, experimental design, interpretation of results, discussion to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should complete the bachelor thesis.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on bachelor thesis (100%).

HSS400IA

専門演習Ⅲ

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマに関する調査・研究を学術的な論文として作成し、発表する。

【到達目標】
スポーツ科学（主にコーチング分野）に即した研究テーマについて、報告・討論・実践を通して学習を深め、卒業論文を作成、発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、方法論をベースとし、スポーツ科学（主にコーチング分野）におけるオリジナリティのあるテーマを選定し、研究計画の設計、研究の実施、データ処理などを行い論文にまとめ，発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第 2 回	演習Ⅰ・Ⅱの振り返り	演習Ⅰ・Ⅱで検討した各々の研究についての再確認を行う。
第 3 回	卒業研究① 研究テーマの決定	卒業研究のテーマを検討・決定する。
第 4 回	卒業研究② 研究テーマの構想発表	卒業研究のテーマについて構想を発表する。
第 5 回	卒業研究③ 研究方法の検討	卒業研究の研究方法を検討する。
第 6 回	卒業研究④ 実験・調査計画書の作成	卒業研究の研究方法の検討に基づき、実験・調査計画書を作成する。
第 7 回	卒業研究⑤ 実験計画の発表	実験の計画の発表する。
第 8 回	卒業研究⑥ 予備実験の実施	卒業研究の予備実験、予備調査を実施する。
第 9 回	卒業研究⑦ 実験の実施	卒業研究の実験、調査を実施する。
第 10 回	卒業研究⑧ 実験の経過発表	卒業研究の実験、調査の実施および経過を発表する。
第 11 回	卒業研究⑨ データの収集と整理	卒業研究の実験、調査により、データを収集し、整理する。
第 12 回	卒業研究⑩ データの解析	卒業研究の実験、調査により得られたデータを解析する。
第 13 回	中間発表① 中間発表資料の作成	中間発表資料を作成する。
第 14 回	中間発表② 中間発表	中間発表を行う。
第 15 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。
第 16 回	卒業研究① 夏期の研究の経過発表	夏期休暇中の研究の経過・成果を発表する。
第 17 回	卒業研究② データの整理	卒業論文作成を行う。 収集されたデータを整理する。
第 18 回	卒業研究③ 論文構成の検討	卒業論文作成を行う。 論文構成を検討する。
第 19 回	卒業研究④ ディスカッション	卒業論文の構成についてディスカッションを行う。
第 20 回	卒業研究⑤ 論文の執筆（先行研究）	卒業論文作成。 先行研究を整理する。
第 21 回	卒業研究⑥ 論文の執筆	卒業論文作成。 実験・調査の結果の解析をもとに緒言、研究方法を執筆する。
第 22 回	卒業研究⑦ 論文の執筆（考察）	卒業論文作成。 実験・調査の解析から考察・結論を導き出す。
第 23 回	卒業研究⑧ 論文の執筆（推敲・校正）	卒業論文作成。 論文の推敲・校正を繰り返し行う。
第 24 回	論文の執筆および中間発表の資料準備	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を準備する。
第 25 回	論文の執筆および中間発表資料の作成	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を作成する。
第 26 回	中間発表	卒業論文の進捗状況などを発表する。
第 27 回	卒業論文の完成 卒業研究発表会の資料作成	卒業論文を完成させ、卒業研究発表会の資料を作成する。
第 28 回	卒業研究発表会	卒業研究発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文 (60%) と卒業研究発表 (30%) および平常点（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this seminar, students write a graduation thesis using investigative and analytical research methodologies on a topic which the individual students select.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim of this seminar is to write a graduation thesis and make an oral presentation.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the seminar will be decided based on the following term end examination: graduation thesis: 60% oral presentation: 30% usual performance score: 10%

HSS400IA

専門演習Ⅲ

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、設定した研究課題について先行研究を踏まえて研究を進め、論文に仕上げる過程を体験し、卒業論文としてまとめあげることで、研究の流れと意義を学ぶことである。
研究課題を探索し、その課題に関して現在までに報告されている知見についてまとめる。そのうえで、新規性のある知見を得るための研究方法を検討し、調査の実施とともに得られた結果を分析・考察する。一連の成果を論文としてまとめられるようにする。この学びは社会にでてからでも役に立つことを学ぶ。

【到達目標】
学術論文を構成するそれぞれのパーツがどのように構成され、どのような研究手法があるのかを理解できるようにする。卒業論文を仕上げることにより、研究とは何かについて認識を深めるとともに、新たな知見をまとめ上げて報告することの重要性に気付くようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、実施しようとする課題（研究テーマ）により進捗状況が異なるので個別に指導を行う。開始に当たっては、研究計画を立てるために全員により共通理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の探索	学生の研究対象と考える領域について資料や論文を提供し、読み込む。
2	卒業研究の進め方	卒業研究の進め方について全体把握できるようにする
3	卒業研究の課題抽出	興味関心のある研究テーマについて意見交換し、研究対象について絞り込む。
4	研究テーマに関わる先行研究の方法の分析	研究テーマに関連する先行研究を読み込み、様々な研究方法があることを理解できるようにする。
5	新規となる研究課題の分析方法	先行研究を事例とし、統計学的手法など分析の進め方について理解できるようにする。
6	先行研究の報告	課題とする研究テーマに関連する先行研究について文献検索により入手し、読み込んでまとめる。
7	研究対象となる課題の絞り込みと研究方法の検討	得られた知見をもとに新規の研究課題を絞り込むとともに、研究方法について検討する。
8	質的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、質的調査の方法について検討する。
9	量的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、量的調査の方法について検討する。
10	文献学的研究の検討	統計学的手法と取らない場合の文献学的研究、実践研究について理解できるようにする。
11	リサーチクエスチョンの設定と研究計画の立案	研究で明らかにしようとするリサーチクエスチョンの明確化と研究計画の立案をはかる。
12	予備調査	研究計画に基づき、本調査に先立つ予備調査の計画と実施。
13	予備調査の結果解析	得られた結果について解析するとともに課題を抽出する。
14	まとめ	調査方法を確定するとともに、これまでに得られた成果を整理する。
15	本調査実施に向けての研究計画の修正立案	これまでに得られた成果をもとに、本調査に向けての研究計画を再度作成する。
16	調査（実践）の実施	本調査又は教育実践の実施。
17	調査（実践）の進捗状況の確認と課題の確認	調査の進捗状況についてレポート作成するとともに、問題点について確認する。
18	調査及び実践結果の確認	得られた結果を整理・入力し、データの確認を行う。　実践については効果評価の進め方について検討する。
19	分析結果の解析と解釈	統計解析を実施する。実践については問題点の洗い出しとともに修正作業を行う。
20	結果の視覚化	得られた結果について図表として視覚化し、整理し、評価する。
21	結果と考察の作成	結果のまとめ方と考察の進め方について理解し、自分なりの考え方をレポートする。
22	関連する論文の整理	進めてきた研究と関連する内容の論文を整理し、まとめる。
23	剽窃	卒業論文執筆に際し、剽窃について理解できるようにする。
24	問題と目的の執筆指導	卒論の問題と目的に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
25	結果と考察の執筆指導	卒業論文の結果と考察に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
26	卒業論文の修正	執筆した卒業論文の推敲と校正を加える。
27	論文完成	卒業論文の校正作業と課題の抽出。
28	プレゼンテーションにむけて	発表に向けてのプレゼンテーションの指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学術論文を要約する。
与えられた課題を仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教育実践をテーマとする場合は高等学校保健体育科教科書

【参考書】
教育実践をテーマとする場合は適宜参考資料を配布

【成績評価の方法と基準】
進捗状況のレポート２０％、卒業論文８０％

【学生の意見等からの気づき】
テーマごとに学生個別に対応することで、適宜学生の意見を組み入れる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)This course deals with research of health education, public health. It also enhances the development of academic skills for graduation from university.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to complete graduation thesis based on the sophisticated expertise of health education or public health.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report(20%),Graduation thesis(80%)

HSS400IA

専門演習Ⅲ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】
卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。
本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献検索	Clinical question に沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主として Pubmed と CiNii を用いて先行研究を確認する。
2	研究の delimitation	研究の delimitation を明確にし、選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journal の実態などに習熟し、Scopus を活用する。
3	先行研究の methodology	先行研究の methodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。
4	先行研究の総括	各論文における仮説に対応した delimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesis の適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
5	Research question の設定	先行研究の総括を踏まえて clinical question を十分 distilate し、より高度で simple かつ具体的な Research question を設定するための議論を行う。
6	Research question の distillation	Research question の倫理的・科学的妥当性検証と最適化を行い、最終的に決定する。この時点で学生は「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。
7	仮説立論	Research question に対応した適切で強力な仮説を設定する。学生は十分なエビデンスをもってこれを過不足なく説明することを要求される。
8	研究目的の決定	仮説に沿って適切な研究目的を設定する。その倫理的・科学的妥当性について検証する。
9	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。方法の倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究倫理	本学部における研究の多くはヒトを対象にして行われる。卒業研究でも文部科学省・厚生労働省『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』にしたがって行う必要もあり、その場合、倫理審査を受けたうえで許可される。倫理委員会に研究計画の審査を申請するために必要な、同指針の基本について学ぶ。
11	倫理委員会における卒業研究審査の対策	倫理審査申請書作成指導。実際にスポーツ健康学部倫理委員会に提出し審査を受けるための申請書の作成方法について学習する。
12	研究論文導入部の論述	研究論文導入部について議論、指導を受ける。学生は研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できることが求められる。
13	パラグラフライティング	適切な論理的表現をするために必要な日本語力、すなわち論理的文章の作成について学ぶ。導入部をパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。指導を踏まえて次週までに研究論文導入部の草稿を完成させる。
14	研究論文導入部の提出	研究論文導入部の完成稿を提出し指導を受ける。 夏休み期間中に調査・測定を進めておくこと。
15	調査・実験機器のメカニズム	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。ただし本科目では、学生は夏休み期間中にも調査・測定を行い、定期的に成果の報告を行わなければならない。したがってこの回のテーマに調査・実験機器（1）とあるが、実際には第 1 回目ではないことに注意すること。あらゆる調査・測定において、「ただそこにある機器を使って無批判に計測を行う」という姿勢では、得られたデータはすでに「研究成果」とは呼べない代物となってしまう。いかにして信頼性・妥当性のある調査・測定を行いえるか、その基本ともいえる機器類の工学的メカニズムについて学習する。
16	調査・実験機器の操作	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。準備、整備、検定・較正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、最低限習得しておかなければならない技能を習得する。
17	分析手法の検討	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べることができるようにする。なお実際の測定は夏休みを含め、授業時間以外に行うことがほとんどである。前回までの理解を踏まえて授業時間以外に速やかに調査・測定を進めること。
18	分析の実践	この時点までに得た測定データを総括し報告を行い議論する。
19	研究方法の執筆	この回までに研究方法のセクションを完成させて提出する。研究方法についてプレゼンテーションを行う。
20	研究結果の執筆	この回までに研究結果のセクションを完成させて提出する。研究結果についてプレゼンテーションを行う。
21	考察の発表	研究結果の考察を行う。研究結果を考察した内容をプレゼンテーションする。
22	考察の執筆	この回までに研究考察セクションを完成させて提出する。
23	結論の執筆	この回までに結論セクションを完成させて提出する。
24	卒業論文の推敲	論文初稿の推敲水準は低いものである。「書き上げた」だけでは論文として仕上がっていないことが多いと心得てほしい。特に参考文献の記載をルールに則り最初から正確に記載できる学生は少ないであろう。そこで、どのようなポイントに留意して推敲するか、また校閲・校正の作業も経験し、正式に論文と呼べる成果物に仕上げるために必要な手続きについて学習する。
25	卒業論文完成稿の提出	この回までに卒業論文を完成させて提出する。提出した論文の査読・指導を受ける。
26	卒業論文発表	ゼミ生を対象に卒論を発表する。
27	卒業研究発表会の準備	スライドを作成して提出、指導を受ける。なおスライドはすべて英語で作らなければならない。
28	卒業研究発表会予演会	ゼミ生を対象に卒業研究発表会の予演会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 研究データ解析
② 調査活動
③ 学会・研究会参加
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。**推敲水準の低い論文には単位を与えない。**
なお 10 月終わりまでに先行研究の総括から始まって測定・調査を終了し、緒言部分の執筆が終了していない場合は卒論の執筆中止を言い渡す可能性があるので注意すること。その場合、専門演習Ⅲの単位取得は出来ない。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。
【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にＥメールなどでアポイントメントをとり相談すること。
【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の 2 月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。
【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は 12 月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to complete writing the graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the graduation thesis (100%). The student who couldn't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February in the former year of the seminar II is not permitted to take the seminar III.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

島本　好平

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフスキル獲得に関する調査研究または実践研究を、アスリート等を対象として実施し、その一連の成果を卒業論文としてまとめる。

【到達目標】
関連する先行研究をもとに仮説を立て、科学的手続きにもとづく研究を通してその検証を行い、その結果について種々の先行研究をもとに考察を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅱまでの習得した統計解析手法や質問紙法等の一連の方法論を駆使し、主体的かつ着実に卒業研究を遂行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習の流れについて確認を行う。
2	仮の研究テーマの検討	卒業研究に係る一連の流れを体験するための仮のテーマについて検討を行う。
3	仮の研究テーマの決定	関連する先行研究等を入念に確認した上で、仮の研究テーマを決定する。
4	仮のテーマにおける研究目的の検討	何をどこまで明らかにしようとするのか、研究の目的について検討する。
5	研究目的の決定と調査計画の検討	研究目的を決定した後、それを達成するための調査計画の検討を行う。
6	調査計画のプレゼン発表	調査計画をゼミメンバーにプレゼンし、ディスカッションを通して細部にわたり検討する。
7	アンケート用紙の作成（調査内容の検討）	実際にデータを収集する調査内容について検討を行う。
8	アンケート用紙の作成（レイアウトの検討）	信頼のあるデータの確保につながる、調査票のレイアウトについて検討を行う。
9	調査対象と調査時期の検討	データを収集する対象を決め、それに適した調査時期を検討する。
10	手続きの検討	確実に調査を実施するための依頼の手順と、回答者への倫理的配慮について検討を行う。
11	データ入力フォーマットの検討	回収したデータを効率良く入力していくためのフォーマットについて検討を行う。
12	データの回収から入力まで	データ入力作業に移るまでに必要な作業について学習を行う。
13	データ入力時注意事項の確認	データケースの採用・不採用を区別するための視点等について学習する。
14	まとめ	春学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深めていく。
15	秋学期における目標設定	秋学期の学習の見通しを示すとともに、各自目標の設定を行う。
16	統計的分析方法の確認	仮テーマにおける研究の目的を達成するために必要な分析手法について確認する。
17	統計的分析手法の学習	確実に分析が実施できるよう、サンプルデータ等をもとに分析手法への理解を深める。
18	統計的分析の実施	回収したデータに対して実際に分析を実施する。
19	統計的分析の実施（追認）	再度同様の分析を実施し、先に得られた結果に間違いがないかを確認する。
20	分析結果の解釈	個々の分析結果を適切に解釈するための視点について学ぶ。
21	分析結果の提示	個々の分析結果を順序良く提示していくための視点について学ぶ。
22	分析結果の考察の意味	考察とは何かの視点を学ぶ。
23	分析結果への考察を深める	より深い考察を行うための視点を学ぶ。

24	発表資料の構成の検討	各章（序論、方法、結果、考察）に割り当てる内容を検討する。
25	発表資料の作成	パワーポイントを用いて発表資料の作成に取り組む。
26	プレゼン発表の練習	一通り発表を行い、改善点を確認した上で発表資料に修正を加える。
27	仮のテーマにもとづく研究発表会	次年度の本番さながらの研究発表会を行う。
28	まとめ	秋学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は それぞれ 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（４０%）、卒論論文（６０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのフォードバックをもとに、より望ましいコーチングの実現に努めていきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the ability of life skills research. At the end of the course, students are expected to write up the graduation thesis. Your study time will be more than a few hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
The process: 40%, The main finding: 40%, The appearance of the thesis: 20%

HSS400IA

専門演習Ⅲ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習 II で決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
１：卒業論文完成までの作成過程の学習
２：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
１：実験より得られたデータの分析
２：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第 2 回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第 3 回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第 4 回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第 5 回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第 6 回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第 7 回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第 8 回	データの収集	データの収集をおこなう。
第 9 回	データの解析	データの解析をおこなう。
第 10 回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第 11 回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第 12 回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第 13 回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第 14 回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第 15 回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第 16 回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第 17 回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第 18 回	結果報告 実験の継続	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第 19 回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第 20 回	実験の limitation について	実験の limitation について検討する。
第 21 回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第 22 回	対象と方法の作成	方法について精査する
第 23 回	結果の作成	結果について精査する
第 24 回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第 25 回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第 26 回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第 27 回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第 28 回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定論文の精読
データの解析
学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文完成にいたる論理の構築　50 %
卒業論文　50 %

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターなど

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Learning the process of writing a graduation thesis.
− Completion of graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%),

HSS300IA

専門演習Ⅲ

高見　京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。
主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。

【到達目標】
・解決すべき現象・問題・疑問事項などの研究課題を明らかにし、研究目的を明らかにできる。
・研究目的にそって研究計画をたてられる。
・研究計画にそってデータを収集し、分析を行える。
・得られた結果の意味や意義について考察できる。
・研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、受講者全員が 1 週間に 1 回集合し、進捗状況の報告およびディスカッションを行う。秋学期は研究テーマごとに個別指導により論文完成を目指し、完成後にはゼミ内で発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュールを確認する。
2	進捗状況の報告およびディスカッション 1	研究デザインの検討および先行研究の調査をする。
3	進捗状況の報告およびディスカッション 2	研究デザインの修正と検討をして、緒言の作成に取り掛かる。
4	進捗状況の報告およびディスカッション 3	研究デザイン発表し、議論する。
5	進捗状況の報告およびディスカッション 4	研究デザインを確定する。
6	進捗状況の報告およびディスカッション 5	調査・測定法の確認と練習を行う。
7	進捗状況の報告およびディスカッション 6	データ分析法の確認と練習を行う。
8	進捗状況の報告およびディスカッション 7	トライアルとしての調査・測定の実施する。。
9	進捗状況の報告およびディスカッション 8	実際の調査・測定を実施する。
10	進捗状況の報告およびディスカッション 9	実際の調査・測定を実施する。
11	進捗状況の報告およびディスカッション 10	調査・測定によって得られたデータ整理をする。
12	進捗状況の報告およびディスカッション 11	調査・測定によって得られたデータを分析をする。
13	進捗状況の報告およびディスカッション 12	分析したデータの結果を図表にする。
14	進捗状況の報告およびディスカッション 13	分析したデータを基に結果を記述を始める。、
15	結果	結果を完成させる。
16	考察 1	結果を受けての考察すべき内容を検討する。
17	考察 2	必要な個所への先行研究の引用をする。
18	考察 3	考察全体を精査する。
19	考察 4	考察を完成させる。
20	結果・考察を受けて 1	全体の構成を確認し、結論を導く。
21	結果考察を受けて 2	全体の論旨を確認する。
22	結果・考察を受けて 3	論文として完成させる。
23	推敲	完成させた論文を推敲する。
24	抄録の作成	学部へ提出する抄録を完成させる。
25	卒業論文の完成	卒業論文として学部へ提出する。
26	プレゼンテーションの準備	ゼミ内卒業研究発表会に向けて、プレゼン資料の作成に取り掛かる。

27	プレゼンテーション完成	プレゼン資料を完成させ発表練習をする。
28	ゼミ卒論発表会	2,3 年生の前で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方 出村 慎一 , 山次 俊介 (著)

【成績評価の方法と基準】
科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。
研究計画の作成（30%）、卒業論文 (50%)、発表 (20%)。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションによって仲間の進捗状況を知り、お互いに助け合ったり競争し合いながら卒業論文の作成に取り組む環境を作る。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for creating a graduation thesis. Students will read the previous studies and conduct measurements and surveys. After writing the introduction and method of the dissertation, the student analyzes the data obtained by the measurement and survey and writes the results, considerations, and conclusions. Students take the initiative in these tasks to understand the scientific approach to research and acquire a research attitude.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Clarify research issues such as phenomena, problems, and questions to be solved, and clarify the research purpose.
-B. You can make a research plan according to your research purpose.
-C. Data can be collected and analyzed according to the research plan.
-D. Be able to consider the meaning and significance of the obtained results.
-E. Summarize the findings obtained from the research, prepare papers and abstracts, and make oral presentations.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

中澤　史

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱにおいて設定した研究計画書に基づき、計画的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめて発表する。本演習では、卒業論文の目的、意義、方法、結果、考察等について総合的に学習する。

【到達目標】
1. 研究の目的、意義、仮説について説明できる。
2. 研究目的の解明に適した調査方法を設定できる。
3. 適切にデータを収集・分析し、得られた結果に対して考察し結論を導き出せる。
4. 卒業論文を完成し、卒業研究発表会において発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅱにおける取り組みの成果を踏まえ、卒業論文の完成に向けた作業に取り組む。受講者は独自に収集したデータや分析結果をまとめ、授業ではその進捗状況を発表し、個別指導やグループディスカッションを通して卒業論文の完成度を高めていく。授業で取り組むプレゼンテーションや提出物等に対する講評やフィードバックは、都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究計画の確認	本演習の進め方を理解するとともに、研究計画について確認する。
2	研究の背景	先行研究や予備調査から得た知見を踏まえて研究課題を導出し、研究目的について確認する。
3	研究の目的と意義	研究目的を達成することによって、どのような社会的意義があるのかについて確認する。
4	枠組みの整理	研究で扱う用語や重要概念を定義し、概念的な枠組みを整える。
5	研究仮説	調査対象となる要因間の関係性に関する仮説を立てる。
6	対象者の設定	調査の対象となる環境や対象者を設定する。
7	対象者の属性調査	対象者の属性を確認するためのフェイスシートを作成する。
8	調査方法の設定	対象者の心理的要因を測定する質問項目を精査し、質問紙を選定する。
9	事例調査の方法	対象者の心理的変容過程の詳細を解明するための調査方法を確定する。
10	調査資料の整理	フェイスシート、同意書、質問紙、インタビューガイド等の調査資料を整え、調査を開始する。
11	属性項目の整理	対象者の属性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
12	データの入力・分析	収集したデータを入力し、統計的方法を用いて分析する。
13	データの質的分析	収集した逐語データ等を質的に分析し、その結果を説明する図表および文章を作成する。
14	中間発表	これまでの研究成果を抄録にまとめて発表し、指摘を受けた箇所を中心に修正を図る。
15	オリエンテーション・今後の研究計画の確認	秋学期の流れを理解するとともに、今後の研究計画について確認する。
16	結果の修正	中間発表での指摘を修正した内容について確認する。
17	統計分析の結果の考察	統計的分析を施した結果について考察する。
18	質的分析の結果の精査	質的分析を施した結果の信頼性・妥当性を高めるためにトライアンギュレーションを行う。
19	質的分析の結果の考察	質的分析を施した結果について考察する。
20	全体の考察	これまでの結果およびその考察の内容について総合的に考察する。
21	今後の課題・研究の限界	研究方法における問題点、研究で解明できなかった課題、本研究の限界などについて記述する。
22	緒言の完成	すでに整理した研究の背景、目的、意義などをまとめて緒言の部分を完成する。
23	方法の完成	調査対象者の属性、分析方法等をまとめて方法の部分を完成する。
24	結果の完成	統計的・質的分析を通して得た結果を図表や文章にまとめて完成する。
25	考察の完成	総合考察としてまとめた内容を精査し、その内容を図表と文章にまとめて完成する。
26	結論・まとめ	本研究を通して導出された結論、今後の課題・研究の限界等について記述する。
27	引用文献・資料の整理	引用文献および巻末資料を整理し、卒業論文を完成する。
28	卒業論文の発表	卒業論文の内容を抄録にまとめ、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 先行研究の講読、調査の実施、データの収集・分析、結果に対する考察といった卒業論文の執筆に取り組んでください。
2. ゼミで担当するスポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 小宮あすか・布井雅人「Excel で今すぐはじめる心理統計　簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社　2018
2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院　2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 卒業論文、抄録等の提出物： 60 %
2. プレゼンテーション、授業への参画状況： 40 %
※卒業論文、抄録等の提出物が適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
1. 競技スポーツの現場で役立つ心理スキルの理論と方法について受講生間で情報交換を行います。
2. チームビルディングの促進に役立つ体験的学習への取り組みを通して受講生間の新規的人間関係の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
卒業論文作成において使用するパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
2. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
3. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、可能な限り初回授業から出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Based on the lessons learned in Seminar II, students set their own research themes, conduct research systematically, and present the results in a graduation thesis. In this exercise, students will comprehensively learn the purpose, significance, method, and analysis and consideration of the results of your graduation thesis.
【Learning Objectives】
1. Explain the purpose, significance, and hypothesis of the study.
2. A survey method suitable for clarifying the research purpose can be set.
3. Appropriately collect and analyze data, consider the results obtained, and draw conclusions.
4. Complete the graduation thesis and present it at the graduation research presentation.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time for this exercise is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.
1.Please work on writing a graduation thesis such as reading previous research, conducting surveys, collecting and analyzing data, and considering the results.
2. Each group should work systematically as they will be given the opportunity to collect, analyze and present the results for the sports teams in charge of the seminar.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.
1. Submissions such as graduation thesis, research plan, abstract, etc .: 60%
2. Presentation and participation in classes: 40%

HSS400IA

専門演習Ⅲ

成田　道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各個人の研究テーマを決定し、資料収集の整理、分析し論文を作成する。

【到達目標】
専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅰ・Ⅱで調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論執筆に向けた年間計画についてガイダンスを行う
2	これまでの研究について考える	演習Ⅰ・Ⅱの研究を振り返る
3	研究テーマの決定１	演習Ⅰ・Ⅱの研究内容を再確認する
4	研究テーマの決定２	演習Ⅰ・Ⅱの研究から研究テーマを検討し決定する。
5	研究方法	卒業研究の研究方法を検討する
6	研究計画	卒業研究の研究方法の検討から研究計画を立てる
7	先行研究１収集	研究テーマに関する先行研究を図書館・インターネット等で収集する
8	先行研究２整理	収集した先行研究の整理を行う
9	先行研究３分析	収集した先行研究を分析する
10	資料収集１収集	研究テーマに関する資料を図書館・インターネット等で収集する
11	資料収集２整理	収集した資料の整理を行う
12	収集資料３分析	収集した資料を分析する
13	進行状況の確認	先行研究・収集資料の分析から卒業研究全体の流れを考える
14	夏季休暇中の計画	現在の進行状況から夏季休暇中の研究計画を立てる
15	ガイダンス	夏季休暇中の研究報告と秋学期の計画を立てる
16	進行状況の確認	研究状況を確認し内容の検討・修正を行う
17	資料の整理	収集資料・データの整理を再度行う
18	中間報告１	中間報告の準備を行う
19	中間報告２	中間報告を行う
20	中間報告３	中間報告の内容の確認と追加資料について検討する
21	中間報告４	中間報告の修正点について検討する
22	卒業論文執筆１	中間報告をもとに卒業論文を完成させる
23	卒業論文執筆２	完成した論文の校正を行う
24	卒業論文執筆３	完成した論文の校正を繰り返し行う
25	卒業論文発表	ゼミで論文発表を発表する
26	確認１	卒業論文の内容・構成を再度検討する
27	確認２	卒業論文の再校正を行い最終確認する
28	卒業論文提出	卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文のテーマについての資料収集と分析を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
卒業論文提出（８０％）・卒論発表会（２０％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けて計画性を持って指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Students progress on their research themes, collect, organize and analyze data and materials and complete a thesis.
【到達目標（Learning Objectives）】
Deepen contents based on the theme of specialized Seminar II more and aim for finally completing it as a graduation thesis.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students analyze it with the document collection about the theme of graduation theses.　For each four hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading Criteria is evaluated generally, by graduation thesis presentation (80%), graduation thesis announcement party (20%).

HSS400IA

専門演習Ⅲ

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】
3 年次の専門演習 II の研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間計画と進み方について説明受ける。
2	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
3	研究課題の設定①	グループ①のテーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する。
4	研究課題の設定②	グループ②テーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する。
5	資料収集と分析①	グループごとにミニ研究の計画を発表し，グループ①が作成した内容に関して論議する
6	資料収集と分析②	グループごとにミニ研究の計画を発表し，グループ②が作成した内容に関して論議する
7	調査方法の指導	コーチング学の研究に必要される統計学について学ぶ。
8	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受け、グループで研究計画書を作成する
9	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする
10	個人研究の発表	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する
11	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う
12	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する
13	収集データ・分析結果の発表	収集データを分析して発表し，全体で論議する
14	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	進捗状況に応じて、卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する
15	ガイダンス	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16	中間発表②	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
17	論文の執筆:結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する
18	論文の執筆:考察	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する
19	論文の執筆:全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う
20	卒業論文作成①	個人的な課題解説
21	卒業論文作成②	前回の遂行を踏まえて卒業論文の内容・構成を再度検討する
22	卒業論文作成③	進捗状況に応じて経過報告する
23	卒業論文作成④	進捗状況に応じて経過報告する
24	卒業論文作成⑤	進捗状況に応じて経過報告する
25	卒業論文作成⑥	進捗状況に応じて経過報告する
26	論文発表	完成した卒業論文を発表し、意見交換を行う
27	最終確認①	卒業論文の内容・構成を再度検討し、抄録作成する
28	最終確認②	卒業論文の内容・構成を再度検討し、抄録作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文のテーマについての参考文献収集と分析を行い、研究データ解析、調査活動。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス (ワード、エクセル、パワーポイント)

【Outline (in English)】
The objective is the course to learn and utilize necessary academic skills in order to write a university thesis in coaching related subject. Students will be learning how to set up a research question, create an adequate research plan, find the necessary methods and explain the findings. Regarding the graduation thesis individual lessons and feedback will be available in accordance with the progression.
The main he goal is to further deepen the content based on the research theme of the third year's Seminar II and ultimately complete it as a graduation thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、改めて研究デザインを検討、作成し、必要となる測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。

【到達目標】
・研究デザインの検討・作成
・測定・調査の実施
・先行研究の検討
・論文の緒言、方法の作成
・測定・調査の分析
・結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
個別対応で到達目標をクリアしていく。
習熟した測定法を専門演習Ⅰ、Ⅱで指導する。
研究デザイン、測定・調査の実施、論文の緒言、方法、結果、考察、結論について教員から逐次フィードバックしながら進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュール確認 個別対応の方法確認
2	卒業論文の作成に向けて 研究の意義と目的	各自研究デザインの意義と目的を検討してプレゼンテーションを行う
3	卒業論文の作成に向けて 研究デザインの再考	研究デザインの課題の提示を受けて、研究デザインを再考する
4	卒業論文の作成に向けて 研究デザインのプレゼンテーション	再度、各自研究デザインのプレゼンテーションを行う
5	デザインの検討を受けて 先行研究の調査と背景・意義の確認	先行研究を調査し、各自の研究の背景と意義を確認する
6	デザインの検討を受けて 緒言のプレゼンテーション	緒言を作成してプレゼンテーションを行う
7	デザインの検討を受けて 仮説の確認と緒言の完成	仮説を確認して緒言を完成させる
8	調査・測定法の原理	調査・測定法の原理を理解する
9	調査・測定法の手順理解	調査・測定法のマニュアルを理解してデータ取得の練習をする
10	調査・測定法のプレゼンテーション	調査・測定法の原理、使用法、使う指標についてプレゼンテーションを行う
11	調査・測定のための統計理解	データを分析するための統計を理解する
12	調査・測定データの分析	データを使って分析を試みる
13	調査・測定データのプレゼンテーション	分析したデータのプレゼンテーションを行う
14	事前の調査・測定の実施	トライアルとして調査・測定を実施する
15	事前の調査・測定データの分析	トライアルとしての調査・測定データを分析する
16	事前の調査・測定データのプレゼンテーション	トライアルとしての調査・測定データのプレゼンテーションを行う
17	実際の調査・測定のための方法検討	研究の方法を記述し、検討する
18	実際の調査・測定の実施	実際の調査・測定を実施し、データを取得する
19	実際の調査・測定のプレゼンテーション	実際の調査・測定のデータを分析してプレゼンテーションを行う
20	緒言と方法の再検討	改めての緒言と方法を検討する
21	方法における図表の作成	方法に使う図表を作成する
22	研究結果の記述	結果に使う図表を作成し、結果までを記述する
23	考察の内容の検討	結果を受けての考察すべき内容を検討する
24	先行研究の引用法	必要な個所へ先行研究を引用し、その整合性を確かめる
25	考察の完成	考察全体を精査する
26	結論の導出	全体の構成を確認し、結論を導く
27	研究の限界と実践への応用	研究の限界と実践への応用を記述し、全体の論旨を確認する
28	卒論の完成	緒言から結論までの整合性を確認して卒論を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別対応になるので、対応の前後には各自課題を検討して臨む本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文を 100 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
できる限りオフィスアワーを増やして個々との対応を密にする。

【学生が準備すべき機器他】
データ分析のためのソフトウエア（エクセルなど）、プレゼンのためのソフトウエア（パワーポイントなど）。

【その他の重要事項】
研究計画を立てた段階で専門演習Ⅰ、Ⅱでプレゼンする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
For the graduation thesis, guidance on the research design, measurement procedure, interpretation of the results, the references, and the writing manners is supported.
【Learning Objectives】
Objective is to finish writing the graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Students examine the research question and create the research design, and carry out the measurement and/or survey.　Thereafter, they writes the introduction, procedures, results and discussion of the thesis.
【Grading Criteria/Policy】
graduation thesis (100%)

HSS400IA

専門演習Ⅲ

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起して，先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし，これまでに修得した知識，経験，手法等を用いて実際に情報収集，データ収集・分析，文章作成を行い，卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
1. 研究テーマ・課題を設定でし，適切な研究計画を立案できる。
2. 妥当な方法を用いてデータ収集・分析し，適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して，論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し，グループでミニ研究を行い，論文作成に向けた準備を行います。その後，研究課題・研究仮説の設定，実験・測定・調査，統計解析方法を検討して研究計画書を作成し，全体で論議を行います。計画が立案した後は，各自でデータ収集や分析を行い，結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ，内容のプレゼンテーションを行います。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	複数のグループを設定し，この週の担当のグループがミニ研究の計画を発表した上で，その内容に関して全体で論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，その内容に関して全体で論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに，データ分析，結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し，まとめる。
第 15 回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第 16 回	研究計画発表	研究計画を発表し，問題点などを含めて全体で論議する。
第 17 回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第 18 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する。
第 19 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し，全体で論議する。
第 20 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し，発表する。
第 21 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 22 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 23 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し，意見交換を行う。
第 24 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う。
第 25 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ，発表する。
第 26 回	プレゼンテーション（1）	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第 27 回	プレゼンテーション（2）	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第 28 回	口頭発表練習	指定の時間内で卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行い，討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での予習・復習の作業が，論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って，資料作成や発表準備を行って下さい。また，個人研究，グループ研究共に，各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など，必要な作業をしてください。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏，山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】
1）研究実施状況・研究論文の内容： 70%，2）発表・質疑応答の内容 20%、3）発表への質問状況・論議への参加状況： 10%，として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度は，前半オンライン授業で学生間の交流が阻害されてしまいましたが，春学期途中からの対面授業が主となってからの活動では，充実した受講生間のディスカッションがなされたと感じています。しかし，受講者が例年よりも少なかったにも関わらず，卒論に向けた実験の開始が遅めになってしまったことは改善すべき点です。次年度は，新型コロナウイルスの感染拡大の状況に依存せざるを得ませんが，まずは早めの研究課題の設定，実験・調査計画の作成を念頭に授業を運営していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合，タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。
そのため，自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】
・シラバスの内容については，授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to write a graduation thesis. To achieve this objective, students raise their research questions and experimental designs, as well as, collect and analyze data based on the knowledge, experience, and methods learned in previous classes.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Set research themes and issues and formulate appropriate research plans.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using charts and tables.
3. Think logically about the results obtained.
4. Write academic papers using appropriate notation and expressions.
5. Effectively presentation of the results obtained.
【Learning activities outside of the classroom】Preparation and review work outside of class is an essential requirement for completing the paper and various presentations. Students must conduct experiments, research, and prepare for presentations outside of class according to the assigned tasks. The standard time for these preparatory studies and reviews is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the content of the research and paper conducted(70%), presentation and Q&A(20%), and participation in the discussion to the presentation(10%).

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本　浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象とした集中授業で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、競技団体組織論を主たる分野として研究活動をする。自分のテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱで掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。
自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】
テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、必要なサンプルを収集し、情報を分析し、言語化するという能動的なアクションを加えて、より深い成果に結びつける。
①早い段階での工程表の設定②テーマの決定と論文執筆の進め方の把握③先行研究選択と分類、評価④調査・研究方法の検討と確定⑤調査・研究⑥執筆から検証、さらにアブストラクト、キーワード抽出、そしてプレゼンテーション制作へと進む。
最低目標は、本論で 20000 字を超えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
序盤は集中講義の形式で、軌道に乗り始めたら随時定期指導を基本原則とする。追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもう一度見渡すことが重要で、なお自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れないこと。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか深く検討する。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない書きぶりで成果を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	３年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋と千個研究分析	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る一方で先行研究の検証に取りかかる。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出は必須である。
4	先行研究分析	先行研究を読み込んだ結果を提示し、それを検証する。仮説の実証に必要な調査、インタビューなどがあれば、その組み立てにかかる。
5	調査・研究①	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。必ず工程表にチェックをかける。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読の延長上で、文献の分析のあり方を問う。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、法・経済・政治との関わりをチェックする。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、社会の要請に目を向けた分析を行う。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、国外他研究者の論文をベースに調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、メディアの論調、国内の専門家の著作などにより調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象、新たに明らかになった点をチェックし手を加える。
14	プレゼンテーションと相互議論、夏休みの計画起案	ここまでの研究の成果をプレゼンにまとめ、卒論執筆者同士で互いに議論を深める。
15	進捗状況報告①	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。
16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を論文構成の理想型を意識して継続する。
18	継続研究④	アブストラクトを中心に全体像の捉え直しをする。
19	継続研究⑤	論文に引き込んだ表やデータの論旨との整合性を意識して研究を継続する。
20	継続研究⑥	同系論文との比較で不足する軸を確かめながら、研究を継続する。
21	中間報告④	研究成果を交互に発表し、演習生同士の意見交換を行う。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答を進める（複数名）。
26	審査と発表②	同僚学生の意見集約をした上で研究発表の確認と質疑応答（複数名）を進める。
27	審査と発表③	批判的な指摘に答える形で研究発表の確認と質疑応答（複数名）を進める。
28	審査と発表④	最終提出に向けた研究発表の確認と質疑応答（複数名）を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論執筆には、テーマの設定によって時間的なずれが生じることがある。早め早めの対応が、優れた論文執筆の基本的な要件だと理解しなければならない。うちに籠もらず、様々な関連組織やグループと積極的に接触の機会を持つことが肝要だ。ひとつに限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも重要で、演習という形だけにとらわれず随時担当教官とコンタクトを取りコミュニケーションを図ることが欠かせない。
ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。本授業の準備学習・チェックの時間は最低各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】
主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。ただし新型コロナウィルスの影響の下がることを前提とするため、デジタル素材での形式も考慮に入れる。副たる成果として、途中経過にスライドソフトなどを使ってプレゼンテーションを求める。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼し、論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうかが鍵である。一方的であったり、思い込みに資料を強引にあわせるような論法に陥らないだけでなく、誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないことが肝要と心得たい。
評価配分：卒業論文 80 %　プレゼンテーション作成 10 %　工程表　10 %。

【学生の意見等からの気づき】
「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒論執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは強い探究心とこれまでの積み重ねでそれなりの推力を発揮できる。後手後手に回りがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意しながらエンジンの回転数を上げていきたい。
特に遅くなりがちなのは調査である。卒論に取り組む学生がそれぞれに違ったテーマで学部の内外にわたって調査を集めにかかる。スタートが遅れれば、書き込む側のエネルギーが失われた状態に陥らないとも限らない。自らのテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。統計手法に関する知識も欠かすことができない。
新型コロナウィルスの影響がどの程度尾を引くのか、現段階で読み切るのは不可能である。オンラインによる演習が中心になる可能性も否定できない。現場に足を運べない分、調査や現地確認など思ったようにいかないことも想定しておかなければならない。早め早めの指導を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
出校のチャンスが増えてくれば、研究室で随時スクリーンを使っての検証ができる。その際には必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くことを勧める。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告する。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については担当教官からの指示も準備しておきたい。

【その他の重要事項】
ⓐ引用に対して、必ず出典や URL をすぐその場で残しておくことⓑ写真や材料をことあるごとに集めておくⓒ人の声を聞いたら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておく。そうしたデータが、論文の執筆で大きな助けになる。専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。
とかく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気持が傾くからだろうが、論文のテーマを自分の将来設計と連動させられるようであれば、これから先進む企業や組織から独自の視点を引き出すことが可能になる。その意味で、テーマ設定には熟考を求めたい。執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。
「高等教育の負担軽減制度に係る『実務経験のある教員によ授業配置』関する対応」
法政大学専任教員になる前に 32 年間にわたって放送の現場に従事。スポーツ報道、スポーツメディアの現場経験は、国の内外を問わず豊富に所持している。そこで得た知見を元に、活字や番組に現れない現実社会の構造を見据えた上での指導を実施する。

【特記事項】
去年はキャンセルになったが、今年は現段階で 10 月、11 月の 2 ヶ月間、ドイツ人客員教員が週 2 回のペースで特講を設定することになっている。英語での講義だが、メディアに関わる卒論執筆者は、授業に参加することを強く勧めたい。広い視野から生まれた世界観を学ぶとともに滅多にないチャンスを有効に使ってもらいたい。

【研究テーマに関して】
ある時期、就活との同時並行は避けて通れない。内定を受けた場合には、その先の世界に自分の研究を重ね合わせることができるのかどうか検討してみる。少しでも重なる部分があれば、意欲的な研究を引っ張る牽引車になってくれることがある。

【Outline (in English)】
Intensive Seminar for fourth graders. The field would be media, journalism, communication, sports organization. While setting your own theme, surveying, collecting information, analyzing, based on the methodology delved down by the research in the seminar Ⅱ, writing a graduation thesis and producing a slides work as presentation.
To take up the theme that you were studying in your seminar I, repeatedly researching during the seminar Ⅱ, which has been holding since high school students, it could help you strongly with multifaceted and deeper logic on your thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習において、履修者は卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
1 年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が 1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：緒言	卒業研究の序論の冒頭の文章の書き方について理解し、実際に執筆する。
3 回	序論：問題の所在、研究の目的	先行研究の問題点と自分の研究の目的を明確に述べる。
4 回	序論：重要性	卒業研究の学術的重要性と実践的重要性を説明する。
5 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義する。
6 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を立て、それを説明するための図表を作成する。
7 回	序論：仮説導出根拠	仮説を示した図表を説明するとともに、仮説の導出根拠を理論的に記述する。
8 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
9 回	方法：質問項目の設定	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を設定する。
10 回	方法：質問項目の確定	調査対象者の心理的要因を測定するための心理的尺度を確定し、表と本文にまとめる。
11 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
12 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
13 回	調査計画の発表練習	作成したスライド資料を使って発表の練習を行うとともに、内容について他の受講者と討論する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15 回	オリエンテーションおよび秋学期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	方法	卒業論文の第 2 章「方法」を書き上げる。
17 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。

18 回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
20 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
21 回	結果：仮説の検証	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	結果：追加分析	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
23 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文。

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①序論、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点
【評価基準】
4 回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。
100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。
80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。
60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。
40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。
20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動などの影響により、学生によって研究の進捗状況が異なりますが、特に遅れている学生を支援したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
研究（research）とは、繰り返し（re）探求（search）を続けることです。1 年を通じて計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】
This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. The goals of this seminar are to (1) understand the purpose, importance, and benefit of a graduation thesis, (2) conduct research focusing on their own interests, (3) collect and analyze data in the sport industry, and (4) interpret conclusions drawn from their findings. Before each class, students are expected to analyze data and write the introduction, method, result, and discussion sections. Grading will be decided based on each student's topic of interest (10%), research plan (10%), mid-term presentation (10%), final presentation (20%), and the quality of the graduation thesis (50%). Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.

EDU200IA

保健体育科教育法 I

小田　佳子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／**2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠である学習指導要領（保健体育）の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領（中学校・高等学校）に示される目標・内容・学習指導計画・指導評価などについて理解し、修得する。
加えて、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。
講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについてする。
※本講義は対面型を基本とし、新型コロナ感染症の拡大状況によりオンライン型に切り替えるなど柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とは何か
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	A 体つくり運動 B 器械運動
9	授業づくり②	C 陸上競技 D 水泳
10	授業づくり③	E 球技 F 武道
11	授業づくり④	G ダンス H 体育理論
12	学習指導案作成 (1)	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理) 学習評価のねらい、方法
13	学習指導案作成 (2)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	まとめ → 試験	学習指導案の提出 学習指導要領の理解確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）

・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・試験 50%
・課題レポート・発表 30%
・学習指導案 20%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案
作成の取り組み方、授業態度など毎回の授業に精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

鬼頭　英明

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の学習指導要領「保健」が果たすべき役割とは何か、保健で何をどのように学ぶことが効果的か、「保健」の授業を通じて育成すべき資質・能力とは何か、を理解し、指導実践につなげられる指導力を育成することを目指す。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容及び学習内容の取扱い、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学ぶ。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すとともに、生徒が保健の「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「保健」の指導内容や効果的な指導法などについて理解を進めるとともに、教材活用や授業づくりのためのポイントについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	保健科教育とは何か	学校保健の中の保健科教育
2	保健科教育のあゆみ	教育課程における位置づけ、歴史的変遷と考え方
3	カリキュラム	3 校種のカリキュラム構成と系統性
4	中学校学習指導要領の目標	三つの目標の考え方
5	高等学校学習指導要領の目標	ヘルスプロモーションの考え方
6	中学校における大単元の内容	中学校 (4 単元) における ねらいとポイント
7	高等学校における大単元の内容	高等学校 (4 単元) における 主なねらいとポイント
8	授業づくり①	様々な指導方法 多様な授業スタイル
9	授業づくり②	ICT 活用 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり③	評価方法
11	授業づくり④	年間指導計画と単元計画
12	指導上の課題	現状と問題点、連携の在り方
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度のレポートを作成すること。
・中学校及び高等学校の保健の教科書は熟読することを求める。
・日常的に保健の授業内容に関わる関連情報について敏感に収集し、発言できるように
　しておくこと。
　準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
保健科教育法入門　日本保健科教育学会編　大修館書店
保健科教育法　森良一編著　東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】
・試験 50 %
・小レポート・小テスト 20 %
・学習指導案 20 %
・授業への積極的な取り組み 10%

【学生の意見等からの気づき】
積極的な取り組みと発言を期待する

【その他の重要事項】
授業の進展状況に応じ、内容の若干の変更が予想されるので、進捗状況について留意すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)These lectures will make you understand, purpose, learning contents, educational guidance and learning evaluation of health education. In these lectures I talk about the basic knowledge of health education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful health and physical education teacher.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand and to teach the contents of health education for students effectively.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination(50 %),Short reports(20%), making guidance for class(20%), in class contribution(10%)

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅲ

小林　稔

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業①「体つくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業②「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
14	総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
中学保健体育　(学研)
最新高等保健体育　(大修館書店)

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
保健体育科教育法（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０%）、
プレゼンテーション【主に模擬授業】（３０%）、
レポート点【主に学習指導案】（２０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅳ

小田　佳子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力，責任などを認識・理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
その後、学生同士で互いに授業評価をして振返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材観・生徒観・指導観の記述方法
4	学習指導案作成 (3)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
5	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
6	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
7	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校 1 単元　高等学校 1 単元)
8	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校 3 単元　高等学校 2 単元)
9	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校 2 単元　高等学校 3 単元)
10	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校 2 単元　高等学校 3 単元)
11	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校 3 単元)
12	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、ごみ処理・上下水道、食品安全 (中学校 4 単元　高等学校 4 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書 (保健部分) を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健科教育の基礎　(教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案 (模擬授業前/振り返り後)30%
・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫と実践 30%
・模擬授業者への授業評価 (コメント)20%
・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと (良かった点)、改善すべきこと (改善点) を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
7 月に事前の履修ガイダンスを開催し、課題を提示する

【Outline (in English)】
To create the "health education" teaching plans based on the goals, contents, learning guidance plan and learning evaluation through the course of study for junior high school and high school.
Then students can recognize and understand teachers' qualities, abilities, and responsibilities through the experience of mock lessons.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

小田　佳子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／単位**
曜日・時限：**月 3/Mon.3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、その意義や重要性を踏まえて、教師としての自覚や責任などを理解する。
教育実習に向けた心構えを構築することを目的とする。

【到達目標】
教育実習を通して、教師としての責任と自覚を認識し、各学校現場における充実した教育実習を実施する心構えを備える。
教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施により、教育実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導技術や実践的な指導方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習にかける心構えや実習校での生徒指導や生徒対応を学ぶ機会を設ける。
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。
また、教育実習を経験した４年生から教育実習報告を聴き、各自の教育実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	教育実習の心構え 模擬授業準備	教育実習生としての心構え 自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級）
3	簡易模擬授業 (教壇指導練習)	自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級での発表を想定） ＊４年生とともに
4	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 ＊４年生とともに
5	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成 教壇指導練習 ＊４年生とともに
6	模擬授業① 学級活動 (1) 及び省察	領域：学級活動の担当 A グループによる 模擬授業及び講評
7	模擬授業② 学級活動 (2) 及び省察	領域：学級活動の担当 B グループによる 模擬授業及び講評
8	模擬授業③ 道徳 (1) 及び省察	領域：道徳の担当 C グループによる 模擬授業及び講評
9	模擬授業④ 道徳 (2) 及び省察	領域：道徳の担当 D グループによる 模擬授業及び講評
10	模擬授業⑤ 体育理論の授業及び省察	領域：体育理論の担当 E グループによる 模擬授業及び講評
11	教育実習報告① 登壇実習（教科指導）について	実習を終えた 4 年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
12	教育実習報告② 実習生活について	実習を終えた 4 年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
13	教育実習報告③ 学級経営・生徒指導について	実習を終えた 4 年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと 実習に向けての取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成 (模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(30%) ＋事前プレゼンテーション（10%）
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
・4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須　遅刻・無断欠席は厳禁とする
・教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の教育実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、PC/プロジェクター等を使用して授業展開をします。

【その他の重要事項】
・【2022 年度秋学期】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.
To understand the awareness and responsibilities as a teacher based on its significance and importance for the teaching training at schools in next year.
The purpose of this class is to build up the proper attitude for the teaching training at each school.

EDU400IA

教育実習（高）

小田　佳子

カテゴリ：
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 3 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知り，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (2〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導①	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後	事後指導②	次年度教育実習予定者（3 年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後	事後指導③	次年度教育実習予定者（3 年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline (in English)】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教育実習（中・高）

小田　佳子

カテゴリ：
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 5 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知り，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②中学校・高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習最終ガイダンス	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (3〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導①	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後	事後指導②	次年度教育実習予定者（3 年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後	事後指導③	次年度教育実習予定者（3 年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。
・【2020 年度秋学期】
　進め方について、夏休みオリエンテーションで説明をしている。
　初回授業などについては、学習支援システムを確認してください。

【Outline (in English)】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教職実践演習（中・高）

熊野　真司

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育科教員になる上で、自己の教育的実践の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。
①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す。
②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける。
③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える。
④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導法について知識を深める。
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション (人の前に立つこと) の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として取り上げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会に求められる教職の専門性」をめぐるテーマ設定を行う 「求められる教師像」とは？
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める 「教育実習を通した最も大きな課題は何か？」
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育科教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する教師の責任と危機管理」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級内の人間関係形成と学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「健康安全・体育的行事の効果的実施」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「キャリア教育・社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「教員の働き方改革－生徒指導と部活動顧問－」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『中学保健体育』（学研）**or**（大日本図書）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】
4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく。
現場に出る前に、抱えている課題の共有や解決方法を見出すことで、不安をやわらげ自信をもって教職に向かう態度を養う。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【その他の重要事項】
【2022 年度秋学期】
教育実習の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
7 月に事前の履修ガイダンスを開催する

【Outline (in English)】
In order to become a P.E. teacher at (junior) high school in the future, grasp the issues of each educational practice and supplement the lack of knowledge, skills, and teacher qualifications as necessary.
Through this class, we complete the four-year teaching training course at the university.


法政大学
HOSEI University